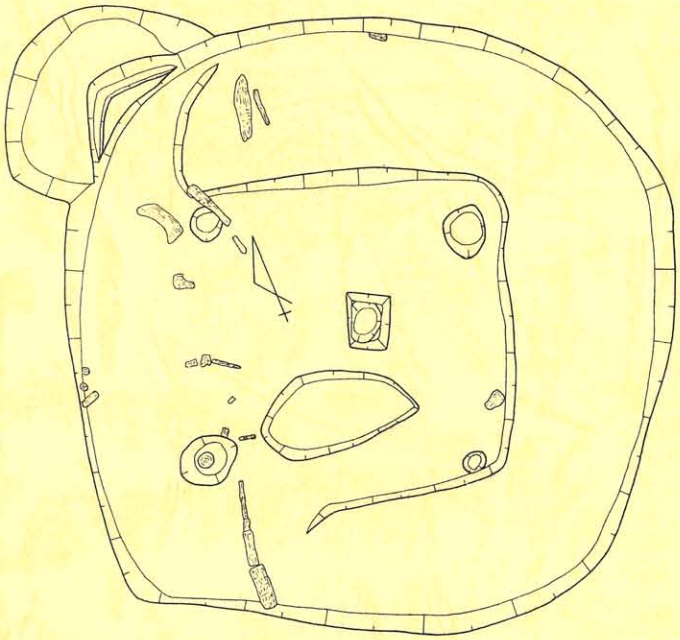
高松市埋蔵文化財調査報告第56集

太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊

ひっこん　ばら　い　せき

凹　原　遺　跡



２００１年１２月

高松市教育委員会

例　言

1　本報告書は，太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第五冊で，高松市多肥下町に所在する凹原遺跡の調査報告を収録した。
2　発掘調査および整理作業については，高松市教育委員会が実施した。
3　調査から報告書作成に至るまで，下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略，五十音順）

香川県教育委員会　財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　讃岐文化遺産研究会
石上英一（東京大学史料編纂所教授）　金田章裕（京都大学文学部部長）
工楽善通（元奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長）
寒川　旭（関西センター大阪大手前サイト主任研究員）　高橋　学（立命館大学文学部教授）
外山秀一（皇學館大學文學部教授）　丹羽佑一（香川大学経済学部教授）

4　凹原遺跡の調査は，平成元年度に文化振興課文化財専門員川畑聰が試掘調査を実施し，本調査を平成２年度に川畑が行った。整理作業は川畑および同専門員大嶋和則が行った。
5　本報告書掲載の写真撮影は，楠華堂（代表楠本真紀子）に委託した。
6　本報告書の編集・執筆は，川畑が行った。
7　本文の挿図として，国土地理院発行２万５千分の１地形図「高松南部」および高松市都市計画図`２千５百分の１「太田」を一部改変して使用した。
8　発掘調査で得られたすべての資料は，高松市教育委員会で保管している。
9　本報告書の高度値は海抜高を表し，方位は第47・83・84・86図が磁北を，これら以外は座標北を表す。
10　本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
ＳＡ…柵列　ＳＨ…竪穴住居　ＳＤ…溝　ＳＫ…土坑　ＳＰ…柱穴　ＳＸ…不明遺構

目　次

例言・目次 …… 1
第１章　調査の経緯と経過
　第１節　調査の経緯 …… 2
　第２節　調査の経過 …… 2
第２章　地理的環境・歴史的環境
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　調査の成果
　第１節　調査区の設定と遺構番号 …… 5
　第２節　遺跡の概要と基本層序 …… 5
　第３節　弥生時代前期末～中期前葉の遺構と遺物 …… 12
　第４節　弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構と遺物 …… 16
　第５節　古墳時代後期後半～鎌倉・室町時代の遺構と遺物 …… 50
　第６節　江戸時代の遺構と遺物 …… 54
　第７節　その他の遺構と遺物 …… 55
　第８節　廃土置場の遺構と遺物 …… 59
第４章　まとめ
　第１節　遺構の変遷 …… 63
　第２節　弥生時代後期末～古墳時代前期初頭における集落の変遷 …… 63
　第３節　凹原遺跡周辺における弥生集落の動向 …… 66

第１章　調査の経緯と経過

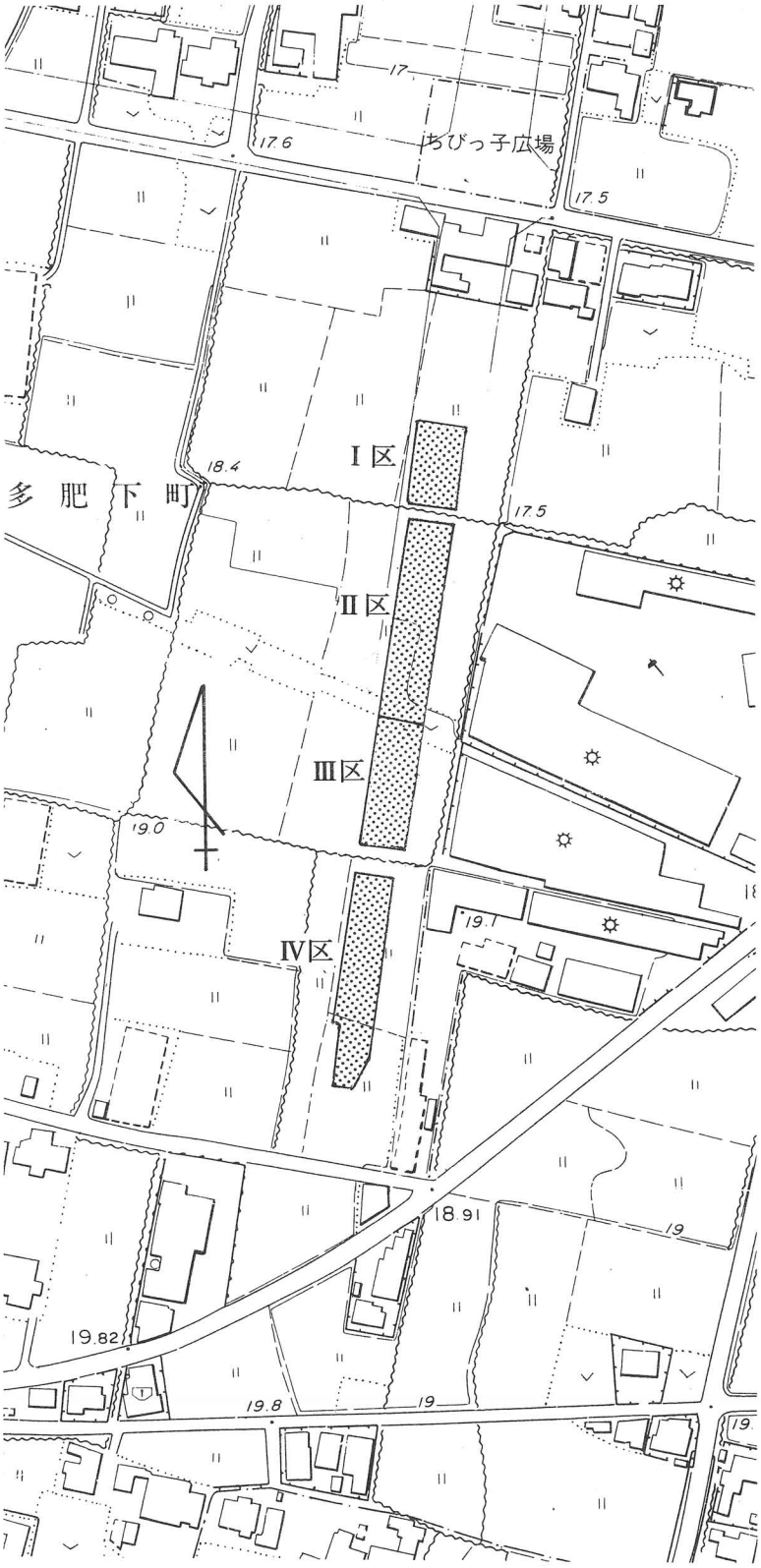
第１節　調査の経緯

凹原遺跡は，高松市多肥下町に位置し，太田第２土地区画整理事業の中で整備が進められている都市計画道路福岡多肥上町線の予定地にあたる。

太田第２土地区画整理事業は，昭和62年２月２日の香川県都市計画審議会による都市計画決定を受けて，昭和63年度から実施されている。事業区域は，高松市街の南郊約６㎞の田園地帯で，林，木太，太田，多肥の４地区に及ぶ360.6haは全国有数の事業規模である。この地域には，一般国道11号高松東道路ならびに四国横断自動車道の建設が予定され，これによる急速な市街化が予想されるため，路線沿線の市街化ならびに都市基盤整備を計画的に進める目的で事業計画がなされたものである。

第２節　調査の経過

発掘調査も含めて区画整理事業にかかる施工は，所有者の土地使用権を一定期間停止するための仮換地指定の後に行われる。凹原遺跡の場合は，平成元年度の都市計画道路側溝工事に伴う立会時に土器出土が確認されたことから，同年度に試掘調査を実施した。この結果，試掘対象地全域が埋蔵文化財包蔵地と認められたため，包蔵地を字名からとって凹原遺跡と命名し，発掘調査を実施することとなった。平成２年11月５日から平成３年２月28日にかけて，高松市教育委員会の直営で発掘調査を実施した。航空写真測量は，写測エンジニアリング(株)に発注した。



第１図　調査区位置図（縮尺1/2,500）

第２章　地理的環境・歴史的環境

第１節　地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央に，低い山塊に囲まれた高松平野がある。高松平野は西側が南から五色台へと続く山地，東側が立石山山地によって取り囲まれた東西20km，南北16kmの範囲に及んでいる。また，この平野は，讃岐山脈から流下し，北へ流れて瀬戸内海へ注ぐ香東川をはじめ本津川・春日川・新川などによって形成された扇状地でもある。

さて，現在石清尾山塊の西を直線に北流する香東川は，17世紀初頭の河川改修によって一本化されたもので，古代以前においては香川町大野付近から東へ分岐した後，石清尾山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北流する別の主流路があった。この旧流路は，現在では水田及び市街地の地下に埋没してしまったが，空中写真等から複数の旧河道が知られており，発掘調査によってもその痕跡が確認されている。なお，17世紀の廃川直前の流路は御坊川としてその名残をとどめている。

第２節　歴史的環境

高松平野中央部で，最古の遺跡は，縄文時代草創期の有舌尖頭器が表採された大池遺跡である。しばらくの空白後，晩期の遺跡が発掘されており，木製農具が出土した林・坊城遺跡やさこ・長池遺跡，東中筋遺跡，木器加工場であった居石遺跡等をあげることができる。

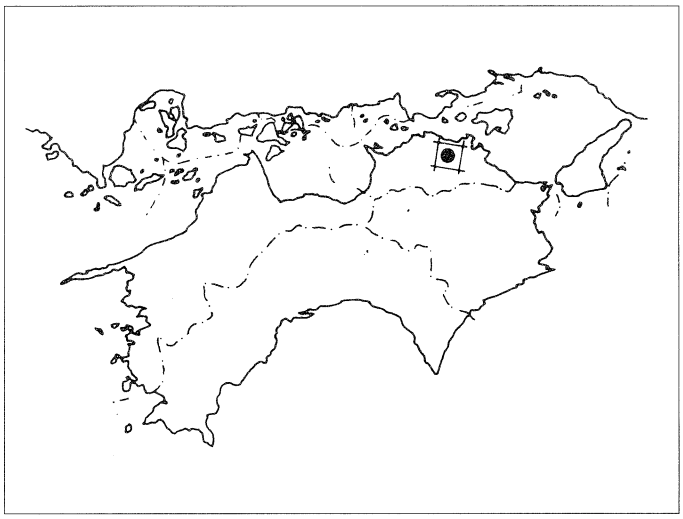
弥生時代前期に移ると，天満・宮西遺跡，汲仏遺跡で集落をめぐる環壕が発掘されるとともに，上西原遺跡，さこ・長池遺跡，さこ・長池Ⅱ遺跡で不定形小区画水田が見つかっている。中期になると，さこ・長池遺跡，さこ・長池Ⅱ遺跡，井手東Ⅰ遺跡，多肥松林遺跡で住居跡，周溝墓等を伴う集落の一部が調査されているが，規模・密度は総じて希薄である。

弥生時代後期になると遺跡は数・規模ともに爆発的に増加し，上天神遺跡，天満・宮西遺跡，凹原遺跡，空港跡地遺跡のように十数棟の住居跡と大量の廃棄土器を伴う集落が出現する。

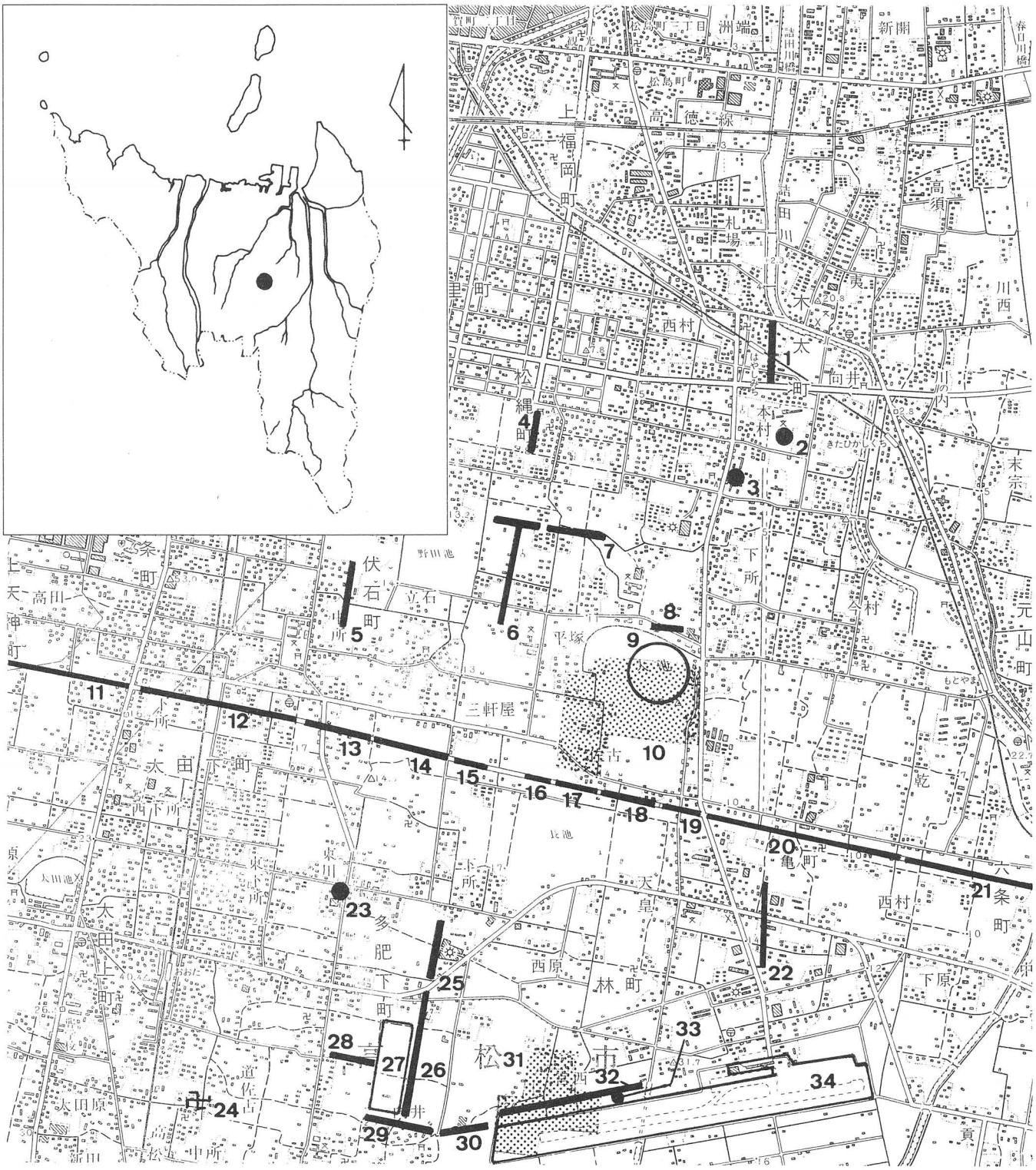
古墳時代では，これら弥生時代後期の遺跡のうち上天神遺跡，凹原遺跡，空港跡地遺跡が前期初頭に至るまで集落が存続する。また，太田下・須川遺跡では古墳時代中期の集落を検出している。一方，古墳の分布状況を概観すると，石清尾山古墳群をはじめ，主に丘陵上に築造されている。

古代では条里遺構が注目される。各遺跡で，条里界線にあたる遺構を検出しており，平安時代から現代に至るまで時代は様々であるが，条里地割施行が段階的に進んだことが明らかになりつつある。中でも，松縄下所遺跡は現地表面の条里とは10数メートルずれた位置にありながら地表条里と同方向の道路側溝を検出し，時期も７世紀代にまで遡り得るなど高松平野の条里施行に関わる可能性がある重要な遺跡である。また，さこ・長池Ⅱ遺跡では旧香川・山田郡界線にあたる部分に幅６ｍの間隔で並行する道路側溝を検出している。

中世では，さこ・長池遺跡，さこ・松ノ木遺跡で，旧河道が埋没していく過程の凹地に小規模な区画の水田面が検出されている。また，空港跡地遺跡では，溝に囲まれた屋敷跡を確認している。



第２図　遺跡位置図



1 木太中村遺跡　2 白山神社古墳　3 木太本村Ⅱ遺跡　4 天満・宮西遺跡　5 キモンドー遺跡
6 松縄下所遺跡　7 境目・下西原遺跡　8 上西原遺跡　9 大池遺跡
10 弘福寺領田図比定地北地区
11 上天神遺跡　12 太田下・須川遺跡　13 蛙股遺跡
14 居石遺跡　15 井手東Ⅱ遺跡　16 井手東Ⅰ遺跡　17 さこ・長池Ⅱ遺跡　18 さこ・長池遺跡
19 さこ・松ノ木遺跡　20 林・坊城遺跡　21 六条・上所遺跡　22 宗高坊城遺跡　23 汲仏遺跡
24 多肥廃寺　25 凹原遺跡　26 日暮・松林遺跡　27 多肥松林遺跡　28 松林遺跡
29 多肥松林遺跡　30 多肥宮尻遺跡　31 弘福寺領田図比定地南地区　32 宮西・一角遺跡
33 一角遺跡　34 空港跡地遺跡

第３図　周辺主要遺跡分布図（縮尺1/25,000）

第３章　調査の成果

第１節　調査区の設定と遺構番号

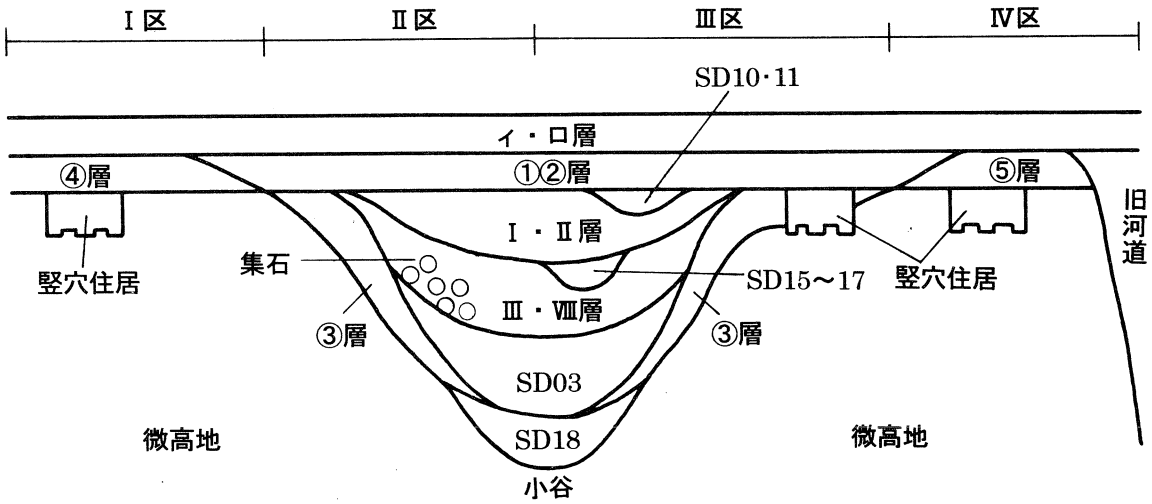
凹原遺跡の調査は，水路の保全や廃土処理スペースの確保を図るため，調査対象地を４区画に分割して行った。調査区は，北から順にⅠ～Ⅳ区と呼称した（第１図）。また，遺構番号については，調査時に検出した順に付けており，本報告でも原則として調査時の遺構番号を踏襲した。柱穴を除く検出した遺構一覧については，第１表のとおりである。

第２節　遺跡の概要と基本層序

調査前の対象地は，水田として利用されていた。都市計画道路福岡多肥上町線では24m幅員の道路予定地のうち総長225m分が調査対象となり，面積は約5,400m²を測る。そのうち，現有道路や用水路部分などを除くと，実際の掘削面積は3,274m²となった。

さて，凹原遺跡は高松平野の中央部に位置する。この平野には香東川の旧河道が幾本も埋没しており，これら流路の沖積作用によって形成された微高地が数多く点在している。凹原遺跡は二つの微高地を南北にまたぐ形で立地しており，南北二つの微高地間には小谷が存在する（第５図）。調査区のうちⅠ・Ⅱ区が北微高地に，Ⅲ・Ⅳ区が南微高地に該当し，Ⅱ・Ⅲ区間に小谷が所在する。さらに，南微高地の南側すなわちⅣ区南端には，香東川の埋没旧河道が存在する。

遺跡の基本層序は，略図で表すと第４図のとおりである。調査区全体は，近世～近代の耕作土層と考えられるイ・ロ層および①②層によって覆われている。南北微高地は，頂上部では削平を受けて厚い堆積層は見られないが，縁辺部では④層（Ⅰ区）・③層（Ⅱ・Ⅲ区）・⑤層（Ⅳ区）といった褐灰色または黒褐色の土壌化層が見られる。凹原遺跡でもっとも多い弥生時代後期末の遺構は，③層より上で④・⑤層より下に存在する。一方，Ⅱ・Ⅲ区間の小谷では厚い堆積層となっており，最上部にⅠ・Ⅱ層が，その下にⅢ・Ⅷ層がある。Ⅰ・Ⅱ層の上に中世～近世と考えられるＳＤ10・11があり，Ⅲ・Ⅷ層の上に古墳時代後期末のＳＤ15～17が掘削されている。また，Ⅲ層下部には集石（橋状遺構）があり，このⅢ層を埋土とするＳＤ24からは古墳時代後期後半の須恵器が出土している。さらに，谷底を縫うようにして弥生時代後期末にＳＤ03が掘削されており，Ⅲ区ではＳＤ03および③層より下に弥生時代前期末のＳＤ18が掘削されている。微高地は浅黄色シルト質極細砂等で形成されており，標高は16.9～17.8mを測り，南から北に向かって傾いている。小谷底は，標高16.4～16.8mを測り，同じく南から北に傾いている。



第４図　基本層序略図

微高地および小谷で検出した遺構は，弥生時代前期末～中期前葉，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭，古墳時代後期後半，鎌倉～室町時代，江戸時代のものである。これらの遺構は，竪穴住居15棟，井戸１基，溝25条，柵列７列，柱穴87基（竪穴住居・柵列の柱穴を除く），集石（橋状遺構），土器棺墓１基（廃土置場を除く），土坑24基，不明遺構４基を数え，遺構および包含層から30㍑コンテナ約100箱分の遺物が出土した。出土遺物のうち，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属する土器が大部分を占めるが，この時期の土器を時代別に「弥生土器」「土師器」と厳密に分けることは不可能であることから，「弥生土器」で呼称を統一した。また，この時期の土器を検討するにあたって，大久保徹也氏作成による下川津遺跡での土器編年（大久保徹也1990）を参考にした。本文中に記載されている「下川津Ⅳ式」や「下川津Ⅴ式」といった表記は，すべて下川津遺跡での土器編年に従っている。なお，微高地上の遺構は，後世の削平を受けているものが多く，本文中に記載されている遺構の法量は現存の値を示す。

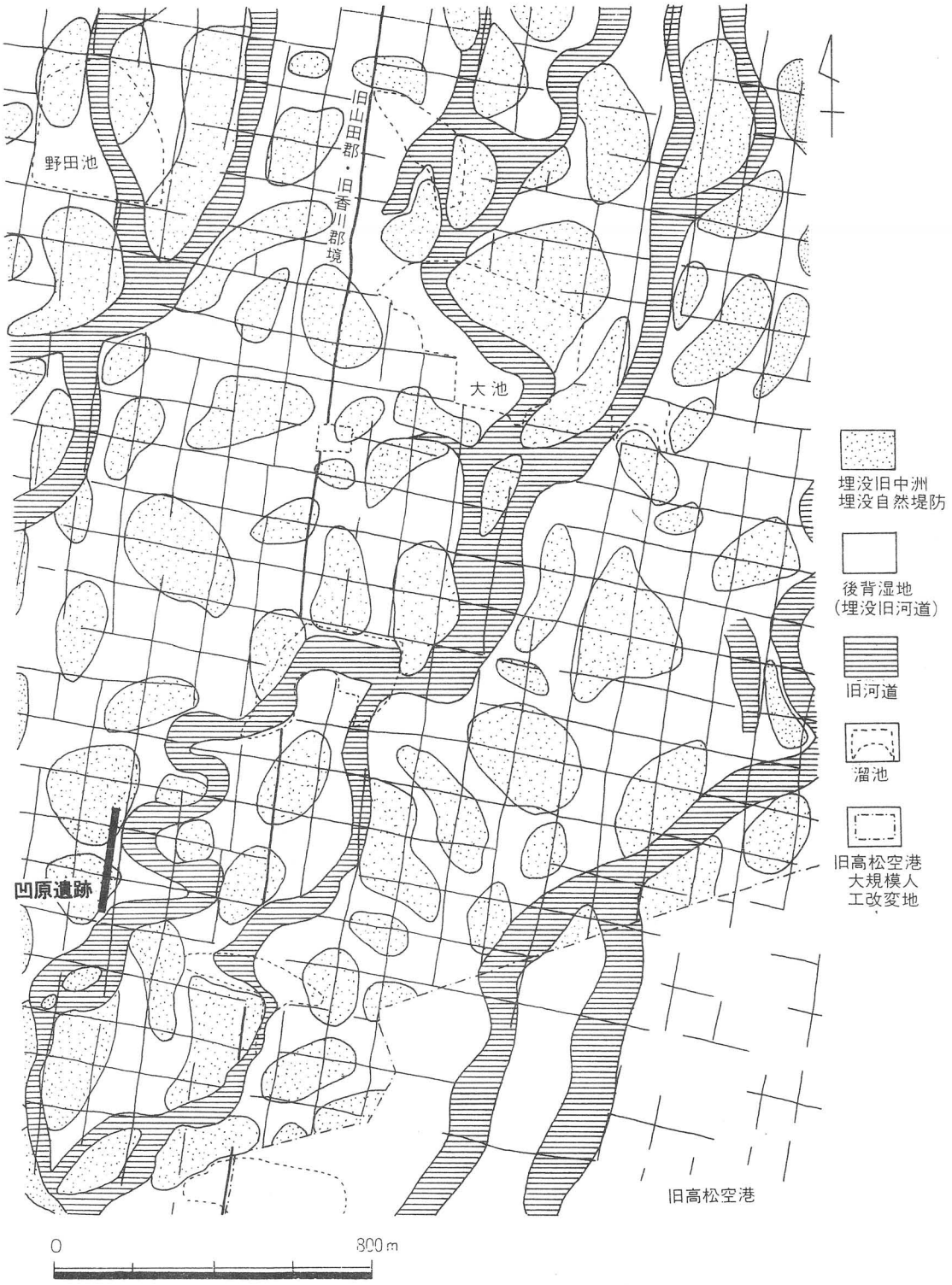
参考文献

大久保徹也1990「下川津遺跡における弥生時代後期から古墳時代前半の土器について」『下川津遺跡』香川県教育委員会ほか
高橋　　学1992「高松平野の地形環境」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会

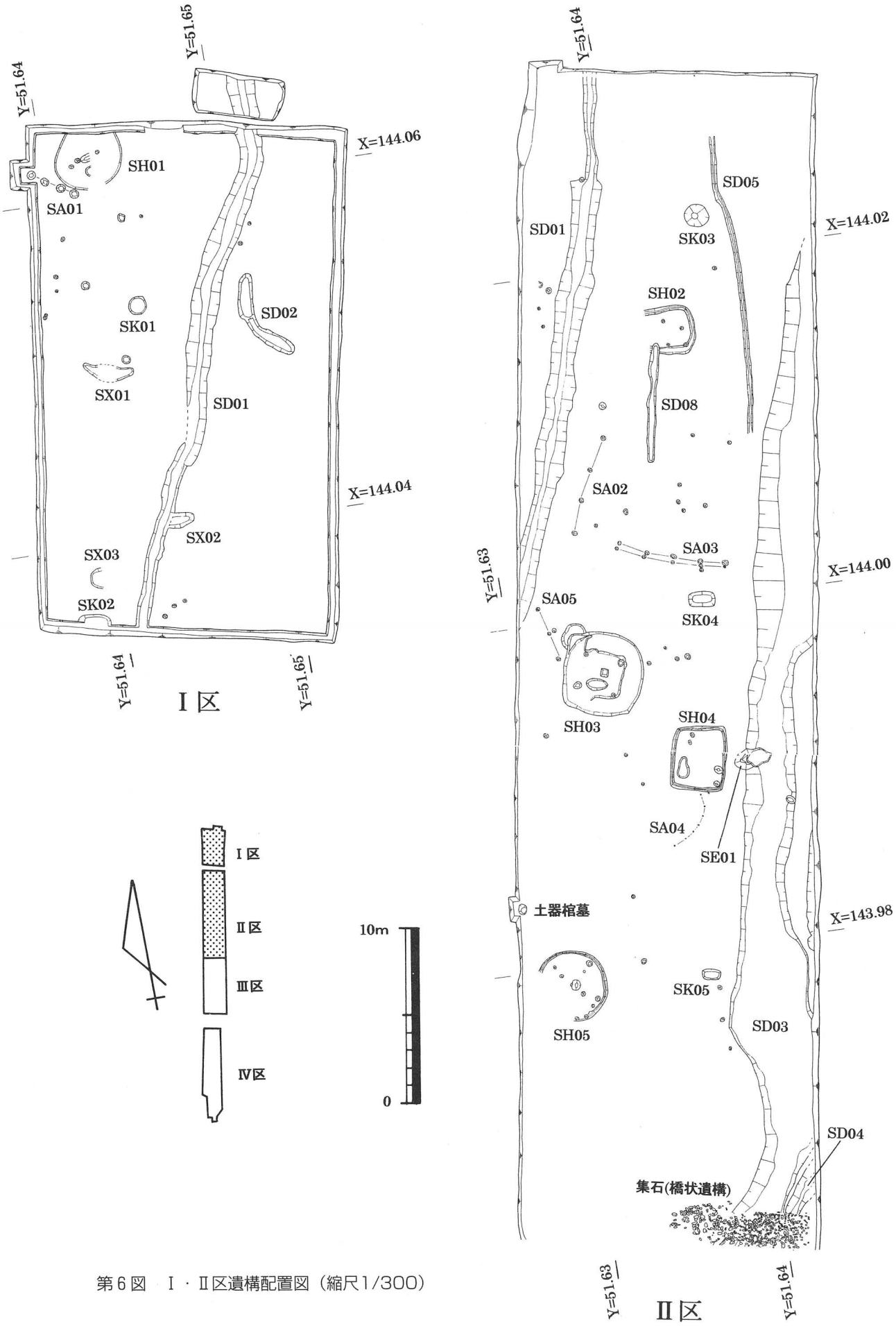
遺構名	調査区	出土遺物	掲載頁	備考
ＳＨ01	Ⅰ	－	16	
ＳＨ02	Ⅱ	－	16	
ＳＨ03	Ⅱ	弥生土器，石器	16	
ＳＨ04	Ⅱ	弥生土器	16	
ＳＨ05	Ⅱ	弥生土器	19	
ＳＨ06	Ⅲ	弥生土器	19	
ＳＨ07	Ⅲ	弥生土器	19	
ＳＨ08	Ⅲ	－	19	
ＳＨ09	Ⅳ	弥生土器	19	
ＳＨ10	Ⅳ	弥生土器，石器	13	
ＳＨ11	Ⅳ	弥生土器	23	
ＳＨ12	Ⅳ	弥生土器	23	
ＳＨ13	Ⅳ	弥生土器	23	
ＳＨ14	Ⅳ	弥生土器	23	
ＳＨ15	Ⅳ	弥生土器，石器	23	
ＳＥ01	Ⅱ	弥生土器	26	
ＳＤ01	Ⅰ・Ⅱ	弥生土器，石器	26	
ＳＤ02	Ⅰ	弥生土器	30	
ＳＤ03	Ⅱ・Ⅲ	弥生土器，石器	38	
ＳＤ04	Ⅱ・Ⅲ	弥生土器，石器	38	
ＳＤ05	Ⅱ	－	54	
ＳＤ06	Ⅲ	弥生土器	30	
ＳＤ07	Ⅲ	弥生土器	30	
ＳＤ08	Ⅱ	－	55	
ＳＤ09	Ⅲ	弥生土器	30	
ＳＤ10	Ⅲ	弥生土器，石器	52	
ＳＤ11	Ⅲ	弥生土器	54	
ＳＤ12	Ⅲ	弥生土器，石器	54	
ＳＤ13	Ⅲ	弥生土器	55	
ＳＤ14	Ⅲ	弥生土器	51	
ＳＤ15	Ⅲ	弥生土器，須恵器	52	
ＳＤ16	Ⅲ	弥生土器	52	
ＳＤ17	Ⅲ	－	52	
ＳＤ18	Ⅲ	弥生土器，石器	14	
ＳＤ19	Ⅲ	弥生土器	50	
ＳＤ20	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＤ21	Ⅳ	弥生土器	30	
ＳＤ22	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＤ23	Ⅳ	－	55	
ＳＤ24	Ⅱ	須恵器	50	
ＳＤ25	Ⅲ	－	51	
ＳＰ22	Ⅳ	弥生土器	13	

遺構名	調査区	出土遺物	掲載頁	備考
ＳＡ01	Ⅰ	－	55	
ＳＡ02	Ⅱ	－	55	
ＳＡ03	Ⅱ	－	55	
ＳＡ04	Ⅱ	－	55	
ＳＡ05	Ⅱ	－	55	
ＳＡ06	Ⅲ	－	55	
ＳＡ07	Ⅲ	－	55	
ＳＫ01	Ⅰ	－	55	
ＳＫ02	Ⅰ	－	54	
ＳＫ03	Ⅱ	－	54	
ＳＫ04	Ⅱ	－	54	
ＳＫ05	Ⅱ	弥生土器，瓦	54	
ＳＫ06	Ⅲ	－	54	
ＳＫ07	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ08	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ09	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ11	Ⅳ	－	54	
ＳＫ12	Ⅳ	－	54	
ＳＫ13	Ⅳ	－	55	
ＳＫ14	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ15	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ16	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ17	Ⅳ	－	55	
ＳＫ18	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ19	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ20	Ⅳ	弥生土器，石器	55	
ＳＫ21	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ22	Ⅳ	－	55	
ＳＫ23	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ24	Ⅳ	弥生土器	55	
ＳＫ25	Ⅳ	弥生土器	14	
ＳＸ01	Ⅰ	－	54	
ＳＸ02	Ⅰ	－	54	
ＳＸ03	Ⅰ	－	54	
ＳＸ07	Ⅳ	－	55	
集　石	Ⅱ	－	50	
土器棺墓	Ⅱ	弥生土器	36	
土器棺墓１	廃土置場	弥生土器	59	
土器棺墓２	廃土置場	弥生土器	59	
小　谷	Ⅱ・Ⅲ	弥生土器，須恵器，石器	53	
旧河道	Ⅳ	弥生土器	58	
噴　砂	Ⅳ	－	59	

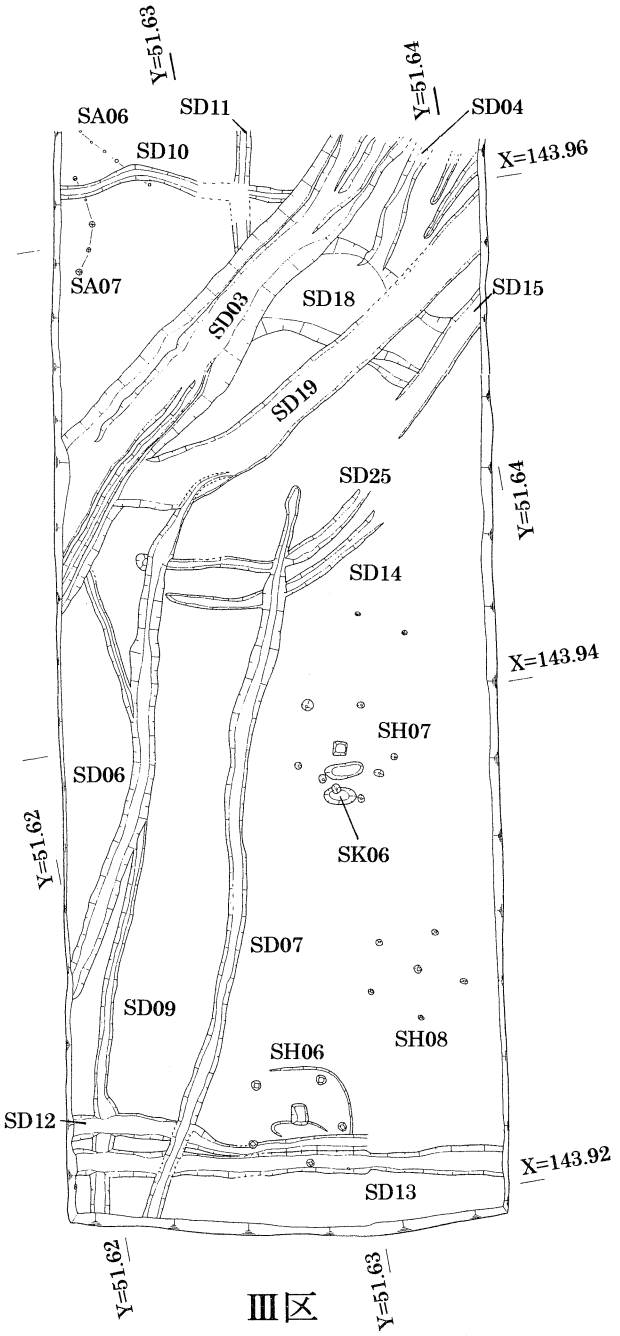
第１表　凹原遺跡遺構一覧

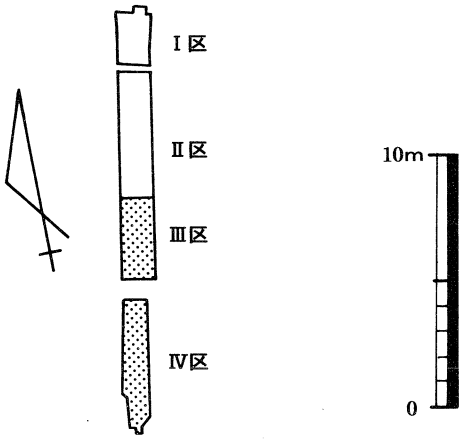


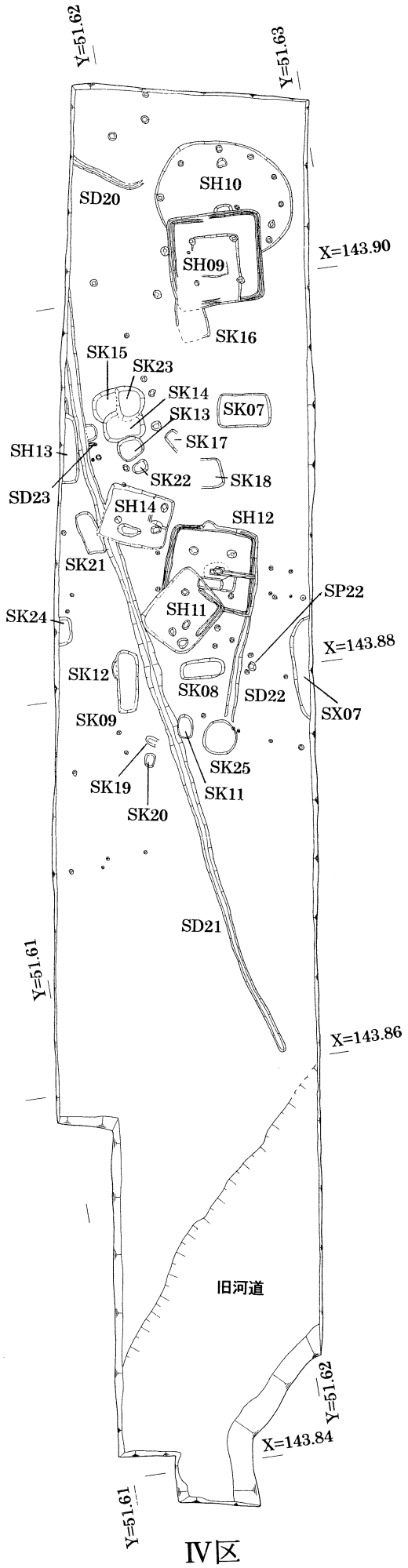
第５図　凹原遺跡周辺の微地形（高橋学1992をもとに作成）



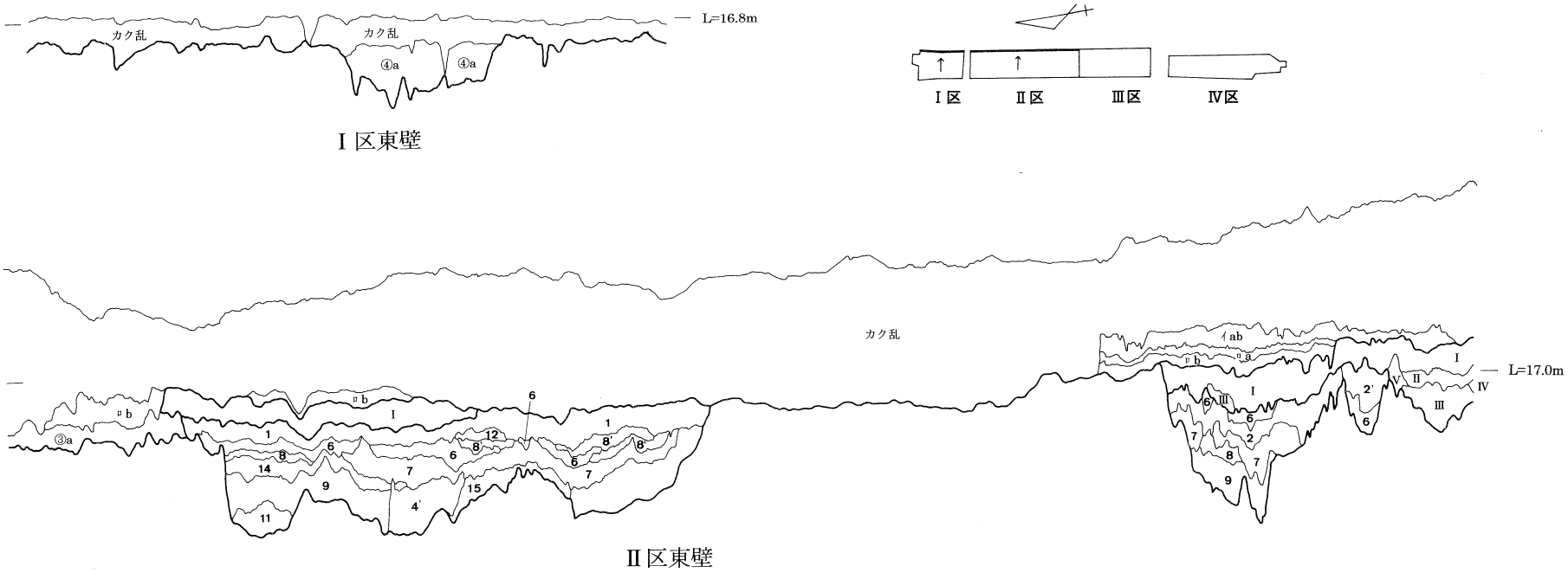
第6図　I・II区遺構配置図（縮尺1/300）







第７図　Ⅲ・Ⅳ区遺構配置図（縮尺1/300）



調査区堆積土層名

イab　灰白色シルト質極細砂（5Y7/2,Feを含む）
ロa　灰黄色シルト質極細砂（2.5Y6/2）
ロb　灰白色シルト質極細砂（7.5Y7/2,Feを含む）
③a　褐灰色シルト質極細砂（10YR5/1）
④a　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1）

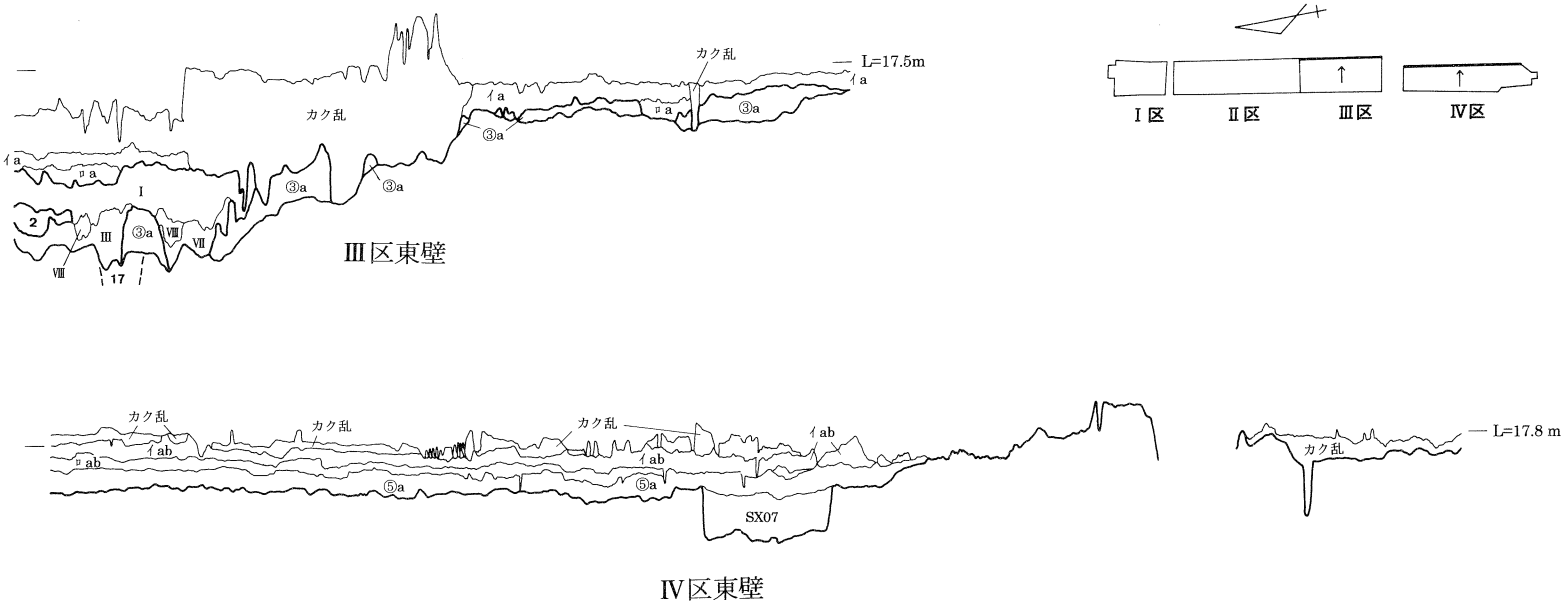
小谷埋没土層名

Ⅰ　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR6/2,Feを含む）
Ⅱ　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR5/2）
Ⅲ　白灰色細～中細砂（5Y8/1）
Ⅳ　暗灰黄色シルト質極細砂（2.5Y4/2,細砂を含む）
Ⅴ　細砂～中砂（粗礫を含む）

SD03土層名

1　褐灰色シルト質極細砂（7.5YR5/1,Feを含む）
2　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1,Feを含む）
2′　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1,明褐灰色土を含む）
4′　細礫～中礫
6　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）
7　黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2,締りがない）
8　灰白色細砂～中細砂（7.5Y7/2,第7層を含む）
8′　灰白色細砂～中細砂（7.5Y7/2）
9　オリーブ黒色シルト質極細砂（7.5Y2/2,締りがなく細砂を含む）
11　オリーブ黒色シルト質極細砂（7.5Y3/2,締りがなく細砂を含む）
12　黒褐色シルト質極細砂（2.5Y3/2）
14　灰色シルト質極細砂（10Y6/1,Feを含む）
15　灰オリーブ色シルト質極細砂（7.5Y6/2）

第8図　Ⅰ・Ⅱ区調査区東壁土層図（縮尺縦1/30・横1/300）



調査区堆積土層名
イab　灰白色シルト質極細砂（5Y7/2,Feを含む）
ロa　灰黄色シルト質極細砂（2.5Y6/2）
ロb　灰白色シルト質極細砂（7.5Y7/2,Feを含む）
③a　褐灰色シルト質極細砂（10YR5/1）
⑤a　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1）

小谷埋没土層名
I　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR6/2,Feを含む）
III　白灰色細～中細砂（5Y8/1）
VII　紫黒色シルト質極細砂（5P2/1）
VIII　紫灰色細砂（5P6/1）

SD03土層名
2　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1,Feを含む）

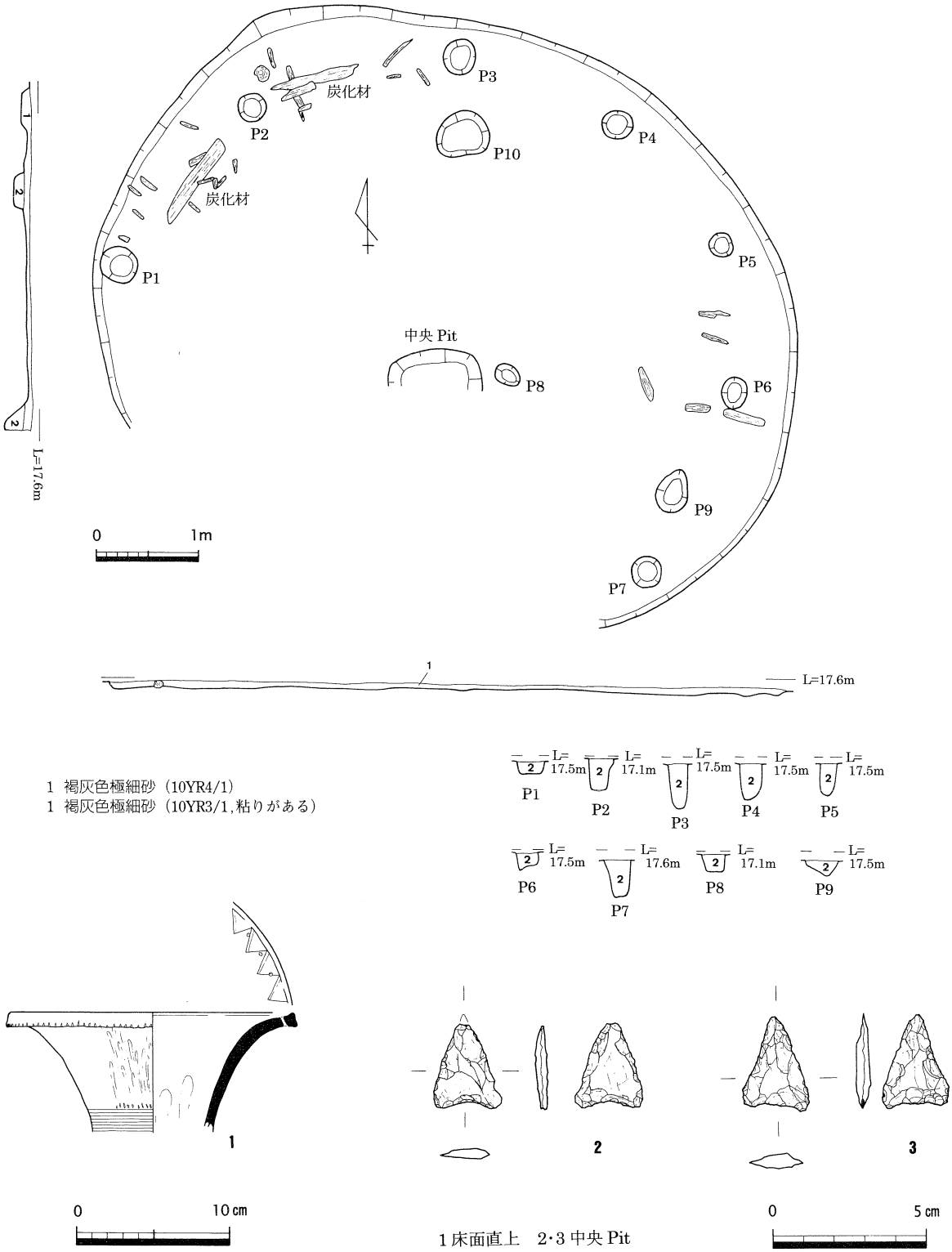
SX07土層名
黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1,粘り有）

SD18土層名
17　明青灰色粗砂～細礫（5PB7/1）

第9図　Ⅲ・Ⅳ区調査区東壁土層図（縮尺縦1/30・横1/300）

第３節　弥生時代前期末～中期前葉の遺構と遺物

弥生時代前期末～中期初頭の環濠と想定される溝１条・柱穴１基・土坑１基，中期前葉の竪穴住居１棟をⅢ・Ⅳ区で検出した。Ⅰ・Ⅱ区ではこの時期の遺構を検出していないことから，南微高地のみに集落が存在していたと考えられる。



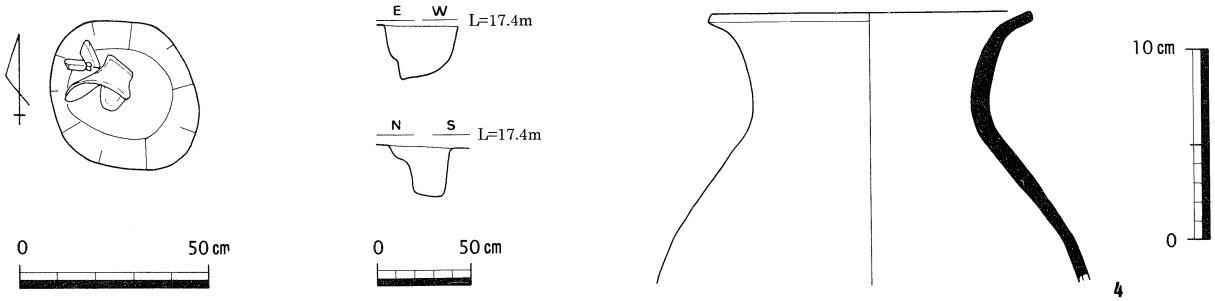
第10図　SH10平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4,1/2）

ＳＨ10（第10図）

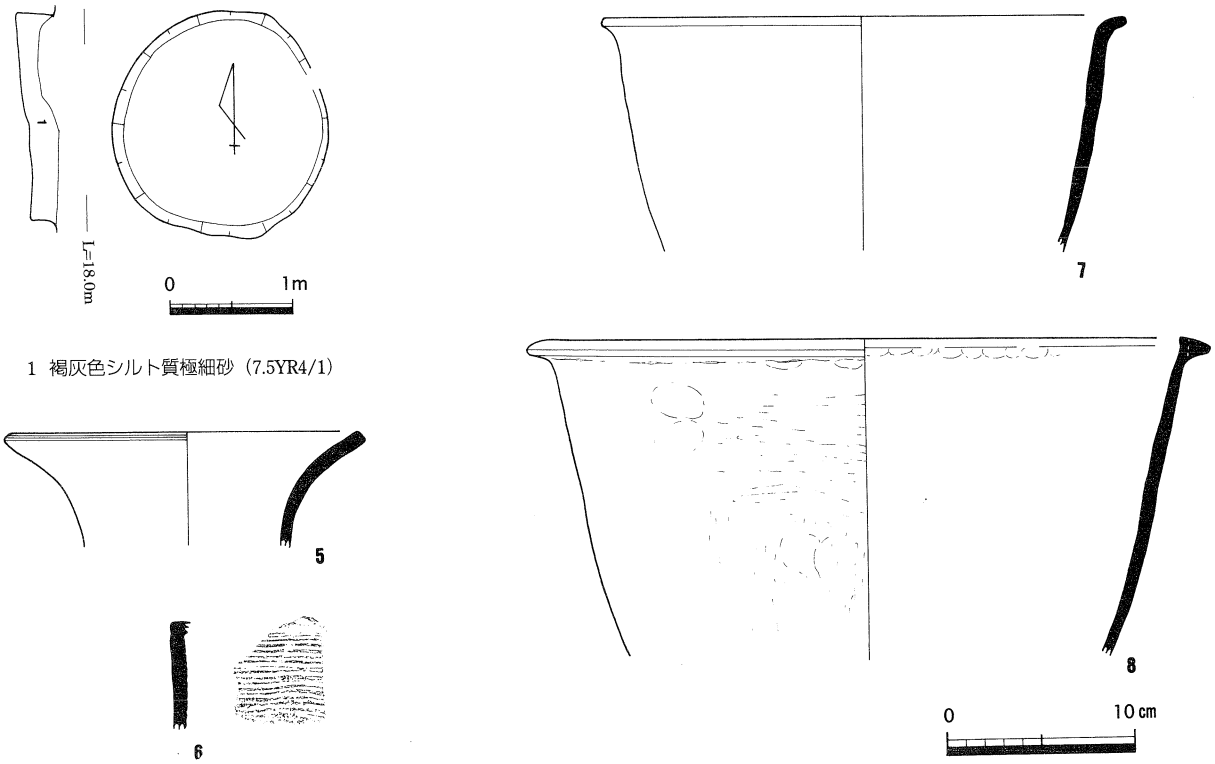
Ⅳ区北端で検出した直径約７ｍを測る円形の竪穴住居である。深さは，後世の削平によるためか約10cmしか残っていなかった。また，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属する竪穴住居ＳＨ09によって南西部分約1／4が壊されている。中央に方形の中央ピット（心柱穴），壁寄りに現存10基の柱穴をめぐらしている。中央ピット付近より石鏃未製品（２，３）と多量の剥片（チップ）が出土したことから，住居内で石器製作を行っていたと考えられる。さらに，炭化材が壁沿いに散乱しており，いわゆる焼失家屋と呼ばれるものだが，出土土器は図化できるもの１点と少なく，住居が廃棄された後に焼失したと考えられる。出土した弥生土器壷(1)から，弥生時代中期前葉の時期が考えられる。

Ⅳ区ＳＰ22（第11図）

Ⅳ区中央で検出した円形のピット（柱穴）である。直径40～45cm，深さ約30cmを測る。壁寄りに比較的大きな破片である弥生土器壷(4)が出土しており，弥生時代前期末と考えられる。



第11図　Ⅳ区SP22平面・断面図（縮尺1/20,1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第12図　SK25平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＫ25（第12図）

Ⅳ区中央で検出した直径約１m80cmを測る円形の土坑である。弥生時代後期末～古墳時代前期初頭と考えられる竪穴住居ＳＨ15によって上部が削られており，深さ約20cmしか残存していない。弥生土器壷(5)・甕(6～8)が出土しており，弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

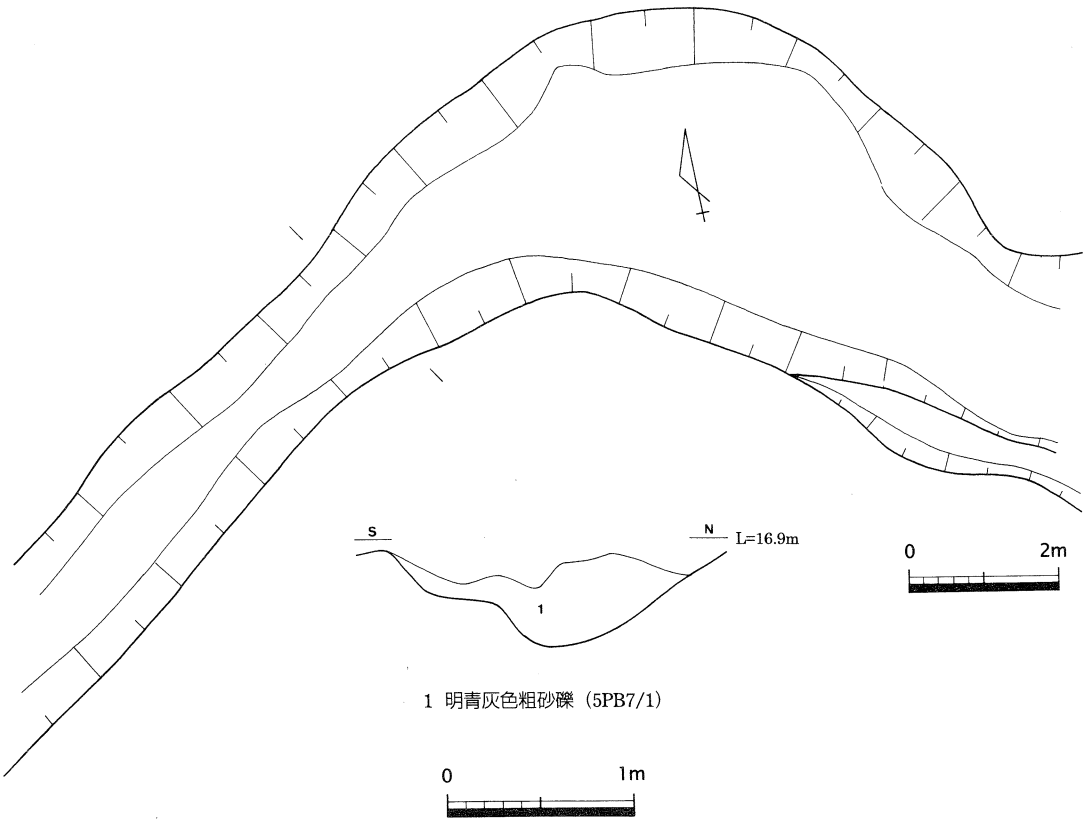
なお，ＳＨ15からも同じ時期の土器・石器が出土しており，ＳＨ15を掘削する際にＳＫ25上部を壊していることから，これらの土器・石器は本来ＳＫ25に帰属するものと考えられる。

ＳＤ18（第13・14図）

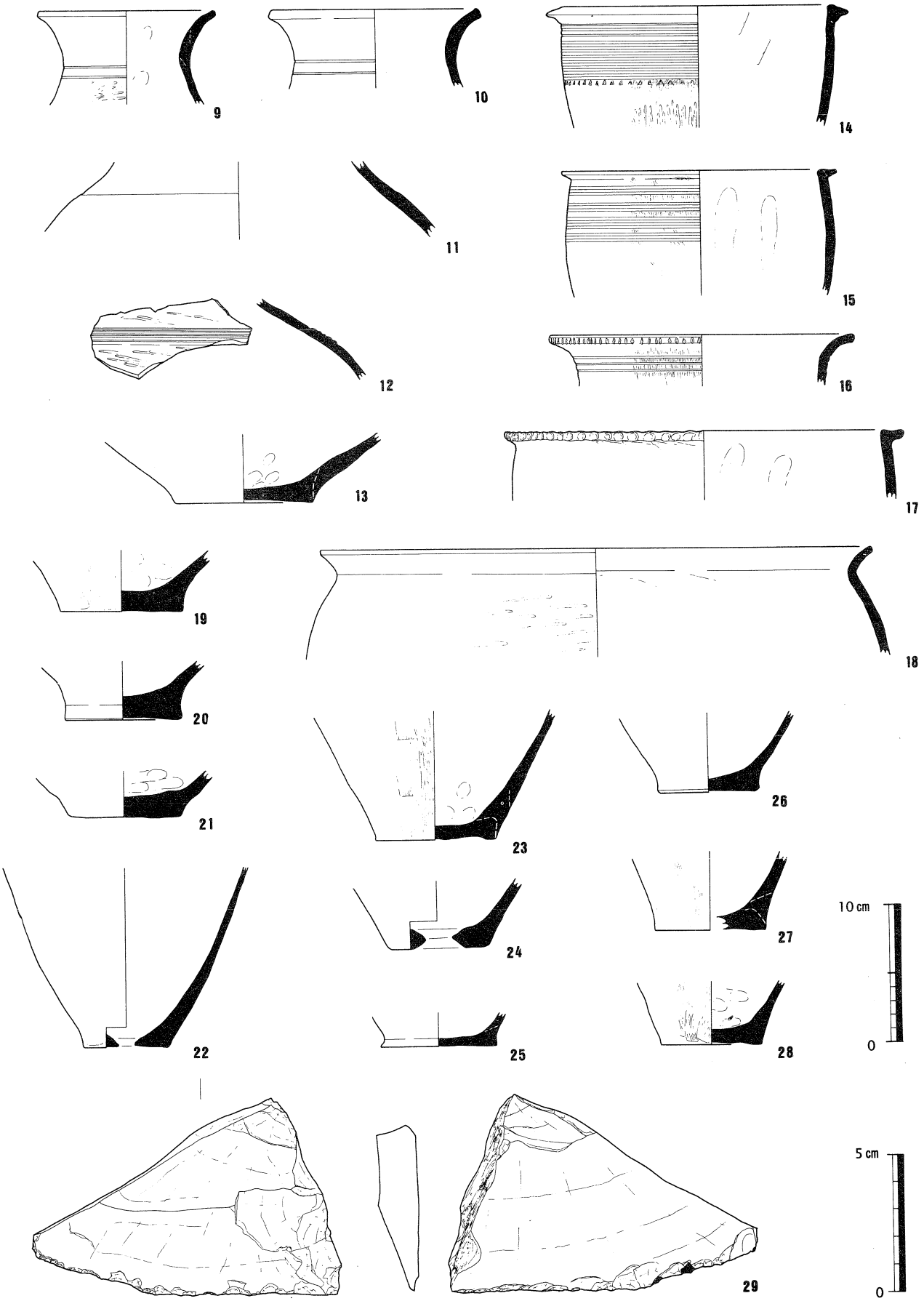
Ⅲ区北部，地形で言えば小谷底で検出した溝である。幅３～４ｍ，深さ約50cmを測る。溝西半分は，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属するＳＤ03と重複しており，ＳＤ03により上部を削られている。埋土は粗砂礫層のみが厚く堆積していることから，おそらく洪水により一気に溝が埋没してしまったものと考えられる。埋土から弥生土器壷(9～13)・甕(14～17)・鉢(18)や石器(29)が出土しており，弥生時代前期末～中期初頭と考えられる。

また，検出した範囲では南微高地北辺に沿って弓なりに曲がった平面形態を示している。弥生時代前期末～中期初頭の時期が考えられること，南微高地に同時期の遺構が確認できることを考慮すると，南微高地上にあった集落を取り囲んでいた環濠の可能性が指摘できる。ただし，微高地南辺では環濠は検出しておらず，微高地の南側は規模の大きい旧河道となっている。この旧河道を環濠の代わりに利用したため，微高地南辺つまり集落南端には環濠を掘削しなかったとも考えられる。

最後に，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭のＳＤ03埋土中からも弥生時代前期末～中期初頭の土器片が少数ながら出土している。これは，ＳＤ03を掘削する際にＳＤ18上部を壊していることから，本来これらの土器はＳＤ18に帰属するものであったか，調査区外のＳＤ18周辺にあった同時期の遺構に帰属すべきものと考えられる。



第13図　SD18平面・断面図（縮尺1/100,1/40）



第14図　SD18出土遺物実測図（縮尺1/4,1/2）

第４節　弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構と遺物

弥生時代後期末～古墳時代前期初頭と考えられる竪穴住居14棟・井戸１基・溝８条・土器棺墓１基を調査区全域で検出した。このうちＳＤ03・04以外の遺構は微高地上に立地し集落を構成しているが，ＳＤ03・04のみが小谷底に沿って掘削されており他の遺構と性格を異にすることから，ＳＤ03・04は最後に報告する。また，微高地は南北２つに分かれるが，南北微高地上にある当該期の遺構から出土する遺物に時期差はなく，微高地間の小谷も幅が狭いことから，南北それぞれ別集落であっても同一集団である可能性が高いことから，ここでは一括して報告するものである。

ＳＨ01（第15図）

Ⅰ区北端で検出した直径3.5～4.0mを測る円形の竪穴住居である。中央部を試掘トレンチにより南北に削られ，北端は調査区外に及ぶ。深さは，後世の削平によるためか約10cmしか残っていない。中央に楕円形の炉を設け，炉の南に中央ピット（心柱穴），炉の東西に３基の柱穴を配置している。埋土は２層を確認している。出土遺物はないが，他の竪穴住居との比較検討，特にＳＨ05と同じ規模で類似することから，同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ02（第16図）

Ⅱ区北部で検出した南北2.8m，東西2.8m以上を測る方形の竪穴住居である。西端を試掘トレンチにより壊されている。削平が著しく，周溝と柱穴の底しか残っていないが，柱穴（Ｐ1～Ｐ3）は東西南北の十字に配列されていたと想定される。炉は，壊された西側に設けられていたか削平されたと考えられる。出土遺物はないが，他の竪穴住居との比較検討，特にＳＨ04・11・14と同じ規模で類似することから，同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

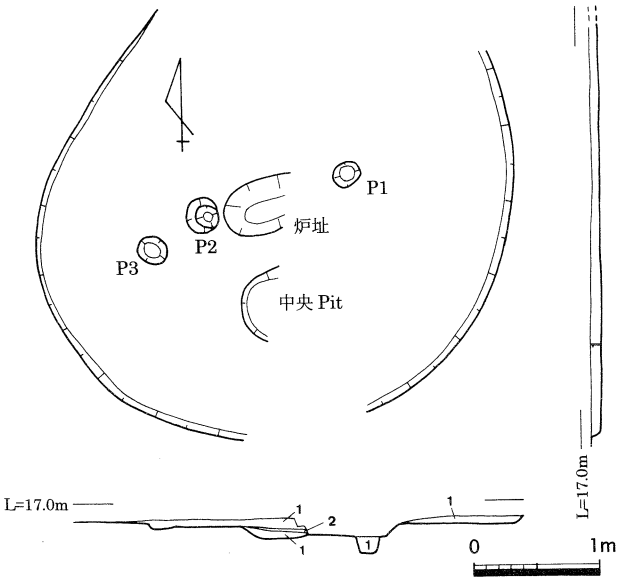
ＳＨ03（第17・18図）

Ⅱ区中央で検出した南北4.8m，東西4.8mを測る隅丸方形の竪穴住居で，深さ約50cmを測る。北西隅に１×1.7mの落ち込みを付設している。内部構造は，西方向を除く三方にベッド状遺構（約10cmの段差）がめぐり，中央に方形の中央ピット（心柱穴），中央ピット南側に不整楕円形の炉を設け，中央ピットより斜め四方に４基の柱穴（Ｐ1～Ｐ4）を配列している。さらに，ベッド状遺構を除去したところ，柱穴を３基（Ｐ5～Ｐ7）と周溝を検出したことから，少なくともＳＨ03は１回の建替えを行い，その際にベッド状遺構を新設したと考えられる。なお，第１段階はＰ5～Ｐ7の柱穴３基しかないが，北西隅は柱穴Ｐ1を２時期にわたって使用したのかもしれない。埋土は８層確認している。このうち，第１～４層は竪穴住居が廃絶後埋没していく過程で堆積した土層で，第５層はベッド状遺構を構成している土層，第８層は掘削した竪穴底を平坦にするための貼床，第６層は柱穴の埋没土，第７層は炉の炭層である。

また，床面には炭化材が散乱していただけでなく，柱穴Ｐ４は炭化した柱材を立った状態で検出しており，さらに柱穴Ｐ４から折れた柱材が南に倒れた状態にあった。いわゆる焼失家屋である。出土遺物は図化できたものが17点と比較的多いが，完形品がないことから住居廃絶後に焼失したと考えられる。遺物は，第１～３層にあたる埋土上部（30～33），第４層にあたる埋土下部（34～42），第８層直上である床面直上（43～46，ただし44は第５層中）から出土している。埋土下部の出土遺物はおおむね下川津Ⅴ式に，床面直上の出土遺物は下川津Ⅳ～Ⅴ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。ただし，石鏃(40)は弥生時代前期のものであることから混入品である。

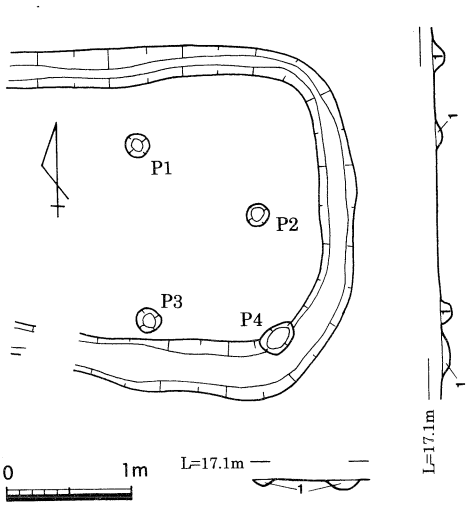
ＳＨ04（第19図）

Ⅱ区中央で検出した南北3.8m，東西3.1mを測る方形の竪穴住居である。側壁に沿って周溝がめぐり，不整楕円形の炉を南西隅に設けている。柱穴は，北西隅と南東隅に２基ずつ計４基（Ｐ1～Ｐ4）配列している。埋土は３層確認しており，第１層は住居廃絶後の埋没土，第２層は柱穴の埋没土，第３層は炉の炭層である。埋土第１層から出土した弥生土器甕（47）・高杯（48・49）はおおむね下川津Ⅴ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。また，ＳＨ04は水路であるＳＤ03に隣接しているだけでなく，井戸ＳＥ01にも隣接するという特異な立地条件をもっている。



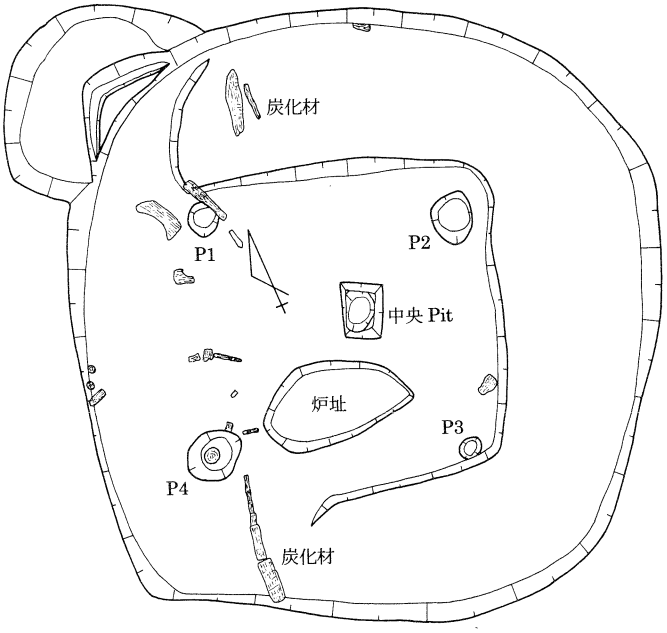
1　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1，茶色砂質土をブロック状に含む）
2　黒色炭層　　（10YR1.7/）

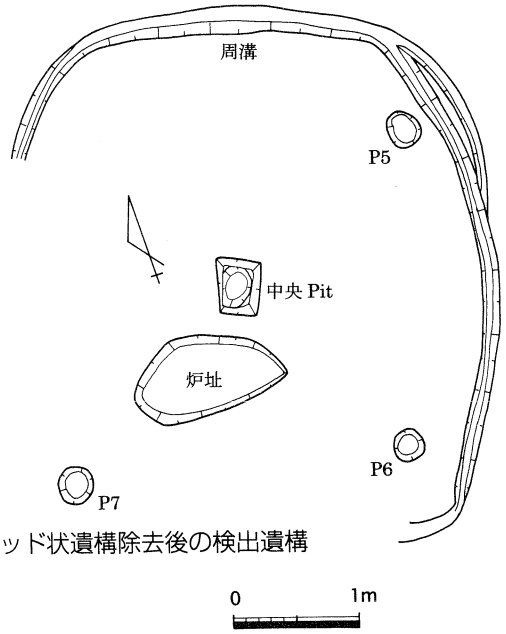
第15図　SH01平面・断面図（縮尺1/60）



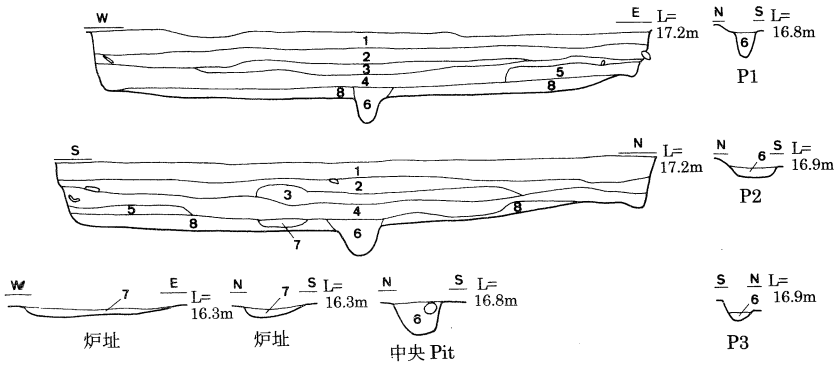
1　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1）

第16図　SH02平面・断面図（縮尺1/60）



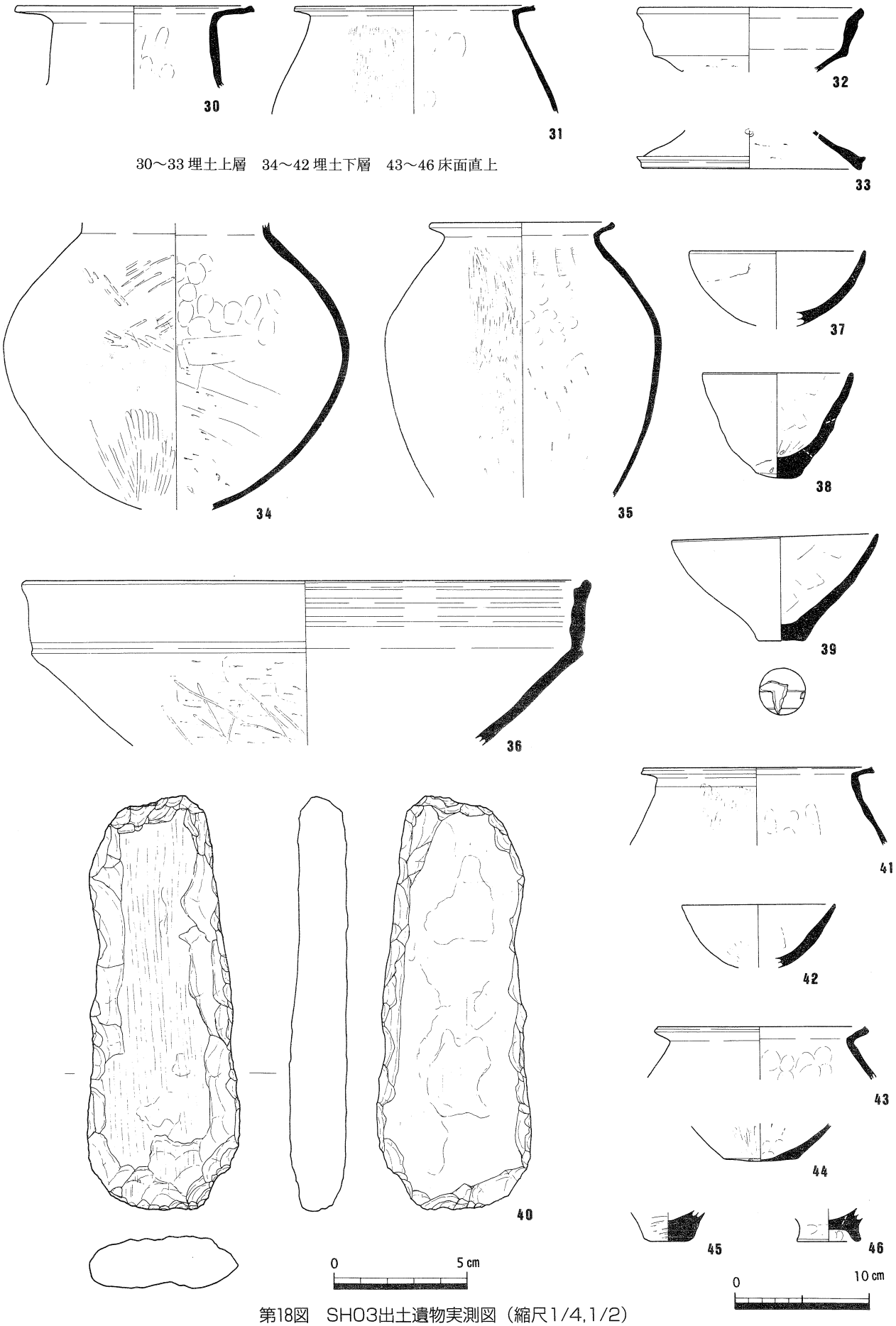


ベッド状遺構除去後の検出遺構



1　褐灰色シルト質極細砂（10YR5/1,Feを含む）
2　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1,Feを含む，浅黄色砂質土をブロック状に含む）
3　青灰色シルト質極細砂（5PB5/1，浅黄色砂質土をブロック状に多く含む）
4　暗青灰色シルト質極細砂（5PB4/1，浅黄色砂質土をブロック状に含む）
5　浅黄色シルト質極細砂（5Y8/1,粘りがある）
6　オリーブ黒色シルト質極細砂（5Y3/1）
7　黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2,炭を含む）
8　明青灰色シルト質極細砂（5PB7/1，小石～拳大の礫を多く含む,黒色土をブロック状に含む）

第17図　SH03平面・断面図（縮尺1/60）



30～33 埋土上層　34～42 埋土下層　43～46 床面直上

第18図　SH03出土遺物実測図（縮尺1/4,1/2）

ＳＨ05（第20図）

Ⅱ区南部で検出した直径4.1mを測る円形の竪穴住居で，約20cmの深さが残る。南西１／４を後世の撹乱により壊されている。平面方形の中央ピット（心柱穴）を中心に，柱穴が斜め十字方向に２基ずつ並んでいたと考えられる(P1～4，P6・7)。壊されていた南西１／４部分に，炉と南西方向に並ぶ柱穴２基があったと想定される。周溝が南端で途切れており，南向きに入口があった可能性もある。埋土は４層確認しており，第１層は住居廃絶後の埋没土，第２～４層は柱穴の埋没土である。床面直上から弥生土器小型鉢(50，51)，埋土第１層から出土した弥生土器甕(52)・壷(55)・底部(53・54)はおおむね下川津Ⅳ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ06（第21図）

Ⅲ区南部で検出した南北4.1m以上，東西4.3m以上を測る隅丸方形の竪穴住居である。南端をＳＤ12・13によって，西端を試掘トレンチによって壊されている。深さは，後世の削平によるためか約10cmしか残っていない。平面方形の中央ピット(心柱穴)の南側に楕円形の炉を設け，側壁に沿って柱穴を５基(Ｐ１～５)配置している。また，平面では確認できなかったが，断面で周溝がめぐっていることも確認した。埋土は８層確認しており，第１・２層は住居廃絶後の埋没土，第３層は掘削した竪穴底を平坦にするための貼床，第４・５・７・８層は柱穴の埋没土，第６層は炉の炭層である。埋土第１層から出土した弥生土器壷(56・57・59)・小型鉢(58)・底部(60)はおおむね下川津Ⅴ式に相当し，中央ピットから出土した弥生土器底部(61)は下川津Ⅲ～Ⅳ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。また，炉から珍しい土製勾玉(62)が出土している。

ＳＨ07（第22図）

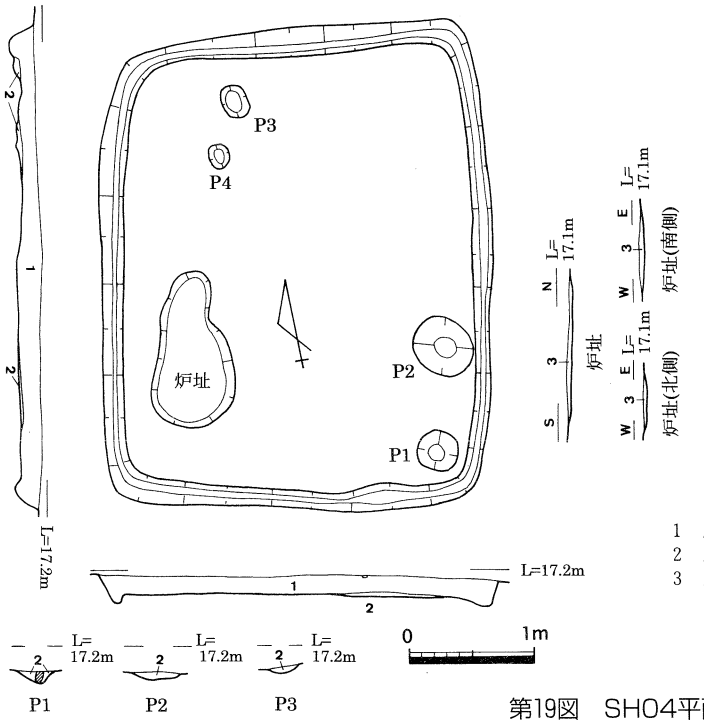
Ⅲ区中央で検出した南北4.3m以上，東西4.1m以上を測る竪穴住居である。調査時，微高地縁辺に堆積していた③ａ層上面で遺構検出を行い，円形もしくは隅丸方形の竪穴住居があると認識したが，試掘トレンチを設定するも竪穴住居埋土と③ａ層の違いが把握できず，③ａ層除去後に炉・中央ピット(心柱穴)・柱穴のみを検出した。平面方形の中央ピット(心柱穴)の南側に楕円形の炉を設け，柱穴を８基(Ｐ１～８)おそらく側壁に沿って配置している。柱穴のうち，屋根を支える支柱用として使用されたのは，Ｐ１・２・４・７・８の５基と想定される。炉と柱穴の埋土は３層確認しており，第１層が柱穴，第２層が炉の炭層，第３層が炉の埋土である。中央ピットから出土した弥生土器小型甕(63)・小型鉢(64)，床面直上から出土した弥生土器壷(65)・甕(66)はおおむね下川津Ⅳ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

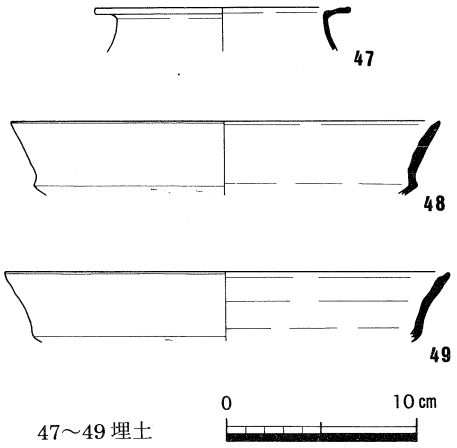
ＳＨ08（第23図）

Ⅲ区南部で検出した南北3.6m以上，東西4.0m以上を測る竪穴住居である。調査時，ＳＨ07同様に円形もしくは隅丸方形の竪穴住居があると認識したが，結果的には中央ピット(心柱穴)・柱穴のみを検出した。平面方形の中央ピット(心柱穴)を中心に，柱穴を５基(Ｐ１～５)おそらく側壁に沿って配置している。出土遺物はないが，他の竪穴住居との比較検討，特にＳＨ06・07と同じ規模で柱穴の配置等が類似することから，同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ09（第24図）

Ⅳ区北部で検出した南北4.7m，東西4.7mを測る方形の竪穴住居で，深さ約30cmを測る。南西隅の一部を試掘トレンチによって壊されている。内部構造は，南を除く三方に地山削り出しによるベッド状遺構(約15cmの段差)を設け，周溝を側壁に沿ってほぼ一周めぐらしている。さらに，ベッド状遺構の内側にも南から東にかけて約５cmの段差が設けられている。一方，ベッド状遺構に沿って柱穴(Ｐ１～Ｐ４)を配列しているが，規模が大きい割に中央ピット(心柱穴)が認められず，炉も壊された南西部分に存在したのか確認できなかった。埋土は８層確認しており，第１～５層は住居廃絶後の埋没土，第６層は柱穴Ｐ３の柱材が土壌化したもの，第７・８層は柱穴の埋没土である。ただし，柱穴Ｐ３の第２層は柱を立てた時の埋土と考えられる。遺物は，第１～５層の埋土から出土した弥生土器甕(67)，ベッド状遺構南端直上から出土した弥生土器小型丸底壷(68)・小型鉢(69)はおおむね下川津Ⅴ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

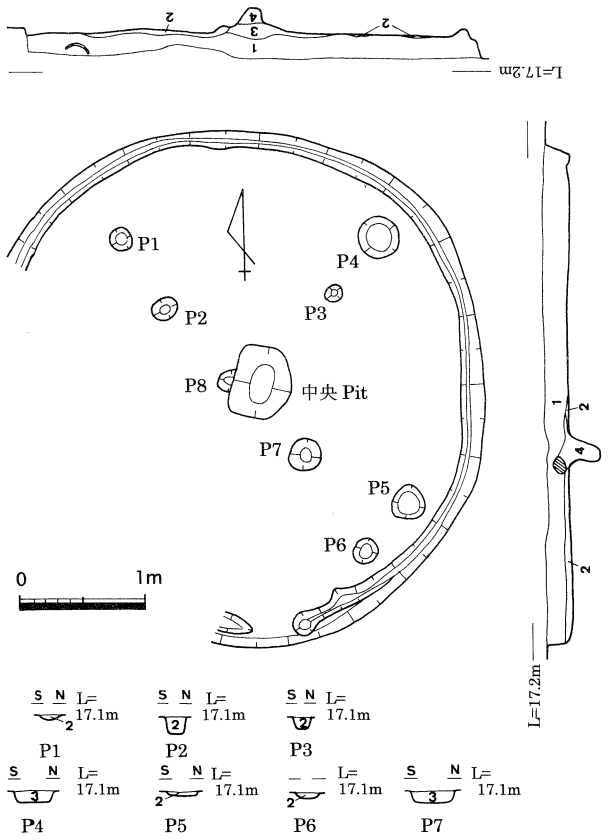


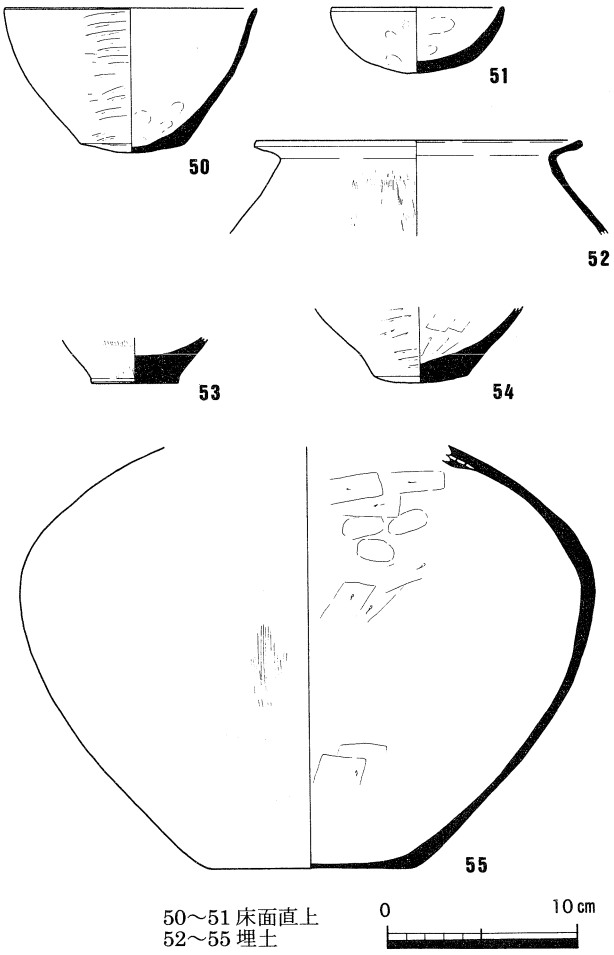


47～49 埋土

1　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR5/1,Feを含む,黒灰色シルト質極細砂を含む）
2　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR5/2,炭化材粒を含む）
3　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR5/1,炭を多く含む）

第19図　SH04平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

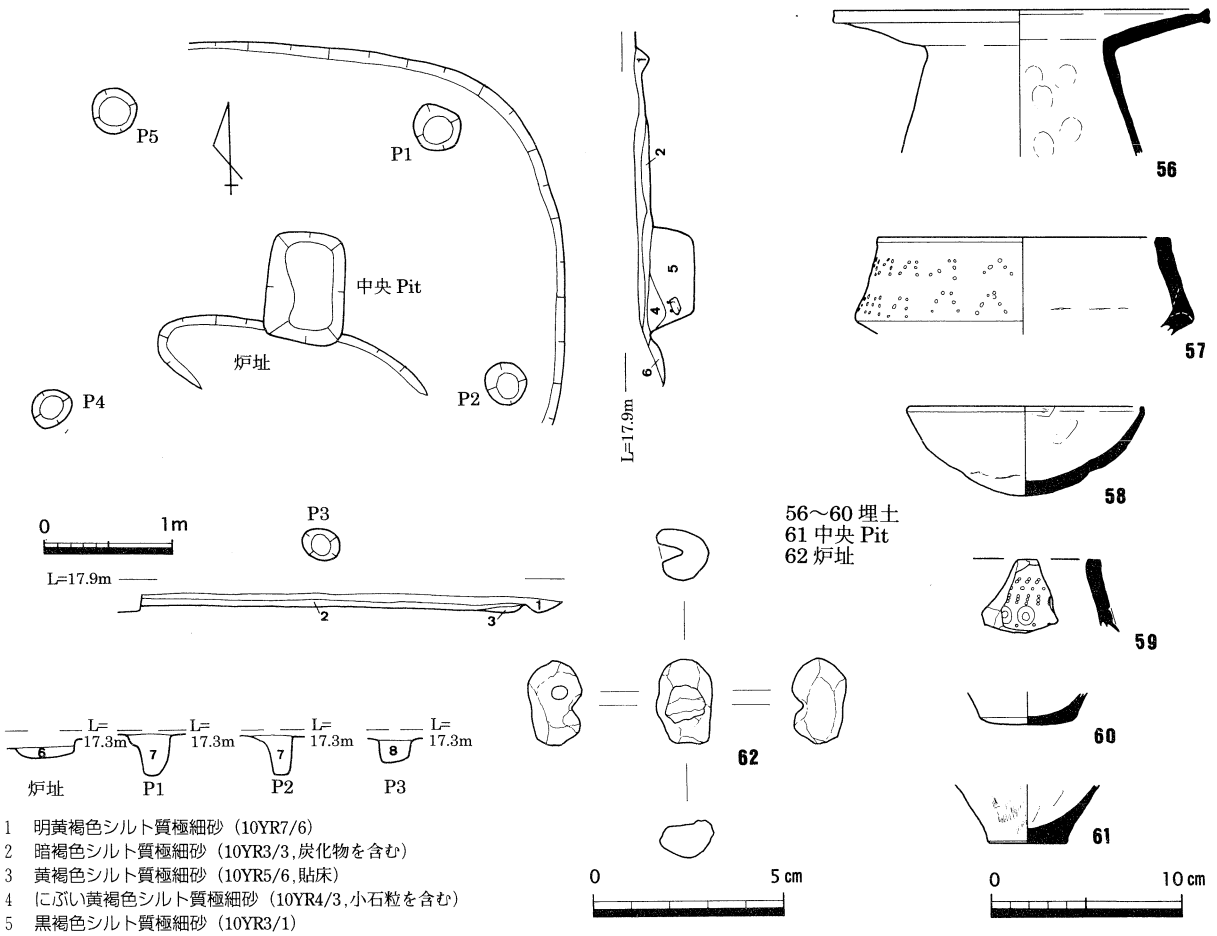




50～51 床面直上
52～55 埋土

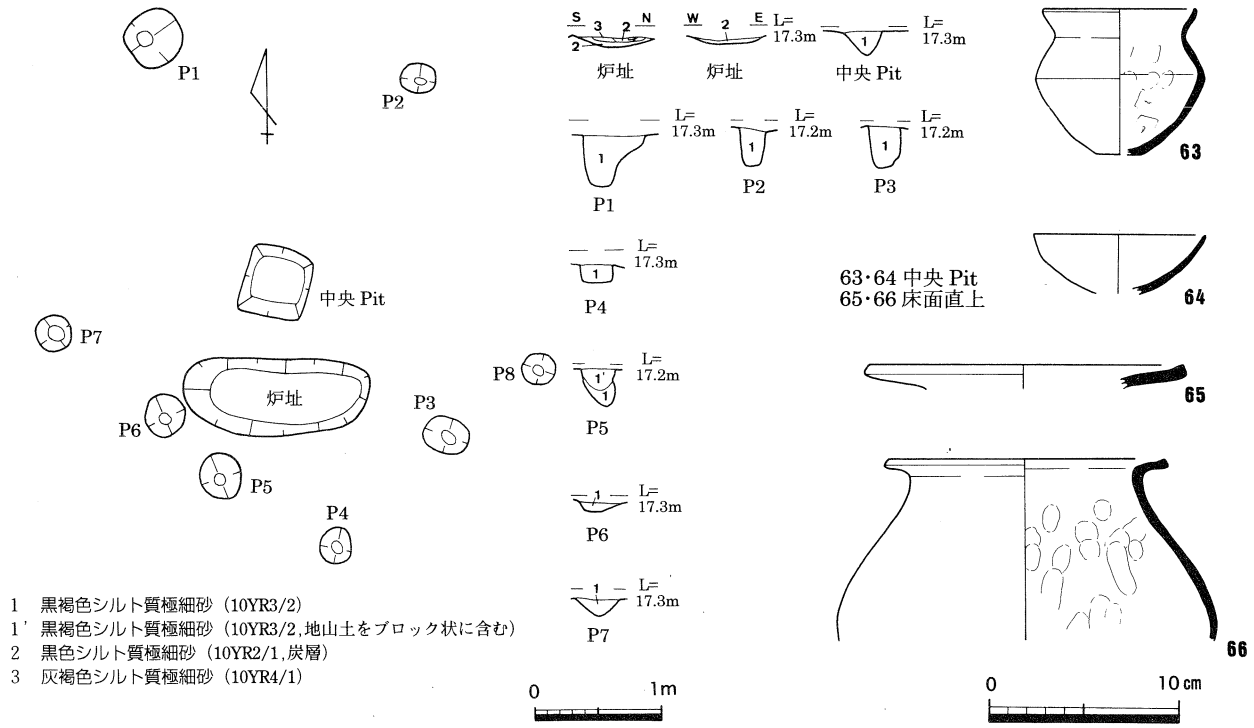
1　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR4/2,Feを含む,暗褐色シルト質極細砂を含む）
2　暗褐色シルト質極細砂（10YR3/3）
3　暗褐色シルト質極細砂（10YR3/3,黒褐色シルト質極細砂を含む）
4　黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2,白色シルトをブロック状に含む）

第20図　SH05平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



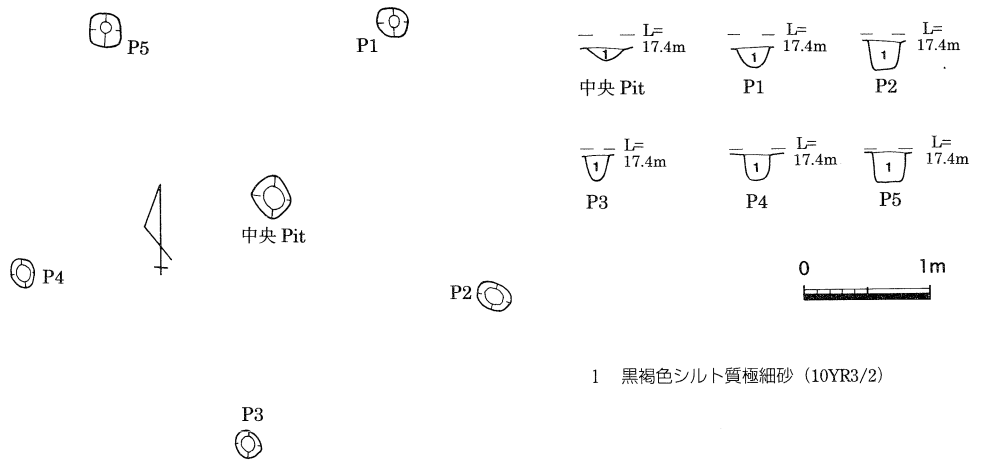
1　明黄褐色シルト質極細砂（10YR7/6）
2　暗褐色シルト質極細砂（10YR3/3,炭化物を含む）
3　黄褐色シルト質極細砂（10YR5/6,貼床）
4　にぶい黄褐色シルト質極細砂（10YR4/3,小石粒を含む）
5　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1）
6　黒色シルト質極細砂（10YR2/2,炭層）
7　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2）
8　褐灰色シルト質極細砂（7.5YR4/1）

第21図　SH06平面・断面図（縮尺1/60）
出土遺物実測図（縮尺1/4,1/2）

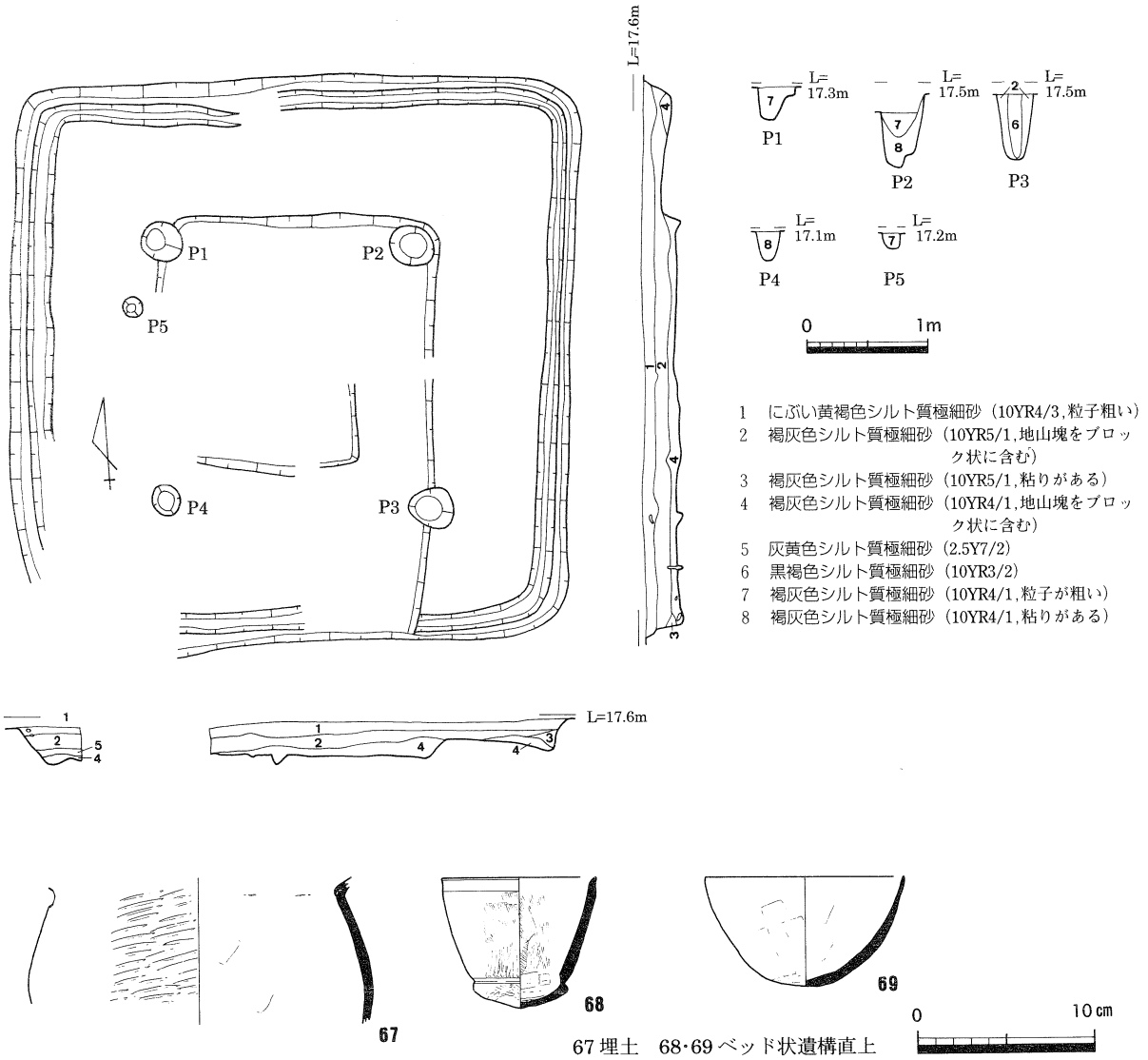


1　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2）
1'　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2,地山土をブロック状に含む）
2　黒色シルト質極細砂（10YR2/1,炭層）
3　灰褐色シルト質極細砂（10YR4/1）

第22図　SH07平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第23図　SH08平面・断面図（縮尺1/60）



第24図　SH09平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＨ11（第25図）

Ⅳ区中央で検出した南北3.1ｍ，東西3.9ｍを測る方形の竪穴住居で，深さ約50㎝を測る。埋土の一部を試掘トレンチにより壊されている。中央より南に炉を設け，南から東にかけ壁に沿って周溝をＬ字形にめぐらしている。柱穴は全部で４基（Ｐ１～４）あるが，南部分に偏っている。埋土は４層確認しており，第１・２層は住居廃絶後および柱穴の埋没土，第３層は周溝および柱穴の埋没土で，第４層は掘削した竪穴底を平坦にするための貼床である。出土遺物には弥生土器小片がある。他の竪穴住居との比較検討，特にＳＨ04・14と同じ規模で類似することから，同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ12（第26図）

Ⅳ区中央で検出した南北4.3ｍ，東西4.9ｍを測る方形の竪穴住居で，深さ約40㎝を測る。南西部分をＳＨ11によって壊されている。北端中央に約30×70㎝の出っ張りをもつ。内部構造は，平面方形の中央ピット（心柱穴）の南側に長方形の炉を設け，中央ピットより斜め四方に柱穴を４基（Ｐ１～４）配置している。中央ピットは，ＳＨ03同様に上部が平面方形を呈し，下部では円形を呈する。また，周溝を側壁に沿って一周めぐらしていると想定される。さらに，南東部分にはＬ字形に約10㎝の段差を設けている。埋土は５層確認しており，第１・２層は住居廃絶後の埋没土，第３層は周溝の埋没土，第４層は貼床の可能性があり，第５層は柱穴の埋没土である。遺物は，南東隅の床面直上からほぼ完形の弥生土器甕(70)，第１～２層の埋土から出土した弥生土器甕(71)・高杯(72・73)はおおむね下川津Ｖ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ13（第27図）

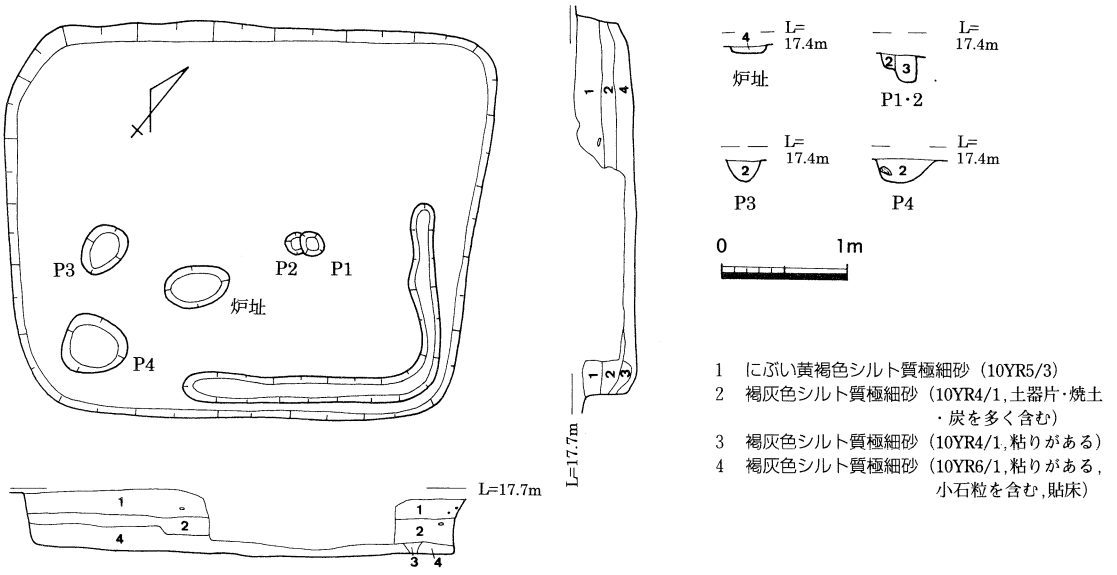
Ⅳ区中央の西壁沿いで検出した南北3.6ｍ以上，東西0.8ｍ以上を測る隅丸方形の竪穴住居で，深さ約65㎝を測る。遺構の大部分が調査区外に及ぶため，内部構造は明らかにできなかった。埋土は５層確認している。出土遺物には弥生土器小片がある。他の竪穴住居と比較検討，特に隅丸方形を呈することから，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ14（第28図）

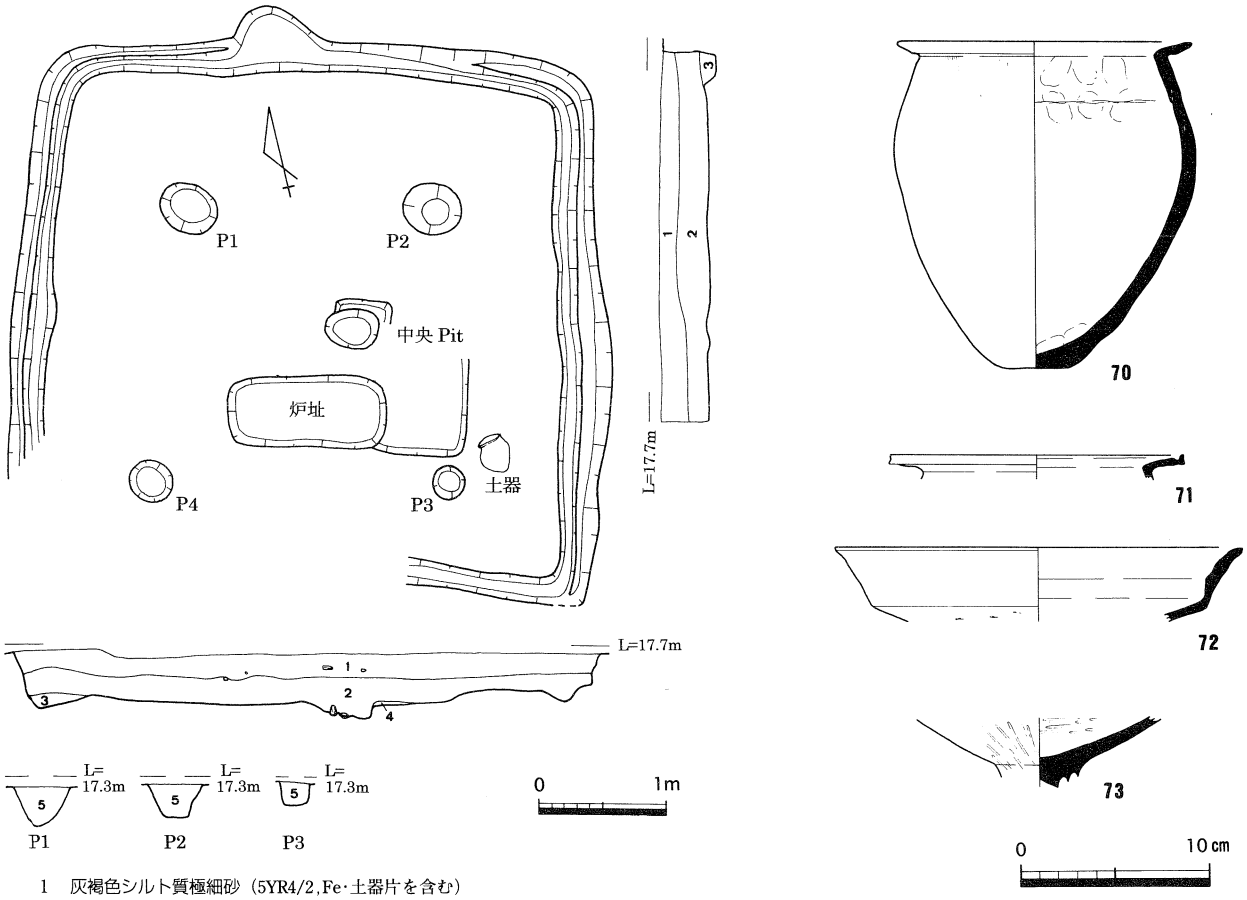
Ⅳ区中央で検出した南北3.0ｍ，東西3.4ｍを測る方形の竪穴住居で，深さ約30㎝を測る。南西部分でＳＤ21と重複しているが，前後関係は不明。中央より南に炉を設け，柱穴を北東・南東・南西の三方に３基（Ｐ１～３）配列している。さらに，北東部分には南北1.4ｍ，東西1.0ｍを測るベッド状遺構（約10㎝の段差）を地山削り出しにより設けている。特筆すべきは，このベッド状遺構の西辺に炭化した間仕切り板が残っていたことである。さらに，床面に炭化材が散乱していたことから，いわゆる焼失家屋と考えられる。ただし，完形の土器がないことから，住居廃棄後に焼失したものと考えられる。埋土は７層確認しており，第１・２層は住居焼失後の埋没土，第３層は焼土層，第４層は間仕切り板を立てるために充填した粘土，第５層は炉の炭層，第６・７層は柱穴の埋没土である。第１～３層から出土した弥生土器鉢(74)・甕底部(75・76)はおおむね下川津Ｖ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＨ15（第29図）

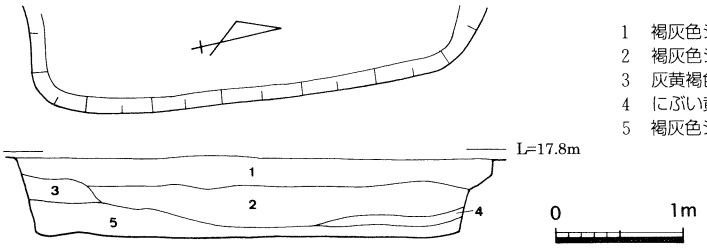
Ⅳ区中央で検出した南北1.5ｍ以上，東西2.5ｍ以上を測る方形の竪穴住居で，深さ約10㎝を測る。遺構検出作業では平面方形の竪穴住居として認識できたが，後世の削平が著しく断面観察により埋土の一部と炉のみしか検出できなかった。埋土は３層確認しており，第１層は住居廃絶後の埋没土，第２層は炉の炭層，第３層は炉を成形するための充填土と考えられる。第１層から弥生土器甕(77～79)，第２・３層から扁平片刃石斧(80)が出土しており，これら遺物は弥生時代中期初頭に属するものである。ただし，中期初頭において平面方形の竪穴住居が存在しないこと，14頁で報告したとおりＳＨ15がＳＫ25の上部を削っており弥生時代前期末～中期初頭に属するＳＫ25の遺物を混入している可能性が高いことを考慮すると，ＳＨ15の帰属する時代は周辺に密集している弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の竪穴住居と同じ時期と考えられる。



第25図　SH11平面・断面図（縮尺1/60）

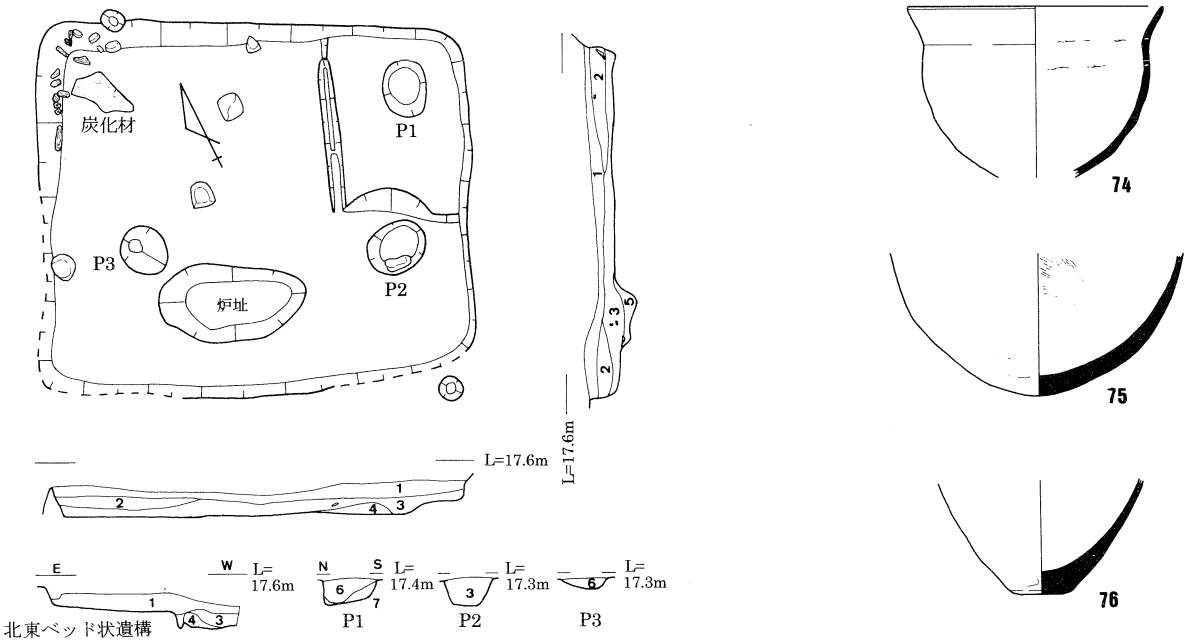


第26図　SH12平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



1　褐灰色シルト質極細砂　(10YR5/1)
2　褐灰色シルト質極細砂　(10YR4/1)
3　灰黄褐色シルト質極細砂 (10YR5/2)
4　にぶい黄褐色シルト質極細砂 (10YR4/3)
5　褐灰色シルト質極細砂　(10YR3/1)

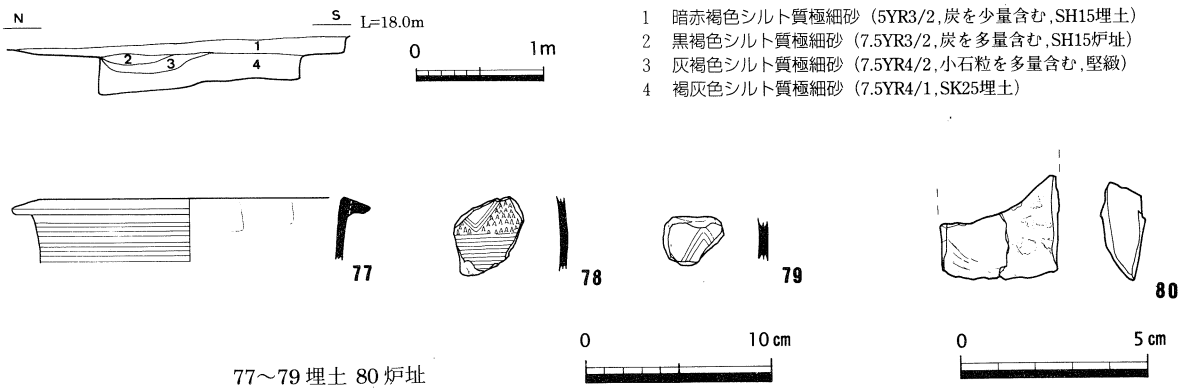
第27図　SH13平面・断面図（縮尺1/60）



74～76 埋土

1　明黄褐色シルト質極細砂 (7.5YR5/6)
2　褐色シルト質極細砂　(7.5YR4/6)
3　黒褐色シルト質極細砂 (10YR3/1,粒子やや粗い,焼土・炭・土器片多く含む)
4　褐灰色シルト質極細砂 (10YR4/1,粒子やや粗い)
5　黒色炭層　(10YR1.7/)
6　褐灰色シルト質極細砂 (7.5YR4/1,粒子やや粗い)
7　褐灰色シルト質極細砂 (7.5YR4/1,粒子やや粗い,地山塊をブロック状に含む)

第28図　SH14平面・断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4）



1　暗赤褐色シルト質極細砂 (5YR3/2,炭を少量含む,SH15埋土)
2　黒褐色シルト質極細砂 (7.5YR3/2,炭を多量含む,SH15炉址)
3　灰褐色シルト質極細砂 (7.5YR4/2,小石粒を多量含む,堅緻)
4　褐灰色シルト質極細砂 (7.5YR4/1,SK25埋土)

77～79 埋土 80 炉址

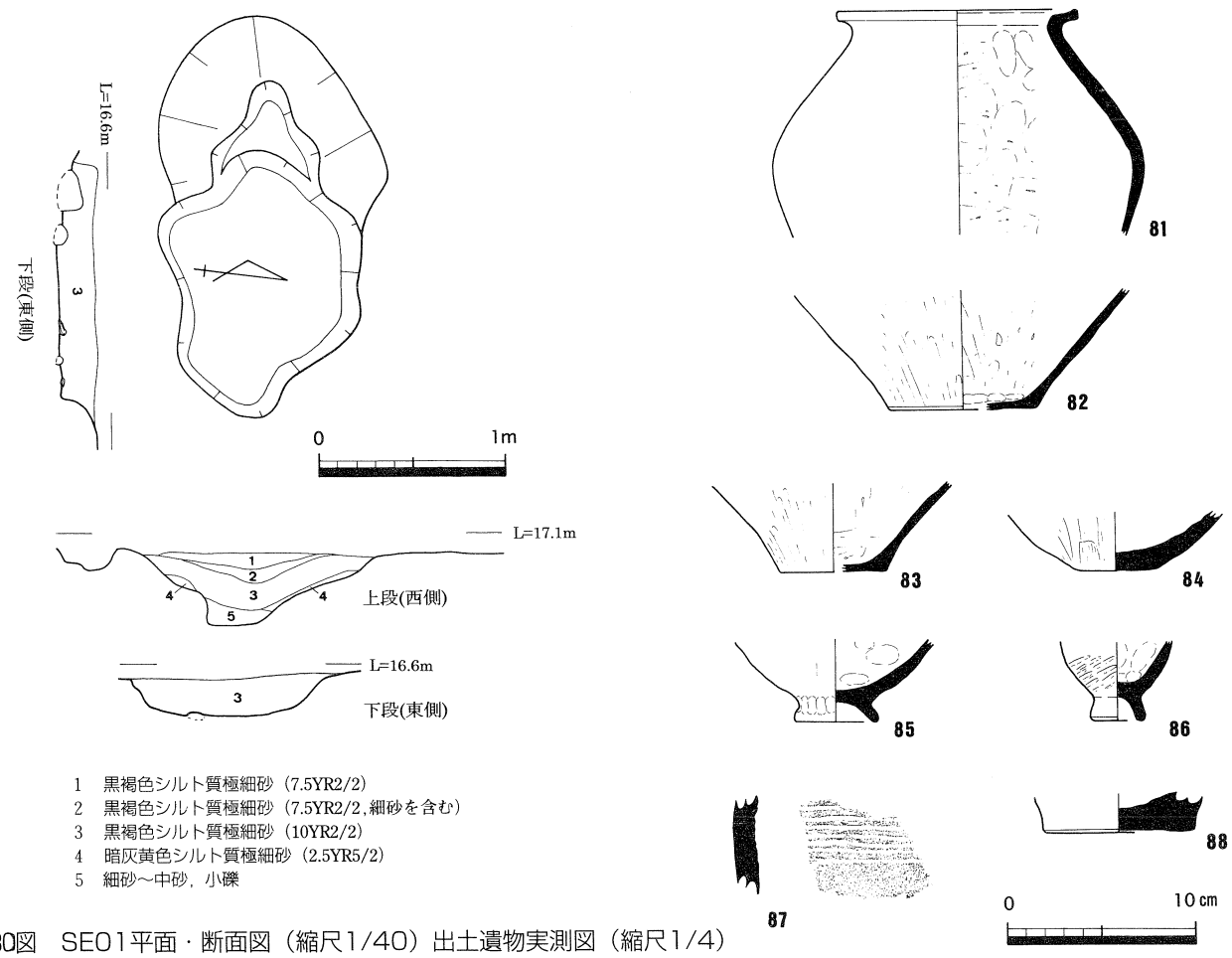
第29図　SH15断面図（縮尺1/60）出土遺物実測図（縮尺1/4,1/2）

ＳＥＯ１（第30図）

Ⅱ区中央，水路ＳＤ03西肩で検出した南北1.2ｍ，東西2.2ｍを測る素掘りの井戸状遺構である。二重構造となっており，南北1.2ｍ，東西1.1ｍ，深さ約50㎝を測る窪みを上段とし，さらに約10㎝下に南北1.1ｍ，東西1.4ｍ，深さ約20㎝を測る不整形の井戸底がある。井戸底はＳＤ03の底をさらに掘り窪めている。しかしながら，井戸とするには形態が適さなく，深度も浅い。水路であるＳＤ03の肩に設けられていること，竪穴住居ＳＨ04がすぐ西に隣接することを考慮すれば，ＳＨ04の使用者がＳＤ03より水を容易に汲み上げるために設けたもので，緩やかな傾斜をもつ上段より降り，井戸底はＳＤ03を流れる水を溜め汲み易くしている水汲み施設の可能性がある。埋土は５層確認しているが，ＳＤ03と似た土層をもち，ＳＤ03と同時に機能を失い埋没していったと考えられる。第５層から弥生土器が出土しているが，中期前葉，後期前葉，後期中葉～古墳時代前期初頭と複数の時期に属する遺物が混在している状況もＳＤ03と共通しており，ＳＤ03と同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

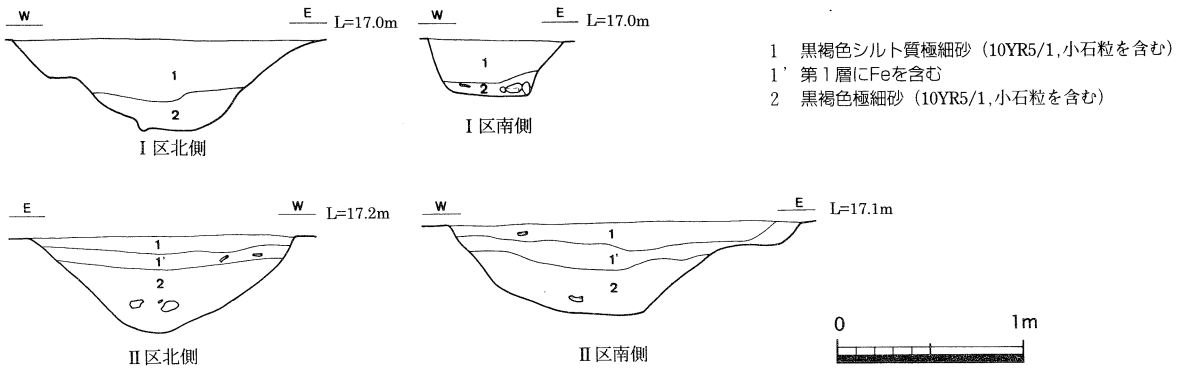
ＳＤ01（第６･31～35図）

Ⅰ・Ⅱ区で検出した幅約0.7～1.8ｍ，深さ約50㎝を測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約64ｍを測る。Ⅱ区中央西端より調査区内に入り，わずかに蛇行しながら北北東方向に調査区を縦断し，Ⅰ区北端で調査区外に出る。Ⅱ区とⅠ区での溝底の比高差は約20cmであり，緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく２層に分かれ，下層である第２層が細砂であることから，水路として機能していたことが伺える。上層である第１層はシルト質極細砂であり，溝が機能しなくなってから埋没した土層である。この第１層から弥生土器がまとまって出土していることから，機能を失った水路に一括廃棄されたものと考えられる。出土した弥生土器はおおむね下川津Ｖ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。このＳＤ01に隣接して，同時期の竪穴住居が存在することから，集落の排水用に掘削された水路と考えられる。

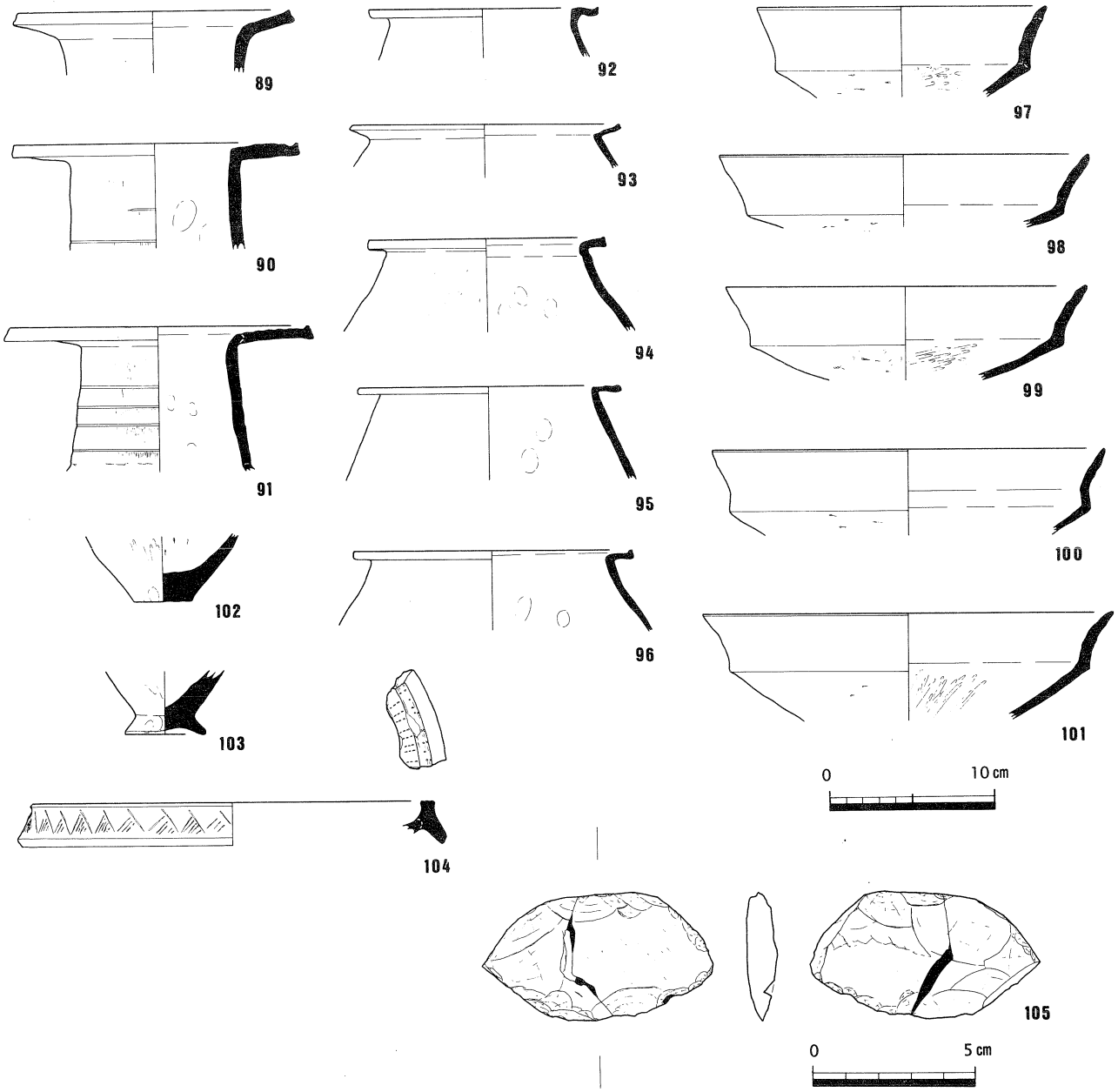


1　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2）
2　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2，細砂を含む）
3　黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2）
4　暗灰黄色シルト質極細砂（2.5YR5/2）
5　細砂～中砂，小礫

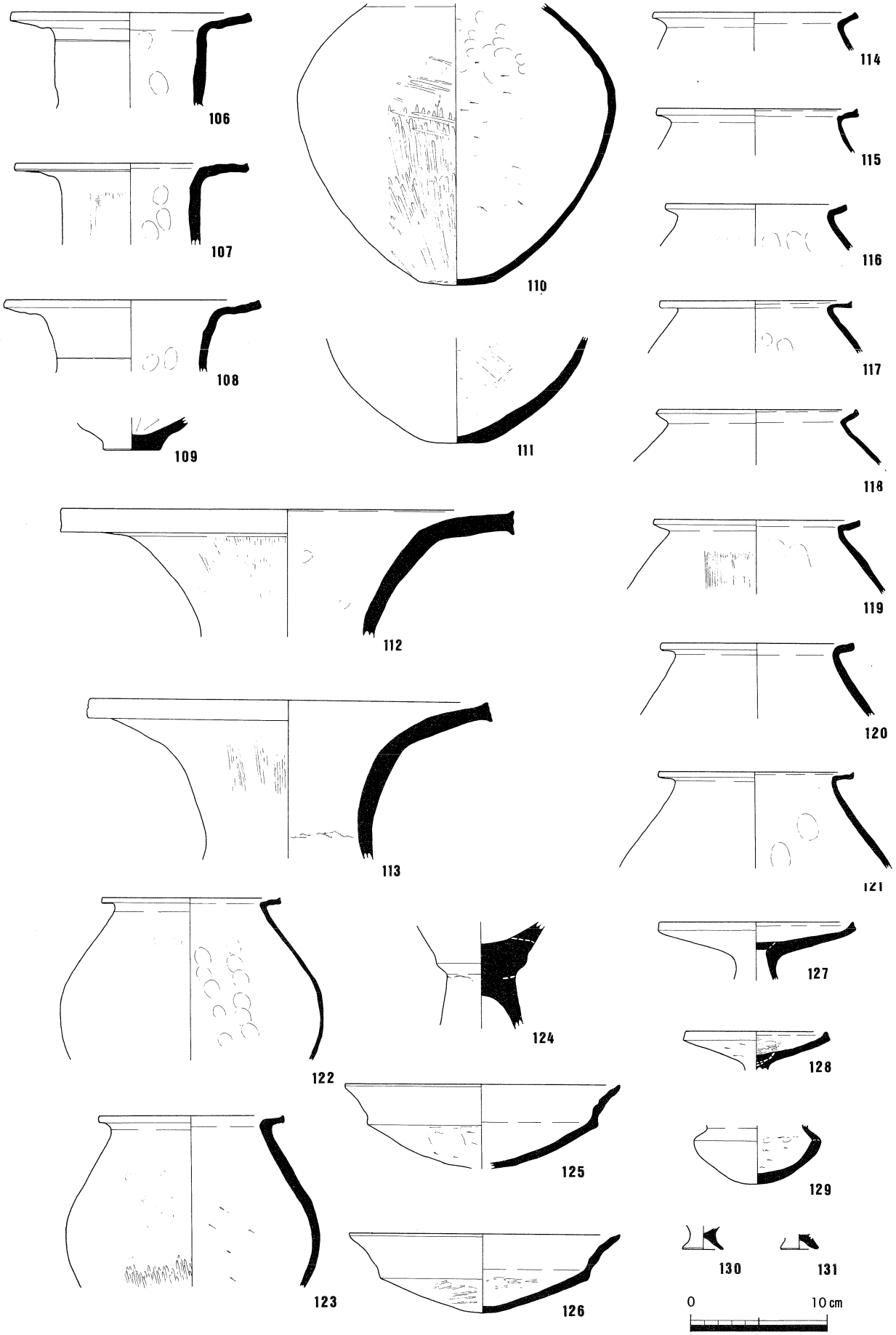
第30図　SEO1平面・断面図（縮尺1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）



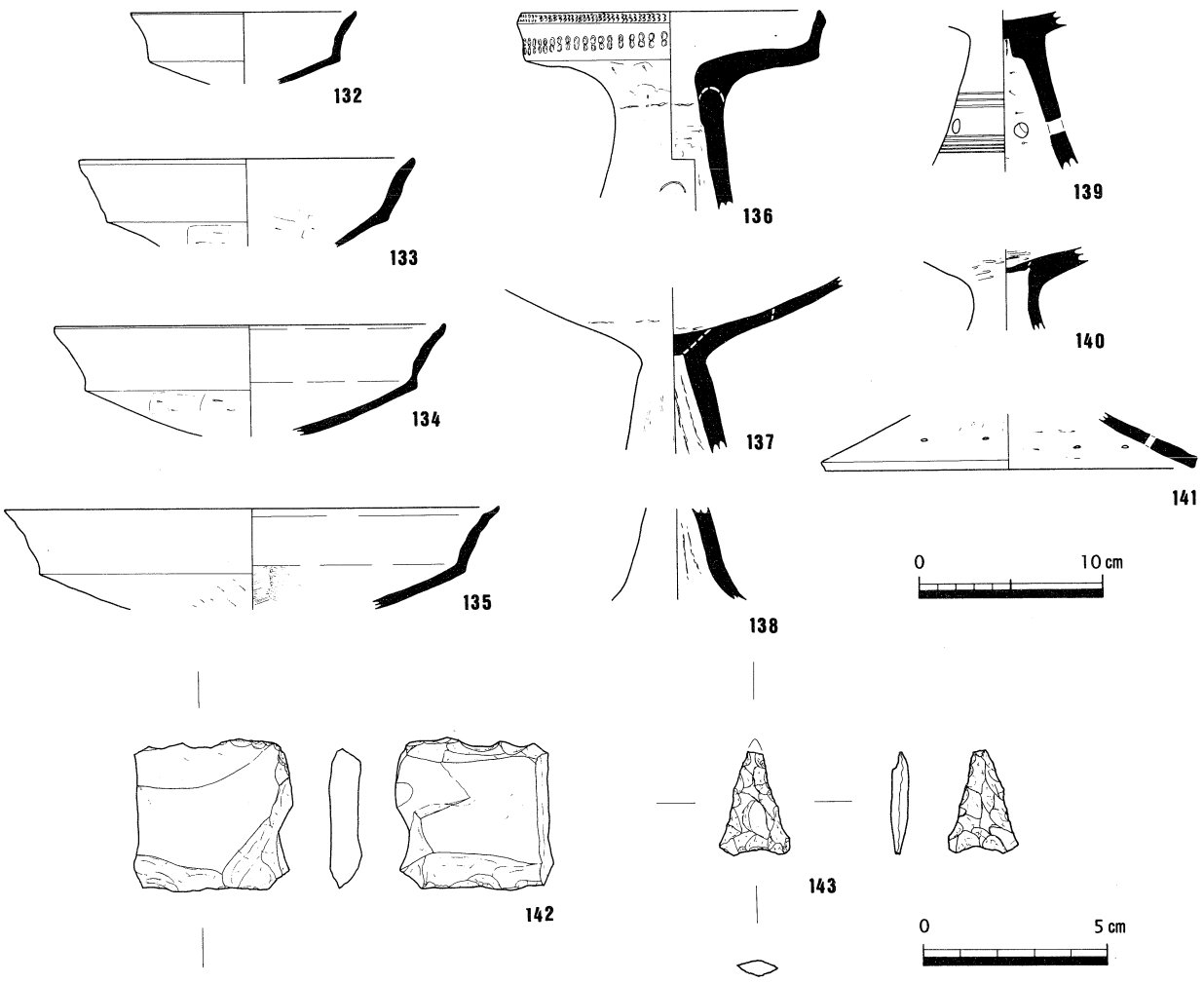
第31図　SD01断面図（縮尺1/40）



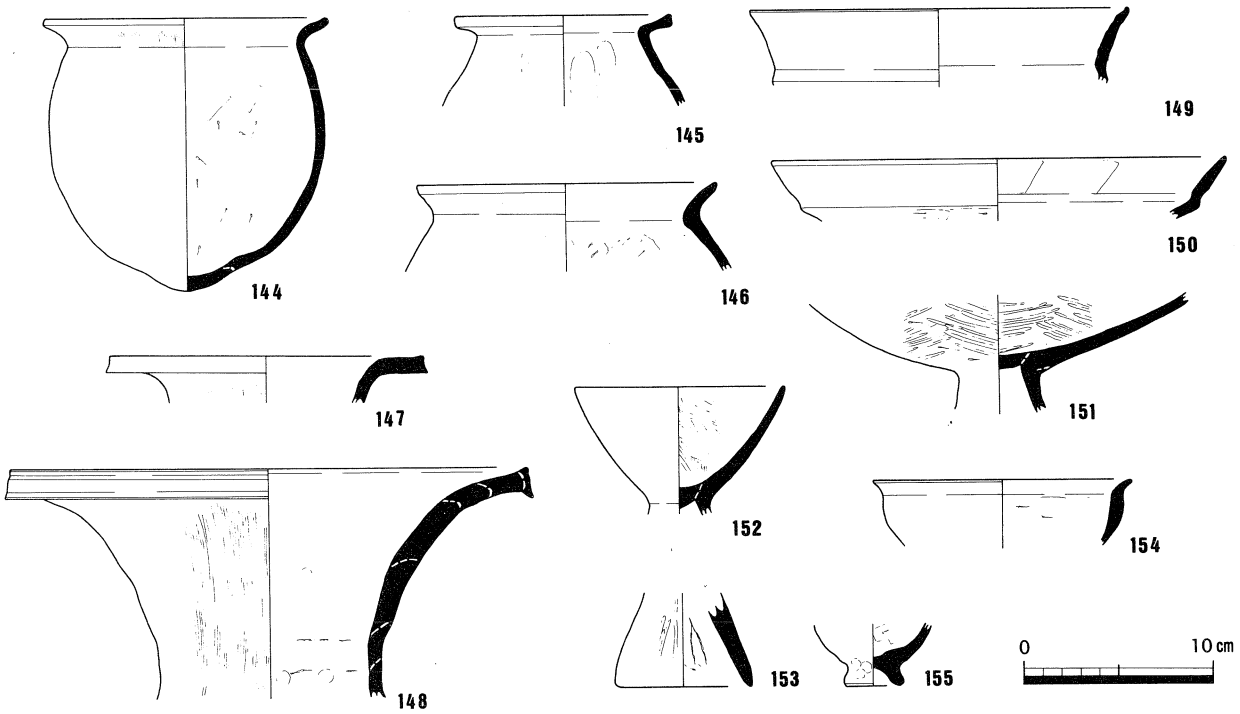
第32図　SD01下層出土遺物実測図（縮尺1/4,1/2）



第33図　SD01上層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



第34図　SD01上層出土遺物実測図②（縮尺1/4,1/2）



第35図　SD01上・下層出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＤ02（第６・36図）

Ⅰ区東部で検出した幅0.8ｍ，深さ約20㎝を測る断面台形の溝で，平面形態は「く」の字形を呈し，北側の長さ約2.6ｍ，南側の長さ約3.2ｍを測る。溝として分類したが，土坑または不明遺構として分類すべきものかもしれない。埋土は２層に分かれる。埋土から出土した弥生土器甕(156)・高杯(157・158)はおおむね下川津Ⅳ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

ＳＤ06（第７・37図）

Ⅲ区で検出した幅約0.7～１ｍ，深さ約60㎝を測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約22ｍを測る。Ⅲ区南部西端より調査区内に入り，わずかに蛇行しながら北北東方向に調査区を縦断し，Ⅲ区北部で微高地が終わり小谷になる地点で消滅している。南端と北端での溝底の比高差は約10㎝と緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく２層に分かれ，下層である第３層が礫を多く含む極細砂であることから，水路として機能していたことが伺える。上層である第１・２層はシルト質極細砂であり，溝が機能しなくなってから埋没した土層である。上層から弥生土器がまとまって出土していることから，機能を失った水路に一括廃棄されたものと考えられる。出土した弥生土器はおおむね下川津Ⅳ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。並行して存在するＳＤ07同様に，集落から小谷に向けて水路があることから，集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路と考えられる。なお，このＳＤ06はＳＤ14・25と交差しており，ＳＤ14・25はＳＤ06を壊して掘削されているが，同じく交差するＳＤ09との前後関係は明らかにできなかった。

ＳＤ07（第７・38～43図）

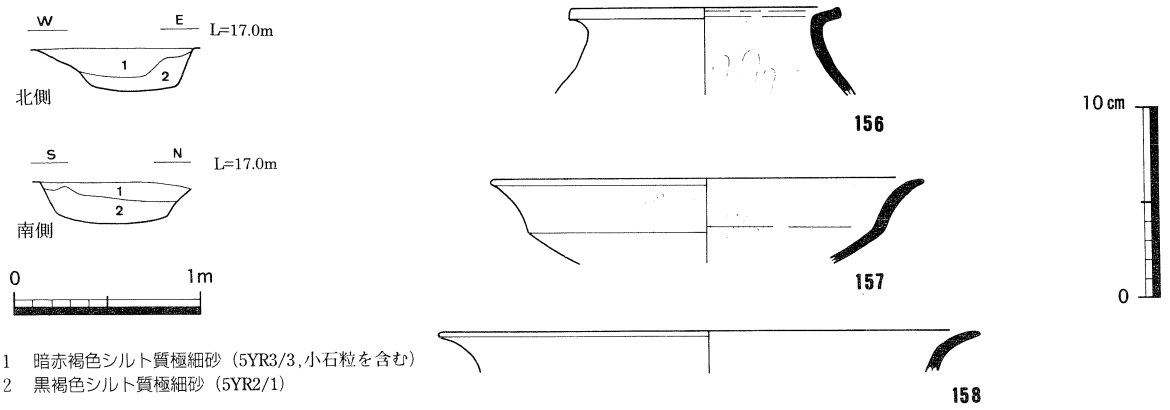
Ⅲ区で検出した幅約0.5～１ｍ，深さ約50㎝を測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約30ｍを測る。Ⅲ区南端西側より調査区内に入り，わずかに蛇行しながら北北東方向に調査区を縦断し，Ⅲ区北部で微高地が終わり小谷になる地点で消滅している。南端と北端での溝底の比高差は約30㎝とやや緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく２層に分かれ，下層である第３層が極細砂であることから，水路として機能していたことが伺える。上層である第１・２層はシルト質極細砂であり，溝が機能しなくなってから埋没した土層である。上層から弥生土器がまとまって出土していることから，機能を失った水路に一括廃棄されたものと考えられる。出土した弥生土器は，下層がおおむね下川津Ⅳ～Ⅴ式，上層がおおむね下川津Ⅴ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。このＳＤ07に隣接して同時期の竪穴住居が存在することや，集落から小谷に向けて水路があることから，並行して存在するＳＤ06同様，集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路と考えられる。なお，このＳＤ07はＳＤ12～14・25と交差しており，ＳＤ12～14・25はＳＤ07を壊して掘削されている。

ＳＤ09（第７・44図）

Ⅲ区で検出した幅約0.4ｍ，深さ約20～30㎝を測る断面Ｕ字または台形の溝で，調査区内で検出した長さは約26ｍを測る。Ⅲ区南端西側より調査区内に入り，蛇行しながら北方向に調査区を縦断し，Ⅲ区北部で微高地が終わり小谷になる地点でＳＤ03と合流する。南端と北端での溝底の比高差は約20㎝と緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく２層に分かれる。Ⅳ区で検出したＳＤ21が延長上にあり，同じ規模で埋土も類似することから，ＳＤ09とＳＤ21は同一の溝である可能性が高い。埋土から弥生土器小片が出土しており，ＳＤ21と同一の溝の可能性があることから，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路の可能性もあるが，ＳＤ06・07と比べると小規模であり，ＳＤ21と同一の溝と想定した場合，集落を区画していた溝の可能性も考えられる。なお，このＳＤ09はＳＤ12・13と交差しており，ＳＤ12・13はＳＤ09を壊して掘削されているが，同じく交差するＳＤ06との前後関係は明らかにできなかった。

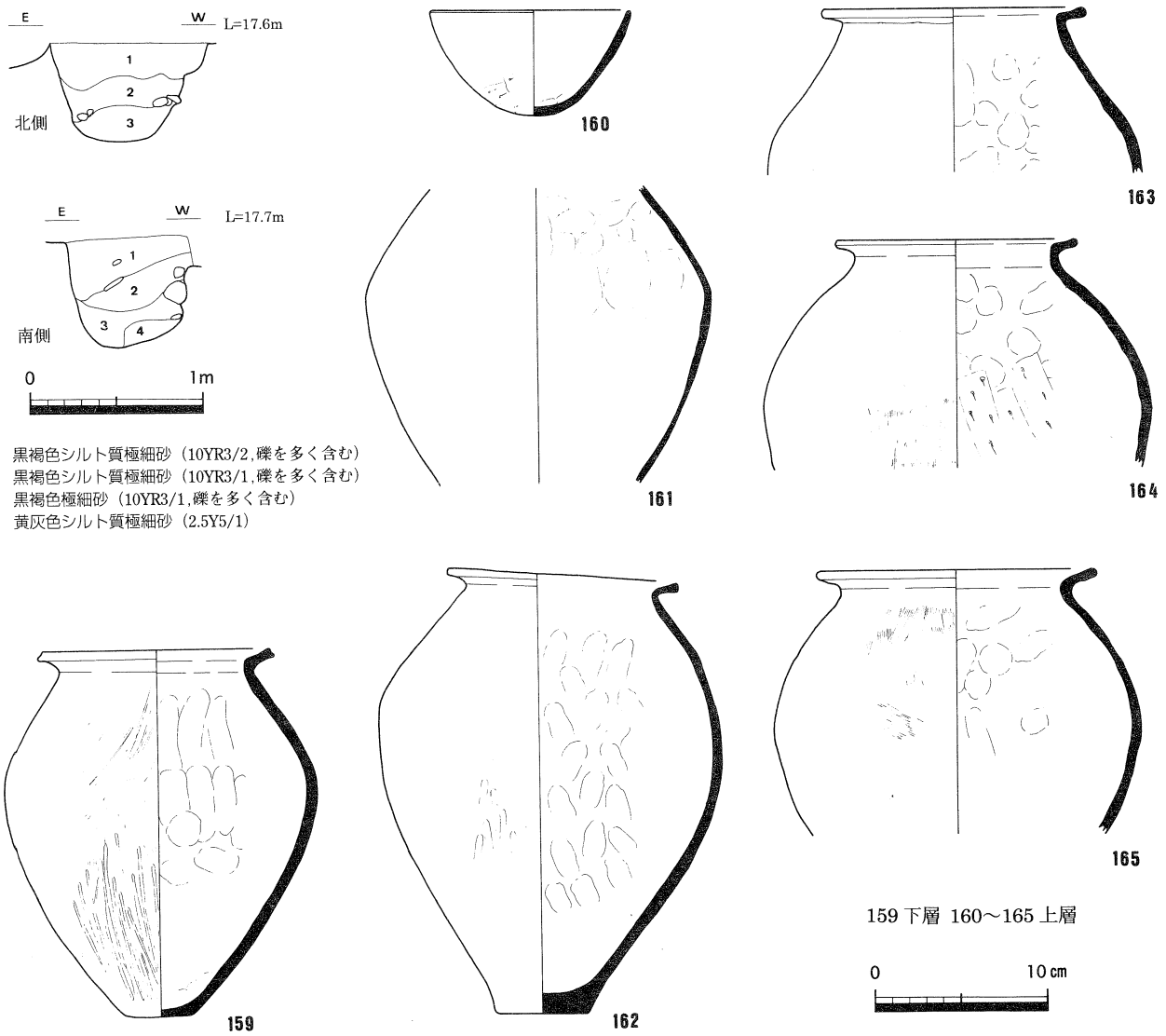
ＳＤ21（第７・45・46図）

Ⅳ区で検出した幅約0.4～0.5ｍ，深さ約15～55㎝を測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約40ｍを測る。Ⅳ区北部西端より調査区内に入り，緩やかに弧を描きながら南南東方向に調査区を縦断し，Ⅳ区南部で微高地が終わり旧河道になる地点で消滅している。北端と南端での溝底の比高差は約10㎝と緩やかな傾斜をもつ。埋土は大きく２層に分かれる。Ⅲ区で検出したＳＤ09が延長上にあり、同



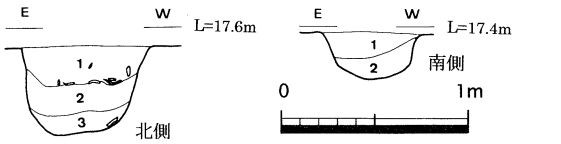
1　暗赤褐色シルト質極細砂（5YR3/3,小石粒を含む）
2　黒褐色シルト質極細砂（5YR2/1）

第36図　SD02断面図（縮尺1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）

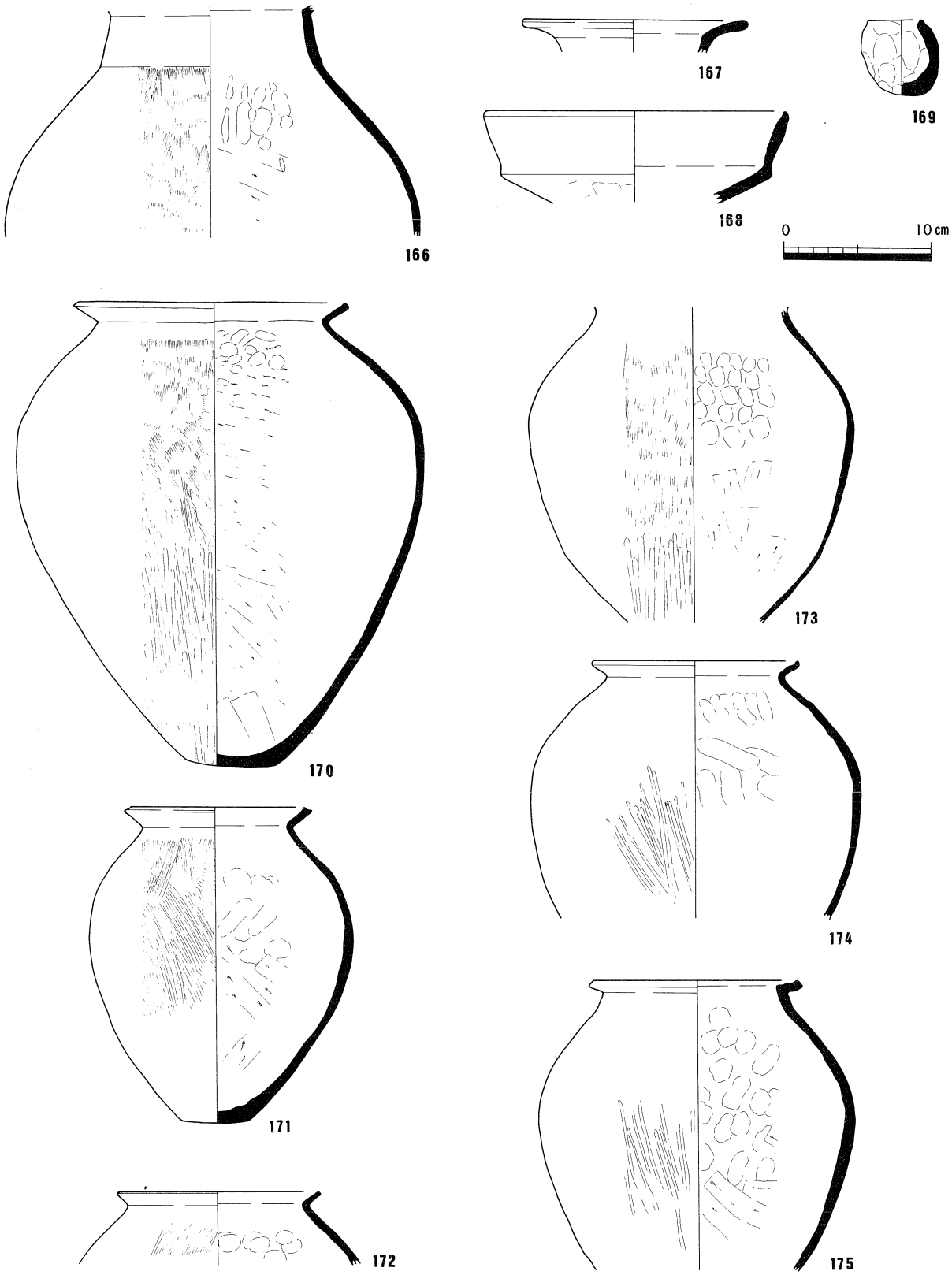


1　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2,礫を多く含む）
2　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1,礫を多く含む）
3　黒褐色極細砂（10YR3/1,礫を多く含む）
4　黄灰色シルト質極細砂（2.5Y5/1）

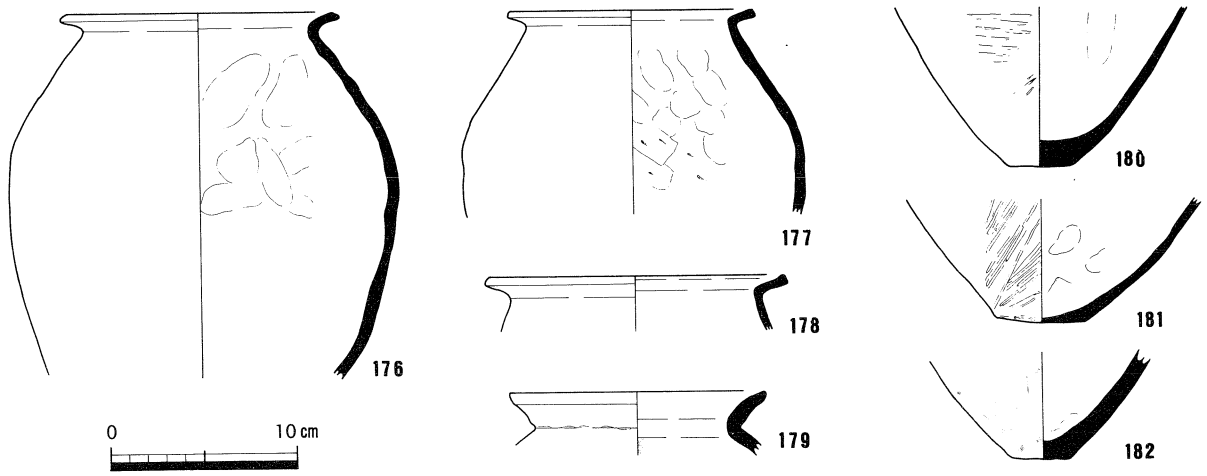
第37図　SD06断面図（縮尺1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）



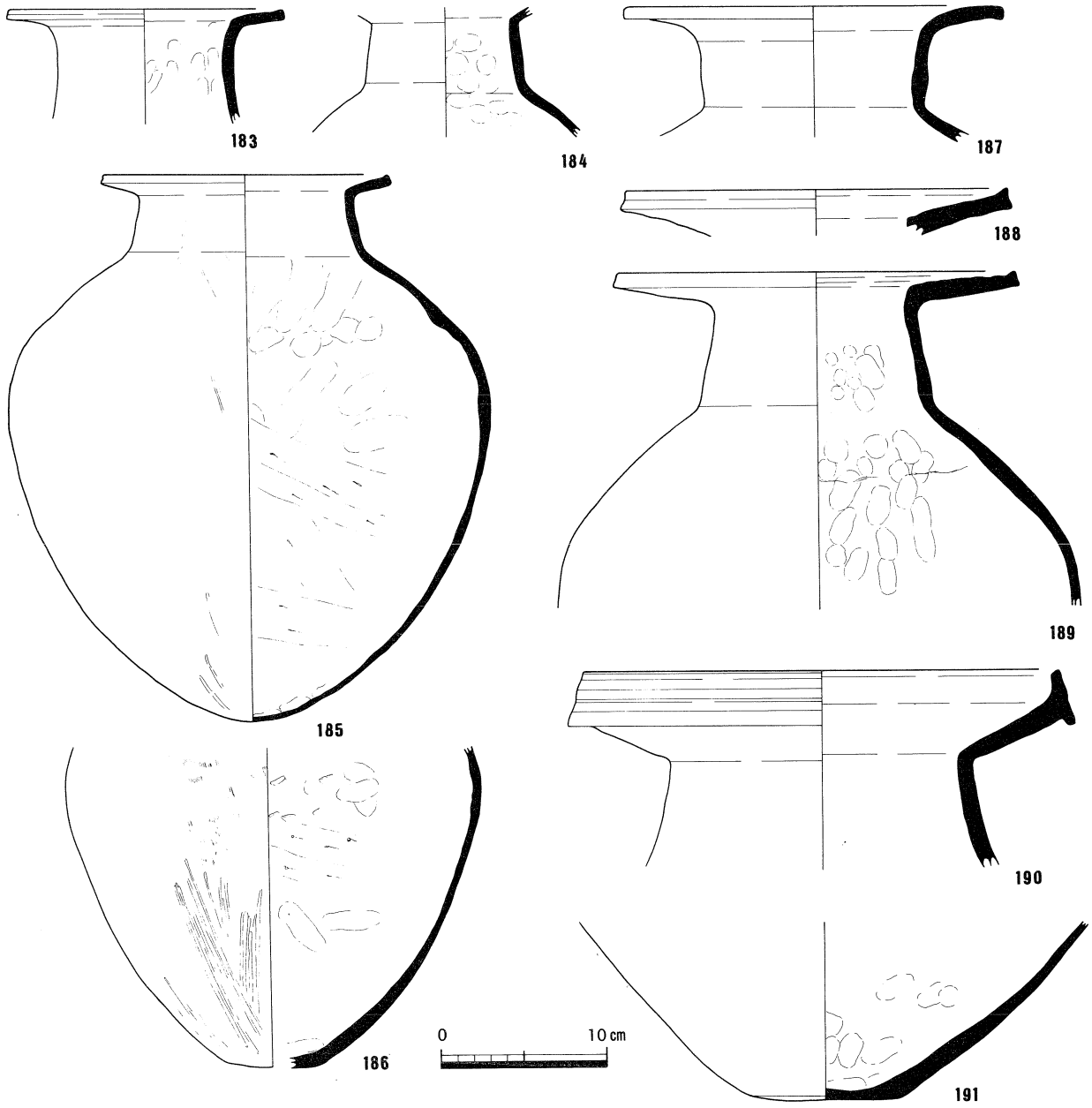
1　暗褐色シルト質極細砂（10YR3/4，礫を含む）
2　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2，礫を多く含む）
3　黒褐色極細砂（10YR3/1）



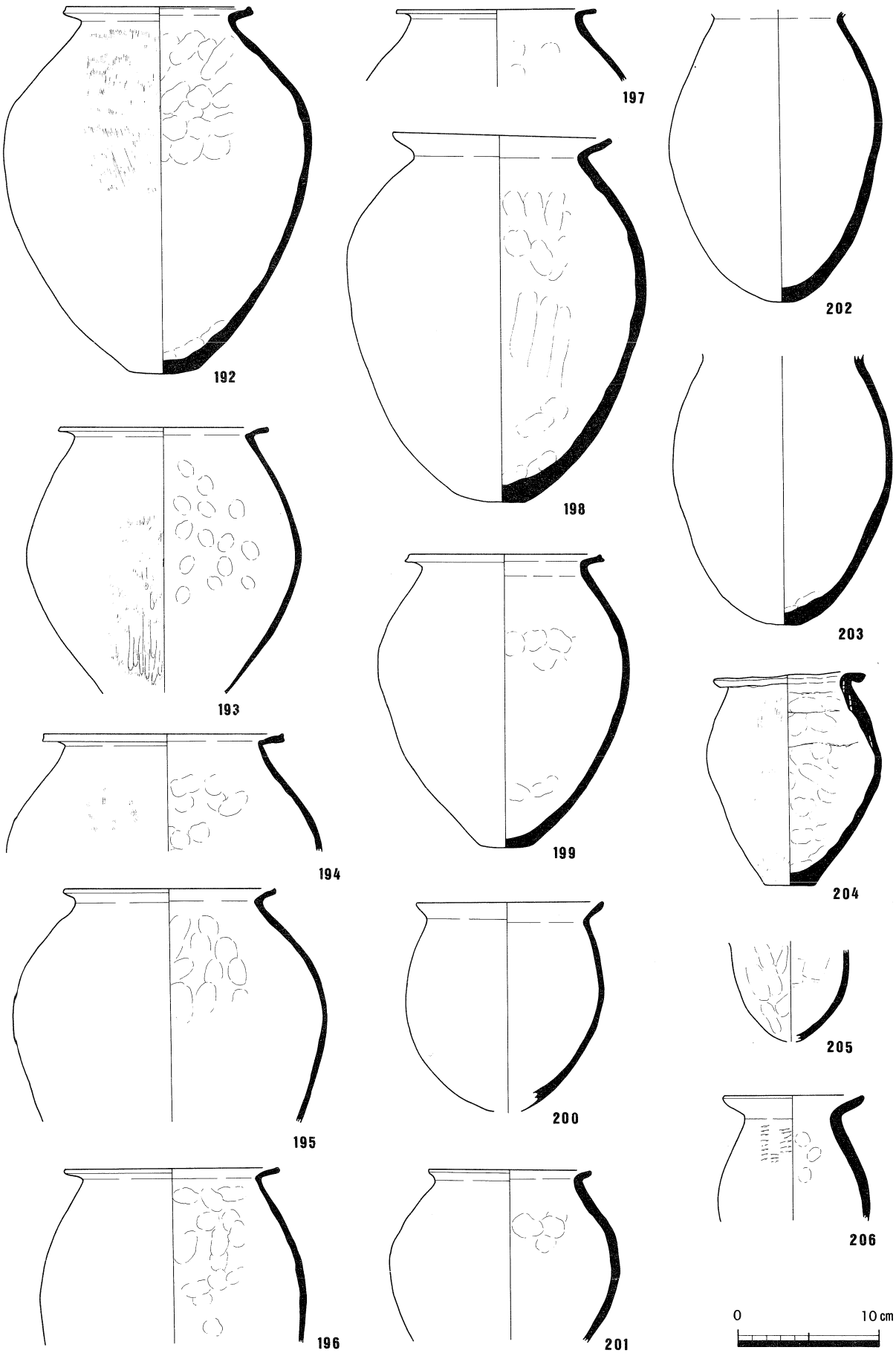
第38図　SD07断面図（縮尺1/40）下層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



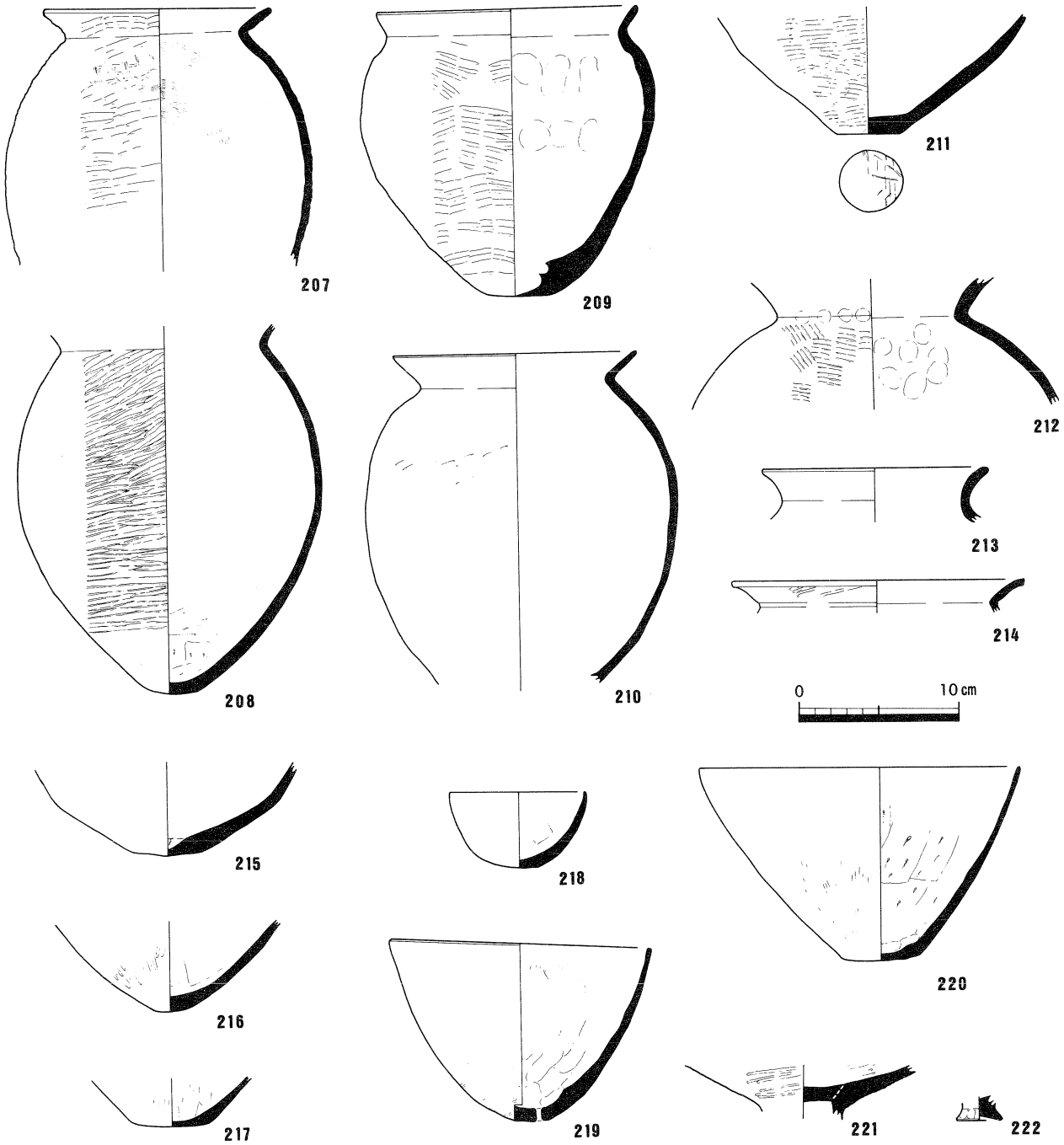
第39図　SD07下層出土遺物実測図②（縮尺1/4）



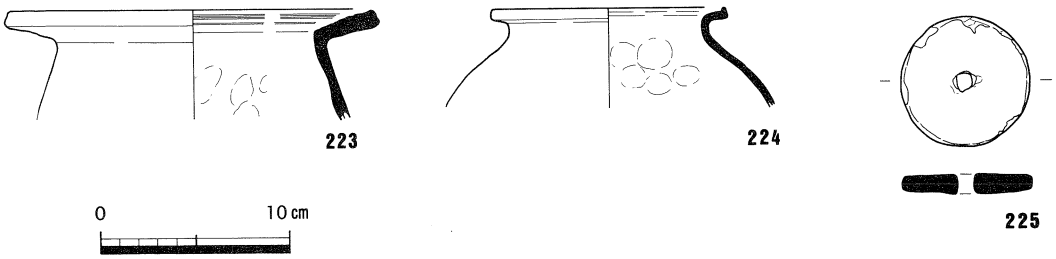
第40図　SD07上層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



第41図　SD07上層出土遺物実測図②（縮尺1/4）



第42図　SD07上層出土遺物実測図③（縮尺1/4）

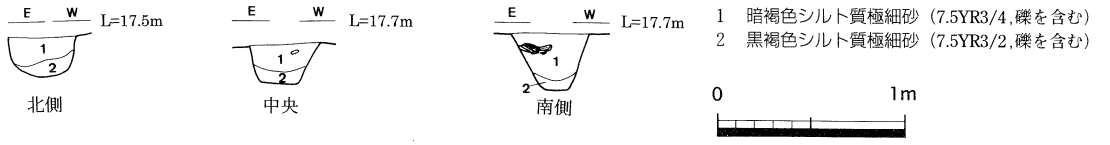


第43図　SD07上・下層出土遺物実測図（縮尺1/4）

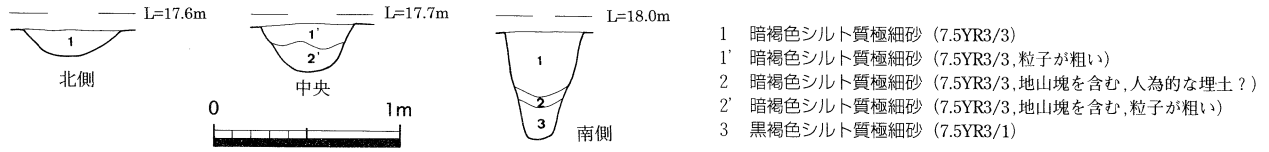
じ規模で埋土も類似することから，ＳＤ09とＳＤ21は同一の溝である可能性が高い。埋土から出土した弥生土器甕(226～228)・高杯(229～231)はおおむね下川津Ｖ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。集落内の排水を小谷に流すために掘削された水路の可能性もあるが，ＳＤ06・07と比べると小規模であり，ＳＤ09と同一の溝と想定した場合，集落を区画していた溝の可能性も考えられる。なお，このＳＤ21はＳＨ11・13・14，ＳＤ23と交差するが，前後関係は明らかにできなかった。

土器棺墓（第47図）

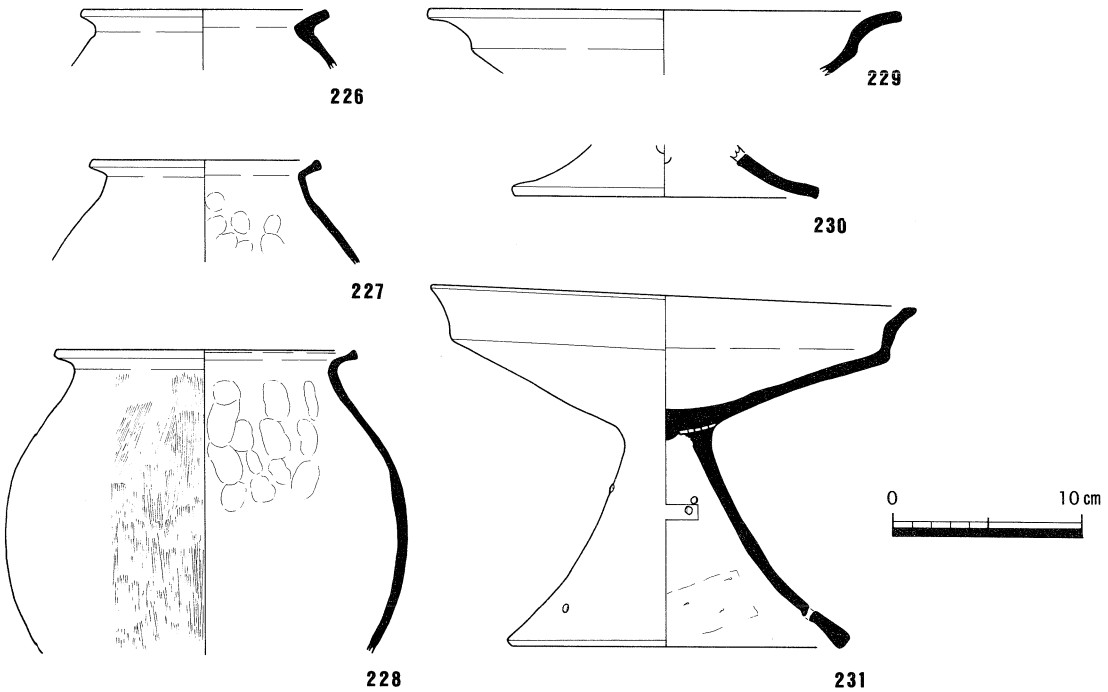
Ⅱ区で検出した小児用土器棺墓である。墓壙は南北60cm，東西45cm以上の楕円形を呈する。上部は後世の削平を受けており，深さ約25cm分が残る。土器棺は壷１点と大型鉢２点を組み合わせている。身である壷は口頸部を欠いており，上を東に向けて墓壙中央に横たえていた。蓋である大型鉢は壷の口を塞ぐ形で１点とその横に１点を墓壙内に入れていた。出土した弥生土器大型鉢(232・233)・大型壷(234)は下川津Ⅳ～Ⅴ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



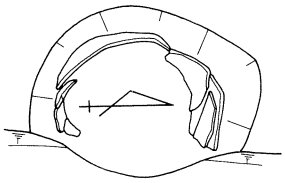
第44図　SD09断面図（縮尺1/40）



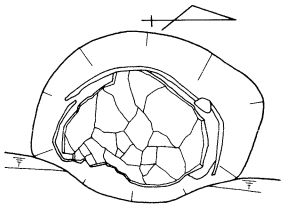
第45図　SD21断面図（縮尺1/40）



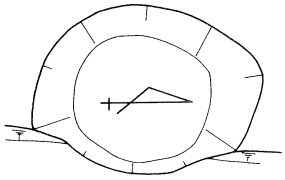
第46図　SD21出土遺物実測図（縮尺1/4）



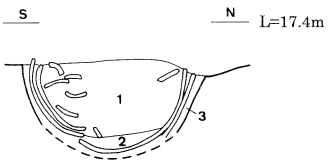
土器棺平面(検出時)



土器棺平面(完掘時)

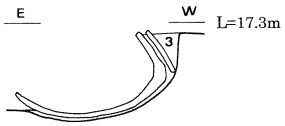


墓壙平面

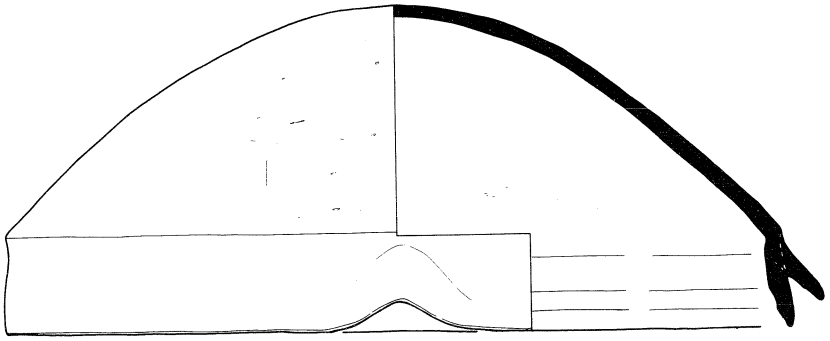


土器棺断面(南北)

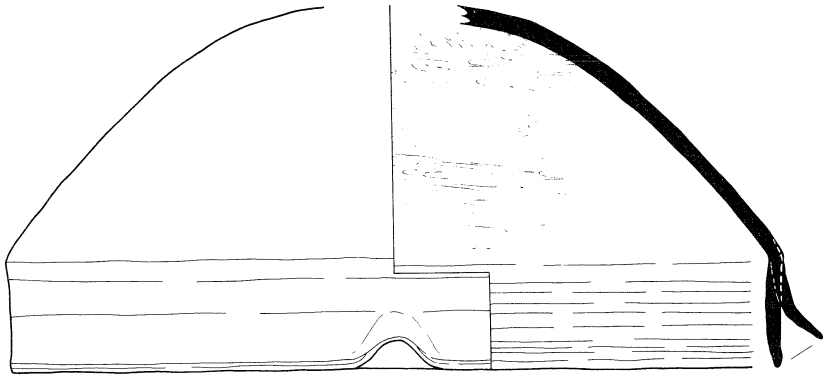
1　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）
2　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR2/2）
3　褐灰色シルト質極細砂（7.5YR4/1）



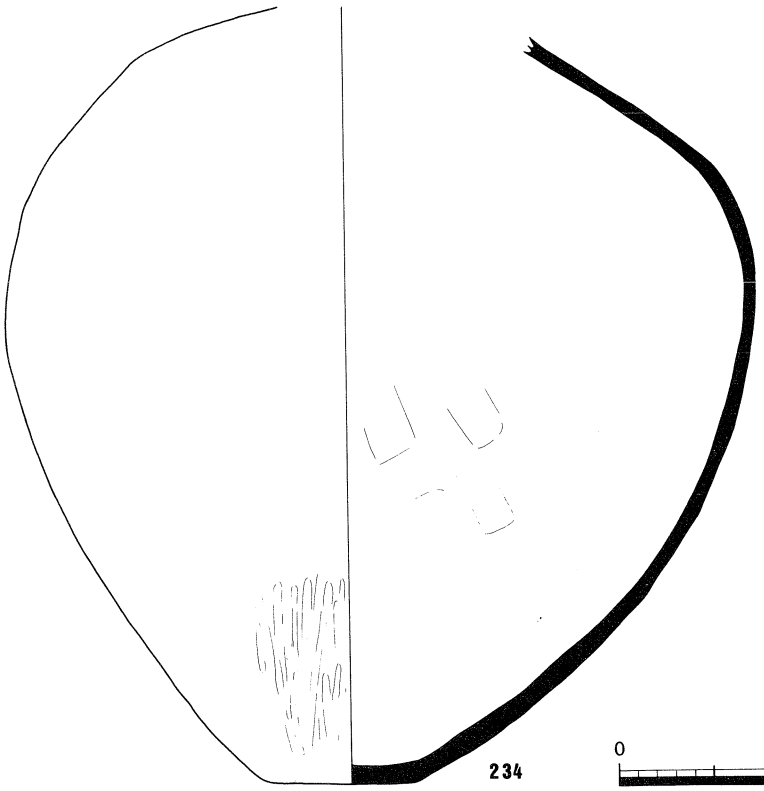
土器棺断面(東西)



232



233



234

第47図　Ⅱ区土器棺墓平面・断面図（縮尺1/20）出土遺物実測図（縮尺1/4）

ＳＤ03（第６・７・48～67図）

Ⅱ・Ⅲ区で検出した溝で，北微高地・南微高地の間に所在する小谷の底を縫うようにして掘削されている。調査区内で検出した長さが約82ｍにも及ぶため，調査にあたってはＳＤ03を北から順に８区分し，Ⅱ区を１～６区に，Ⅲ区を７～８区に分けた。

ＳＤ03の規模は，幅２～3.8ｍ，深さ約40～50㎝，長さ約82ｍを測り，断面はおおむねＵ字形を呈する。ただし，４・５区では幅が４ｍ以上となり，さらに溝底の凹凸が激しいことから断面もＵ字形とはならない。Ⅲ区中央西端より調査区内に入り，蛇行しながら北東方向に調査区を縦断し，Ⅱ区北部東端で調査区外にのびている。南端と北端での溝底の比高差は約40㎝と緩やかな傾斜をもつ。４～８区では，溝底で東西に並行する２条の窪みが確認されており，東西どちらが先かは断面観察では看取できないが，少なくとも１回の再掘削が行われたと想定される。

埋土は，細分すると15層に分かれる（第48図，ただし第14・15層は第８図を参照）。細分された各土層の堆積状況は，１～８区の各区ごとに微妙な違いがあり，複雑な様相を呈している。遺構掘削時においては，細分した土層単位に掘削し遺物を取り上げることは時間的にも技術的にも不可能であったので，これらを大きく３層に分けた。上層は，褐灰色シルト質極細砂を主体とする土層で，第１～３・６層が該当し，第７・10・12～13層もこれに含む。堆積している厚さは約20～40㎝を測る。中層は，灰色細砂～中細砂とオリーブ黒色シルト質極細砂で，第８・９層が該当し，第14層もこれに含む。この第８・９層は，２～５区にしか確認されていない土層である。堆積している厚さは，約10～20㎝と薄い。下層は，灰色中砂～小石や細砂～中砂を主体とする土層で，第４・５層が該当し，これに第11・15層も含む。堆積している厚さは約20㎝を測る。

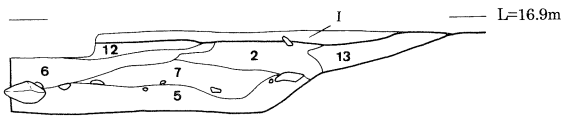
下層が細砂～小石であることから，水路として機能していたことがうかがえる。一方，上層はその特徴から，ＳＤ03が機能を失い埋没していく過程で堆積した土層である。上層下部から完形に近い弥生土器が出土していることから，水路としての機能を失った後にＳＤ03が土器の廃棄場所として利用されたと考えられる。さて，中層は細砂～中細砂を含むことから下層より新しい時期の水流である。この中層は，２～５区にしか確認されておらず，４・５区間断面を観察するとＳＤ03本来の溝底とは別に東端に堆積していることを考慮すると，４・５区の所で調査区の東(外)から入ってきた新たな流れで，３区を通って，２区の所で再び調査区の外へ出ていったと考えられる。つまり，第１段階ではＳＤ03は小谷底を縫うように調査区を北東に斜めに縦断していたが，第２段階では調査区の外から５・４・３・２区と続く新たな流れが出現し，第３段階完全に埋没する時期である。第１段階は溝底の再掘削の痕跡を考慮すると，さらに二つの小段階に細分できる。

さて，埋土から出土した弥生土器を概観すると，上・中・下層とも時期差は認められない。これは，水路であるため各土層の遺物が混じったためであり，またＳＤ03が短期間しか機能していなかった可能性も指摘できる。実際，主体を占めるのは下川津Ⅳ～Ⅴ式と限られており，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。なお，出土した弥生土器の一部に，前期末～中期前葉の土器を含むが，ＳＤ18の項で説明したとおり，ＳＤ18やその周辺にあった遺構の弥生土器を混入したものと考えられる。ＳＤ03から出土した土器は多量で，凹原遺跡から出土した遺物の約４割をも占め，さらに微高地上にあった竪穴住居や溝と同時期であることから，集落からＳＤ03に廃棄されたものと想定される。

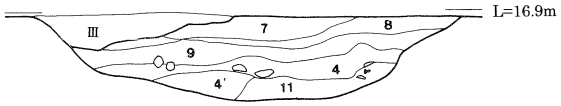
また，ＳＤ03の具体的な機能として，南微高地上にある溝ＳＤ06・07が排水をＳＤ03に注いでいることから，集落から小谷にもたらされた排水を下流に向けて流す機能をもっていたと想定できる。これは，第５図の遺跡周辺の微地形を見れば明らかのように，ＳＤ03の行く先は香東川の旧河道である。また，調査区が限られており集落全体の内容はつかめないが，南微高地では排水用だが，北微高地では取水としての役割を担っていた可能性もある。

ＳＤ04（第７図，第48図ＳＤ03－６・７区間断面）

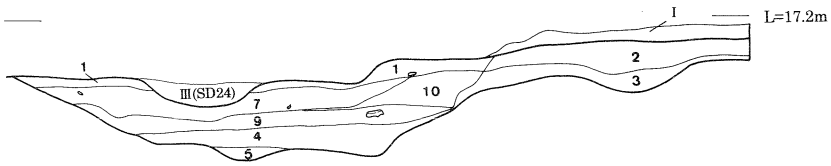
Ⅱ区南東隅およびⅢ区北東隅でＳＤ03と並行する幅約0.8ｍ，深さ約0.1ｍを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約11ｍである。埋土はＳＤ03の第６層と同じであり，ＳＤ03同様に小谷埋没土層より下部に位置することから，同じ弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



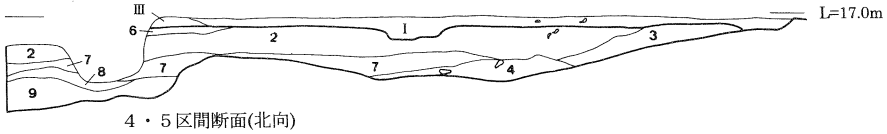
1・2区間断面(北向)



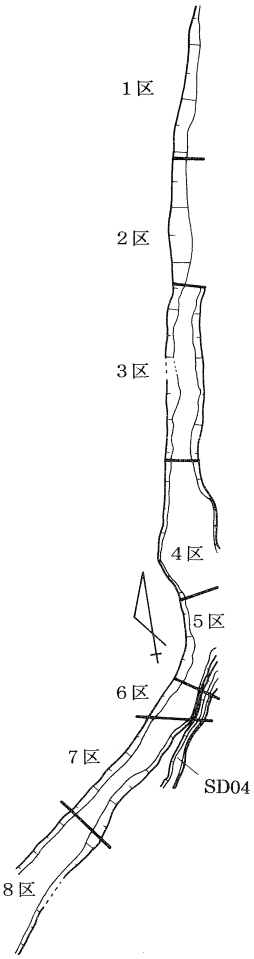
2・3区間断面(北向)



3・4区間断面(北向)



4・5区間断面(北向)



SD03土層名

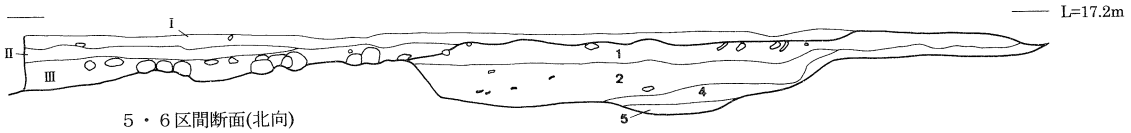
1　褐灰色シルト質極細砂（7.5YR5/1,Feを含む）
2　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1,Feを含む）
3　灰オリーブ色シルト質極細砂（5Y5/2）
4　灰色中砂～小石（N5/）
4′　細礫～中礫
5　灰白色細砂～中砂（2.5GY8/1）
6　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）
7　黒褐色シルト質極細砂（10YR2/2,締りがない）
8　灰白色細砂～中細砂（7.5Y7/2,第7層を含む）
9　オリーブ黒色シルト質極細砂
　（7.5Y2/2,締りがなく細砂を含む）
10　灰オリーブ色シルト質極細砂（5Y5/2）
11　オリーブ黒色シルト質極細砂
　（7.5Y3/2,締りがなく細砂を含む）
12　黒褐色シルト質極細砂（2.5Y3/2）
13　シルト質極細砂～細砂

小谷埋没土層名

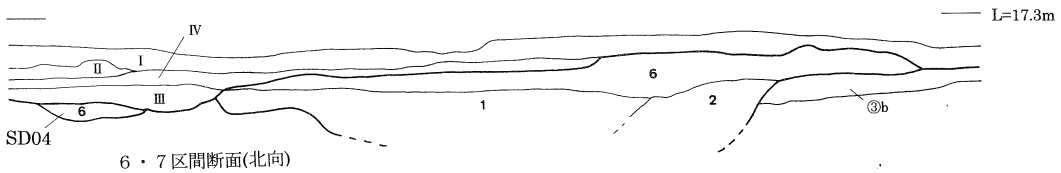
Ⅰ　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR6/2,Feを含む）
Ⅱ　灰褐色シルト質極細砂（7.5YR5/2）
Ⅲ　白灰色細～中細砂（5Y8/1）
Ⅳ　暗灰黄色シルト質極細砂（2.5Y4/2,細砂を含む）
③b　褐灰色シルト質極細砂（10YR5/1）

SD18土層名

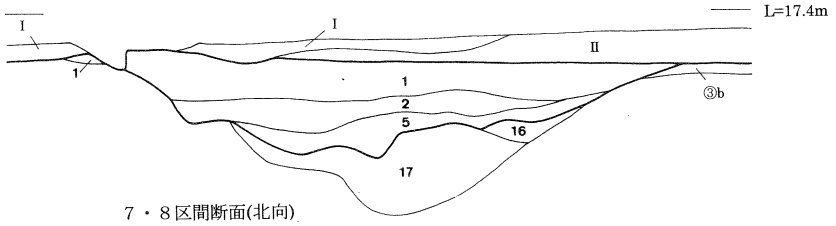
16　青灰色シルト質極細砂（5PB6/1,地山塊をブロック状に含む）
17　明青灰色粗砂～細礫（5PB7/1）



5・6区間断面(北向)

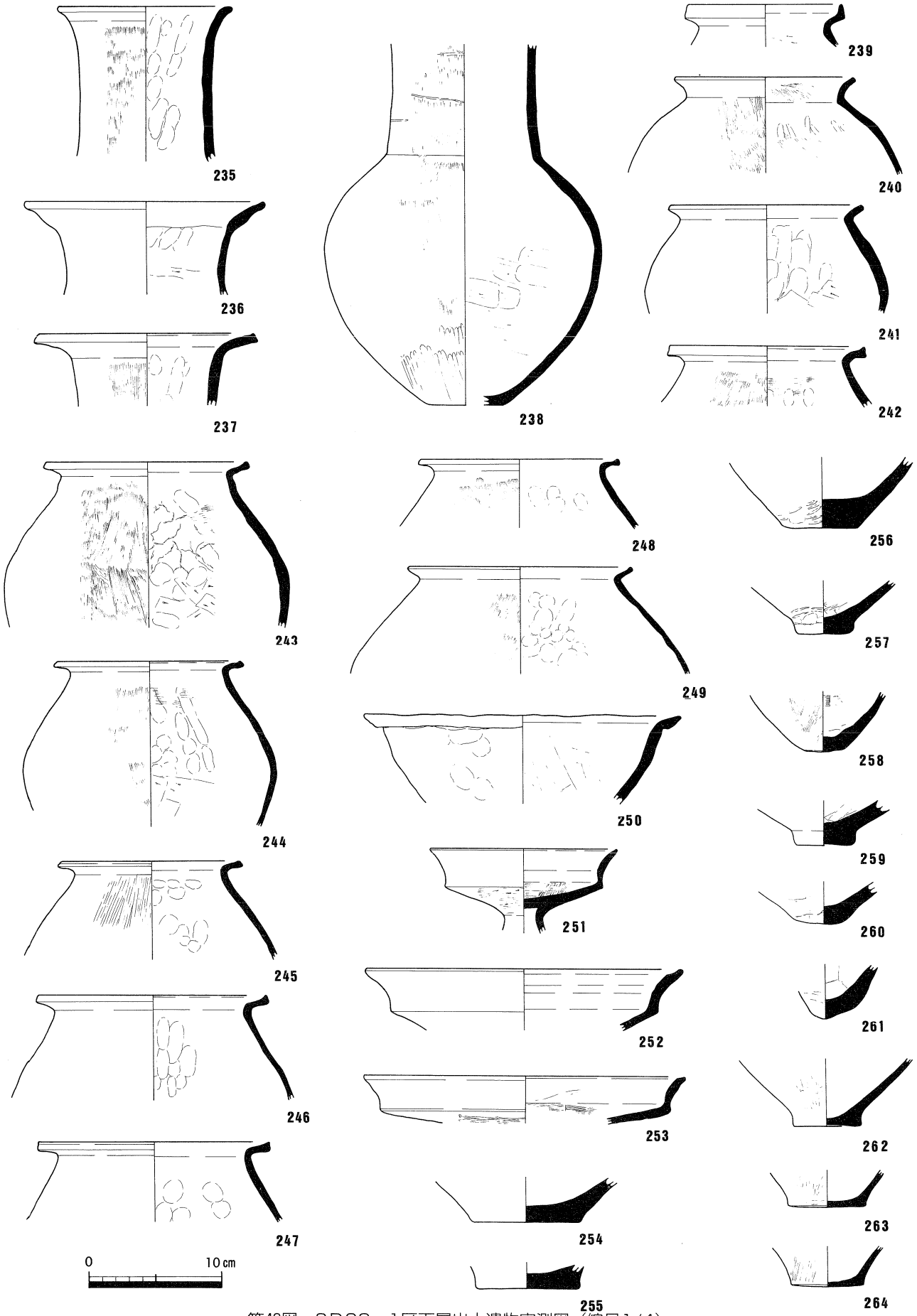


6・7区間断面(北向)

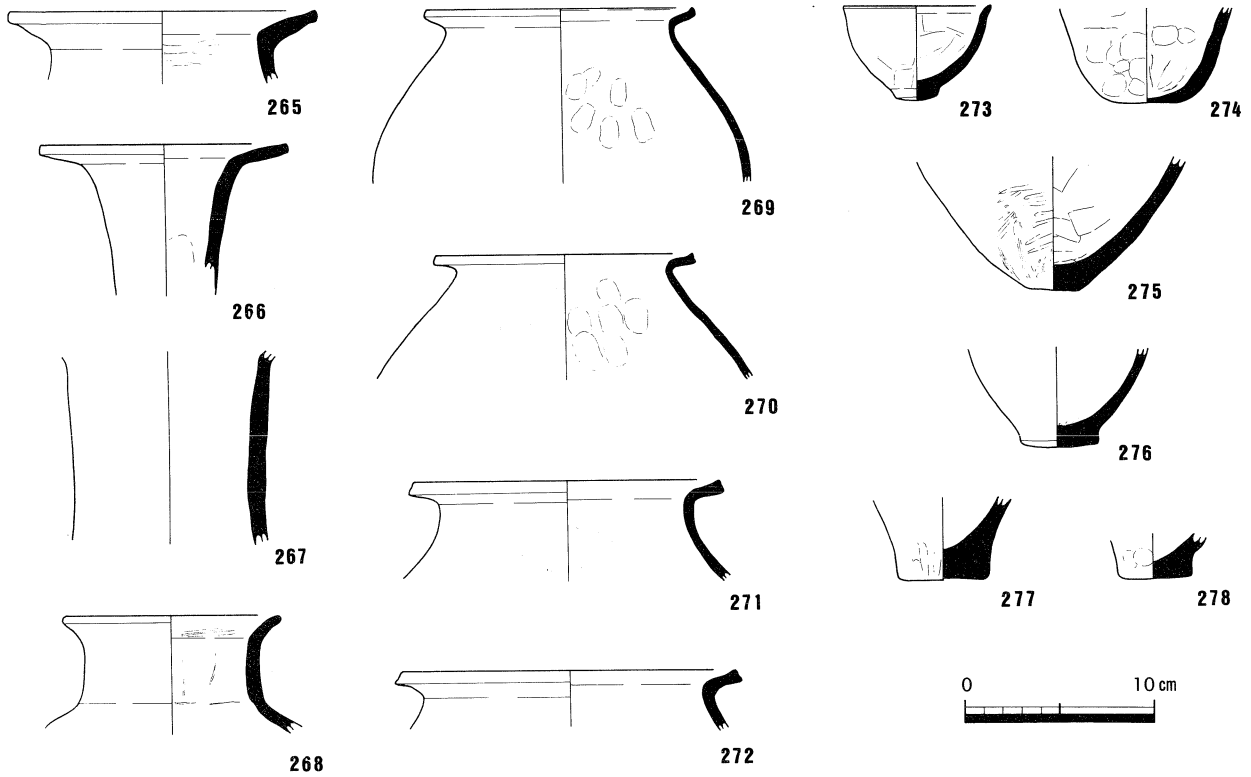


7・8区間断面(北向)

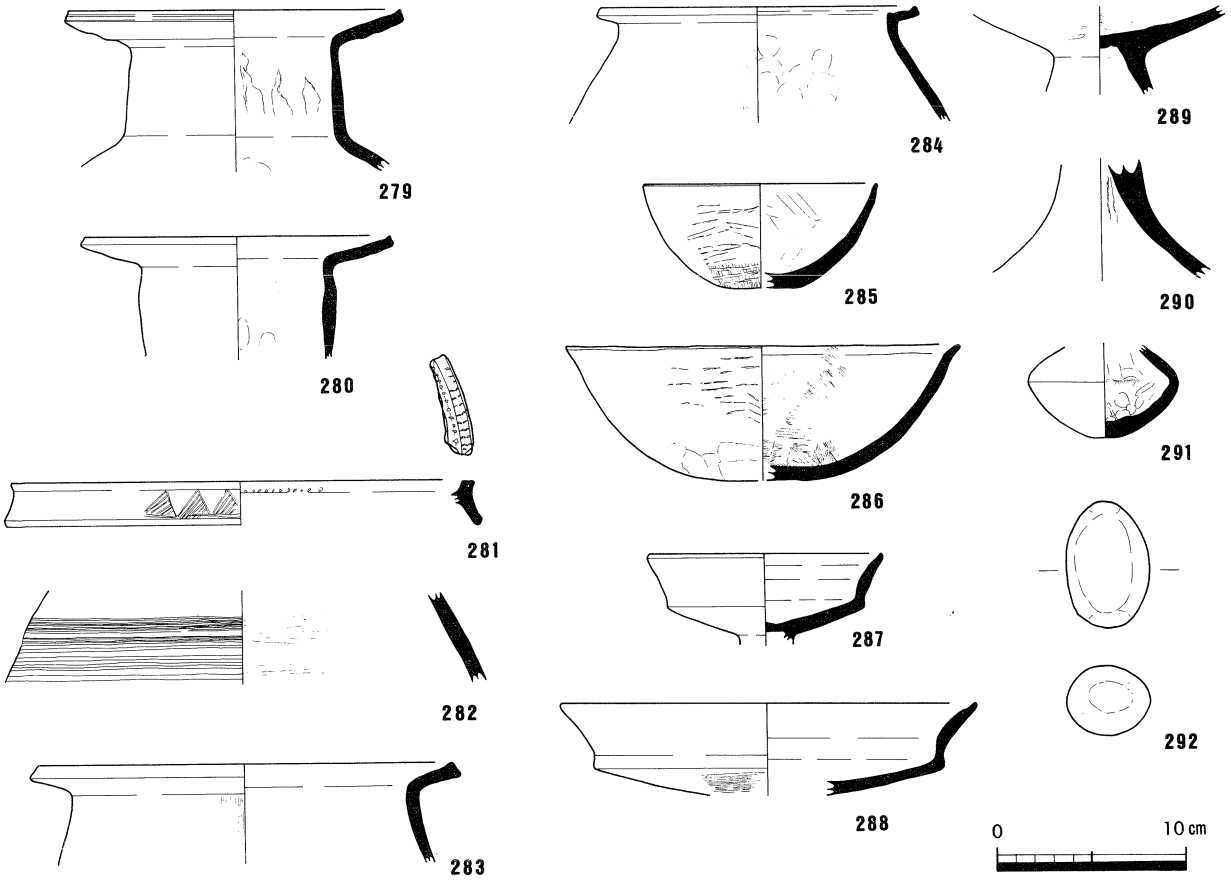
第48図　SD03断面図（縮尺1/40）



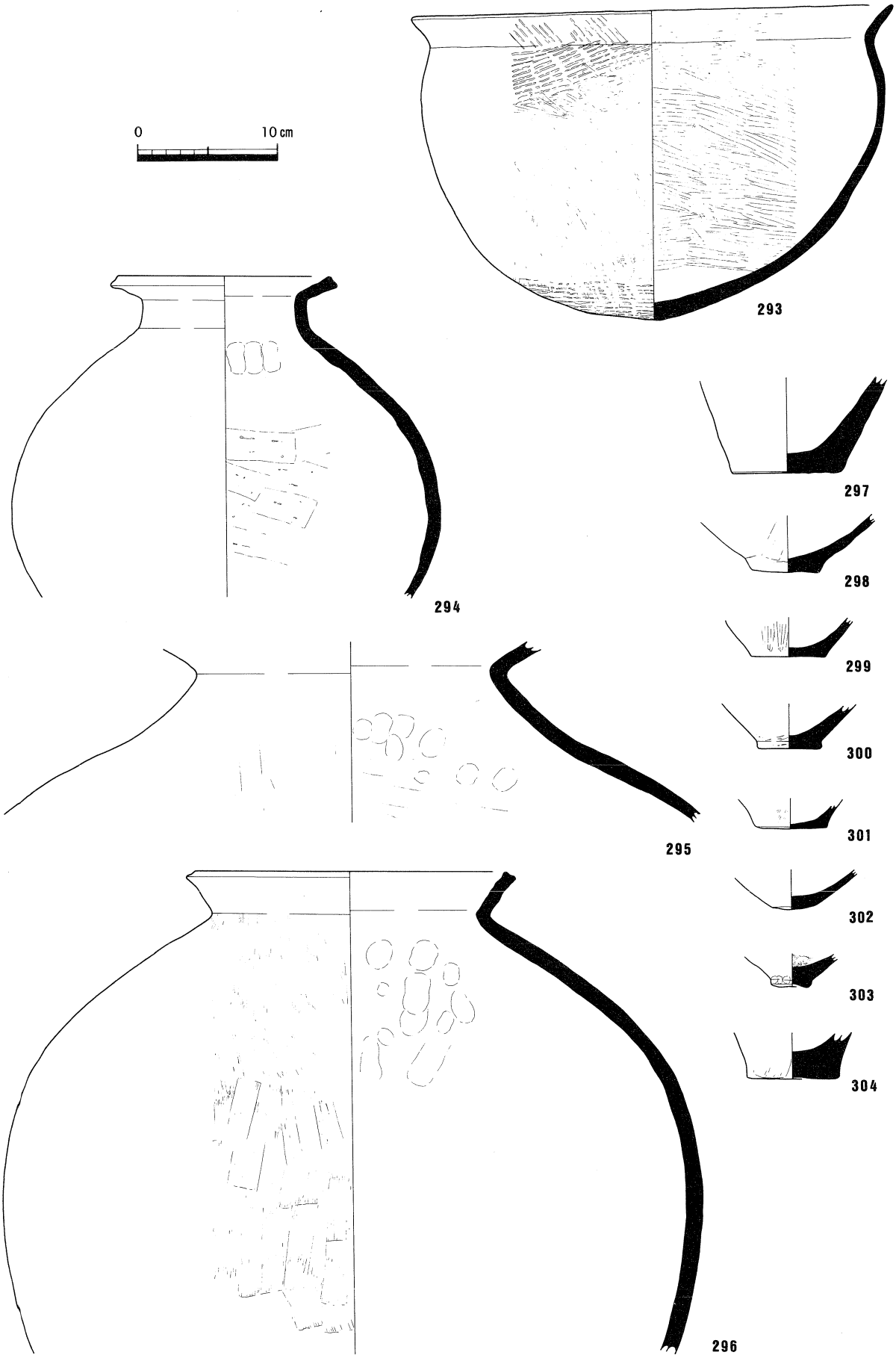
第49図　SD03－1区下層出土遺物実測図（縮尺1/4）



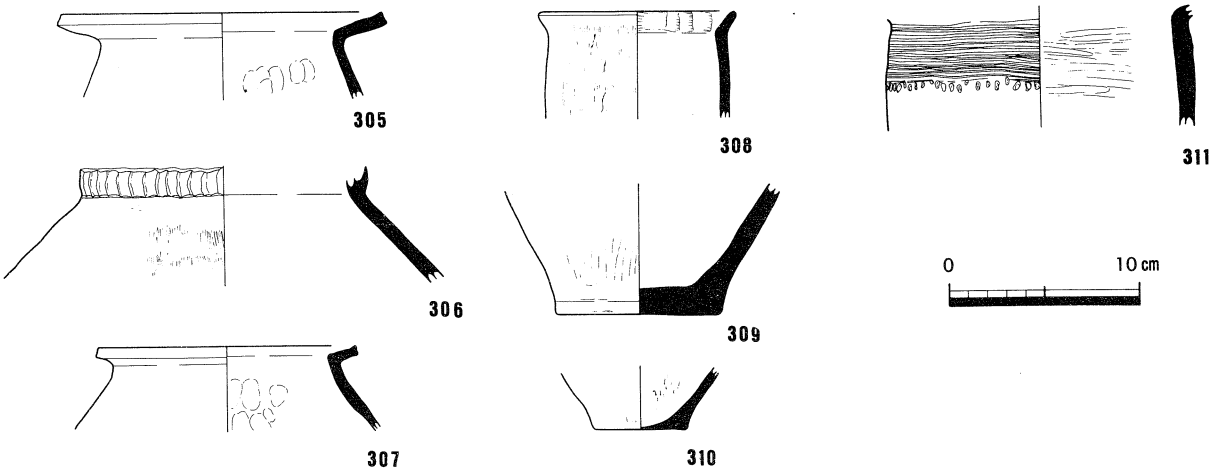
第50図　SD03－2区下層出土遺物実測図（縮尺1/4）



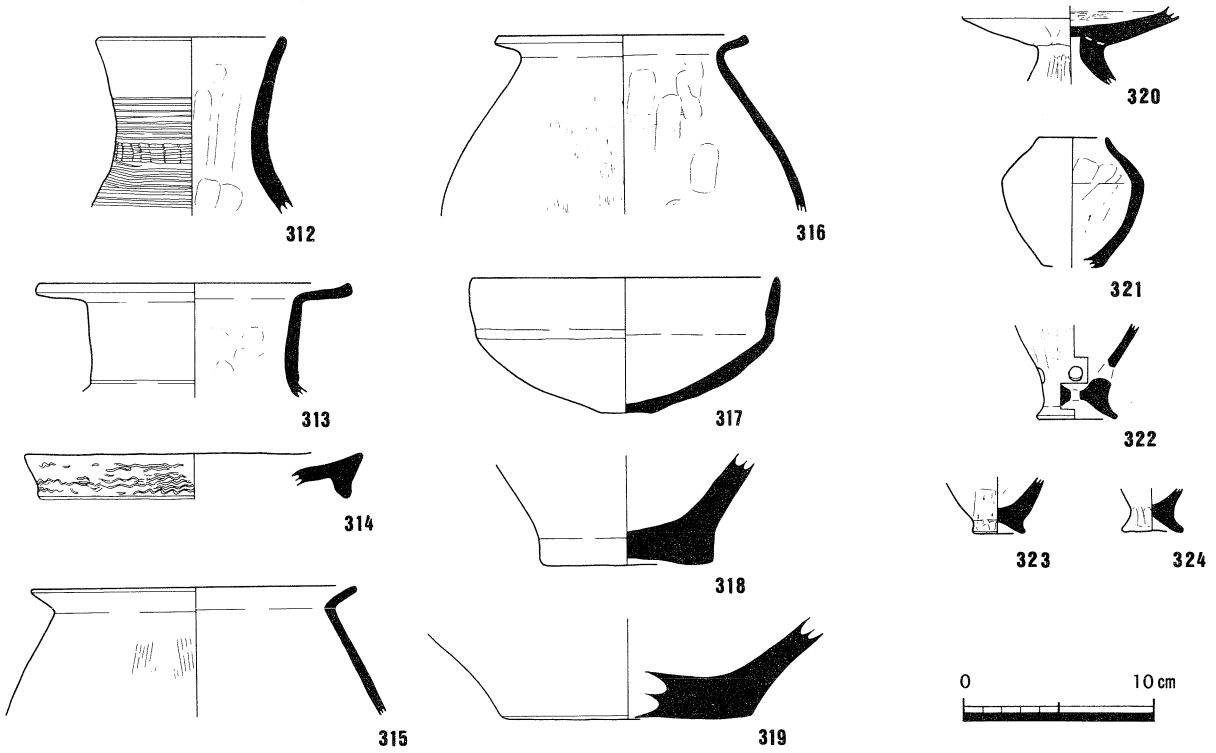
第51図　SD03－3区下層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



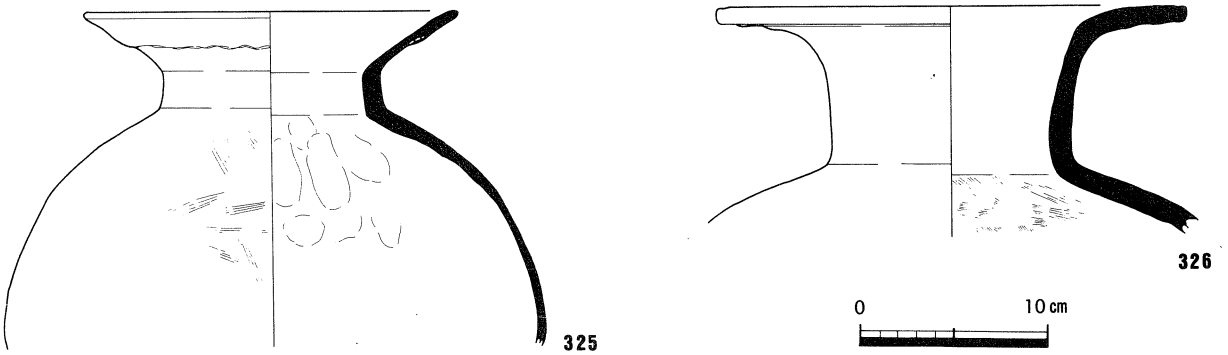
第52図　SD03－3区下層出土遺物実測図②（縮尺1/4）



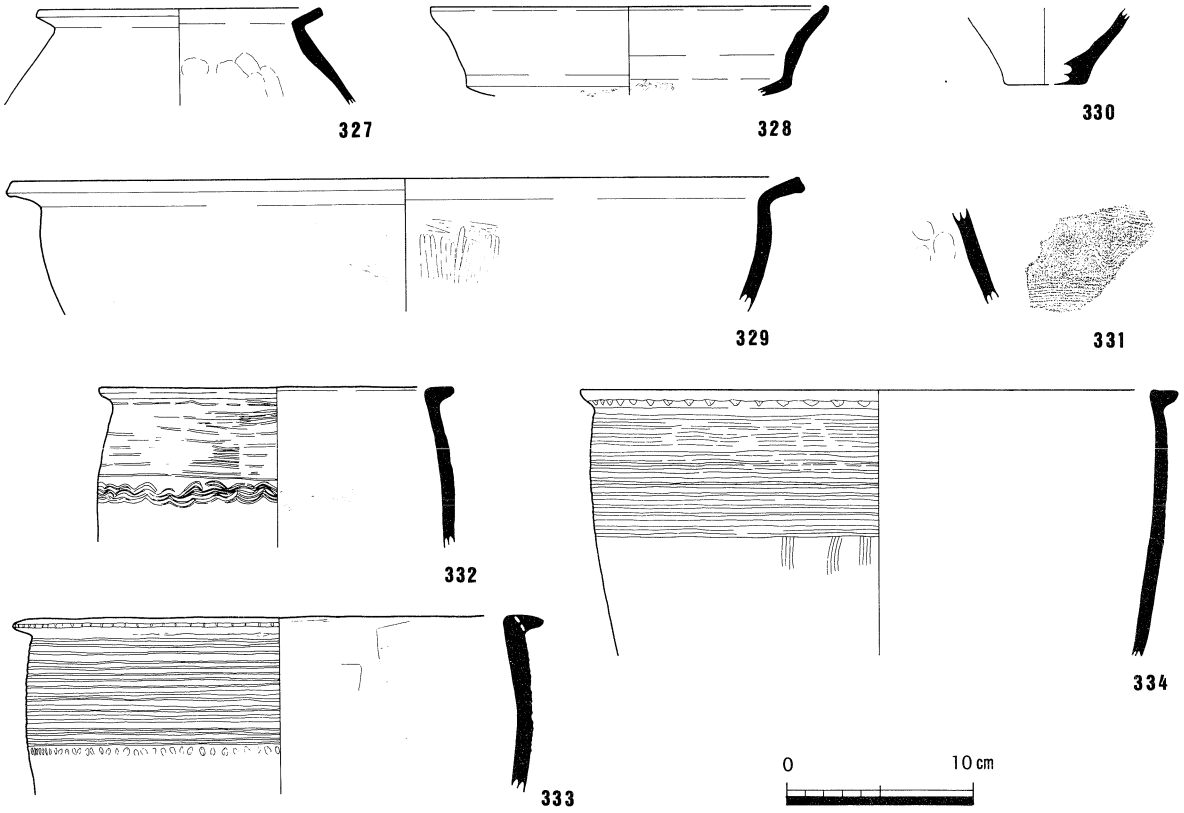
第53図　SD03－4区下層出土遺物実測図（縮尺1/4）



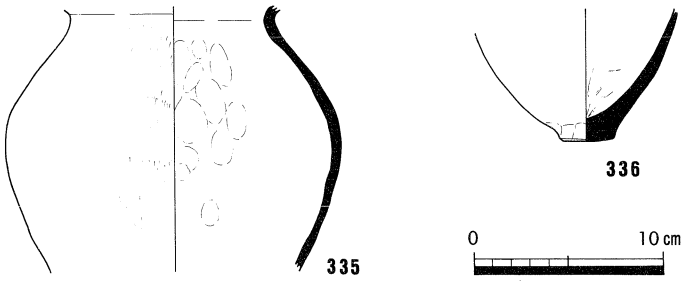
第54図　SD03－5区下層出土遺物実測図（縮尺1/4）



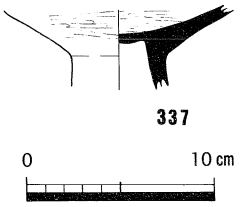
第55図　SD03－7・8区下層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



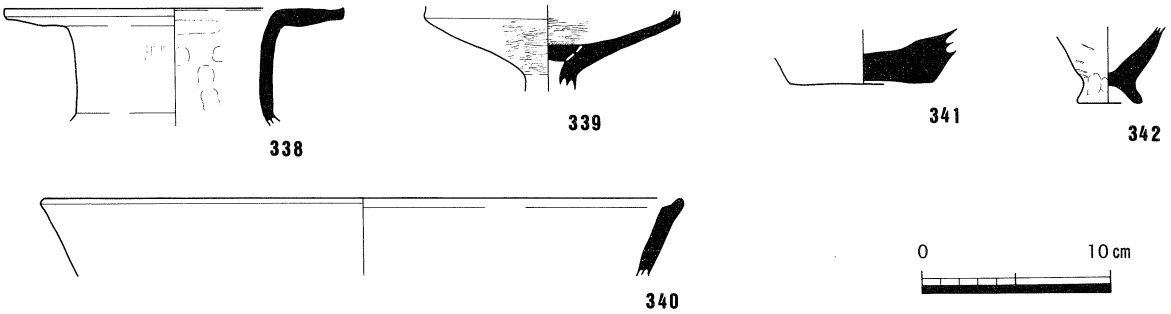
第56図　SD03－7・8区下層出土遺物実測図②（縮尺1/4）



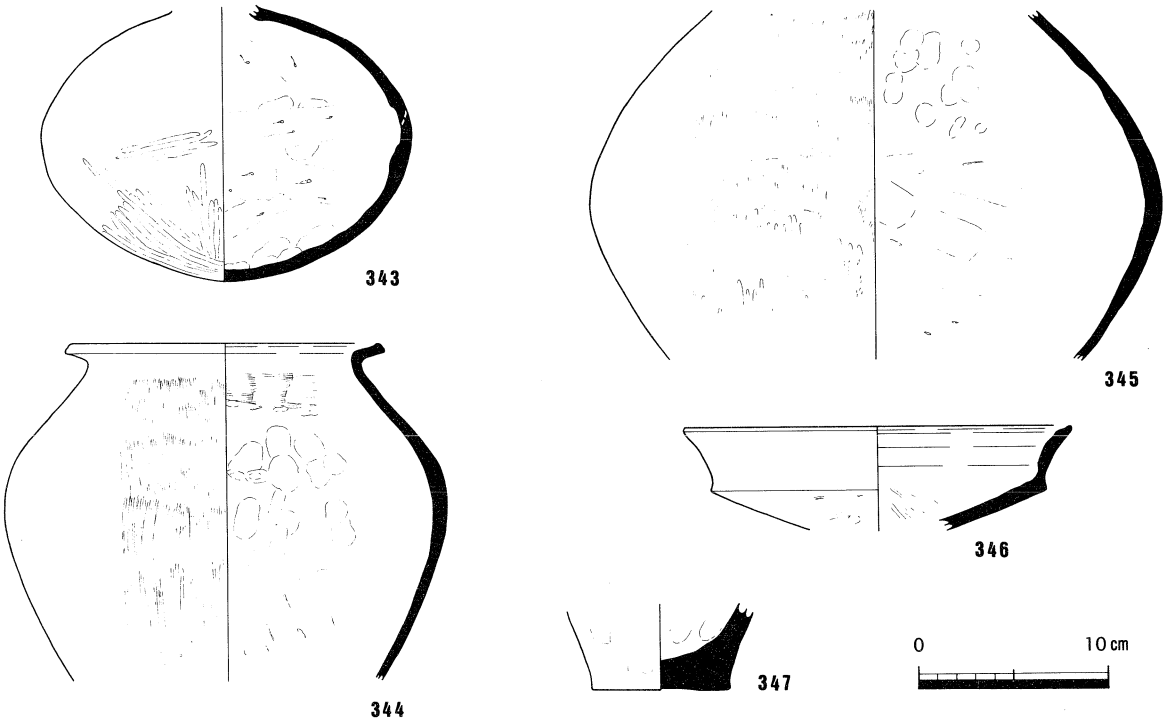
第57図　SD03－2区中層
出土遺物実測図（縮尺1/4）



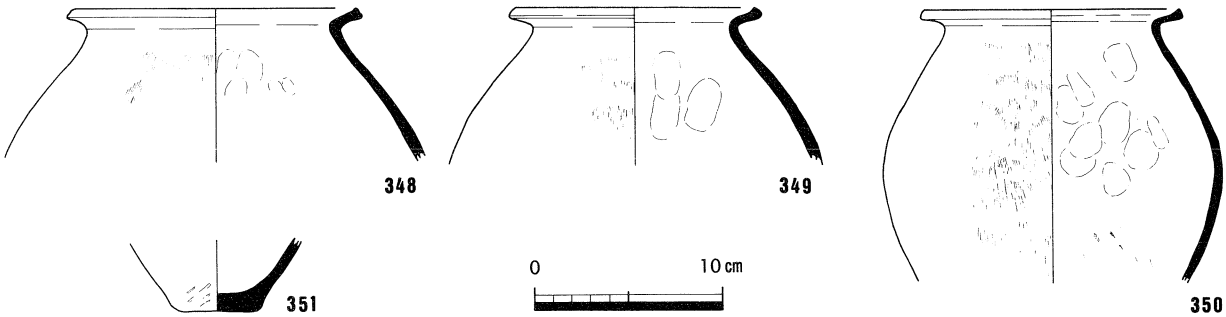
第58図　SD03－5区中層
出土遺物実測図（縮尺1/4）



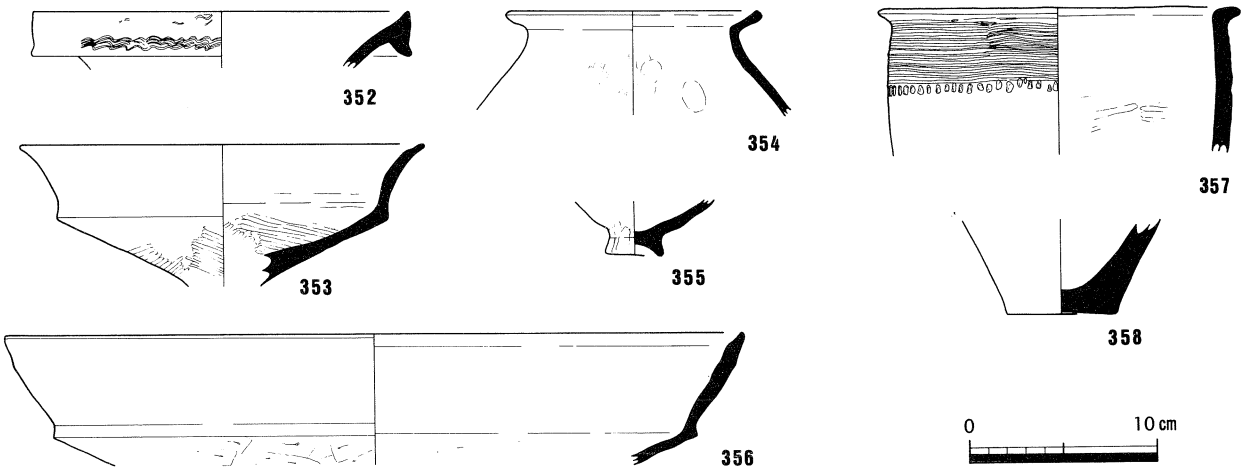
第59図　SD03－4区中層出土遺物実測図（縮尺1/4）



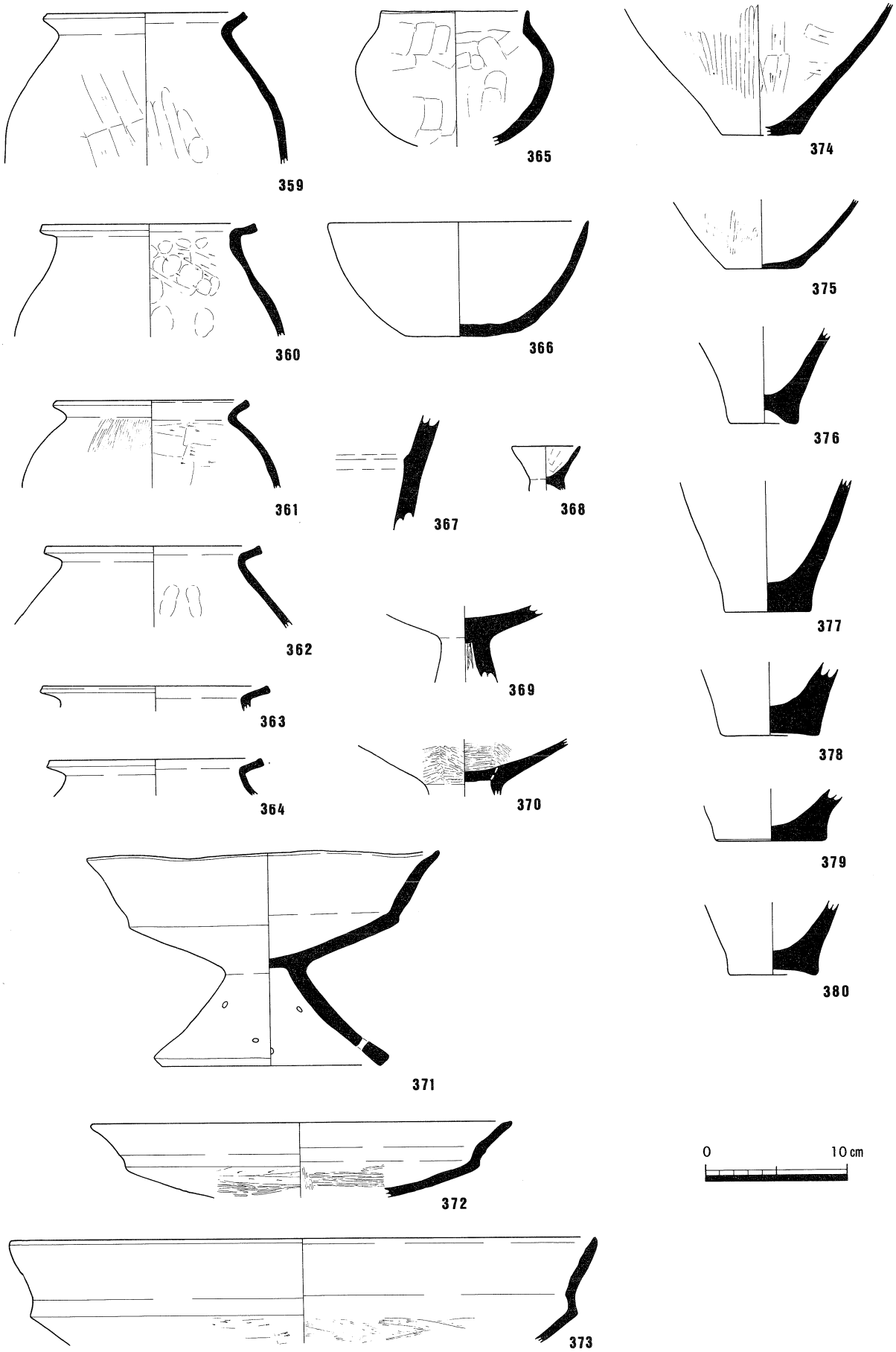
第60図　SD03－1区上層出土遺物実測図（縮尺1/4）



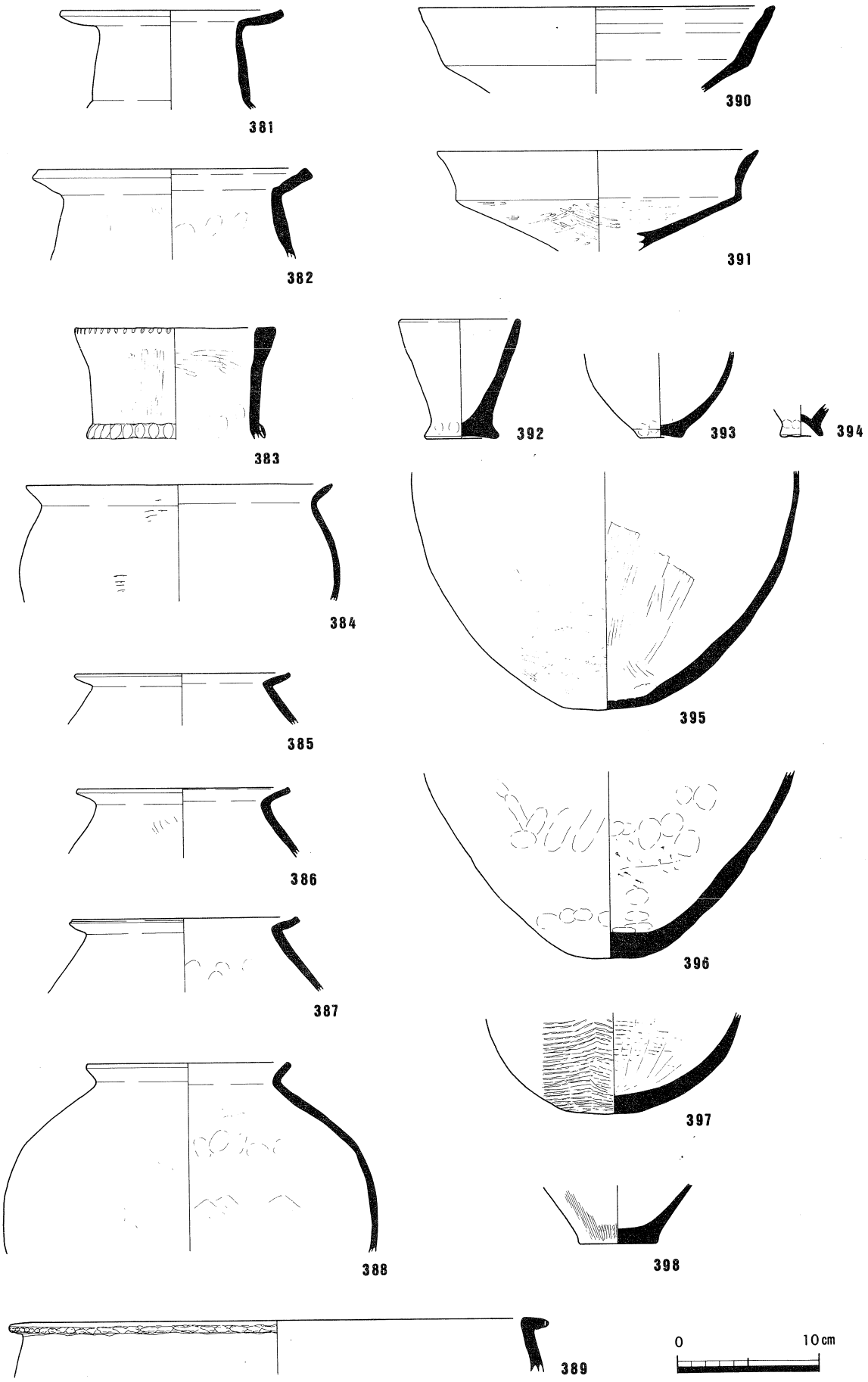
第61図　SD03－2区上層出土遺物実測図（縮尺1/4）



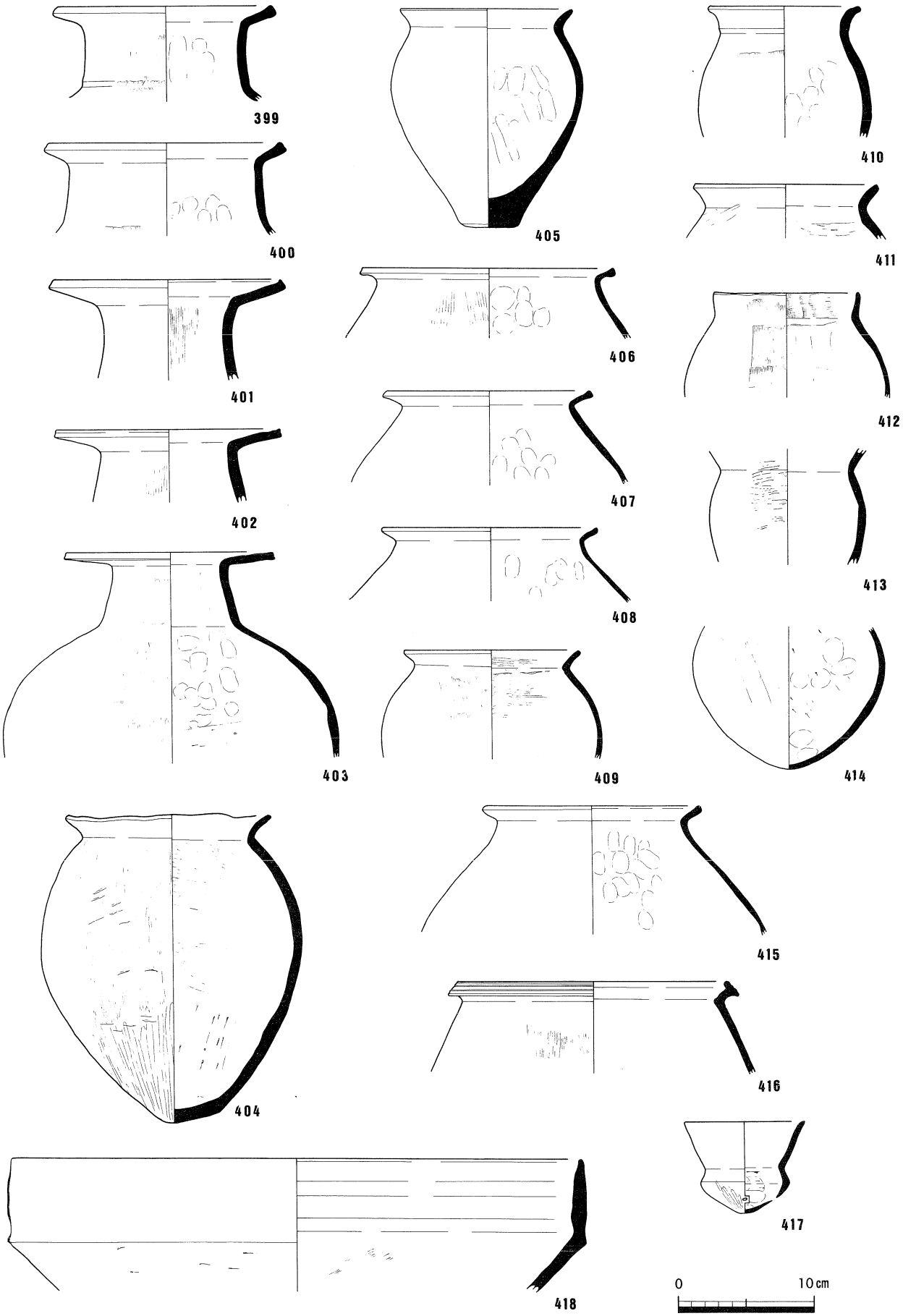
第62図　SD03－6区上層出土遺物実測図（縮尺1/4）



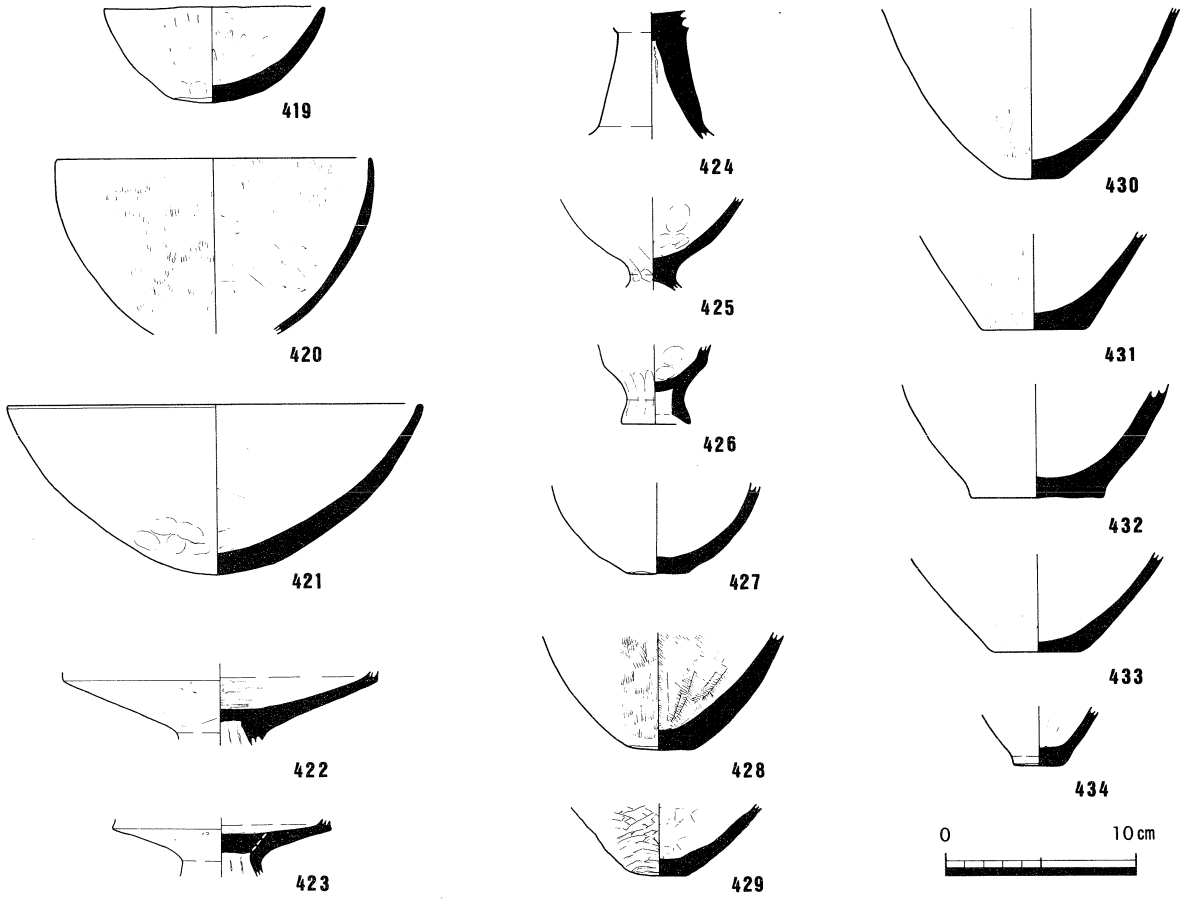
第63図　SD03－5区上層出土遺物実測図（縮尺1/4）



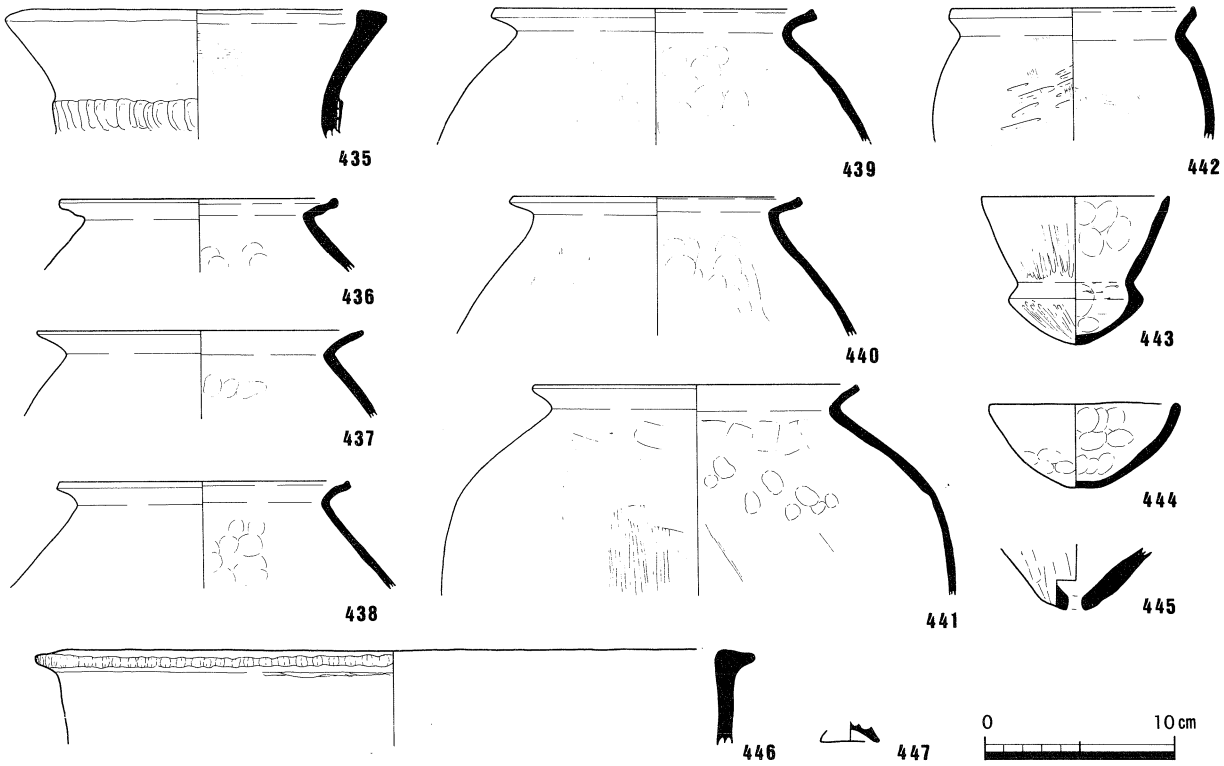
第64図　SD03－7区上層出土遺物実測図（縮尺1/4）



第65図　SD03－8区上層出土遺物実測図①（縮尺1/4）



第66図　SD03－8区上層出土遺物実測図②（縮尺1/4）



第67図　SD03－7・8区上層出土遺物実測図（縮尺1/4）

第５節　古墳時代後期後半～鎌倉・室町時代の遺構と遺物

古墳時代後期後半～鎌倉・室町時代と考えられる溝８条・集石(橋状遺構)１基をⅡ・Ⅲ区の小谷で検出した。小谷が埋没していく過程で，掘削および構築されたものである。谷底に掘削されたＳＤ03（弥生時代後期末～古墳時代前期初頭)が完全に埋没した後，小谷の堆積土層は大きく２つに分かれる(第４図）。上層は第Ⅰ・Ⅱ層，下層はⅢ・Ⅷ層である。遺構面は３面確認しており，第３面はＳＤ03埋没土の上面で掘削および構築されたＳＤ19・24・集石，第２面は第Ⅲ層上面に掘削されたＳＤ14～17・25，第１面は第Ⅰ・Ⅱ層上面に掘削されたＳＤ10・11である。

ＳＤ19（第７・70図）　第３面

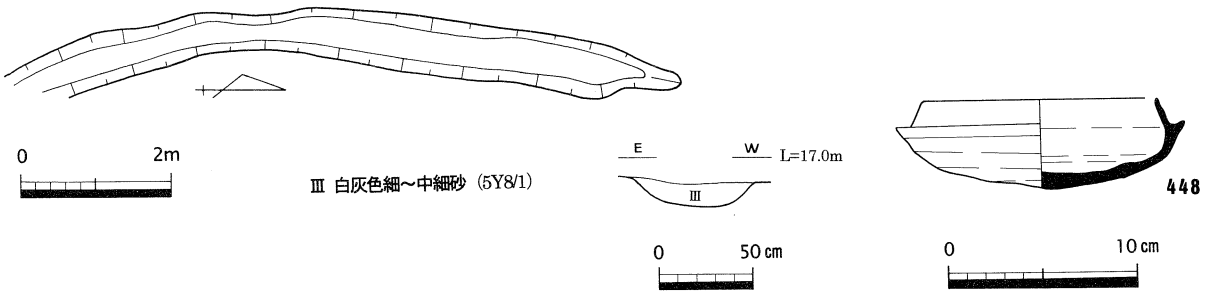
Ⅲ区北部で検出した幅約2.0～2.4ｍ，深さ約20cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約20ｍである。平面は地形に沿って緩やかな弧を描く。埋土上部にＳＤ16・17が掘削されている。ＳＤ03から出土した弥生土器小片の混入が認められるが，第Ⅲ層によって埋もれていることから，次項で報告するＳＤ24と同じ古墳時代後期後半の時期が考えられる。

ＳＤ24（第68図）　第３面

Ⅱ区ＳＤ03－3・4区で検出した幅約60～80cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約９ｍである。平面は緩やかな弧を描く。ＳＤ03の埋土を掘削しており(第48図ＳＤ03－3・4区間断面)，第Ⅲ層によって埋もれている。溝肩より出土した須恵器杯身(448)は田辺編年ＴＫ10(田辺昭三1981)に相当し，古墳時代後期後半の時期が考えられる。

集石（橋状遺構）（第６・69図）　第３面

Ⅱ区南東隅，ＳＤ03上面で検出した幅約2.2ｍ，高さ約10～20cmを測る集石で，調査区内で検出した



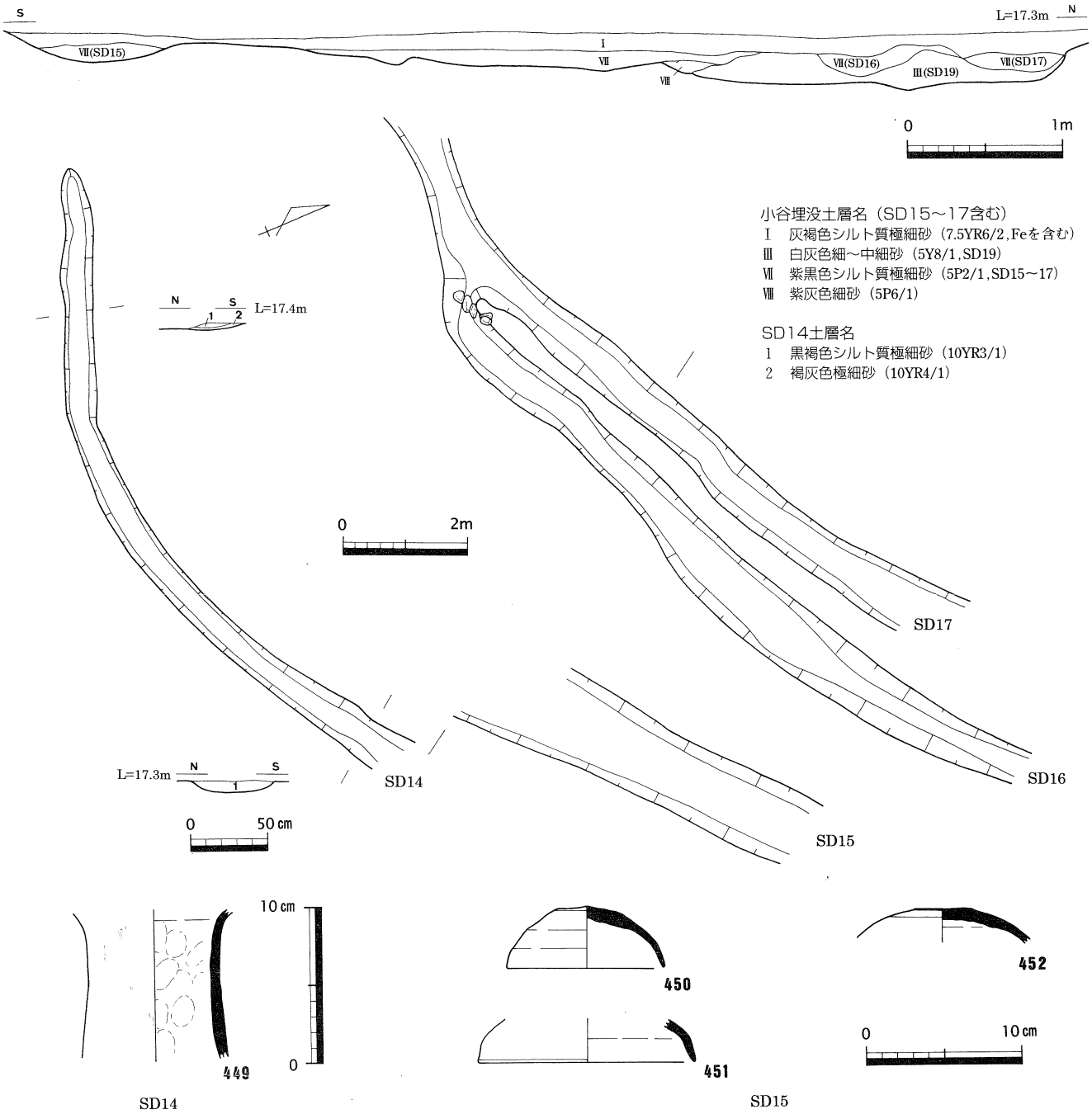
第68図　ＳＤ24平面・断面図（縮尺1/100,1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）

第69図　集石（橋状遺構）平面図（縮尺1/60）

長さは８ｍである。調査区外の東へさらに続いている。ＳＤ03埋土直上に，直径約10～30cmの川原石を置いており，第Ⅲ層によって覆われている(第48図ＳＤ03－5・6区間断面)。おそらく，北と南の微高地を行き来する際に，ＳＤ03埋土の締りが弱く通行しにくかったため，川原石を置いて橋としての機能をもたせたものと想定される。ＳＤ03より混入した弥生土器片を含むが，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭のＳＤ03が埋没した後に構築され，同じ第Ⅲ層によって覆われるＳＤ24が古墳時代後期後半であることから，ＳＤ24と同じ古墳時代後期後半に近い時期が考えられる。

ＳＤ14・25（第７・70図）　第２面

ＳＤ14は，Ⅲ区北部，微高地の縁辺で検出した幅約40～60cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，検出した長さは約12mである。平面は地形に沿って弧を描く。埋土は２層確認している。埋土から弥生



第70図　ＳＤ14～17平面・断面図（縮尺1/100,1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）

土器壷(449)が出土しているが，ＳＤ06・07を壊して掘削されていること，平面がＳＤ15～17と同じ曲線を描くことを考慮すると，ＳＤ15～17と同じ古墳時代後期末の時期を想定できる。

ＳＤ25は，ＳＤ14の北隣で検出した幅約40～50cmを測る溝で，検出した長さは約11mである。Ⅲ区調査終了間際に検出したため，詳細は不明である。ＳＤ14に隣接し，ＳＤ14同様に平面が地形に沿って弧を描くことから，同じ古墳時代後期末の時期と考えられる。

ＳＤ15（第70図）　第２面

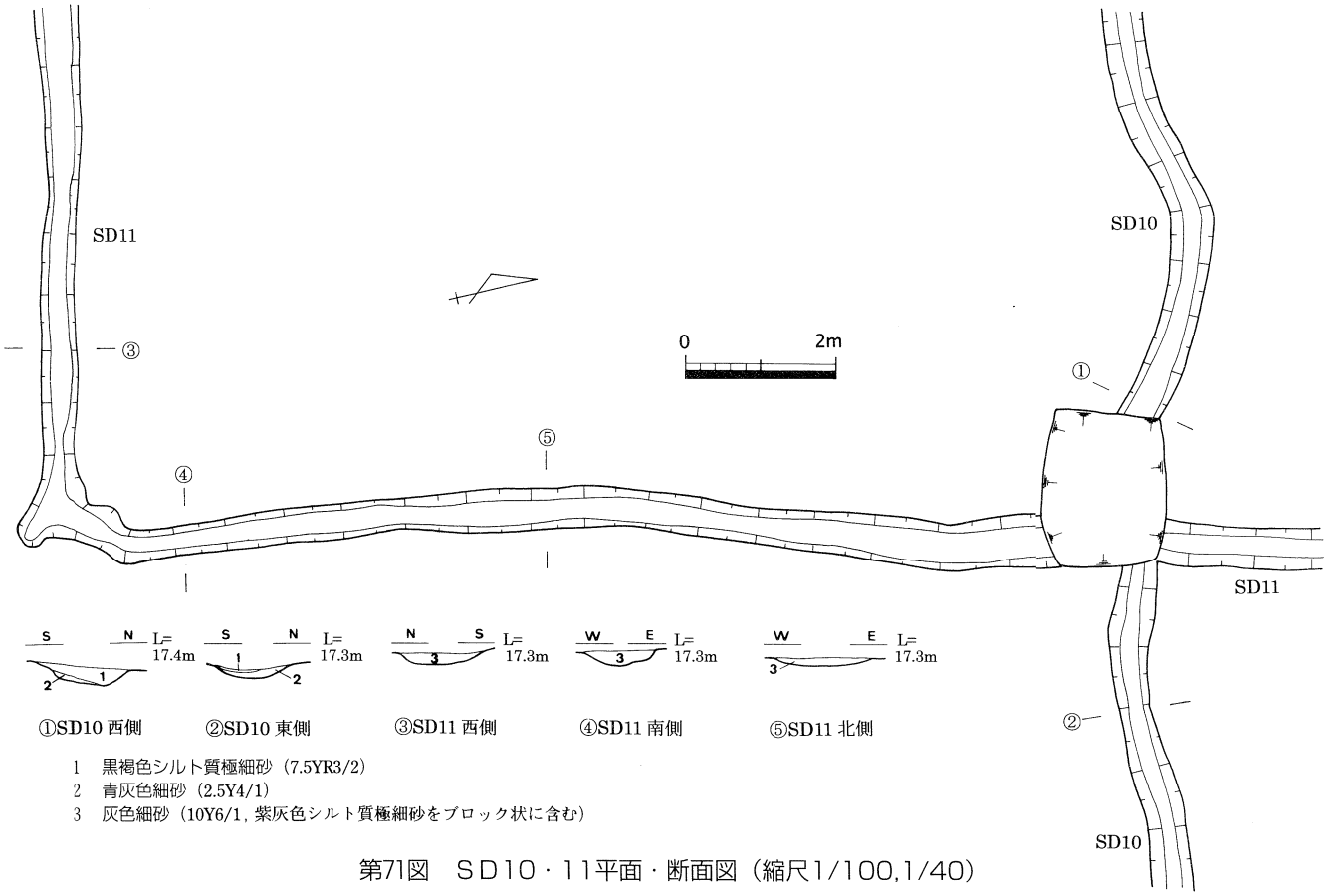
Ⅲ区北部で検出した幅1.2m，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約６ｍである。埋土は，第Ⅶ層である。埋土から出土した須恵器杯蓋(450～452)は田辺編年ＴＫ217(田辺昭三1981)に相当し，古墳時代後期末の時期が考えられる。

ＳＤ16・17（第70図）　第２面

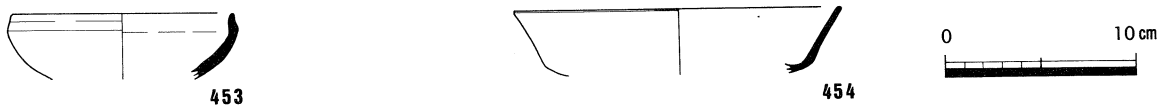
Ⅲ区北部，小谷埋没土第Ⅲ層上面で検出した幅約0.6～1.0m，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，検出した長さは両溝とも約12mである。ＳＤ16は，ＳＤ17に合流するが，合流地点には直径約10～20cmの川原石を堰状に並べている。出土遺物には弥生土器小片が見られるが，第Ⅲ層を掘削していること，埋土はＳＤ15と同じ第Ⅶ層であることから，古墳時代後期末の時期が考えられる。

ＳＤ10（第71図）　第１面

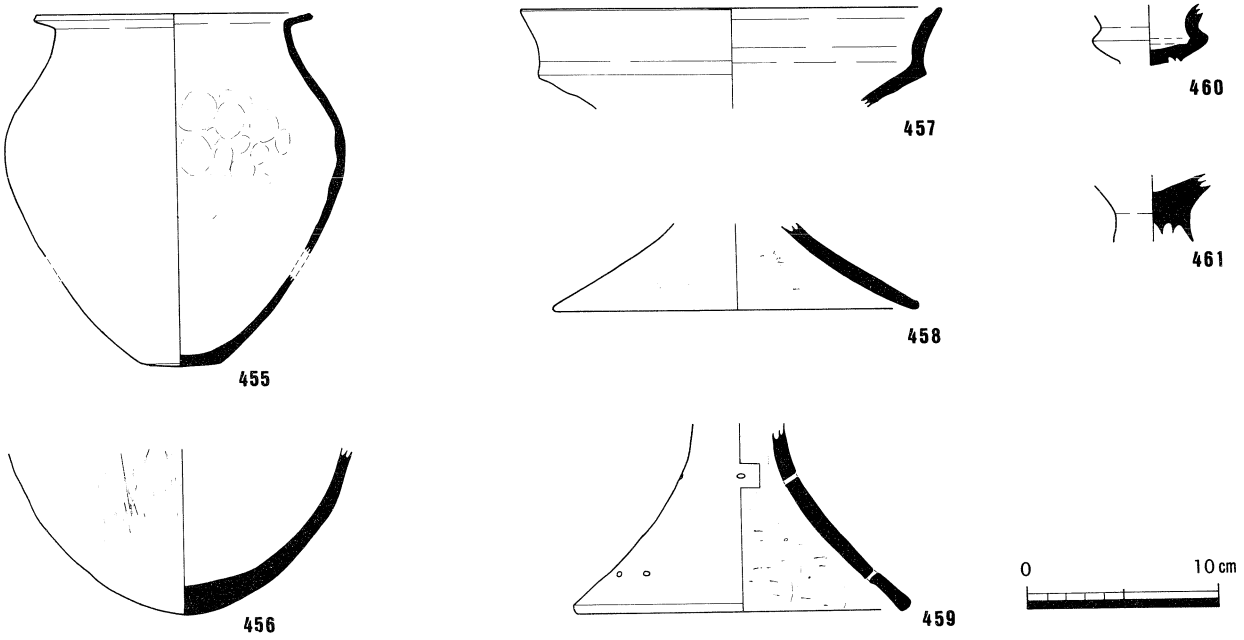
Ⅲ区北部で検出した幅約50cm，深さ約10cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約12ｍである。小谷埋没土第Ⅰ層上面で検出した。平面は蛇行しながらも，方位はN81°Ｗと調査区周辺に残る条里地割とほぼ一致する。ＳＤ11とほぼ直角に交差しているが，交差部分が後世の撹乱によって壊されており，前後関係は不明である。第Ⅰ層から出土した須恵器(第72図453・454)が古墳時代後期末と平安時代に属するものであること，条里地割と方位を同じくすることを考慮すると，鎌倉・室町時代を中心とする時期が考えられる。



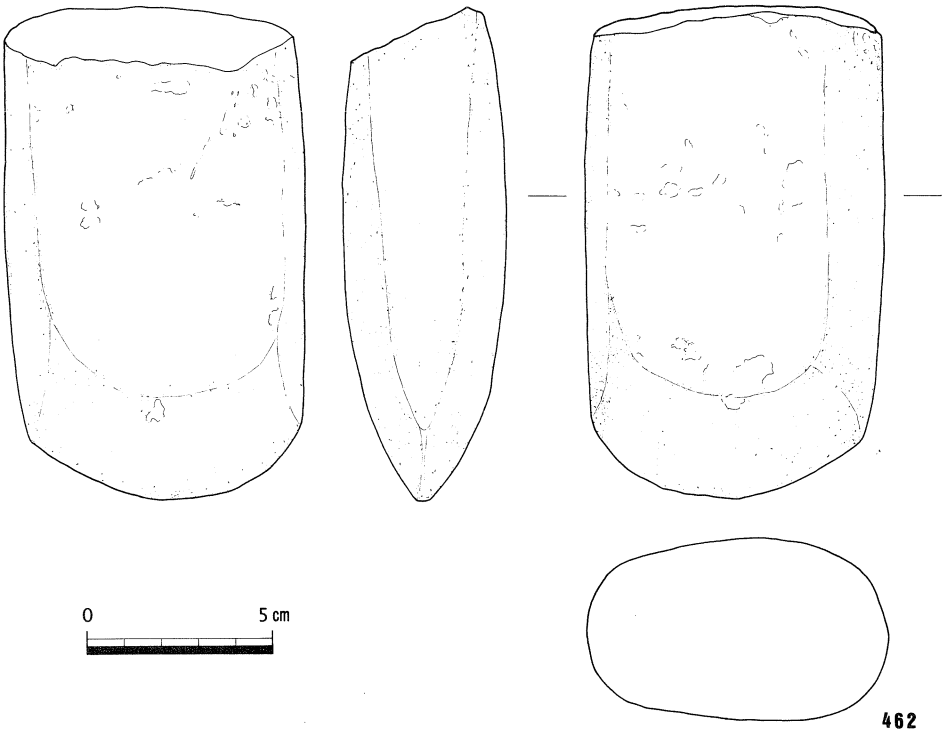
第71図　ＳＤ10・11平面・断面図（縮尺1/100,1/40）



第72図　小谷埋没土（第Ⅰ層）出土遺物実測図（縮尺1/4）



第73図　小谷埋没土（第Ⅱ層，SD03直上）出土遺物実測図①（縮尺1/4）

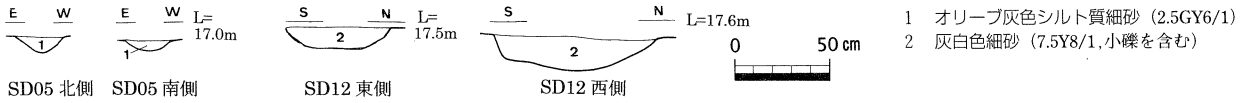


第74図　小谷埋没土（第Ⅱ層，SD03直上）出土遺物実測図②（縮尺1/2）

第６節　江戸時代の遺構と遺物

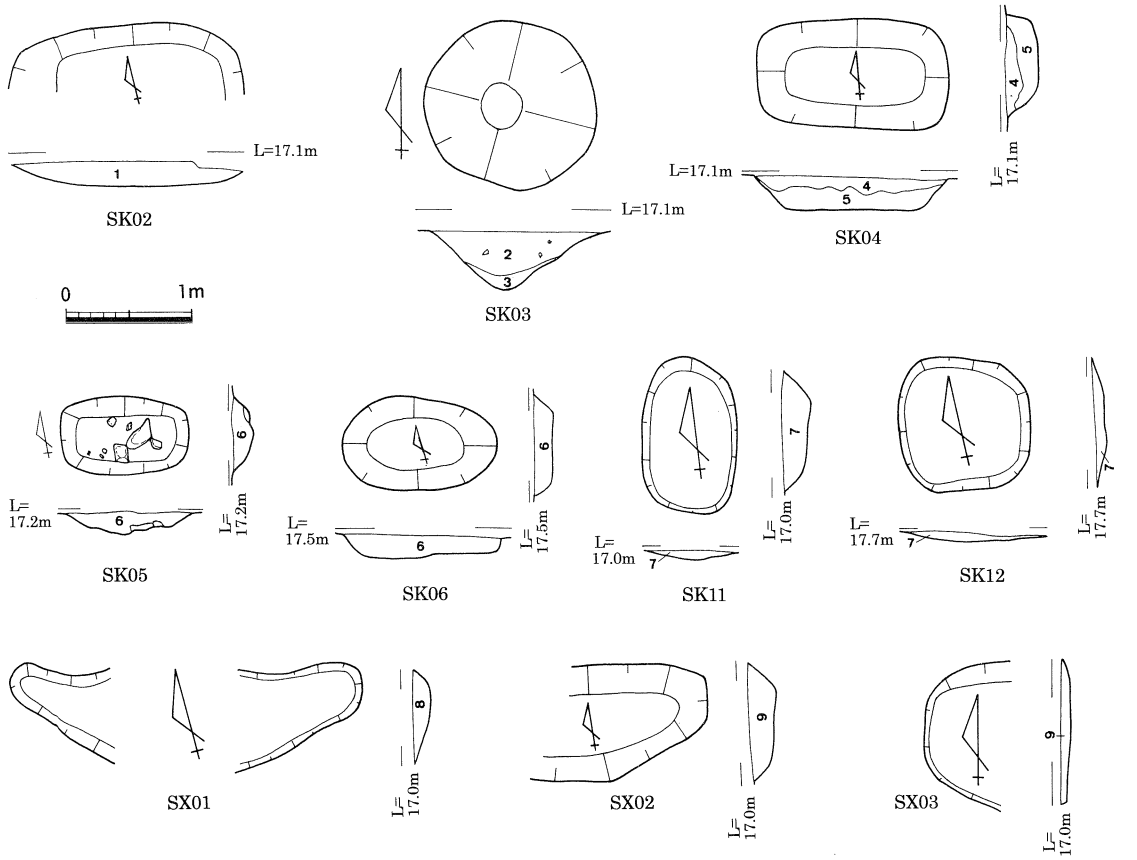
江戸時代と考えられる溝３条・土坑７基・不明遺構３基を，調査区全域で確認した。これら遺構は主に灰色細砂を埋土としているが，この埋土は高松平野で通例見られるもので，堆積してからの年月が短いため褐色や黒色のシルト質極細砂になるまで土壌化が進んでいない。江戸時代の陶磁器片を出土する場合が多く，凹原遺跡でもＳＫ05からいぶし瓦片が出土している。以上のことから，混入と考えられる弥生土器小片を含む遺構もあるが，灰色細砂およびこれに類するものを埋土とする遺構は江戸時代を中心とする時期のものとして扱った。第71図ＳＤ11，第75・76図掲載の遺構が該当する。紙面の都合上，代表的なＳＤ12のみ詳細を報告し，他は図面のみの報告とする。

ＳＤ12は，Ⅲ区南端で東西方向にのびる溝である。隣接するＳＤ13を一部壊しており，ＳＤ13埋没後に再掘削する目的でＳＤ12を掘削したものである。ＳＤ12はやや蛇行するものの，ＳＤ13と合わせて考えると方位はＮ81°Ｗである。この方位は，調査区周辺に残る条里地割と同じである。Ⅲ・Ⅳ区の間には現有水路があり，条里呼称に従えば，この水路は香川郡１条15里４坪と９坪の坪界線に相当する。以上のことから，ＳＤ12・13は条里の坪界線として設定されたものであり，長い年月の間に坪界線が微妙にずれていき，今も現有水路がその役割を担っているものと考えられる。



1　オリーブ灰色シルト質細砂（2.5GY6/1）
2　灰白色細砂（7.5Y8/1，小礫を含む）

第75図　SD05・12断面図（縮尺1/40）



1　灰白色細砂（5Y7/1，Feを含む）
2　灰色細砂（5Y6/1）
3　灰色シルト質極細砂（5Y7/1）
4　灰色細砂（10Y5/1，Feを多く含む）
5　灰色細砂（10Y5/1）
6　灰白色細砂（5Y8/1）
7　灰白色細砂（2.5Y8/1）
8　黄灰色シルト質極細砂（2.5Y6/1）
9　灰色シルト質極細砂（5Y5/1，Feを含む）

第76図　SK02～06・11・12．SX01～03平面・断面図（縮尺1/60）

第７節　その他の遺構と遺物

時期不明の遺構として柵列７列・溝５条・土坑16基・不明遺構１基を，調査区全域で確認した。中には弥生土器小片を含むものもあるが，これら時期不明の遺構が弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の遺構を壊している場合もあることから，弥生土器小片は混入したものと考えられる。ただし，混入であるか否か判断し難い事例もあり，判断し難い遺構は本節で扱った。なお，紙面の都合上，代表的な遺構のみ詳細を報告し，他は図面のみの報告とする。

ＳＡ01（第77図）

Ｉ区北端，ＳＨ01に隣接して検出した柵列である。直径40～50cm，深さ約20cmの円形柱穴を４基並べ，柱穴の中心間距離は約90cmを測る。他の柵列に比べ柱穴の規模が大きく，他遺跡の事例から推測すると，弥生時代～平安時代の時期幅が考えられる。

ＳＡ02～07（第７・77図）

Ⅱ区中央で柵列ＳＡ02～05，Ⅲ区北西隅で柵列ＳＡ06・07を検出した。調査区は違うが，同じ北微高地上に立地する。平面で分類すると，柱穴の並びが直線的なもの（ＳＡ05・06），ゆるやかに弧を描くもの（ＳＡ02・03），大きく弧を描くもの（ＳＡ04・07）に分けられる。一方，柱穴の規模で分類すると，直径が約20～30cmのもの（ＳＡ02・03・05・07），約20～30cmのもの（ＳＡ04・07）に分けられる。弧を描きながら柱穴が並ぶ柵列は一般的でないことから注目でき，さらにＳＡ03は１列５基の柱穴が２列に並んでいる珍しい事例である。ＳＡ03が２列の原因については，当初から２列だったのか，建替えを行ったのかは不明である。

ＳＤ13（第７・78図）

Ⅲ区南端で検出した幅約1.0～1.2m，深さ約30cmを測る断面Ｕ字形の溝で，調査区内で検出した長さは約17mを測る。調査区周辺に残る条里地割と同じＮ81°Ｗの方位をもって東西方向にのびる。隣接するＳＤ12により北肩を一部壊され，交差するＳＤ07・09の上部を壊している。54頁ＳＤ12の項で報告したとおり，ＳＤ13は香川郡１条15里４坪と９坪の坪界線に相当し，条里の坪界線として掘削されたものである。３層ある埋土のうち第２・３層が灰白色細砂と土壌化が進んでないこと，江戸時代と推定されるＳＤ12より古いことを考えると，鎌倉～室町時代の時期幅が考えられる。

ＳＤ08・20・22・23（第６・７・78図）

ＳＤ08はⅡ区北部で検出した溝で，ＳＨ02の周溝を一部壊して掘削されている。ＳＤ20は，Ⅳ区北西隅で検出した溝で，西端は調査区外にのびる。ＳＤ22はⅣ区中央で検出した溝で，ＳＨ12と重なっているが前後関係は不明である。ＳＤ23はⅣ区中央北寄りで検出した溝で，ＳＤ21と交差しているが，前後関係は不明である。

ＳＫ01・07～09・13～24（第79図）

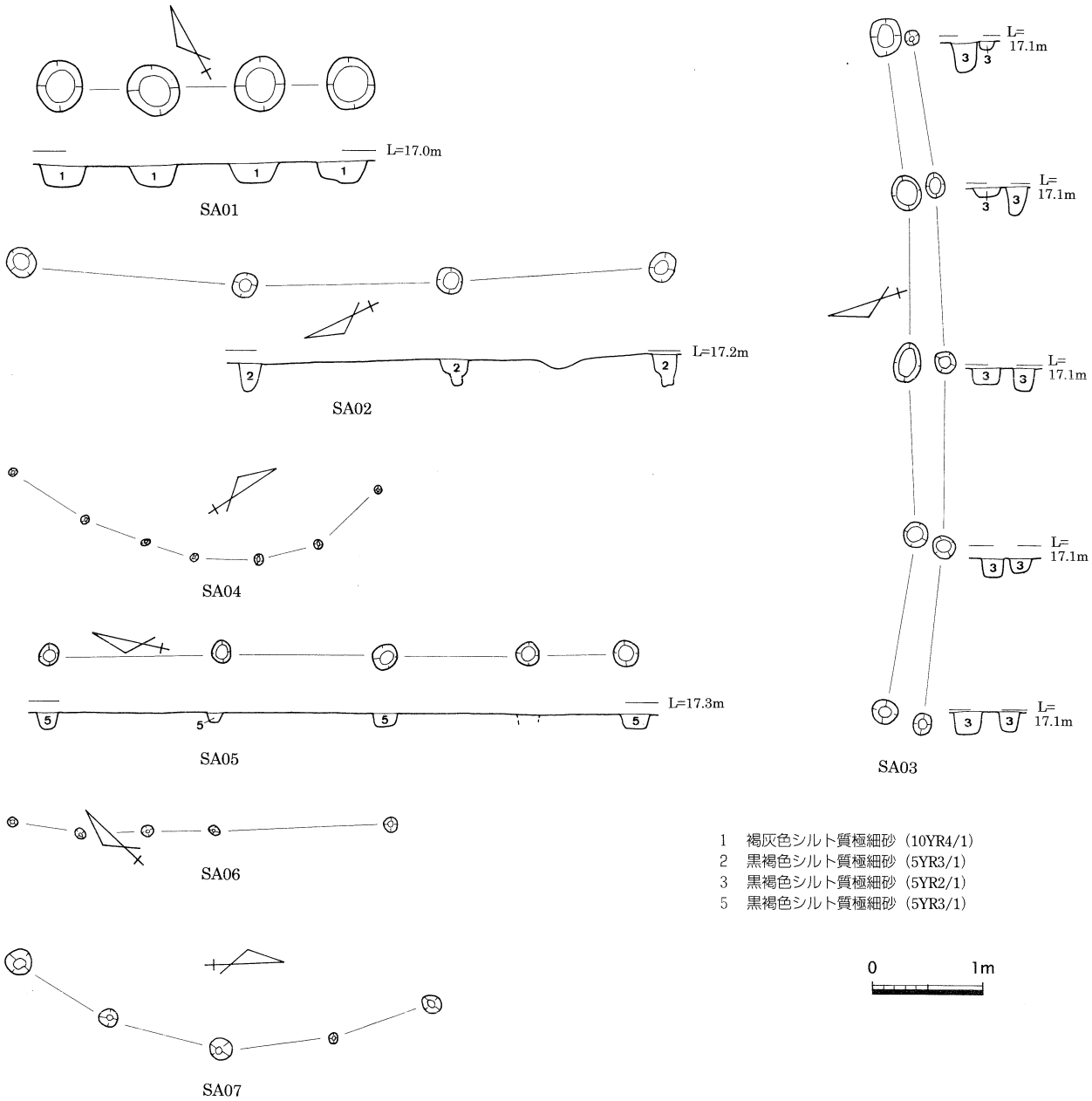
Ｉ区中央で検出した土坑ＳＫ01を除いて，ＳＫ07～09・13～24の土坑15基はすべてⅣ区中央に集中している。形態・規模により分けると，平面が長方形のもの（ＳＫ07～09・16～18・21），円形および不整な円形のもの（ＳＫ01・13～15・23），１m未満の小型のもの（ＳＫ19・20・22），不明なもの（ＳＫ24）に分類できる。

平面が長方形のものは，もっとも小規模のＳＫ17を除いて，南北または東西に方位を振っており規格性が認められる。0.8m×1.1m以上のＳＫ17を最小に，1.1×3.3mのＳＫ09や1.8×2.8mのＳＫ07といった大きな規模をもつものがある。土壙墓の可能性も考えられるが，断定はできない。

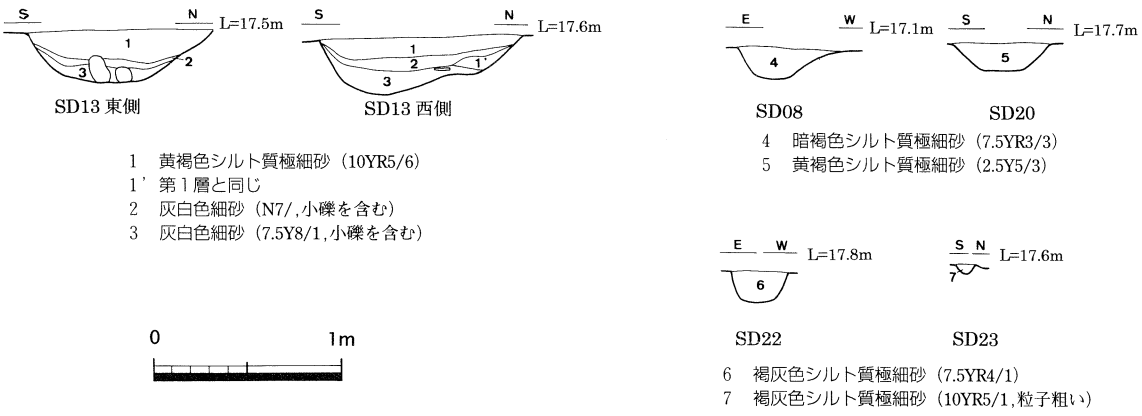
平面が円形のものは，深さ約10～20cmのものが大部分であるが，ＳＫ23のみが深さ約70cmを測る。

ＳＸ07（第79図）

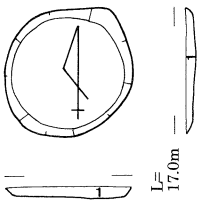
Ⅳ区中央東端で検出した南北約5.3m，東西約1.0mを測る不明遺構である。遺構の大部分が調査区外に及ぶため，詳細は不明である。おそらく隅丸方形の竪穴住居である可能性が高いと考えられるが，後世の削平により深さ約20cmしか残ってなく，埋土も１層しか確認できなかったため不明遺構に分類した。



第77図　SA01～07平面・断面図（縮尺1/60）

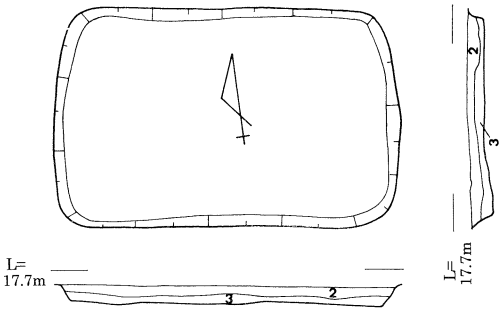


第78図　SD08・13・20・22・23平面・断面図（縮尺1/40）

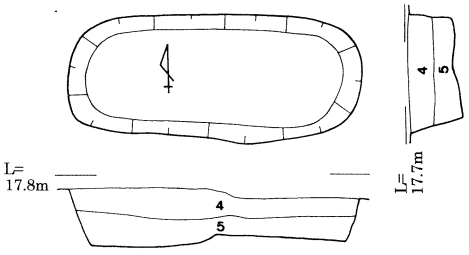


1　黒褐色シルト質極細砂
(10YR5/1)

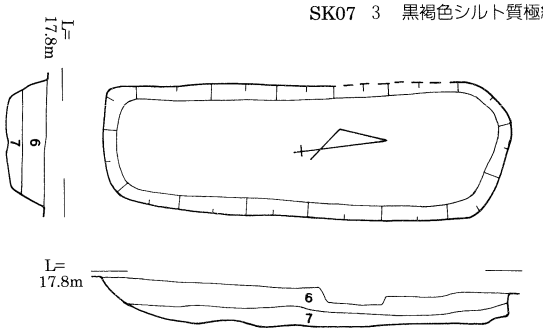
SK01



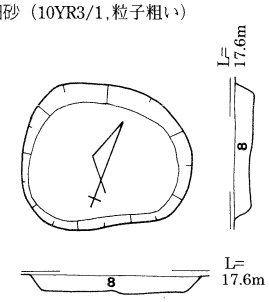
2　褐色シルト質極細砂（7.5YR4/3，粒子粗い）
SK07　3　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1，粒子粗い）



SK08　4　褐色シルト質極細砂（7.5YR4/3）
5　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）

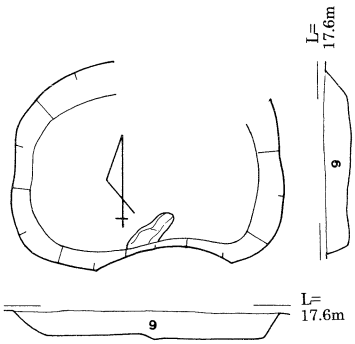


6　暗褐色シルト質極細砂（7.5YR3/3）
SK09　7　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）



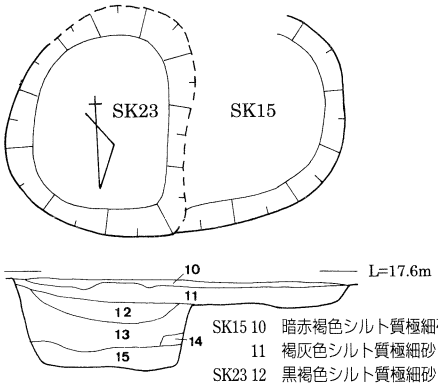
8　暗褐色シルト質極細砂
(7.5YR3/4，粒子粗い)

SK13



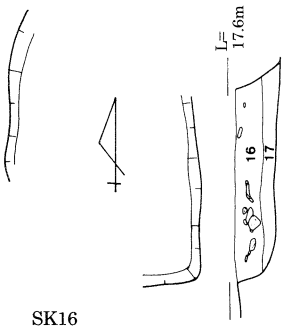
9　褐色シルト質極細砂（7.5YR4/6）

SK14



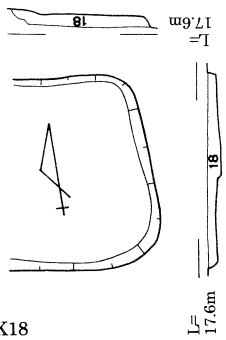
SK15・23

SK15 10　暗赤褐色シルト質極細砂（5YR3/2）
11　褐灰色シルト質極細砂（10YR4/1）
SK23 12　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1）
13　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1，粘り有）
14　地山塊のブロック
15　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1）



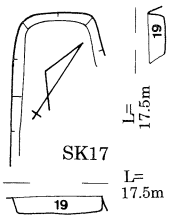
SK16

16　暗褐色シルト質極細砂（7.5YR3/3）
17　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/1）



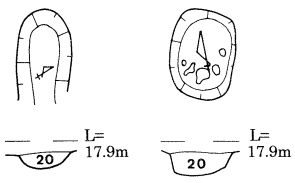
SK18

18　褐灰色シルト質極細砂（7.5YR4/1）



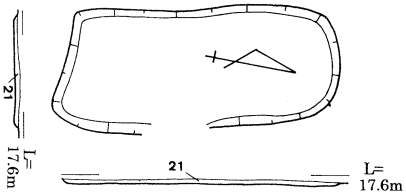
SK17

19　黒褐色シルト質極細砂
(10YR3/2，粒子粗い)



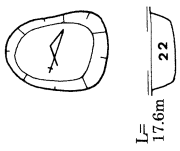
SK19　SK20

20　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/2）



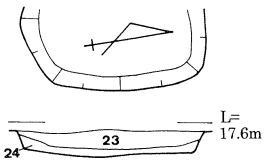
SK21

21　黒褐色シルト質極細砂（7.5YR3/2）

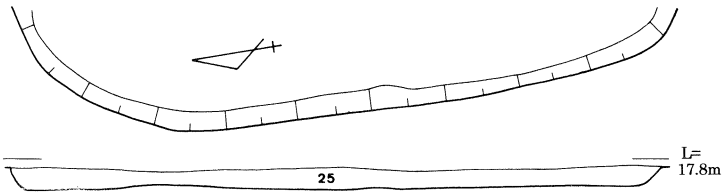


22　暗褐色シルト質極細砂
(7.5YR3/3)

SK22



SK24
23　褐色シルト質極細砂（10YR4/4）
24　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1）



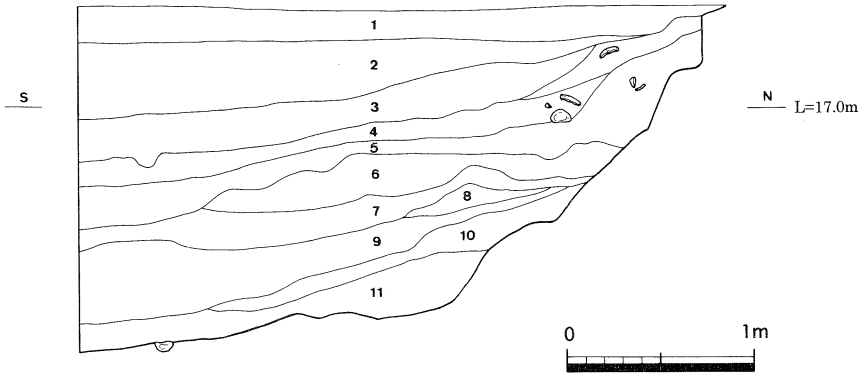
SX07　25　黒褐色シルト質極細砂（10YR3/1，粘り有）

第79図　SK01・07～09・13～24，SX07平面・断面図（縮尺1/60）

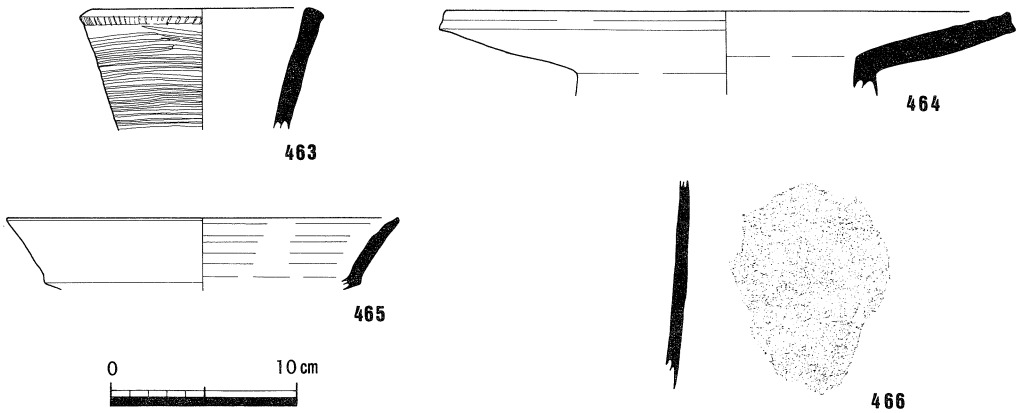
旧河道（第７・80図）

Ⅳ区南端で検出した旧河道である。検出した川幅は８ｍ以上を測るが，第５図に示したとおり，凹原遺跡周辺の微地形分析では，川幅は約80ｍにも及ぶ。この旧河道は，かつて高松平野の各所を蛇行していた香東川の旧流路である。凹原遺跡より北東約１㎞下流には「さこ・長池遺跡」「さこ・松ノ木遺跡」が所在し，両遺跡では弥生時代中期頃には川としての機能を失い，古墳時代には旧河道内で水田経営がなされていたことが明らかになっている。このことは，凹原遺跡周辺においてもこの旧河道が弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の集落が存在したときには，すでに川としての機能を失っていたと考えられる。ただし，弥生時代前期末～中期初頭のＳＤ18が洪水砂によって埋もれていることを考慮すると，この時にはまだ川の機能を維持していたと考えられる。

この旧河道に長さ3.5ｍの試掘トレンチを設定し掘削した。調査区内では，深さ約1.8ｍを測り，埋土は全部で11層確認した。ただし，これは川岸の一部を掘削したに過ぎない。埋土中より，弥生時代中期の壷(463，第４層)，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の壷・高杯(464・465，それぞれ第４層・第７層)，詳細な時期は不明の弥生土器壷(466，地山直上である第11層)が出土した。



1　暗赤灰色シルト質極細砂（5R3/1,Fe・小石を含む,粒子やや粗い）
2　紫黒色シルト質極細砂（5RP2/1,Feを少し含む）
3　暗青灰色シルト質極細砂（5PB4/1,灰白色土(N7/,地山塊？)をブロックに含む）
3’暗青灰色シルト質極細砂（5PB3/1,第４層をブロックに多く含む,土器片を少量含む）
4　黒色シルト質腐植土（5Y2/1,植物遺体･土器片を多く含む）
5　暗灰色シルト質極細砂（N3/，土器片を少量含む,粒子が細かい,深い所では下部が泥炭層になる）
6　オリーブ灰色中砂～細砂（2.5GY5/1,細礫･植物遺体･暗灰色粘質土をブロック状に含む）
7　灰色シルト質極細砂（N4/,植物遺体･土器片を少量含む,粒子粗い）
8　明オリーブ灰色シルト質極細砂（5GY7/1,第７層に含まれるブロック）
9　青灰色シルト質極細砂（5PB5/1,細礫･植物遺体･灰白色粘質土をブロック状に含む）
10　暗灰色シルト質極細砂（N3/,粒子細かい）
11　オリーブ黒色シルト質腐植土（5Y3/1,植物遺体･土器片を多く含む）

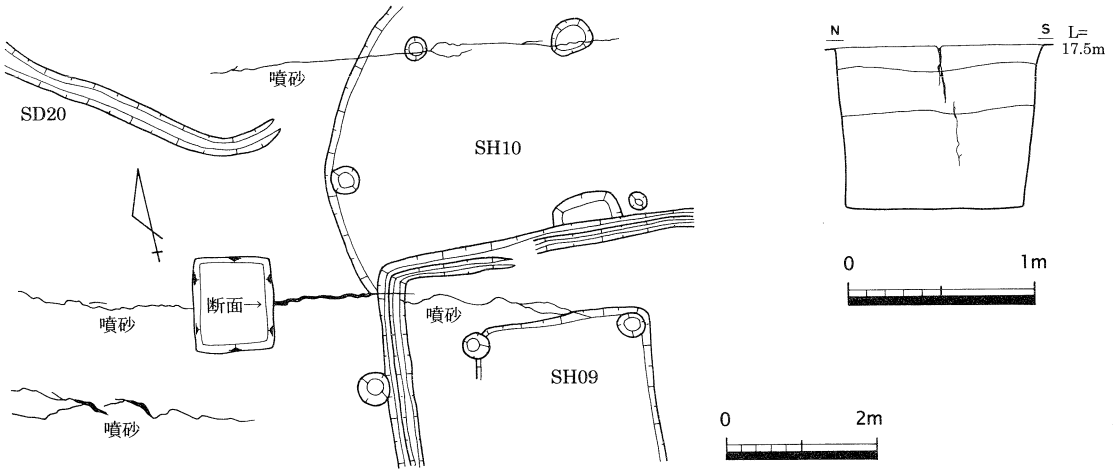


第80図　旧河道断面図（縮尺1/40）出土遺物実測図（縮尺1/4）

噴砂（第81図）

Ⅳ区北西部で検出したもので，ほぼ東西方向にのびる３条の噴砂を確認した。噴砂は，ＳＨ09・10埋土を割いているが，近世～近代と想定しているイ・ロ層によって削平されており，古墳時代前期～中世頃の間に起こった地震によるものと推定される。噴砂の一部に試掘トレンチを設定・掘削し，断面観察を行ったが，噴砂が細く地層下部からの明確な吹き上がりは確認できなかった。

この噴砂は，地震による液状化現象の一つであり，震度６以上で発生することが知られている。凹原遺跡から南西約500ｍの位置にある松林遺跡では，弥生時代中期の噴礫が確認されている。



第81図　噴砂平面・断面図（縮尺1/100,1/40）

第８節　廃土置場の遺構と遺物

凹原遺跡調査時に発生した廃土を仮置するため，北西約120ｍの場所に廃土置場を確保した(第82図)。平成２年11月９日，廃土置場で作業中，偶然に土器棺墓２基を確認した。急遽，事業主体者である太田第２土地区画整理事務所と協議を行い，土器棺墓２基については緊急調査を実施し，土器棺墓周辺に所在が予想される遺構については，これ以上の掘削を行わず保存することで合意に達した。同月10・15日に調査を実施した。

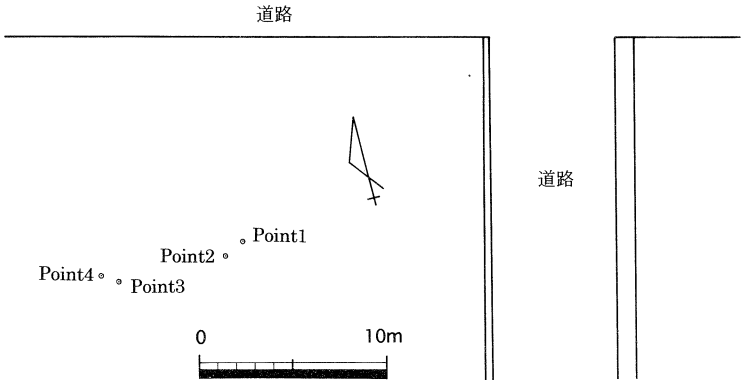
土器棺墓１（第83～85・87図）

小児用土器棺墓で，大型壷２個の口頸部を打ち欠き連結して横たえている。さらに，一方の大型壷の底部を打ち欠いて，口径約35cmの高杯杯部(鉢の可能性もあり)で蓋をしている。高杯杯部は焼成不良だったためか周囲の土と一体化しており，取り上げは不可能であった。墓壙は南北約 80cm，東西約110cmの楕円形を呈する。上部は後世の削平を受けており，深さ約20cm分が残る。土器棺は東北東に蓋を向けている。この土器棺墓横より，伴出するものかどうかは不明だが，弥生土器壷口縁部(467)が出土している。出土した弥生土器大型壷(468・469)・壷口縁部(467)は下川津Ｖ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

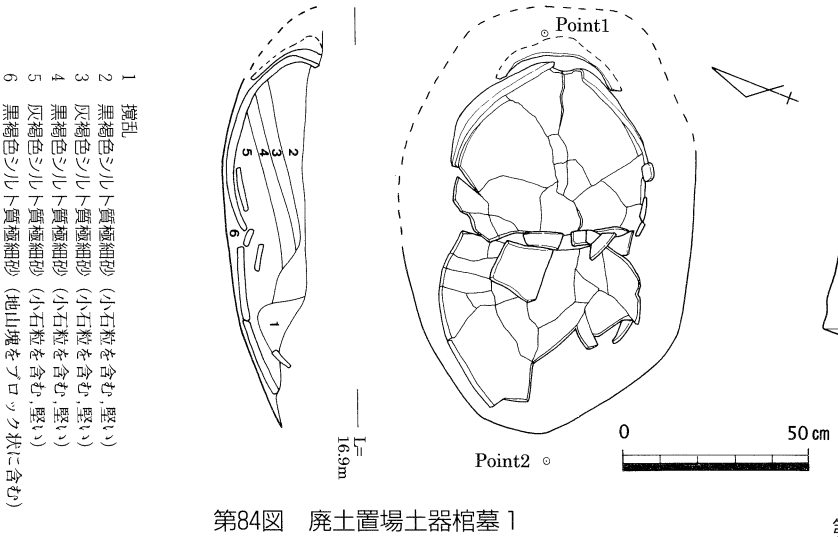
土器棺墓２（第83・86・88図）

土器棺墓１より約６ｍ西に離れた位置で検出された。小児用土器棺墓で，大型壷の口頸部を打ち欠き，大型鉢で蓋をしている。墓壙は南北約60cm，東西約80cmの楕円形を呈する。上部は後世の削平を受けており，深さ約35cm分が残る。土器棺は東南東に蓋を向けている。出土した弥生土器大型壷(470)・大型鉢(471)は下川津Ｖ式に相当し，弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の時期が考えられる。

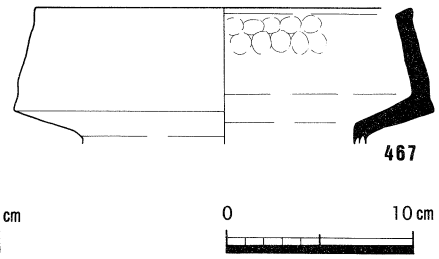
第82図　廃土置場位置図（縮尺1/10.000）



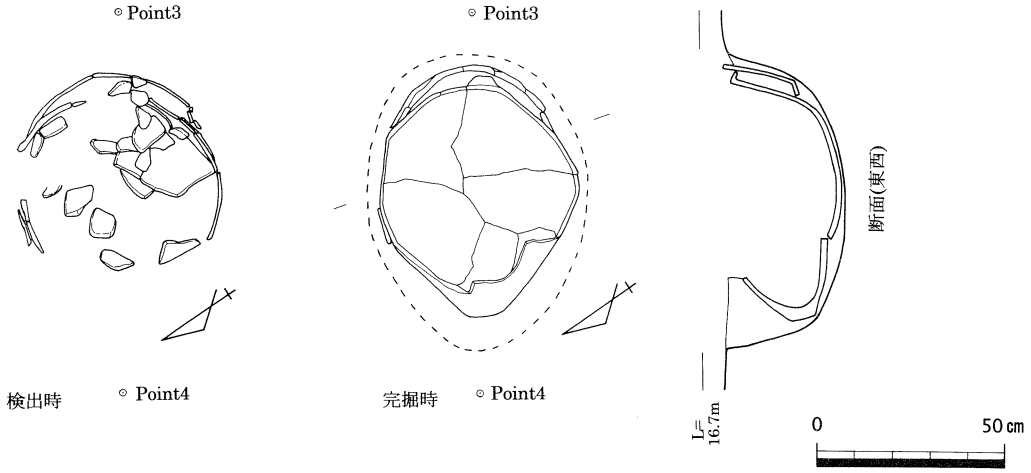
第83図　土器棺墓位置図（縮尺1/400）

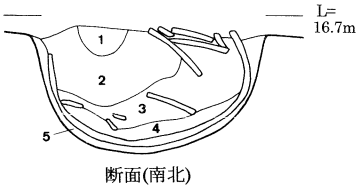


第84図　廃土置場土器棺墓１
平面・断面図（縮尺1/20）



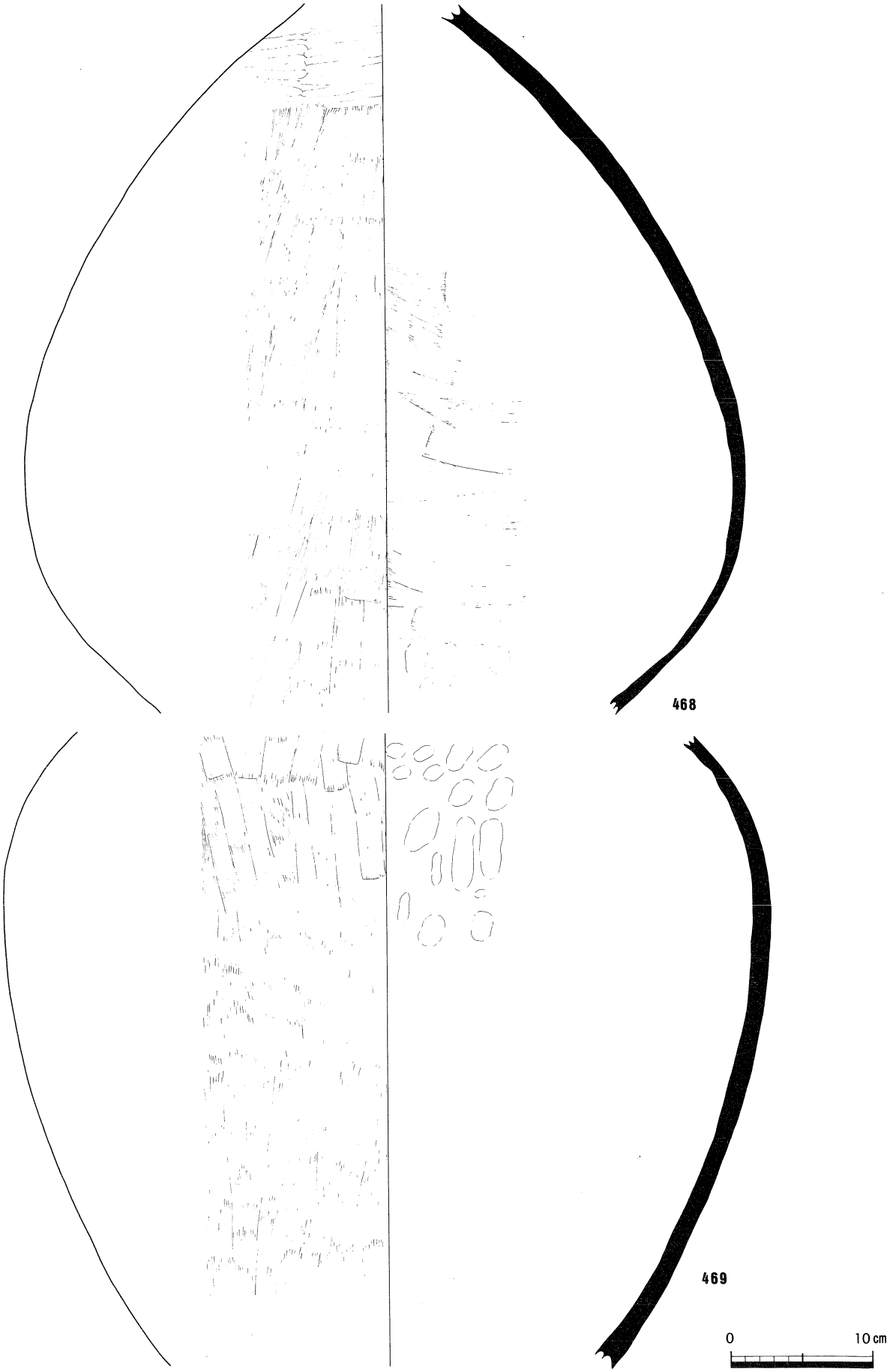
第85図　廃土置場土器棺墓１横
出土遺物実測図（縮尺1/4）



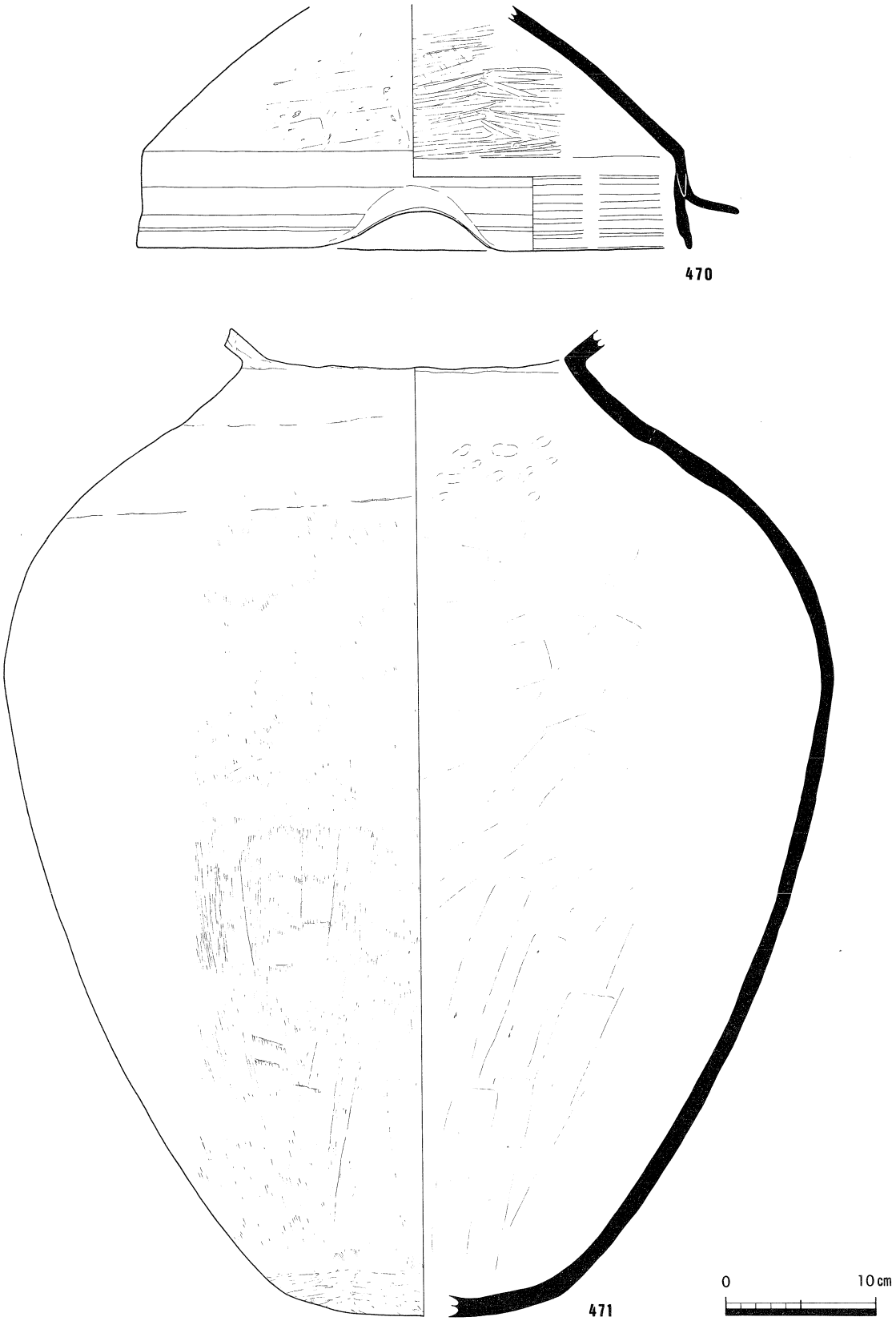


1　撹乱
2　黒褐色シルト質極細砂（細礫を含む）
3　黒褐色シルト質極細砂（第２層より粒が粗い）
4　黒褐色シルト質極細砂
5　黒褐色シルト質極細砂（小石粒を含む，粒子が粗い）

第86図　土器棺墓2平面・断面図（縮尺1/20）



第87図　廃土置場土器棺墓１出土遺物実測図（縮尺1/4）



第88図　廃土置場土器棺墓2出土遺物実測図（縮尺1/4）

第４章　まとめ

第１節　遺構の変遷

凹原遺跡は，５時期に分かれる。ここでは，簡単に遺跡の変遷を報告し，凹原遺跡の最盛期である弥生時代後期末～古墳時代前期初頭については次節で詳細に報告する。

第１期【弥生時代前期末～中期前葉】（第89図）

凹原遺跡に初めて人が住み始める。南微高地北辺に環濠の可能性があるＳＤ18が掘削され，微高地上に竪穴住居ＳＨ10や土坑ＳＫ25，柱穴Ⅳ区ＳＰ22が見られる。微高地南辺は，旧河道であるため環濠を一周させなかったのかもしれない。

第２期【弥生時代後期末～古墳時代前期初頭】

もっとも多くの遺構・遺物を確認した時期である。南北微高地合わせて竪穴住居14棟・井戸１基・溝８条・土器棺墓１基が掘削され，集落が南北微高地上に存在する。南北微高地間の小谷底には，水路ＳＤ03が掘削され，取水・排水の目的を果たしていたものと想定される。

第３期【古墳時代後期後半】

南北微高地間の小谷が埋没していく過程で集石(橋状遺構)や小規模な溝が構築・掘削されている。集落は認められず，溝の用途も不明である。第Ⅲ層によって遺構面が分かれ，下面がＳＤ19・24・集石で古墳時代後期後半に属し，上面がＳＤ14～17・25で古墳時代後期末に属する。

第４期【鎌倉・室町時代】

南北微高地間の小谷はほぼ埋没し，調査区内はほぼ平坦地となっていた。小規模な溝ＳＤ10が掘削されており，遺跡周辺に残る条里地割と方位がほぼ一致する。時期不明としたＳＤ13も，この時期に属する可能性があり，ＳＤ13は香川郡１条15里４坪と９坪の坪界線に相当する。集落は認められない。

第５期【江戸時代】

溝ＳＤ05・11・12，土坑ＳＫ02～06・11・12，不明遺構ＳＸ01～03と比較的遺構数は多いが，集落を構成する遺構は認められない。野壷と想定されるＳＫ03があることからも，農地として利用されていたと考えられる。なお，ＳＤ12はＳＤ13同様に香川郡１条15里４坪と９坪の坪界線に相当する。

第２節　弥生時代後期末～古墳時代前期初頭における集落の変遷

凹原遺跡から出土した当該期の土器は，おおむね下川津Ⅳ～Ⅴ式に相当する。この土器型式と遺構の前後関係・類型から，当該期の集落変遷を考える。

竪穴住居の変遷

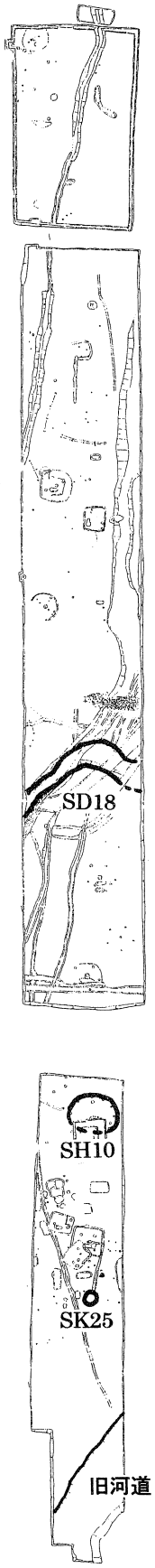
まず，集落を構成する要素のうち，重要な竪穴住居について検討を行う。竪穴住居は，平面形態・規模によって次の四つに分類できる。

１類　円形のもの
　　（ＳＨ01・05，参考として中期前葉のＳＨ10はこの分類に入る）

２類　隅丸方形のもの（ＳＨ03・06）

３類　一辺４ｍを超える方形のもの（ＳＨ09・12）

４類　一辺４ｍ未満の方形のもの（ＳＨ02・04・11・14）



第89図　弥生時代前期末～中期前葉の遺構（縮尺 1/900）

なお，内部構造は分かるが平面形態が不明なもの(ＳＨ07・08)は検討材料に入れ，ごく一部しか検出しておらず内容が不明なもの(ＳＨ13・15)は除外する。

次に，出土遺物から時期が明らかな竪穴住居は次のとおりである。

下川津Ⅳ式　ＳＨ05・07(中でもＳＨ05は古相を呈する。)

下川津Ⅳ～Ⅴ式　ＳＨ03(周溝をもつ第１段階とベッド状遺構を新設する第２段階がある。)

下川津Ⅴ式　ＳＨ04・06・09・12・14(中でもＳＨ06・12は古相を呈し，ＳＨ14は新相を呈する。)

さらに，遺構の前後関係を見た場合，ＳＨ12よりＳＨ11が新しいことが分かっている。

以上のことを踏まえ，さらに近年の県内における研究成果（蔵本晋司1999，松本和彦2000，森下英治2001)を取り入れて，竪穴住居を時期別に並べたのが第90図である。全体の傾向として，平面が円形→隅丸方形→中型方形→小型方形へと変遷している。

第２－１小期(下川津Ⅳ式相当)では，前代以降続く平面円形の竪穴住居(ＳＨ05)が小型ながらも営まれている。同じ平面・規模をもつＳＨ01もほぼ同時期と思われる。一方，この時期終末に一辺４ｍを超える規模をもつ隅丸方形の竪穴住居(ＳＨ03第１段階)が出現する。ＳＨ08は，ＳＨ06・07と同じ柱穴５基を有することから，この時期かもしくは次期に属すると考えられる。

第２－２小期(下川津Ⅴ式(古相)相当)では，隅丸方形の竪穴住居(ＳＨ03第２段階・06)がこの時期まで存続する。一方，一辺４ｍを超える規模をもつ中型方形の竪穴住居(ＳＨ09・12)が出現する。ＳＨ09は，出土した土器も新しい様相を見せるだけでなく，中央柱穴を有しないことから，ＳＨ12より少し遅れるものと考えられる。また，この時期はベッド状遺構が出現する時期でもある。第２－１期から存続するＳＨ03はベッド状遺構をわざわざ新設しているが，この時期に建てられたＳＨ09ではベッド状遺構を地山削り出しにより成形しており，ＳＨ09建築時には当初からベッド状遺構が計画されていたと考えられる。

第２－３小期(下川津Ⅴ式(新相)相当)では，小型方形の竪穴住居(ＳＨ14)が出現する。ＳＨ11はＳＨ12より新しいこと，ＳＨ14と類似することからこの期に含めた。小型方形のＳＨ02・04も同様とした。ただし，ＳＨ02はＳＨ04・11・14に比べ４本支柱を維持していることから，若干古い様相をもっている。また，ベッド状遺構はＳＨ14のように形骸化している。

以上のように，凹原遺跡における竪穴住居の変遷を明らかにしていった。しかしながら，周辺に所在する同時期の集落跡である日暮・松林遺跡，多肥松林や空港跡地遺跡では，凹原遺跡とは違った様相を示しており，集団単位での検討が今後必要である。

集落の変遷

竪穴住居の変遷に他の遺構を加えて，集落の変遷を平面的に表わしたのが第91図である。

第２－１小期では，北微高地に竪穴住居ＳＨ01・05が建てられ，南微高地では竪穴住居ＳＨ07・08が建てられる。南北微高地間の小谷底には水路ＳＤ03が掘削されており，南微高地にある排水用溝ＳＤ06がＳＤ03に注いでいる。北微高地のＳＤ02もこの時期である。なお，第２小期としたＳＤ01がこの時期すでに掘削されている可能性もある。

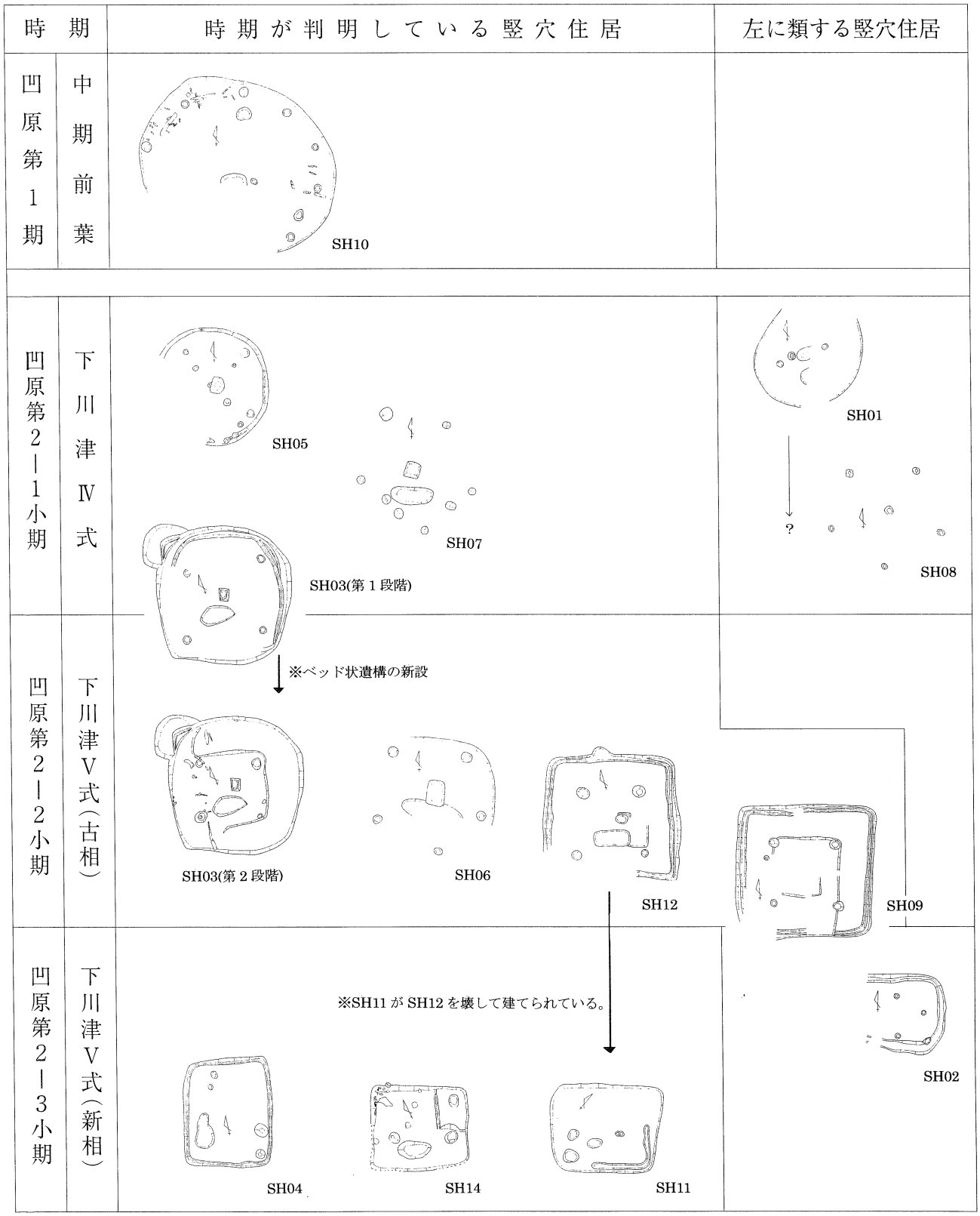
第２－２小期では，北微高地に竪穴住居ＳＨ03が第１小期末より建てられ，南微高地では竪穴住居ＳＨ06・09・12が建てられる。小谷底の水路ＳＤ03は前代から引き続いて存在している。北微高地に排水用溝ＳＤ01が掘削され，南微高地ではＳＤ06が埋没し代わって排水用溝としてＳＤ07が掘削される。

第２－３小期では，北微高地に竪穴住居ＳＨ02・04が建てられ，南微高地では竪穴住居ＳＨ11・14が建てられる。小谷底の水路ＳＤ03は，この時期を最期にして埋没が始まる。南北微高地の排水用溝ＳＤ01・07は，機能を失っており埋没が始まるか埋没している。

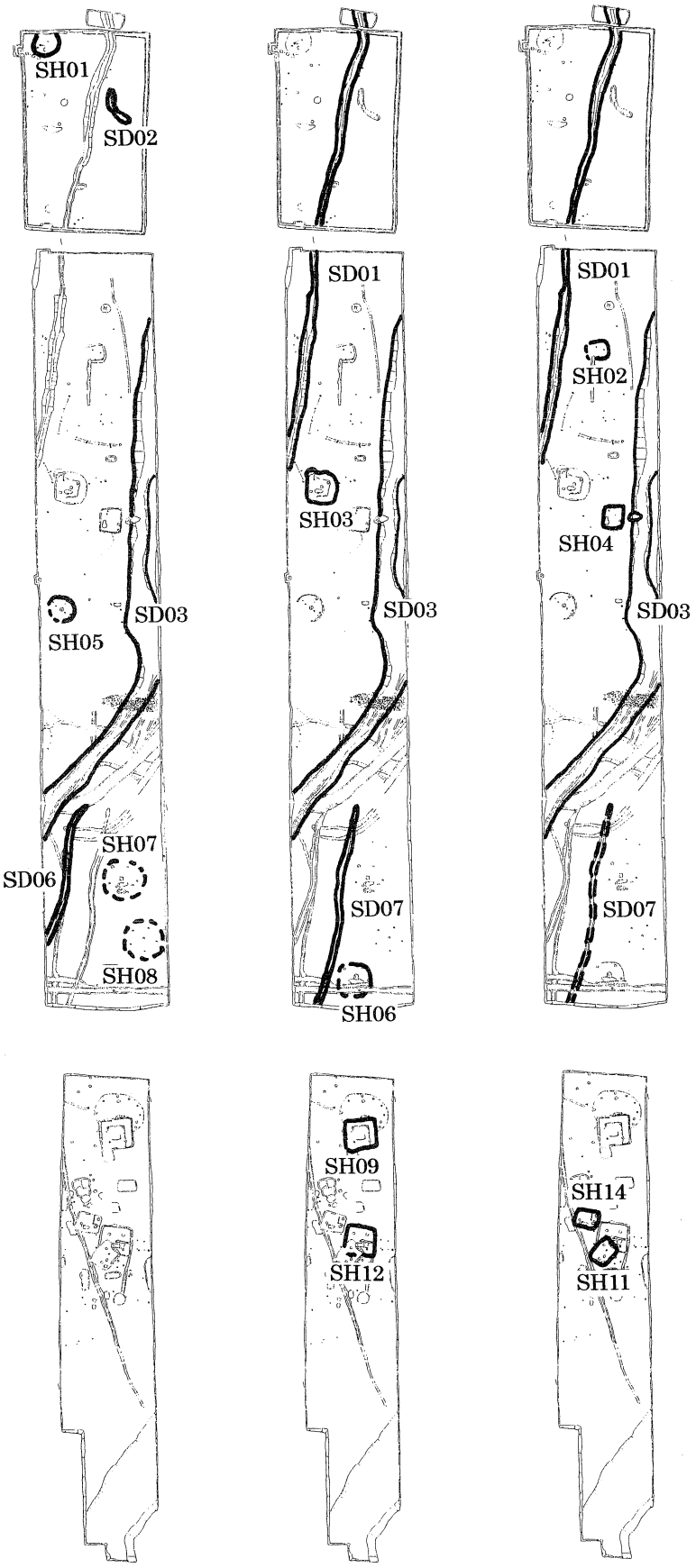
なお，ＳＤ09・21は，下川津Ⅴ式でも古相に近い土器が出土し，ＳＨ11・14と切り合っていること，ＳＤ07とも切り合う可能性があることを考えると，第２・３小期の間のごく短い期間に掘削され埋没した可能性がある。

竪穴住居のグループ化

竪穴住居は，所在地と細部の特徴からグループ化が可能である。北微高地南部にいるグループ（ＳＨ02～05)は，他のグループと比較して第３小期まで周溝を維持している。ＳＨ05→03→02・04と建替えを行っている可能性がある。南微高地北部にいるグループ(ＳＨ06～08)は，５本支柱を基本としている。



第90図　竪穴住居変遷図（縮尺1/200）



第91図　弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の集落変遷図（縮尺1/900）

ＳＨ07・08→06と建替えを行っている可能性がある。南微高地中央部にいるグループ（ＳＨ09・11・12・14）は，方形の平面プランをもつものばかりである。ＳＨ09・12→11・14と建替えを行っている可能性がある。以上のように，大きく分けて３グループとなる。これは，集落という一つの大きな集団を構成している小集団であり，同じ区域で住居の建替えを繰り返していることを考慮すれば，家族単位の可能性が指摘できる。

第３節　凹原遺跡周辺における弥生集落の動向

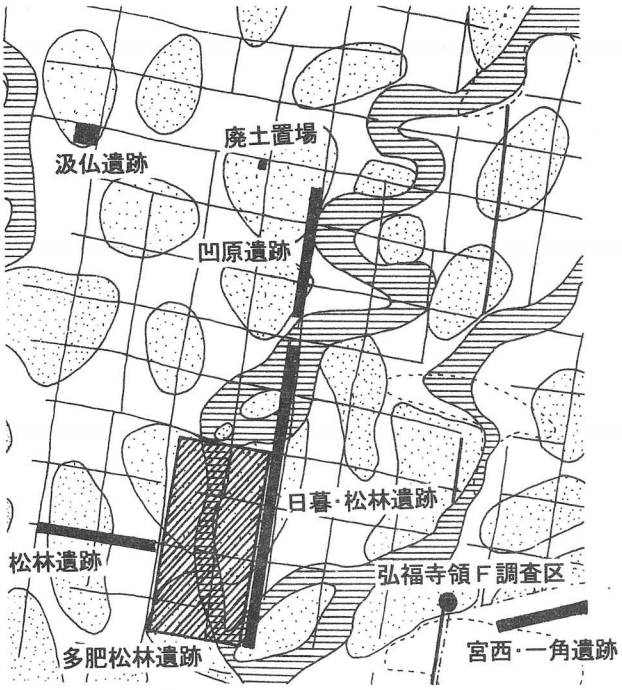
最後に，凹原遺跡周辺の弥生集落について触れる。第92図のように，凹原遺跡周辺では発掘調査が実施されている。

まず，弥生時代前期中葉（第93図）に汲仏遺跡で環濠集落が出現する。その後，前期末～中期前葉にかけて凹原遺跡南微高地，宮西・一角遺跡と集落が相次いで出現するが，どれも短期間に終わる。多肥松林遺跡，松林遺跡，弘福寺領Ｆ調査区でもこの時期の遺構が見られる。

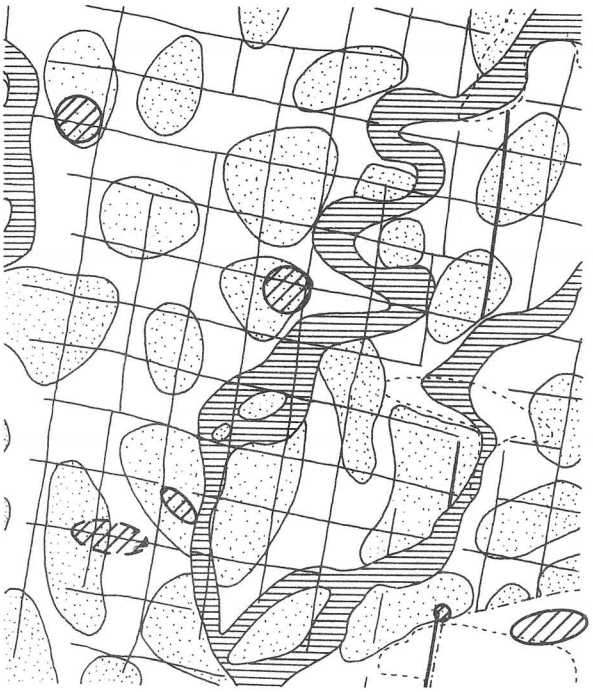
中期中葉～後葉（第94図）になると，日暮・松林遺跡，多肥松林遺跡，松林遺跡と遺跡名は分かれているが，松林地区に大規模な集落が出現する。

松林地区では，一時期集落が途絶えた後，後期中葉（第95図）に再び集落が出現し，古墳時代前期初頭まで存続している。また，凹原遺跡でも後期末～古墳時代前期初頭にか

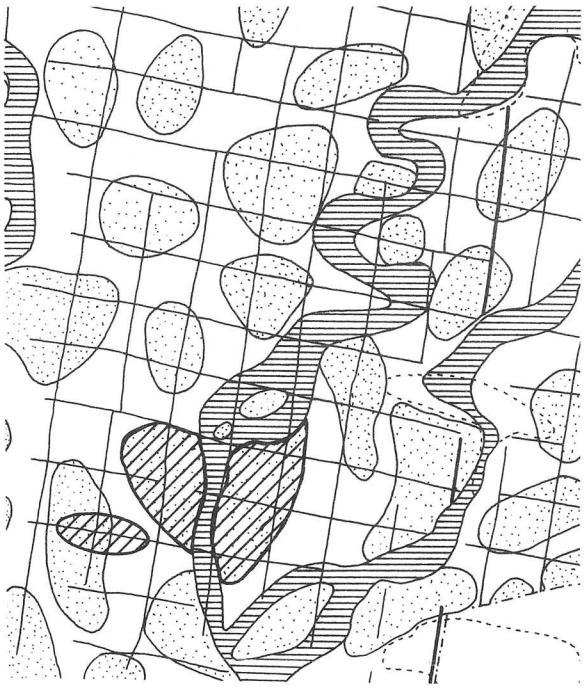
けて大規模集落が出現する。汲仏遺跡でも，同時期の集落が存在したようである。このように，弥生時代後期に多くの集落が出現するが，古墳時代前期になると集落は途絶えてしまう。集落廃絶の原因は明らかにできないが，少なくとも弥生時代では集落が絶えず移動していることがわかる。今後，未調査地域の発掘が進めば，集落の移動パターンの解明などが期待できる。



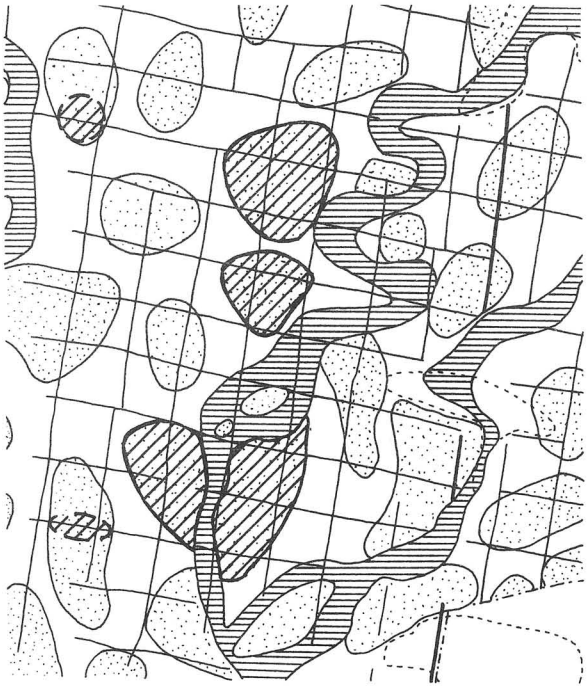
第92図　凹原遺跡周辺の遺跡位置図（縮尺1/16,000）



第93図　弥生時代前期～中期前葉の集落



第94図　弥生時代中期中葉～後葉の集落



第95図　弥生時代後期～古墳時代前期の集落

凹原遺跡出土遺物観察表

※法量の(　)は,残存値を表す。

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎・土	備考
1	弥生土器 壺	18.5		(7.7)	外面：縦篦磨き 内面：なで	外面：2.5Y5/6明赤褐 内面：10YR5/6赤	石英・長石を含む	口縁部内面：鋸歯文 口縁部外面：刻み目文 頸部：櫛描直線文・刺突文
2	打製石器 石鏃未製品	長さ (2.8)	幅 2.2	厚さ 0.4	両面剥離	外面：10G5/1緑灰	サヌカイト	
3	打製石器 石鏃未製品	長さ 3.1	幅 2.2	厚さ 0.5	両面剥離	外面：10G4/1暗緑灰	サヌカイト	
4	弥生土器 壺	17.0		(14.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR8/1灰白 内面：10YR8/1灰白	石英を含む	内外面：黒斑
5	弥生土器 壺	18.4		(6.0)	口縁端部外面：直線1条，なで 内面：なで	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
6	弥生土器 甕			(5.7)	外面：篦描直線15条 内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	篦描直線文
7	弥生土器 甕	26.0		(11.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5YR5/3にぶい赤褐 内面：2.5Y7/3浅黄	石英・長石を含む	
8	弥生土器 甕	33.6		(16.7)	外面：なで，指頭圧痕，篦磨き 口縁部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR5/1褐灰 内面：7.5YR5/1褐灰	石英・長石を含む	
9	弥生土器 壺	12.6		(6.8)	外面上半：なで 外面下半：磨き 内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：2.5Y8/3淡黄	石英・長石を含む	篦描沈線2条
10	弥生土器 壺	15.0		(5.7)	外面：なで 内面：なで	外面：2.5Y/2灰白 内面：2.5Y/2灰白	石英・長石を含む	篦描沈線2条
11	弥生土器 壺			(5.6)	外面：摩滅 内面：なで	外面：7.5YR8/2灰白 内面：7.5YR8/2灰白	石英・長石・赤色砂粒を含む	黒斑
12	弥生土器 壺			(5.8)	外面：磨き 内面：摩滅	外面：10YR8/3浅黄橙 10YR8/4浅黄橙	石英・長石を含む	削り出し突帯，沈線4条
13	弥生土器 壺　底部		9.8	(5.0)	外面：なで 内面：指頭圧痕	外面：10YR8/2灰白 内面：10YR8/1灰白	石英・長石を含む	
14	弥生土器 甕	19.2		(8.8)	外面：縦刷毛，縦篦磨き 内面：板なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石を含む	櫛描直線文
15	弥生土器 甕	15.8		(9.1)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：2.5Y7/2灰黄	石英・長石を含む	櫛描直線文
16	弥生土器 甕	21.8		(3.7)	外面：縦刷毛目 内面：摩滅	外面：10YR5/3にぶい黄褐 内面：2.5Y7/3浅黄	石英・長石を含む	口縁端部：刻み目文 頸部：篦描沈線3条
17	弥生土器 甕	14.4		(5.0)	外面：板なで 内面：なで	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石を含む	口縁部：押圧
18	弥生土器 鉢	40.4		(7.8)	外面：横篦磨き 内面：板なで	外面：10YR8/3浅黄橙 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
19	弥生土器 壺　底部		8.9	(4.4)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：2.5Y8/2灰白 内面：7.5YR7/3にぶい橙	石英・長石・赤色砂粒を含む	底部：籾圧痕
20	弥生土器 壺　底部		8.4	(4.2)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR8/3浅黄橙 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
21	弥生土器 壺　底部		8.1	(3.4)	外面：なで 内面：なで	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR8/3浅黄橙	石英・長石を含む	
22	弥生土器 甕　底部(甑)		6.2	(13.0)	外面：なで 内面：なで	外面：7.5YR7/6橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
23	弥生土器 甕　底部		8.8	(9.3)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	底部：籾圧痕
24	弥生土器 甕　底部(甑)		6.8	(4.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR6/2灰褐 内面：2.5Y6/2灰黄	石英・長石を含む	
25	弥生土器 甕　底部		8.4	(2.3)	外面：なで 内面：なで	外面：2.5Y5/6明赤褐 内面：2.5Y6/2灰黄	石英・長石を含む	
26	弥生土器 甕　底部		6.8	(5.7)	外面：なで 内面：なで	外面：7.5YR6/2灰褐 内面：2.5Y4/1黄灰	石英・長石を含む	
27	弥生土器 甕　底部		8.0	(5.7)	外面：縦刷毛目 内面：摩滅	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：10YR8/3浅黄橙	石英・長石・赤色砂粒を含む	
28	弥生土器 甕　底部		7.5	(4.6)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：5YR7/3にぶい橙 内面：5YR6/6橙	石英・長石を含む	底部内外面：籾圧痕1個ずつ
29	打製石器 スクレイパー	長さ 11.3	幅 7.3	厚さ 1.5	両面剥離	外面：5BG4/1暗青灰	サヌカイト	
30	弥生土器 広口壺	17.4		(6.1)	外面：摩滅 頸部内面：なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
31	弥生土器 甕	17.8		(7.9)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕，なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
32	弥生土器 高杯	16.5		(4.7)	外面下半：横方向篦削り 内面：横なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・角閃石・雲母を含む	
33	弥生土器 高杯		16.2	(2.8)	外面：なで 内面：横篦削り	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
34	弥生土器 壺	体部径 25.8		(21.1)	体部上半外面：篦磨き，刷毛目 体部下半外面：篦磨き 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
35	弥生土器 甕	13.4		(20.2)	外面上半：縦刷毛目 外面下半：縦篦磨き 内面上半：指頭圧痕，横刷毛目 内面下半：縦篦削り	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石・赤色砂粒を含む	内面：断続的な横刷毛目
36	弥生土器 大型片口鉢	42.0		(12.1)	外面：篦削り，篦磨き 内面：なで	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR5/3にぶい黄褐	石英・長石・角閃石を含む	
37	弥生土器 小型鉢	13.0		(5.5)	外面：なで 内面：横方向なで	外面：5Y8/2灰白 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
38	弥生土器 小型鉢	11.2	3.2	7.7	外面：なで 内面：板なで	外面：10YR8/1灰白 内面：10YR8/1灰白	石英・長石を含む	籾圧痕
39	弥生土器 小型鉢	15.4	3.4	7.8	外面：なで 内面：板なで	外面：2.5Y8/2灰白 内面：10YR8/1灰白	石英・長石・赤色砂粒を含む	
40	打製土器 石鍬	長さ 15.4	幅 5.6	厚み 2.1	両面剥離	外面：5B3/1暗青灰	結晶片岩	裏面の上下2箇所：浅い凹み
41	弥生土器 甕	17.0		(5.7)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
42	弥生土器 小型鉢	11.4		(4.6)	外面：板なで 内面：板なで	外面：10YR5/3にぶい黄褐 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石・角閃石を含む	
43	弥生土器 甕	15.5		(3.9)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・角閃石・雲母を含む	
44	弥生土器 底部		5.6	(2.8)	外面：縦篦磨き 底部外面：篦磨き 底部内面：指頭圧痕，篦削り	外面：10YR5/3にぶい黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
45	弥生土器 底部		3.6	(2.1)	外面：右上がり太筋叩き目 内面：なで	外面：5Y8/2灰白 内面：5Y8/2灰白	石英・長石を含む	

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
46	弥生土器 台付鉢		4.6	(2.4)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR7/1灰白 内面：7.5YR7/1明褐灰	石英を含む	
47	弥生土器 甕	13.4		(2.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	長石・石英・角閃石を含む	
48	弥生土器 高杯	22.5		(3.9)	外面：横篦削り 内面：摩滅	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：5YR6/4にぶい橙	石英・長石を含む	
49	弥生土器 高杯	23.2		(3.7)	外面：篦削り 内面：摩滅	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	
50	弥生土器 小型鉢	13.2	5.4	7.6	外面：右上がり叩き 内面：指頭圧痕，なで	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
51	弥生土器 小型鉢	9.0		3.5	外面：なで，縦刷毛目 内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
52	弥生土器 甕	17.0		(5.0)	外面：縦刷毛目 内面：摩滅	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
53	弥生土器 底部		4.5	(2.4)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：7.5YR3/1黒褐 内面：10YR8/3浅黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
54	弥生土器 底部		5.0	(4.0)	外面：右上がり叩き 内面：板なで	外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
55	弥生土器 壺		10.5	(22.3)	体部外面：刷毛目 体部内面：篦刷り，指なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR5/3にぶい褐	長石・石英を含む	
56	弥生土器 広口壺	19.6		(7.7)	外面：摩滅 内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/6橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
57	弥生土器 二重口縁壺	15.2		(5.1)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR7/2明褐灰 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石・石英を含む	口縁部：刺突文
58	弥生土器 小型鉢	12.3		4.7	外面：なで 内面：板なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
59	弥生土器 二重口縁壺			(3.8)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・赤色砂粒をを含む	口縁部：刺突文，竹管文
60	弥生土器 底部		5.1	(1.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5YR5/4にぶい褐 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石を含む	
61	弥生土器 底部		4.0	(3.1)	外面：縦刷毛目 内面：板なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐色 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
62	弥生土器 土製勾玉	縦 2.4	横 1.5	厚さ 1.5	外面：なで	外面：2.5YR7/2灰黄	石英・長石を含む	
63	弥生土器 小型甕	9.0		(3.1)	外面：摩滅 内面：板なで，指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石を含む	
64	弥生土器 小型鉢	28.6		(6.0)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
65	弥生土器 壺	16.6		(1.2)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・雲母を含む	
66	弥生土器 甕	14.6		(9.6)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
67	弥生土器 甕	体部径 19.4		(8.0)	外面：右上がり太筋叩き目 内面：板なで	外面：7.5YR8/2灰白 内面：7.5YR8/2灰白	石英を含む	
68	弥生土器 小型丸底壺	4.4		7.2	口縁部内外面：横なで 体部外面：刷毛目，篦磨き 内面：刷毛目 底部内面：篦なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	
69	弥生土器 小型鉢	11.0		6.0	外面：板なで 内面：板なで	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/1灰白	石英・長石を含む	
70	弥生土器 甕	15.4	4.0	17.3	口縁部外面：刷毛目 内面：指頭圧痕，刷毛目，なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR8/1灰白～7/2	長石・石英を含む	内面底部・外面体部：黒斑
71	弥生土器 甕	15.4		(1.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
72	弥生土器 高杯	21.4		(3.9)	外面：篦削り 内面：摩滅	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
73	弥生土器 高杯			(3.7)	外面：縦篦磨き 内面：横篦磨き	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：2.5Y6/2灰黄	石英・長石を含む	
74	弥生土器 鉢	13.4		(9.0)	外面：なで 内面：なで	外面：2.5Y8/2灰白 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石を含む	
75	弥生土器 甕　底部			(7.5)	外面：なで 内面：横刷毛	外面：7.5Y8/1灰白 内面：7.5Y8/1灰白	石英・長石を含む	
76	弥生土器 甕　底部		3.3	(6.6)	外面：板なで 内面：なで	外面：10YR7/1灰白 内面：10YR7/1灰白	石英・長石を含む	
77	弥生土器 甕	16.4		(3.3)	外面：なで 内面：板なで	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石を含む	櫛描直線文（櫛目4本）
78	弥生土器 甕			(4.0)	内面：なで	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	山形文，直線文
79	弥生土器 甕			(2.4)	内面：なで	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	山形文
80	磨製石器 扁平片刃石斧	長さ 2.7	幅 3.2	厚さ 1.2		外面：5Y6/1灰	安山岩	
81	弥生土器 甕	12.8		(12.0)	外面：なで 内面：篦削り，指頭圧痕，爪痕	外面：7.5YR5/2灰褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・雲母をを含む	
82	弥生土器 底部		7.8	(6.3)	外面：篦磨き，なで 内面：篦削り，指頭圧痕，なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
83	弥生土器 底部		5.6	(4.7)	外面：篦削り 内面：篦磨き	外面：5YR6/3にぶい橙 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
84	弥生土器 底部		3.8	(3.1)	外面：なで，刷毛目 内面：摩滅	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：2.5Y7/3浅黄	石英・長石を含む	底部：黒斑
85	弥生土器 台付鉢		3.8	(4.4)	底部外面：指頭圧痕 体部外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：2.5Y7/灰白 内面：10YR8/2灰白	石英・長石を含む	底面：黒斑，指頭圧痕
86	弥生土器 製塩土器		2.6	(4.1)	外面：なで，叩き 内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石・角閃石を含む	
87	弥生土器 甕			(5.4)	内面：なで	外面：10YR4/2灰黄褐 内面：10YR5/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	篦描直線文7条
88	弥生土器 底部		7.8	(2.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR8/1灰白	石英・長石を含む	
89	弥生土器 広口壺	16.2		(3.8)	内面：縦刷毛目 外面：摩滅	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR7/4にぶい橙	石英・長石を含む	
90	弥生土器 広口壺	17.0		(6.4)	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石を含む	沈線2条
91	弥生土器 広口壺	18.0		(8.8)	外面：粗い縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石を含む	沈線4条
92	弥生土器 甕	14.0		(3.0)	外面：縦刷毛目 内面：横なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
93	弥生土器 甕	16.2		(2.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	

遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
94	弥生土器 甕	14.4		(5.7)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石・雲母を含む	
95	弥生土器 甕	16.0		(5.7)	外面：摩滅 内面：指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・砂粒を含む	
96	弥生土器 甕	17.0		(4.8)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR8/4浅黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
97	弥生土器 高杯	17.5		(5.5)	外面：篦削り 内面：分割篦磨き	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
98	弥生土器 高杯	22.4		(4.4)	外面：篦削り 内面：摩滅	外面：2.5Y8/2灰白 内面：7.5YR7/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	
99	弥生土器 高杯	21.8		(5.7)	外面：篦削り，篦磨き 内面：分割篦磨き	外面：10YR8/3浅黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
100	弥生土器 高杯	23.6		(5.2)	外面：篦削り 内面：摩滅	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
101	弥生土器 高杯	12.5		(6.5)	外面：横なで 内面：縦篦磨き	外面：10YR8/3浅黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
102	弥生土器 底部		3.4	(4.0)	外面：縦篦磨き，指頭圧痕 内面：篦削り	外面：2.5Y8/1灰白 内面：10YR8/1灰白	石英・長石・角閃石を含む	
103	弥生土器 鉢		4.9	(3.8)	外面：板なで，指頭圧痕 内面：摩滅	外面：2.5Y8/1灰白 内面：5YR8/1灰白	石英・長石を含む	
104	弥生土器 壺	24.6		(2.6)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5Y8/1灰白 内面：5YR8/1灰白	石英・長石を含む	鋸歯文，刺突文
105	打製石器 石包丁	長さ 7.0	幅 3.9	厚さ 1.0		外面：5BG4/1暗青灰	サヌカイト	
106	弥生土器 広口壺	17.4		(7.0)	外面：摩滅 内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石・雲母を含む	沈線１条
107	弥生土器 広口壺			(5.9)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
108	弥生土器 広口壺	7.2		(5.2)	内面：指頭圧痕，なで	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石を含む	沈線１条
109	弥生土器 壺　底部		4.0	(2.4)	外面：摩滅 内面：板なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
110	弥生土器 壺		5.6	(20.5)	外面：縦刷毛目，篦磨き 内面：篦削り，指頭圧痕	外面：2.5Y5/3黄褐 内面：2.5Y5/3黄褐	石英・長石を含む	
111	弥生土器 壺			(7.6)	外面：摩滅 内面：刷毛目	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石を含む	
112	弥生土器 広口壺	32.8		(9.3)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕，なで	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/8橙	石英・長石・雲母を含む	
113	弥生土器 広口壺	29.0		(11.5)	外面：縦刷毛目 内面：摩滅	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・雲母を含む	
114	弥生土器 甕	14.6		(2.8)	外面：摩滅 内面：指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
115	弥生土器 甕	15.0		(3.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：5YR5/6明赤褐	石英・長石を含む	
116	弥生土器 甕	13.0		(3.1)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
117	弥生土器 甕	14.0		(3.8)	外面：摩滅 内面：指頭圧痕	外面：7.5YR4/3褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
118	弥生土器 甕	14.4		(4.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石を含む	
119	弥生土器 甕	15.0		(5.4)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
120	弥生土器 甕	14.2		(5.5)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・角閃石を含む	
121	弥生土器 甕	14.2		(7.0)	外面：横なで 内面：指頭圧痕，横なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石を含む	
122	弥生土器 甕	13.0		(11.8)	外面：縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：5YR5/6明赤褐 内面：5YR5/4にぶい赤褐	石英・長石を含む	
123	弥生土器 甕	13.4		(12.6)	外面：縦刷毛目，篦磨き 内面：摩滅	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石を含む	
124	弥生土器 台付鉢			(7.8)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR5/1褐灰 内面：10YR5/1褐灰	石英・長石を含む	
125	弥生土器 鉢	20.0		(6.2)	外面：篦削り 内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石を含む	
126	弥生土器 鉢	9.9		(5.8)	外面：横なで，篦磨き，篦削り 内面：横なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
127	弥生土器 小型器台	14.0		(4.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：5YR7/4にぶい橙 内面：5YR7/6橙	石英・長石を含む	円盤充填技法
128	弥生土器 小型器台	10.3		(2.8)	外面：篦削り 内面：横篦磨き	外面：5YR5/4にぶい赤褐 内面：5YR5/4にぶい赤褐	石英・長石・角閃石を含む	
129	弥生土器 小型丸底壺	体部径 9.4		(4.3)	内面：指頭圧痕，篦削り 外面：摩滅	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石を含む	
130	弥生土器 製塩土器		3.0	(1.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石を含む	
131	弥生土器 製塩土器		2.8	(1.1)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR4/3褐 内面：7.5YR4/3褐	石英・長石を含む	
132	弥生土器 高杯	12.2		(3.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：5YR6/2灰褐 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石を含む	
133	弥生土器 高杯	18.0		(4.7)	外面：篦削り 内面：板なで	外面：7.5YR6/6橙 内面：5YR6/6橙	石英・長石・角閃石を含む	
134	弥生土器 高杯	21.0		(6.0)	外面：篦削り 内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石を含む	
135	弥生土器 高杯	26.6		(5.5)	外面：篦削り 内面：分割篦磨き	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石を含む	
136	弥生土器 器台	16.0		(10.7)	外面：篦削り，縦刷毛目 内面：篦削り	外面：2.5Y8/1灰白 内面：7.5YR8/2灰白	石英・長石を含む	口縁部：竹管文 脚柱部：篦記号
137	弥生土器 高杯	18.2		(9.1)	外面：縦刷毛目 内面：なで，絞り	外面：10Y8/2灰白 内面：10YR8/2灰白	石英・長石を含む	
138	弥生土器 高杯			(5.0)	外面：摩滅 内面：絞り目	外面：5YR7/4にぶい橙 内面：5YR7/4にぶい橙	長石を含む	
139	弥生土器 高杯			(8.7)	内面：板なで，篦削り，絞り 外面：摩滅	外面：2.5Y8/3淡黄 内面：2.5Y8/3淡黄	石英・長石を含む	透かし，直線文
140	弥生土器 高杯			(4.5)	外面：分割篦磨き 内面：分割篦磨き	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
141	弥生土器 高杯		20.0	(3.0)	外面：縦篦磨き 内面：篦削り	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：10YR5/2にぶい黄褐	石英・長石を含む	
142	打製石器 石包丁	長さ 4.3	幅 3.9	厚さ 0.8		外面：5BG4/1暗青灰	サヌカイト	
143	打製石器 石鏃	長さ 2.7	幅 1.2	厚さ 0.5		外面：5BG4/1暗青灰	サヌカイト	

遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
144	弥生土器 甕	14.7	0.4	14.5	頸部外面：縦刷毛目 体部外面：なで 内面上半：板なで 内面下半：篦削り	外面：2.5Y8/2灰白 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
145	弥生土器 甕	13.6		(4.9)	外面：縦刷毛目 内面：なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
146	弥生土器 甕	7.9		(4.7)	外面：縦刷毛目 内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	石英・長石を含む	
147	弥生土器 広口壺	21.6		(2.5)	外面：縦刷毛目 内面：摩滅	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：2.5Y6/1黄灰	石英・角閃石を含む	
148	弥生土器 広口壺	27.2		(12.2)	外面：粗い縦刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：5YR6/6橙 内面：5YR6/8橙	石英・長石を含む	
149	弥生土器 高杯	19.8		(4.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
150	弥生土器 高杯	12.0		(3.3)	外面：篦削り 内面：板なで	外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・雲母・角閃石等を含む	
151	弥生土器 高杯			(6.4)	外面：篦削り，篦磨き 内面：分割篦磨き	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR7/4にぶい橙	石英・長石を含む	
152	弥生土器 台付鉢	11.0		(6.8)	外面：摩滅 内面：刷毛目	外面：10YR8/1灰白 内面：5YR7/6橙	石英・長石を含む	
153	弥生土器 台付鉢	7.2		(5.0)	外面：縦篦磨き 内面：絞り目，篦削り	外面：2.5Y8/2灰白 内面：10YR8/2灰白	石英・長石を含む	
154	弥生土器 鉢	13.6		(3.5)	外面：なで 内面：篦削り	外面：5YR6/6橙 外面：5YR6/4にぶい橙	石英・長石を含む	
155	弥生土器 製塩土器		1.4	(3.3)	外面：指頭圧痕 内面：板なで	外面：10YR2/1黒 内面：2.5Y6/2灰黄	石英・長石を含む	
156	弥生土器 甕	14.0		(4.6)	外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
157	弥生土器 高杯	22.8		(44.0)	外面：なで，粗い刷毛目 内面：なで，篦磨き	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：10YR8/3浅黄橙	石英・長石を含む	
158	弥生土器 高杯	28.6		(2.2)	外面：なで 内面：摩滅	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：5YR7/4にぶい橙	石英・長石を含む	
159	弥生土器 甕	13.6	3.9	20.8	体部外面：刷毛目 底部外面：篦磨き 内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
160	弥生土器 小型鉢	11.7	1.6	5.9	外面：なで，篦削り 底部内面：指頭圧痕，なで	外面：7.5YR6/6橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	外面：煤付着
161	弥生土器 甕	体部径 19.9		(16.7)	体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：5YR6/6橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
162	弥生土器 甕	13.3	5.4	25.0	体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR5/4にぶい橙	石英・長石を含む	
163	弥生土器 甕	15.2		(9.2)	口縁部外面：横なで 外面：なで 内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR7/6橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
164	弥生土器 甕	13.9		(12.8)	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕，篦削り	外面：5YR7/3にぶい橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石を含む	
165	弥生土器 甕	16.0		(15.0)	外面：なで，指頭圧痕 内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR4/6にぶい橙 内面：7.5YR4/5にぶい褐	石英・長石を含む	外面：煤付着
166	弥生土器 広口壺	体部径 28.2		(15.3)	頸部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 頸部内面：横なで 体部上半内面：なで，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：5YR5/4にぶい赤褐 内面：5YR6/4にぶい橙	微砂粒を含む	体部内外面：黒斑
167	弥生土器 広口壺	15.3		(2.1)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/1灰白	長石を含む	
168	弥生土器 高杯	20.7		(6.0)	外面：横なで，板なで 内面：板なで	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・金雲母・角閃石を含む	
169	弥生土器 ミニチュア土器	3.6		(5.0)	外面：なで，指頭圧痕 内面：なで，指頭圧痕	外面：2.5YR6/8橙 内面：5YR4/6赤褐	石英・長石を含む	黒斑
170	弥生土器 甕	18.0	6.0	30.1	口縁部外面：横なで 体部上面外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕，爪痕 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR5/1褐灰	石英・長石・角閃石を含む	外面：煤付着
171	弥生土器 甕	12.7	4.9	21.3	外面：なで，刷毛目 内面：指頭圧痕，篦削り	外面：5YR7/3にぶい橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	底部：煤付着
172	弥生土器 甕	13.4		(4.9)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	長石を含む	
173	弥生土器 甕	体部径 22.0		(21.0)	体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR7/2明褐灰 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・雲母を含む	
174	弥生土器 甕	13.9		(17.4)	外面：なで，篦磨き 内面：指頭圧痕，なで	外面：7.5YR8/2灰白 内面：2.5Y7/3浅黄	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
175	弥生土器 甕	14.2		(19.4)	外面：なで 体部から底部：篦磨き 内面：指頭圧痕，篦削り	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	体部：煤付着
176	弥生土器 甕	14.8		(19.0)	外面：なで 内面：指頭圧痕	外面：2.5YR7/3淡赤橙 内面：7.5YR6/6橙	石英・長石・金雲母・角閃石を含む	
177	弥生土器 甕	13.3		(10.6)	外面：なで 内面：指頭圧痕，篦削り 口縁部内面：指頭圧痕，横なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：2.5YR6/6橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	
178	弥生土器 甕	15.8		(2.9)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：5YR7/6橙 内面：5YR6/6橙	石英・長石・角閃石を含む	
179	弥生土器 甕	13.7		(3.3)	外面：横なで 内面：横なで，刷毛目	外面：Hue10YR7/3にぶい黄 内面：Hue10YRにぶい黄橙	石英・長石・金雲母を含む	
180	弥生土器 甕　底部	15.2	3.8	(7.8)	体部外面：叩き目 底部外面：なで 体部内面：なで，指頭圧痕 底部内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR7/2灰白 内面：N5/灰	石英・雲母を含む	
181	弥生土器 甕　底部		4.8	(6.5)	外面：篦磨き 内面：板なで，指頭圧痕	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・金雲母を含む	黒斑
182	弥生土器 甕　底部		3.2	(5.6)	外面：なで，刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：2.5Y8/4淡黄	石英・長石を含む	黒斑
183	弥生土器 広口壺	16.4		(6.8)	外面：摩滅 口縁部内面：横なで 頸部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：5YR5/4にぶい赤褐	石英・雲母・角閃石を含む	

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
184	弥生土器 広口壺			(7.7)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	長石・雲母を含む	
185	弥生土器 広口壺	17.3		32.8	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで，篦磨き 体部上半外面：なで，刷毛目 体部下半から下：なで，篦磨き 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで，篦磨き 体部上半内面：指頭圧痕，なで 体部下半内面：なで，篦削り 底部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：5YR6/3にぶい橙	石英・長石・金雲母・角閃石を含む	
186	弥生土器 広口壺		5.5	(19.0)	外面：刷毛目，篦磨き 内面：指頭圧痕，篦削り	外面：7.5YR7/6橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	外面：煤付着，黒斑
187	弥生土器 広口壺	22.6		(8.1)	外面：なで 内面：なで	外面：5YR7/6橙 内面：10YR8/1灰白	長石・石英等を含む	
188	弥生土器 広口壺	22.8		(2.7)	口縁部外面，横なで 口縁部内面：横なで	外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	口縁部外側：黒斑
189	弥生土器 広口壺	23.8		(2.0)	口縁部外面：横なで 頸部外面：摩滅 体部外面：摩滅 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで，指頭圧痕 頸部内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
190	弥生土器 二重口縁壺	28.4		(11.9)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：板なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・雲母・角閃石等を含む	
191	弥生土器 甕　底部		9.2	(10.7)	外面：なで 内面：指頭圧痕，なで	外面：2.5YR5/8明赤褐 内面：5YR7/6橙	長石・石英等を含む	
192	弥生土器 甕		5.0	26.1	外面：刷毛目，なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10R5/6赤 内面：7.5YR7/3にぶい橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	体部から底部外面：煤付着
193	弥生土器 甕	15.0		(18.9)	体部中部：刷毛目 体部下半：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR4/1褐灰 内面：10YR6/2灰黄褐	長石・石英を含む	
194	弥生土器 甕	17.4		(8.3)	外面：なで，刷毛目 内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR5/6明褐 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・石英・雲母・角閃石を含む	
195	弥生石器 甕	15.0		(16.7)	外面：摩滅 内面：なで，指頭圧痕	外面：5YR6/8橙 内面：5YR6/8橙	長石を含む	
196	弥生土器 甕	15.6		(12.5)	外面：なで 内面：指頭圧痕	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	長石・石英・角閃石を含む	
197	弥生土器 甕	14.2		(5.6)	外面：縦刷毛目 内面：摩滅	外面：10YR7/4にぶい黄橙 外面：10YR7/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母・角閃石を含む	
198	弥生土器 甕	15.7	3.4	26.0	外面：なで，摩滅 内面：なで，指頭圧痕	外面：2.5YR7/8橙 内面：7.5YR8/4浅黄	長石・石英等を含む	体部から底部：黒斑
199	弥生土器 甕	14.2	2.0	21.0	外面：なで，摩滅 内面：なで，指頭圧痕	外面：5YR6/6橙 内面：5YR6/6橙	長石・石英・雲母・角閃石を含む	
200	弥生土器 甕	13.3		(15.1)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR6/6明黄褐 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・雲母・角閃石を含む	体部から底部：黒斑
201	弥生土器 甕	11.7		(12.3)	外面：なで 内面：なで	外面：2.5YR6/1橙 内面：2.5YR6/1橙	長石・石英等を含む	外面：煤付着
202	弥生土器 甕	体部径 14.8		(20.9)	外面：なで 内面：なで	外面：5YR褐灰 内面：2.5Y7/2灰黄	長石・石英等を含む	
203	弥生土器 甕	体部径 15.5	2.8	(19.3)	外面：なで 内面：なで	外面：2.5YR6/8橙 内面：10YR7/6明黄褐	長石・石英等を含む	底部：黒斑
204	弥生土器 甕	10.7	3.4	15.0	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕，なで	外面：5YR7/8橙 内面：5YR6/8橙	長石・石英等を含む	体部上半：煤付着
205	弥生土器 甕	体部径 8.3		7.1	外面：指頭圧痕 内面：刷毛目，板なで	外面：7.5YRにぶい橙 内面：2.5YR7/6橙	長石・角閃石を含む	外面：黒斑
206	弥生土器 甕	10.0		(8.9)	口縁部外面：横なで 体部外面：叩き目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石・石英を含む	
207	弥生土器 甕	14.0		(16.0)	外面：叩き目 体部上半外面：刷毛目 内面：なで，細かい刷毛目	外面：5YR7/6橙 内面：2.5YR6/6橙	長石・石英等を含む	
208	弥生土器 甕		3.0	(23.0)	体部外面：叩き目 底部外面：篦磨き 内面：篦削り，なで	外面：5YR7/2明褐灰 内面：5YR7/2明褐灰	長石・石英を含む	体部下面から底部：黒斑
209	弥生土器 甕	16.3	4.0	18.0	外面：なで，叩き目 内面：なで，指頭圧痕	外面：2.5YR7/8橙 内面：2.5YR7/6橙	長石・石英等を含む	底部付近：黒斑
210	弥生土器 甕	15.2		(20.4)	口縁部外面：横なで 体部外面：叩き目	外面：10YR8/2灰白 内面：10YR8/2灰白	石英を含む	
211	弥生土器 甕　底部		3.9	(8.0)	外面：叩き目 内面：摩滅	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/1灰白	石英を含む	
212	弥生土器 甕			(8.1)	頸部外面：指頭圧痕 体部外面：叩き目 体部内面：指頭圧痕	外面：2.5Y7/2灰黄 内面：2.5Y8/2灰白	長石・石英を含む	
213	弥生土器 甕	14.0		(3.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5YR7/6橙 内面：5Y7/1灰白	長石・石英等を含む	
214	弥生土器 甕	18.0		(2.1)	口縁部外面：横なで，叩き目 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・雲母を含む	
215	弥生土器 底部			(5.9)	外面：摩滅 底部内面：絞り目 内面：摩滅	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/1灰白	長石を含む	
216	弥生土器 底部			(5.7)	外面：篦磨き 内面：板なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：2.5Y7/3浅黄	長石・石英を含む	
217	弥生土器 底部		4.4	(3.1)	体部外面：篦磨き 底部外面：篦磨き 体部内面：篦削り，指頭圧痕	外面：7.5Y6/2灰褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・雲母・角閃石を含む	
218	弥生土器 小型鉢	8.6	2.3	4.8	外面：なで 内面：なで，板なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR6/2灰黄褐	長石・石英等を含む	
219	弥生土器 鉢	16.4	2.0	11.0	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕，なで，刷毛目	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：5YR6/4にぶい橙	長石・石英等を含む	底部内外面：煤付着
220	弥生土器 鉢	20.2	5.0	12.0	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕，篦削り	外面：5YR6/6橙 内面：7.5YR3/1黒褐	長石・石英・雲母・角閃石を含む	
221	弥生土器 高杯			(3.3)	外面：なで，篦磨き 内面：なで，篦磨き	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英等を含む	黒斑
222	弥生土器 製塩土器		2.8	(1.5)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅	外面：10YR5/1褐灰 内面：10YR5/1褐灰	長石・石英を含む	
223	弥生土器 甕	19.4		(5.3)	外面：なで， 内面：なで，指頭圧痕	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4橙	長石・石英等を含む	

遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
224	弥生土器 甕	12.0		(5.3)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石・石英を含む	
225	弥生土器 紡錘車	直径 6.8		厚さ 1.1	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：7.5YR6/6橙	長石・石英等を含む	黒斑
226	弥生土器 甕	13.0		(3.2)	口縁部外面：横なで 体部外面：摩滅 体部内面：摩滅	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR8/1灰白	長石・石英を含む	
227	弥生土器 甕	12.0		(5.4)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで，指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/6橙	長石・石英・角閃石を含む	
228	弥生土器 甕	15.8		(16.1)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR5/2灰黄褐	長石・石英・角閃石を含む	
229	弥生土器 高杯	24.8		(3.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：2.5Y8/1灰白	長石・石英を含む	口縁部から杯部内面：黒斑
230	弥生土器 高杯		16.0	(2.8)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：10YR8/2灰白	長石・石英・角閃石を含む	円形透かし
231	弥生土器 高杯	25.7	18.1	18.6	杯部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き，なで 脚部内面：篦削り	外面：7.5YR7/6橙 内面：7.5YR5/6明褐	長石・石英等を含む	脚柱部・脚据部：3個ずつ円形透かし
232	弥生土器 大型鉢	41.6		17.1	外面：篦削り 内面：篦磨き	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英・角閃石を含む	外面：黒斑
233	弥生土器 大型鉢	40.6		(19.0)	外面：摩滅 体部内面：篦磨き 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英・角閃石を含む	
234	弥生土器 大型鉢	体部径 39.6	6.7	(41.0)	外面：篦磨き 内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：2.5YR7/1灰白	長石・石英を含む	
235	弥生土器 広口壺	12.7		(11.6)	頸部外面：刷毛目 口縁部外面：横なで 頸部内面：指頭圧痕 口縁部内面：横なで	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・雲母を含む	
236	弥生土器 広口壺	17.8		(6.8)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：2.5Y8/3淡黄 内面：2.5Y8/4淡黄	長石・石英等を含む	
237	弥生土器 広口壺	16.0		(5.4)	頸部外面：刷毛目 頸部内面：指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石を含む	
238	弥生土器 広口壺		5.6	26.7	頸部外面：刷毛目 体部上半外面：篦磨き 体部下半外面：篦磨き 体部下半内面：篦削り	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	長石・角閃石・花崗岩等を含む	
239	弥生土器 二重口縁甕	11.4		(3.2)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部内面：篦削り	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・角閃石を含む	
240	弥生土器 甕	13.0		(7.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：刷毛目 体部内面：篦による当て痕	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・雲母・角閃石を含む	
241	弥生土器 甕	14.0		(8.1)	体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：2.5Y8/2灰白 内面：2.5Y8/1灰白	長石を含む	
242	弥生土器 甕	14.3		(4.5)	体部上半外面：刷毛目 口縁部外面：横なで 体部上半内面：刷毛目 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・雲母を含む	
243	弥生土器 甕	15.3		(12.4)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：刷毛目，指頭圧痕，なで 体部下半内面：篦削り，指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・金雲母・石英等を含む	体部：煤付着
244	弥生土器 甕	13.6		(12.4)	体部上半外面：刷毛目 口縁部外面：横なで 体部上半内面：刷毛目，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	長石・石英・雲母を含む	
245	弥生土器 甕	13.2		(7.4)	体部上半外面：刷毛目 口縁部外面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕 口縁部内面：横なで	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石を含む	
246	弥生土器 甕	17.0		(7.9)	口縁部外面：横なで 体部上半内面：なで 口縁部内面：横なで	外面：5YR6/6橙 内面：5YR6/4にぶい橙	長石を含む	
247	弥生土器 甕	17.2		(6.0)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・雲母を含む	
248	弥生土器 甕	14.8		(5.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：10YR5/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英・雲母を含む	
249	弥生土器 甕	16.4		(8.0)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・雲母を含む	
250	弥生土器 鉢	23.7		(6.5)	口縁部外面：なで 体部上半外面：なで，指頭圧痕 口縁部内面：なで 体部上半内面：篦削り	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・金雲母等を含む	
251	弥生土器 高杯	14.0		(6.3)	口縁部外面：横なで 杯部外面：篦削り，篦磨き 口縁部内面：横なで 杯部内面：篦磨き	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
252	弥生土器 高杯	23.4		(4.6)	外面：横なで 内面：横なで	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	雲母・長石・角閃石を含む	
253	弥生土器 高杯	23.8		(3.5)	口縁部外面：横なで 杯部外面：横なで 杯部底部外面：なで，篦磨き 口縁部内面：横なで 杯部内面：横なで，刷毛目 杯部底部内面：なで，刷毛目	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・角閃石・金雲母等を含む	
254	弥生土器 底部		7.8	(3.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5Y5/1黄灰 内面：5YR6/4にぶい橙	長石・石英を含む	
255	弥生土器 底部		7.8	(2.0)	外面：なで 内面：摩滅	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/2灰黄褐	石英を含む	
256	弥生土器 底部		5.4	(5.3)	外面：叩き目，なで 内面：指頭圧痕，なで	外面：2.5Y6/3にぶい黄 内面：2.5Y7/2灰黄	石英を含む	

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
257	弥生土器 底部		4.4	(4.0)	外面：なで，指頭圧痕，叩き目 内面：なで，刷毛目	外面：2.5YR6/6橙 内面：2.5YR6/6橙	長石・石英・金雲母等を含む	
258	弥生土器 底部		3.0	(4.5)	外面：なで，刷毛目 内面：指頭圧痕，なで，刷毛目	外面：7.5YR8/3浅黄橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	長石・石英等を含む	外面：黒斑
259	弥生土器 底部		4.0	(3.4)	底部外面：摩滅 底部内面：板なで	外面：2.5YR8/2灰白 内面：2.5YR8/2灰白	長石を含む	
260	弥生土器 底部		3.5	(3.2)	外面：指頭圧痕，篦削り 内面：なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：2.5YR8/2灰白	石英・長石・角閃石を含む	
261	弥生土器 底部			(4.0)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR5/1褐灰 内面：10YR8/3浅黄橙	石英・雲母を含む	
262	弥生土器 底部		4.8	(5.1)	外面：篦磨き 内面：摩滅	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR8/1灰白	長石・石英・雲母を含む	
263	弥生土器 底部		5.8	(2.8)	外面：篦磨き 内面：なで	外面：10YR5/3にぶい黄橙 内面：10YR5/3にぶい黄橙	長石・角閃石・花崗岩を含む	外面：黒斑
264	弥生土器 底部		5.6	(3.1)	外面：篦磨き 内面：なで，指頭圧痕	外面：5Y2/2オリーブ灰 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
265	弥生土器 広口壺	16.2		(3.8)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・雲母を含む	
266	弥生土器 広口壺	13.2		(8.0)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面；横なで 頸部内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・雲母を含む	
267	弥生土器 広口壺			(10.2)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR4/1褐灰	石英を含む	
268	弥生土器 広口壺	11.4		(6.3)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・角閃石等を含む	
269	弥生土器 甕	14.0		(9.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：摩滅 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/6橙 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
270	弥生土器 甕	13.4		(6.7)	外面：なで，刷毛目 内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・雲母を含む	
271	弥生土器 甕	16.0		(5.3)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・雲母を含む	
272	弥生土器 甕	17.6		(3.2)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR7/4にぶい橙	長石を含む	
273	弥生土器 小型鉢	7.8	2.1	5.0	体部外面：板なで 体部内面：なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石を含む	外面：黒斑
274	弥生土器 ミニチュア土器		3.4	(5.1)	外面：指頭圧痕 底部外面：なで 底部内面：なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR7/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	
275	弥生土器 底部		2.1	(7.0)	外面：叩き目，刷毛目 内面：板なで，指頭圧痕，なで	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・金雲母等を含む	外面：黒斑
276	弥生土器 底部		4.2	(5.3)	外面：摩滅 内面：指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・雲母等を含む	
277	弥生土器 底部		4.2	(4.4)	外面：篦磨き 内面：なで	外面：7.5YR7/2明褐灰 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石・石英を含む	
278	弥生土器 底部		3.9	(2.4)	外面：指頭圧痕 内面：摩滅	外面：2.5YR6/6橙 内面：5YR6/6橙	長石・石英を含む	
279	弥生土器 広口壺	18.0		(8.8)	口縁端部外面：横なで 頸部外面：横なで 体部上半外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕，なで 体部上半内面：なで	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石・金雲母等を含む	
280	弥生土器 広口壺	16.2		(6.6)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・角閃石・雲母を含む	
281	弥生土器 壺	24.4		(2.3)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：10YR8/4浅黄橙 内面：10YR8/2灰白	長石・石英を含む	口縁部外面：鋸歯文 口縁端部：刻み目文
282	弥生土器 壺			(4.8)	外面：篦磨き 内面：篦磨き	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR4/1褐灰	長石・石英を含む	櫛描直線文５条１束
283	弥生土器 壺	22.0		(5.3)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英を含む	
284	弥生土器 甕	16.6		(6.1)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
285	弥生土器 小型鉢		3.6	5.6	底部外面：叩き目，なで 体部外面：なで 内面：板なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：10YR7/3にぶい黄橙	長石・石英を含む	内面：黒斑
286	弥生土器 鉢	20.6		7.2	口縁部外面：横なで 体部外面：板なで，叩き目 口縁部内面：横なで 体部内面：刷毛目	外面：10YR8/3浅黄橙 内面：10YR8/2灰白	長石・石英を含む	体部外面：黒斑
287	弥生土器 高杯	12.4		(4.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：5YR6/6橙 内面：5YR6/6橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
288	弥生土器 高杯	21.8		(4.9)	口縁部外面：横なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母を含む	
289	弥生土器 高杯			(4.7)	杯部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き 脚部内面：板なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英・雲母を含む	
290	弥生土器 高杯			(6.4)	外面：摩滅 頸部内面：絞り目 脚部内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石・角閃石を含む	
291	弥生土器 小型丸底壺		1.6	(4.8)	外面：摩滅 体部上半内面：なで 体部下半内面：指頭圧痕，刷毛目	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・角閃石・金雲母を含む	
292	磨製石器 投弾	長さ 6.8	幅 4.4	厚さ 3.7		外面：N8/灰白	砂岩	
293	弥生土器 大型鉢	33.8		22.0	口縁部外面：叩き目 体部外面：叩き目，細かい篦磨き 口縁部内面：粗い篦磨き 体部内面：粗い篦磨き	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	

遺物番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
294	弥生土器 壺	15.2		(22.7)	外面：摩滅 口縁部内面：横なで 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR7/6橙 内面：5YR6/6橙	長石・石英・花崗岩等を含む	体部外面：黒斑
295	弥生土器 壺			(12.8)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
296	弥生土器 壺	22.3		(34.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
297	弥生土器 底部		7.2	(6.8)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR8/1灰白 内面：10YR8/1灰白	長石・花崗岩を含む	
298	弥生土器 底部		4.7	(4.1)	外面：板なで 内面：摩滅	外面：10YR5/3にぶい黄褐 内面：10YR5/3にぶい黄褐	石英・長石を含む	外面：黒斑
299	弥生土器 底部		5.0	(2.7)	外面：篦磨き 内面：摩滅	外面：7.5YR8/1灰白 内面：10YR5/1褐灰	小石を含む	
300	弥生土器 底部		4.2	(3.2)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR3/1黒褐 内面：10YR7/2灰白	石英を含む	
301	弥生土器 底部		5.0	(2.1)	外面：篦磨き 内面：なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英を含む	
302	弥生土器 底部		2.8	(2.8)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/4にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	外面：煤付着
303	弥生土器 底部		2.4	(2.3)	底部外面：なで，指頭圧痕 底部内面：刷毛目	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
304	弥生土器 底部		6.4	(3.3)	体部外面：刷毛目 底部外面：なで 底部内面：なで	外面：10YR7/4にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英を含む	
305	弥生土器 壺	17.0		(4.6)	口縁部外面：横なで 体部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
306	弥生土器 壺			(6.2)	体部外面：刷毛目 体部内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石・角閃石を含む	頸部外面：押圧凸帯文
307	弥生土器 甕	13.8		(4.5)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：10YR5/4にぶい黄褐 内面：10YR5/4にぶい黄褐	長石・角閃石・金雲母を含む	
308	弥生土器 ミニチュア土器	10.0		(5.6)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：粗い刷毛目 体部内面：なで	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	長石・石英を含む	
309	弥生土器 底部		8.5	(6.9)	体部外面：篦磨き 底部外面：板なで 内面：なで	外面：10YR7/1灰白 内面：10YR4/1褐灰	長石・石英を含む	
310	弥生土器 底部		5.0	(3.3)	体部外面：篦磨き 底部外面：篦磨き 体部内面：篦削り 底部内面：篦削り	外面：7.5YR2/1黒 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英を含む	
311	弥生土器 甕	体部径 16.2		(6.4)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：篦磨き	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：5YR6/4にぶい橙	長石・石英を含む	体部外面：櫛描直線文，烈点文，黒斑
312	弥生土器 壺	9.8		(9.3)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石・石英を含む	頸部外面：櫛描直線文，簾状文
313	弥生土器 広口壺	16.4		(6.0)	口縁部外面：横なで 頸部外面：横なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：5YR6/4にぶい橙	長石・石英を含む	
314	弥生土器 壺	18.0		(2.4)	外面：指頭圧痕，板なで 内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英を含む	口縁部：波状文
315	弥生土器 甕	17.3		(6.8)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：摩滅	外面：5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR7/4にぶい橙	長石・石英を含む	
316	弥生土器 甕	13.0		(9.4)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：なで，刷毛目	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR5/1褐灰	長石・角閃石を含む	
317	弥生土器 鉢	16.1		(7.1)	口縁部外面：横なで 外面：摩滅 口縁部内面：横なで 内面：摩滅	外面：10YR8/1灰白 内面：2.5YR7/6橙	長石・石英を含む	
318	弥生土器 底部		9.0	(5.8)	体部外面：なで 内面：摩滅	外面：7.5YR7/6橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英を含む	
319	弥生土器 底部		13.0	(5.3)	体部外面：なで 底部外面：なで 体部内面：なで 底部内面：なで	外面：10YR6/1褐灰 内面：10YR6/2灰黄褐	石英含む	
320	弥生土器 高杯			(4.1)	杯部外面：篦削り 脚部外面：篦磨き 杯部内面：篦磨き 脚部内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：2.5YR6/4にぶい橙	長石・石英を含む	
321	弥生土器 小型壺	3.6		(6.9)	体部上半外面：横なで 体部下半外面：なで 体部内面：板なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・角閃石を含む	体部内外面：黒斑
322	弥生土器 小型鉢		4.2	(5.0)	底部外面：なで 体部下半外面：刷毛目 底部内面：なで 体部下半内面：板なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・角閃石・雲母を含む	底部1箇所，体部下部4箇所円孔
323	弥生土器 製塩土器		2.6	(3.0)	体部下半外面：指頭圧痕 体部上半外面：篦削り 内面：なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・雲母を含む	
324	弥生土器 製塩土器		3.2	(2.3)	外面：なで 内面：なで	外面：7.5YR4/3褐 内面：7.5YR4/3褐	石英・雲母・角閃石を含む	
325	弥生土器 広口壺	20.0		17.5	外面：なで，刷毛目 内面：なで，指頭圧痕	外面：2.5YR7/3淡赤橙 内面：2.5YR7/3淡赤橙	長石・石英等を含む	体部：黒斑
326	弥生土器 広口壺	24.9		(13.0)	外面：横なで，なで 内面：横なで，なで，刷毛目	外面：5Y8/2灰白 内面：5Y8/2灰白	長石・石英等を含む	
327	弥生土器 甕	15.0		(5.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
328	弥生土器 高杯	21.0		(4.7)	口縁部外面：横なで 体部外面：篦削り 口縁部内面：横なで 体部内面：篦磨き	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
329	弥生土器 大型鉢	42.0		(7.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部内面：篦磨き	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	長石・角閃石・雲母を含む	
330	弥生土器 底部		3.8	(4.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR8/2灰白	石英・長石・角閃石を含む	
331	弥生土器 壺			(5.0)	外面：刷毛目 内面：指頭圧痕	外面：10YR4/3にぶい黄褐 内面：2.5Y2/1黒		外面：櫛描直線文，波状文
332	弥生土器 甕	18.6		(8.5)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：篦磨き	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	体部外面：櫛描直線文，櫛描波状文
333	弥生土器 甕	26.4		(9.3)	外面：指頭圧痕，なで 内面：板なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	長石・石英を含む	外面：櫛描直線文，刺突文 口縁端部：刻み目文
334	弥生土器 甕	31.4		(14.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：摩滅	外面：10YR6/1褐灰 内面：2.5Y8/4淡黄	石英・長石を含む	外面：沈線32条，4条刷毛目 口縁部：刺突文
335	弥生土器 甕	体部径 17.9		(14.0)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・雲母を含む	体部下半：煤付着
336	弥生土器 底部		2.4	(7.0)	体部外面：摩滅 底部外面：指頭圧痕 内面：なで，篦状痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・角閃石を含む	
337	弥生土器 高杯			(4.2)	杯部外面：篦磨き 体部内面：篦磨き	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英・雲母を含む	
338	弥生土器 広口壺	18.0		(6.2)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
339	弥生土器 高杯			(4.5)	杯部外面：篦削り，篦磨き 杯部内面：篦磨き	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR5/3にぶい黄褐	石英・長石・角閃石・金雲母を含む	
340	弥生土器 高杯	34.0		(4.1)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
341	弥生土器 底部		7.5	(2.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英を含む	
342	弥生土器 製塩土器		3.3	(4.0)	体部外面：叩き目 体部下半外面：指頭圧痕 内面：摩滅	外面：7.5YR6/2灰褐 内面：7.5YR6/2灰褐	長石を含む	
343	弥生土器 長頸壺	体部径 19.6		(14.2)	外面：なで，篦磨き 内面：指頭圧痕，篦削り	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石・角閃石・金雲母等を含む	
344	弥生土器 甕	16.0		(17.8)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：細かい刷毛目 体部下半外面：刷毛目，篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：刷毛目，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR5/2褐灰 内面：7.5YR5/2褐灰	石英・長石・角閃石を含む	体部外面：黒斑
345	弥生土器 甕	体部径 30.0		(18.4)	体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 体部上半内面：なで，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：10YR5/2灰黄褐	長石・角閃石・金雲母を含む	
346	弥生土器 高杯	20.4		(5.5)	口縁部外面：横なで 杯部外面：篦削り，篦磨き 口縁部内面：横なで 杯部内面：篦磨き	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
347	弥生土器 底部		7.0	(4.6)	外面：板なで 内面：指頭圧痕	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：2.5Y8/3淡黄	長石・石英を含む	
348	弥生土器 甕	15.0		(8.1)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・雲母を含む	
349	弥生土器 甕	12.6		(8.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：なで，指頭圧痕	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石を含む	内面：黒斑
350	弥生土器 甕	13.6		(14.4)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：なで，指頭圧痕 体部下半内面：篦削り，なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：10YR5/3にぶい黄褐	長石を含む	
351	弥生土器 底部		4.2	(3.8)	体部外面：叩き目 底部外面：篦磨き	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：7.5YR5/6明褐	石英・雲母を含む	
352	弥生土器 壺	20.0		3.0	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・角閃石・金雲母を含む	口縁端部：波状文
353	弥生土器 高杯	21.6		(7.5)	口縁部外面：横なで 杯部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 杯部内面：篦磨き	外面：7.5YR6/6橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	
354	弥生土器 甕	12.8		(5.5)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石を含む	
355	弥生土器 製塩土器		2.8	(2.9)	外面：なで，指頭圧痕 内面：なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・角閃石・金雲母を含む	
356	弥生土器 大型鉢	39.6		(6.9)	口縁部外面：横なで 杯底部外面：篦削り 口縁部内面：横なで 杯底部内面：横なで，刷毛目	外面：5YR5/4にぶい赤褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・角閃石・金雲母等を含む	
357	弥生土器 甕	18.8		(7.7)	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 口縁部内面：横なで 体部内面：篦磨き	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	体部外面：櫛描直線文，烈点文
358	弥生土器 底部		5.8	(5.0)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英を含む	
359	弥生土器 甕	14.0		(10.9)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：板なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕，なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石を含む	
360	弥生土器 甕	15.0		(8.1)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：摩滅 口縁部内面：横なで 体部上半内面：篦削り，指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：2.5YR5/1黄灰	石英・長石・雲母を含む	

遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
361	弥生土器 甕	13.6		(6.2)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：篦削り	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石を含む	
362	弥生土器 甕	14.8		(5.8)	外面：摩滅 内面：横なで，なで	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石を含む	
363	弥生土器 甕	16.0		(1.8)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：7.5YR6/3にぶい橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	石英・雲母を含む	
364	弥生土器 甕	15.2		(2.6)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石を含む	
365	弥生土器 短頸壺	10.4		(9.6)	口縁部外面：横なで 体部外面：板なで 口縁部内面：横なで 体部内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	外面：黒斑
366	弥生土器 鉢	18.5	7.4	8.2	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	長石・角閃石を含む	
367	弥生土器 壺			(8.1)	体部上半外面：なで 体部上半内面：なで	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	内面：凸帯 伊予今治の阿方系
368	弥生土器 ミニチュア土器	4.9		(3.2)	外面：摩滅 体部内面：なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/2灰褐	長石・角閃石を含む	
369	弥生土器 高杯			(5.5)	外面：摩滅 内面：絞り目	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/1灰白	石英・長石を含む	
370	弥生土器 高杯			(4.0)	外面：篦磨き 内面：篦磨き	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
371	弥生土器 高杯	24.9	15.6	15.3	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：7.5YR7/6橙 内面：7.5YR7/6橙	石英・長石・角閃石を含む	円孔1×4箇所×2段
372	弥生土器 高杯	30.0		(5.6)	口縁部外面：なで 杯部外面：なで，篦磨き 杯部内面：なで 杯底部内面：篦磨き	外面：7.5YR4/3褐 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石・金雲母等を含む	
373	弥生土器 大型鉢	42.0		(7.4)	外面:横なで,篦削り 内面：横なで，刷毛目	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
374	弥生土器 底部		5.4	(9.3)	体部外面：篦磨き 体部内面：篦削り	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：10YR6/2灰黄褐	花崗岩・長石を含む	
375	弥生土器 底部		5.0	(4.9)	体部外面：篦磨き，なで 底部外面：篦磨き 内面：摩滅	外面：2.5Y7/3浅黄 内面：10YR7/3にぶい黄橙	花崗岩・長石・角閃石を含む	
376	弥生土器 底部		4.7	(6.9)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5Y7/2灰黄 内面：2.5Y7/2灰黄	石英・長石を含む	
377	弥生土器 底部		6.0	(9.4)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5Y6/2黄灰 内面：2.5Y6/2黄灰	石英・長石を含む	
378	弥生土器 底部		7.0	(5.2)	外面：なで 内面：なで	外面：5YR6/6橙 内面：7.5YR6/6橙	石英を含む	
379	弥生土器 底部		7.3	(3.7)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：10YR8/1灰白 内面：10YR5/1褐灰	石英・長石を含む	底部外面：黒斑
380	弥生土器 底部		6.0	(5.2)	外面：なで 外面：なで	外面：10R5/4赤褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英を含む	
381	弥生土器 広口壺	15.8		(6.9)	口縁部外面：横なで 頸部外面：なで 口縁部内面：横なで 頸部内面：工具当て痕	外面：5YR6/6橙 内面：5YR6/6橙	石英を含む	
382	弥生土器 広口壺	18.8		(6.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：10YR6/3にぶい黄橙 外面：10YR5/1褐灰	長石・角閃石・雲母を含む	
383	弥生土器 壺	14.0		(7.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部内面：板なで，指頭圧痕	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	頸部外面：押圧凸帯 口縁部外面：刻み目文
384	弥生土器 甕	21.6		(8.1)	体部外面：叩き目 体部内面：摩滅	外面：10YR8/3浅黄橙 内面：10YR8/2灰白	石英・長石を含む	
386	弥生土器 甕	14.8		(4.9)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：2.5Y8/1灰白 内面：10YR8/1灰白	石英を含む	
387	弥生土器 甕	7.9		(5.2)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	長石・角閃石・雲母を含む	
388	弥生土器 甕	14.0		(13.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕，篦削り	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	体部外面：黒斑
389	弥生土器 甕	38.0		(3.7)	口縁部外面：なで 口縁部内面：なで	外面：10YR8/2灰白 内面：10YR8/2灰白	石英・長石等を含む	口縁端部：刻み目文
390	弥生土器 高杯	25.0		(6.0)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石を含む	
391	弥生土器 高杯	22.6		(6.9)	杯部外面：篦磨き 口縁部外面：横なで 杯部内面：篦磨き 口縁部内面：横なで	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	長石・石英・雲母を含む	
392	弥生土器 小型鉢	8.2	5.0	8.3	体部外面：なで 底部外面：指頭圧痕 体部内面：なで 底部内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・雲母を含む	
393	弥生土器 小型鉢		3.2	(5.9)	体部外面：なで 底部外面：指頭圧痕 体部内面：なで 底部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR8/3浅黄橙 内面：10YR8/2灰白	石英を含む	
394	弥生土器 製塩土器		3.0	(2.2)	体部外面：なで 底部外面：指頭圧痕 体部内面：なで 底部内面：なで	外面：10YR5/3にぶい黄褐 内面：10YR5/3にぶい黄褐	石英・雲母・角閃石を含む	
395	弥生土器 底部		6.7	(16.5)	外面：なで，刷毛目 内面：なで，粗い刷毛目，指頭圧痕	外面：7.5YR8/2灰白 内面：7.5YR8/3浅黄橙	石英・長石を含む	外面：黒斑
396	弥生土器 底部			(13.0)	体部下半外面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り，指頭圧痕	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y7/1灰白	石英・長石を含む	底部外面：黒斑
397	弥生土器 底部			(7.0)	外面：叩き目，なで 内面：叩き目，なで	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石を含む	外面：黒斑
398	弥生土器 底部		5.4	(4.1)	外面：刷毛目 内面：なで	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：10YR7/3にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母を含む	
399	弥生土器 広口壺	15.2		(7.0)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕，なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：5YR6/4にぶい橙	長石・石英・雲母を含む	口縁部内面：黒斑
400	弥生土器 広口壺	16.8		(6.8)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：指頭圧痕，刷毛目	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英・長石を含む	

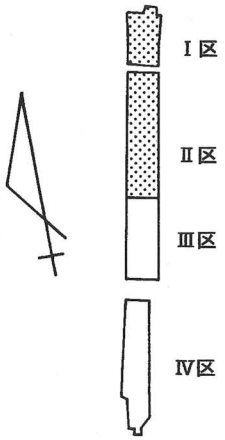
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
401	弥生土器 広口壺	16.4		(7.4)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：摩滅	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい橙	長石・石英・雲母を含む	
402	弥生土器 広口壺	16.4		(5.4)	口縁部外面：横なで 頸部外面：粗い刷毛目 口縁部内面：横なで 頸部内面：なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/2灰褐	石英を含む	
403	弥生土器 広口壺	15.0		(15.0)	口縁部外面：横なで 頸部外面：刷毛目 体部上半外面：粗い刷毛目 体部下半外面：細かい刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕，なで 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
404	弥生土器 甕	14.9	3.0	(23.2)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目，叩き目 体部下半外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：刷毛目 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR7/8黄橙 内面：7.5YR7/8黄橙	長石・花崗岩・雲母を含む	
405	弥生土器 甕	12.5	4.2	16.0	口縁部外面：横なで 体部外面：なで 底部外面：篦磨き 体部内面：指頭圧痕，なで	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	内面：黒斑
406	弥生土器 甕	18.2		(5.1)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石を含む	
407	弥生土器 甕	14.6		(6.9)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：5YR5/4にぶい赤褐 内面：7.5YR6/4にぶい橙	砂粒を含む	
408	弥生土器 甕	15.6		(5.5)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	
409	弥生土器 甕	12.4		(8.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：細かい刷毛目 口縁部内面：粗い刷毛目 体部内面：粗い刷毛目	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
410	弥生土器 甕	10.6		(9.6)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/2灰褐 内面：10YR6/2黄褐	長石・石英・雲母を含む	頸部外面：段
411	弥生土器 甕	13.0		(4.0)	口縁部外面：横なで 体部外面：叩き目 口縁部内面：横なで 体部内面：篦削り	外面：2.5Y8/2灰白 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
412	弥生土器 甕	10.2		(7.7)	口縁部外面：なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横刷毛目 体部内面：板なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	石英・角閃石・雲母を含む	
413	弥生土器 甕	体部径 11.2		(8.5)	外面：叩き目 内面：摩滅	外面：10Y8/2灰白 内面：10YR7/2にぶい黄橙	石英を含む	
414	弥生土器 甕	体部径 13.8		(10.5)	体部上半外面：刷毛目 体部内面：縦篦削り，指頭圧痕	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石を含む	体部外面：黒斑
415	弥生土器 甕	15.6		(6.4)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
416	弥生土器 甕	19.4		(6.4)	口縁端部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁端部内面：横なで	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	口縁端部：凹線３条
417	弥生土器 小型丸底壺	8.8		6.7	口縁部外面：横なで 体部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで 体部上半内面：篦削り 体部下半内面：指頭圧痕	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	体部：穿穴
418	弥生土器 大型鉢	42.2		(9.7)	口縁部外面：横なで 体部外面：篦削り 口縁部内面：横なで 体部内面：なで，刷毛目	外面：10YR6/3にぶい黄橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石・雲母を含む	
419	弥生土器 小型鉢	11.5		5.1	口縁部外面：なで 体部外面：なで，指頭圧痕 底部外面：板なで 口縁部内面：横刷毛目 体部内面：篦磨き 底部内面：篦磨き	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
420	弥生土器 鉢	16.8		(8.3)	体部外面：刷毛目 体部上半内面：板なで 体部下半内面：篦削り	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR5/4にぶい褐	石英・長石・角閃石を含む	
421	弥生土器 鉢	22.0		9.1	口縁部外面：横なで 体部外面：なで，指頭圧痕 口縁部内面：横なで 体部内面：板なで	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：7.5YR7/2明褐灰	石英を含む	
422	弥生土器 高杯			(3.9)	杯部外面：篦削り，なで 杯部内面：篦磨き 脚部内面：絞り目	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	石英・長石・金雲母を含む	
423	弥生土器 高杯			(3.1)	外面：摩滅 杯部内面：篦磨き	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	
424	弥生土器 高杯			(6.7)	脚柱部外面：摩滅 脚柱部内面：絞り目	外面：2.5Y8/1灰白 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
425	弥生土器 製塩土器			(4.9)	体部外面：板なで 脚部外面：指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕	外面：5YR7/4にぶい橙 内面：7.5YR7/4 にぶい橙	長石・石英・雲母を含む	
426	弥生土器 台付鉢		3.6	(3.2)	脚部外面：なで 体部下半内面：指頭圧痕	外面：10YR6/4にぶい黄橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母を含む	底部外面：煤付着
427	弥生土器 ミニチュア土器		3.4	(4.8)	外面：摩滅 内面：なで	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR5/3にぶい黄褐	石英・長石・角閃石を含む	
428	弥生土器 底部		3.7	(6.2)	体部外面：刷毛目 底部外面：刷毛目 体部内面：刷毛目 底部内面：刷毛目	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：2.5Y5/1黄灰	石英・長石・角閃石を含む	
429	弥生土器 底部		3.0	(3.8)	体部下半外面：叩き目 底部外面：叩き目，なで 底部内面：板なで，指頭圧痕	外面：10YR4/1褐灰 内面：7.5YR8/3浅黄橙	石英・雲母を含む	
430	弥生土器 底部		3.2	(9.1)	外面：叩き目，刷毛目 底部外面：刷毛目 内面：摩滅	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：5YR6/6橙	石英・長石を含む	外面：黒斑

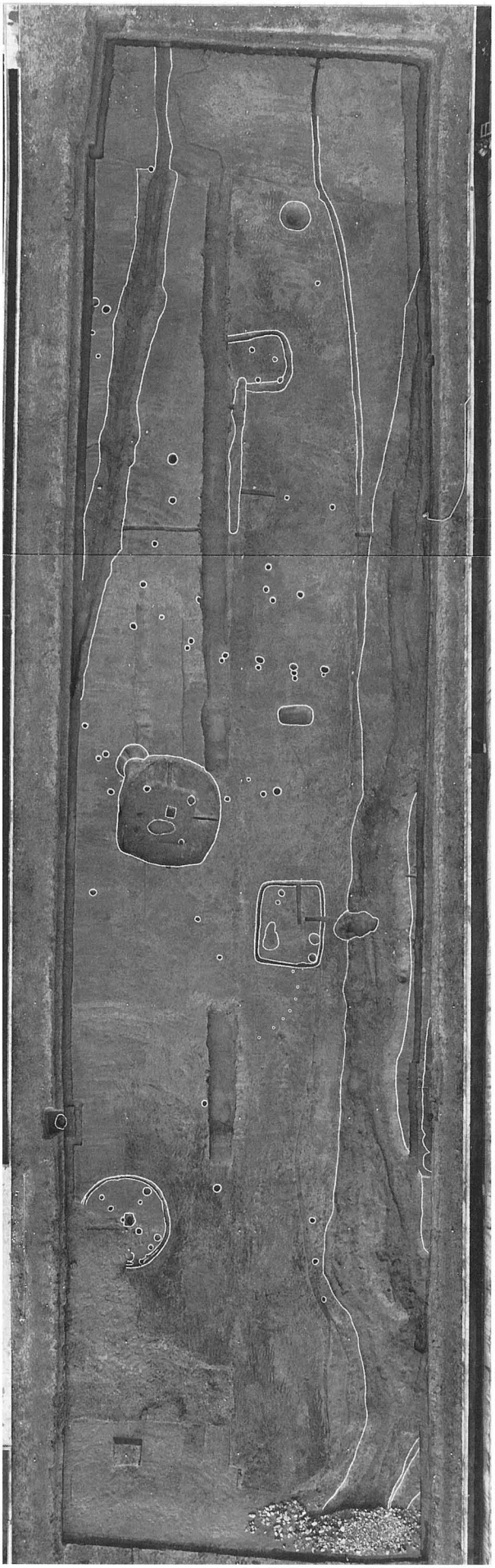
遺物番号	器種	法量(cm) 口径	底径	器高	形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
431	弥生土器 底部		5.3	(5.1)	底部外面：刷毛目 底部内面：なで	外面：10YR5/1褐灰 内面：10YR5/1褐灰	長石・石英・雲母を含む	
432	弥生土器 底部		7.0	(6.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：2.5Y7/6橙 内面：2.5Y8/2灰白	石英・長石を含む	
433	弥生土器 底部		4.6	(5.2)	底部外面：篦磨き 底部内面：指頭圧痕	外面：2.5Y5/1黄灰 内面：7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・雲母を含む	
434	弥生土器 底部		2.8	(2.6)	外面：摩滅 内面：板なで	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・花崗岩等を含む	内外面：黒斑
435	弥生土器 壺	20.0		(6.9)	外面：なで，刷毛目 内面：なで，刷毛目	外面：7.5YR4/1褐灰 内面：7.5YR5/2灰褐	石英・長石を含む	外面：押圧突帯文
436	弥生土器 甕	14.6		(3.9)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	長石・角閃石・雲母を含む	
437	弥生土器 甕	17.4		(4.7)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：10YR6/2灰黄褐	長石・石英・雲母を含む	
438	弥生土器 甕	15.4		(6.7)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR7/2にぶい黄橙	長石・石英・角閃石・雲母を含む	
439	弥生土器 甕	16.8		(7.2)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
440	弥生土器 甕	15.0		(7.4)	口縁部外面：横なで 体部外面：刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/3にぶい褐 内面：7.5YR6/3にぶい褐	長石・石英・角閃石・雲母を含む	
441	弥生土器 甕	16.8		(11.3)	口縁部外面：横なで 体部外面：粗い刷毛目 口縁部内面：横なで 体部内面：板なで，指頭圧痕	外面：7.5YR5/3にぶい褐 内面：7.5YR5/3にぶい褐	長石・石英・角閃石・雲母を含む	
442	弥生土器 甕	12.8		(7.0)	口縁部外面：横なで 体部上半外面：叩き目，刷毛目 口縁部内面：横なで 体部上半内面：刷毛目	外面：5YR8/3淡橙 内面：5YR8/4淡橙	長石を含む	
443	弥生土器 小型丸底壺	9.8		7.9	口縁部外面：横なで，篦磨き 体部外面：篦磨き 口縁部内面：横なで，指頭圧痕 体部内面：篦削り，指頭圧痕	外面：10YR7/2にぶい黄橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	長石・石英・雲母を含む	体部外面：煤付着
444	弥生土器 小型鉢	9.9		4.5	体部外面：指頭圧痕 口縁部内面：横なで，指頭圧痕 体部内面：指頭圧痕	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/6橙	長石・石英・雲母を含む	
445	弥生土器 甑		1.4	(3.4)	外面：板なで 内面：なで	外面：2.5Y8/2灰白 内面：2.5Y8/2灰白	長石・石英・雲母を含む	内外面：黒斑
446	弥生土器 甕	38.0		(5.1)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：5Y3/1オリーブ黒 内面：2.5Y6/2灰黄	石英・長石を含む	口縁端部：刻み目文
447	弥生土器 製塩土器		3.1	(1.0)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：5YR5/4にぶい赤褐	長石・角閃石を含む	
448	須恵器 杯身	12.3		4.7	口縁部外面：回転なで 体部外面：回転なで 口縁部内面：回転なで 体部内面：回転なで	外面：N5/灰 内面：N6/灰	長石を含む	
449	弥生土器 広口壺	頸部径 8.4		(9.5)	外面：なで，刷毛目 内面：なで，指頭圧痕	外面：5YR6/6橙 内面：5YR5/6明赤褐	石英・長石・角閃石を含む	
450	須恵器 杯　蓋	10.2		(4.0)	外面：回転なで 頂部外面：回転篦削り 内面：回転なで	外面：N8/灰白 内面：N8/灰白	石英・長石を含む	
451	須恵器 杯　蓋	14.0		(2.8)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：N7/灰白 内面：N7/灰白	石英を含む	
452	須恵器 杯　蓋			(2.2)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：N8/灰白 内面：N8/灰白	石英・長石を含む	
453	須恵器 杯	11.4		(3.5)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：5Y6/1灰 内面：7.5Y7/1灰白	長石を含む	
454	須恵器 杯	17.0		(3.5)	外面：回転なで 内面：回転なで	外面：N7/灰白 内面：N7/灰白	長石を含む	
455	弥生土器 甕	14.4	4.0	13.7	口縁部外面：横なで 体部外面：摩滅 口縁部内面：横なで 体部上半内面：指頭圧痕	外面：5YR6/6橙 内面：2.5YR6/6橙	石英・長石を含む	
456	弥生土器 底部			(8.8)	底部外面：粗い刷毛目 底部内面：粗い刷毛目	外面：10YR7/1灰白 内面：2.5Y8/1灰白	石英・長石を含む	底部外面：黒斑
457	弥生土器 高杯	22.0		(5.3)	外面：摩滅 内面：摩滅	外面：5YR6/6橙 内面：5YR6/6橙	石英・長石を含む	
458	弥生土器 高杯		19.0	(4.6)	外面：篦磨き 内面：篦削り	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石を含む	
459	弥生土器 高杯		17.0	(10.0)	脚部外面：なで 脚部内面：篦削り	外面：7.5YR5/4にぶい褐 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・雲母を含む	上段：円孔1個×4箇所 下段：円孔2個×3箇所
460	弥生土器 小型脚付壺			(3.3)	外面：なで 内面：なで	外面：7.5YR7/3にぶい橙 内面：10YR7/3にぶい黄橙	石英・長石・雲母を含む	
461	弥生土器 高杯			(3.6)	外面：なで 内面：摩滅	外面：10YR7/1灰白 内面：10YR7/1灰白	石英を含む	
462	磨製石器 太型蛤刃石斧	長さ 9.2	幅 5.3	厚さ 3.4		外面：5GY6/1オリーブ灰	砂岩	
463	弥生土器 壺	11.2		(6.4)	外面：なで 内面：摩滅	外面：10YR4/1褐灰 内面：10YR7/1灰白	石英・長石を含む	口縁端部：刻み目文 口縁部外面：櫛描沈線4条1束
464	弥生土器 広口壺	30.0		(4.4)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/2灰黄褐	長石・角閃石・雲母を含む	
465	弥生土器 高杯	21.0		(3.8)	外面：横なで 内面：横なで	外面：10YR5/2灰黄褐 内面：10YR5/2灰黄褐	石英・長石・角閃石を含む	
466	弥生土器 壺　体部			(10.5)	外面：なで 内面：なで	外面：10YR6/2灰黄褐 内面：10YR6/2灰黄褐	石英・長石を含む	外面：黒斑
467	弥生土器 二重口縁壺	19.9		(7.1)	口縁部外面：横なで 口縁部内面：横なで，指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/6橙	長石・雲母を含む	
468	弥生土器 大型壺	体部径 50.8		(50.0)	上半外面：横篦磨き 下半外面：刷毛目 上半内面：剥離 下半内面：刷毛目，なで，指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/2灰褐	石英・長石・角閃石を含む	
469	弥生土器 大型壺	体部径 54.0		(44.7)	体部外面：細かい刷毛目 体部上半内面：指頭圧痕	外面：7.5YR6/4にぶい橙 内面：10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石・角閃石を含む	体部上半：黒斑
470	弥生土器 大型鉢	36.8		(15.8)	外面：篦削り 内面：篦磨き	外面：10YR7/3にぶい黄橙 内面：7.5YR7/3にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	口縁部外面：凹線2条，口縁部内
471	弥生土器 大型壺	体部径 55.2		(64.7)	体部上半外面：刷毛目 底部外面：篦磨き 体部上半内面：指頭圧痕 体部下半内面：篦削り，なで	外面：5YR6/4にぶい橙 内面：7.5YR6/4にぶい橙	石英・長石・角閃石を含む	体部外面：黒斑

参考文献

蔵本晋司 1999「弥生時代終末期の讃岐地域の土器様相について」『中間西井坪遺跡Ⅱ』香川県教育委員会ほか
松本和彦 2000「松並・中所遺跡竪穴住居について」『松並・中所遺跡』香川県教育委員会ほか
森下英治 2001「旧連兵場遺跡の集落構造」『旧連兵場遺跡』善通寺市教育委員会ほか

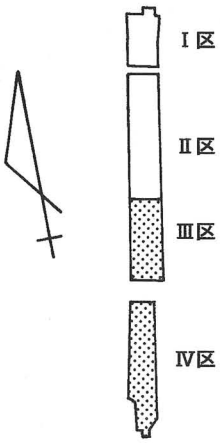
▲1　Ⅰ区（縮尺約1/300，上が略北）

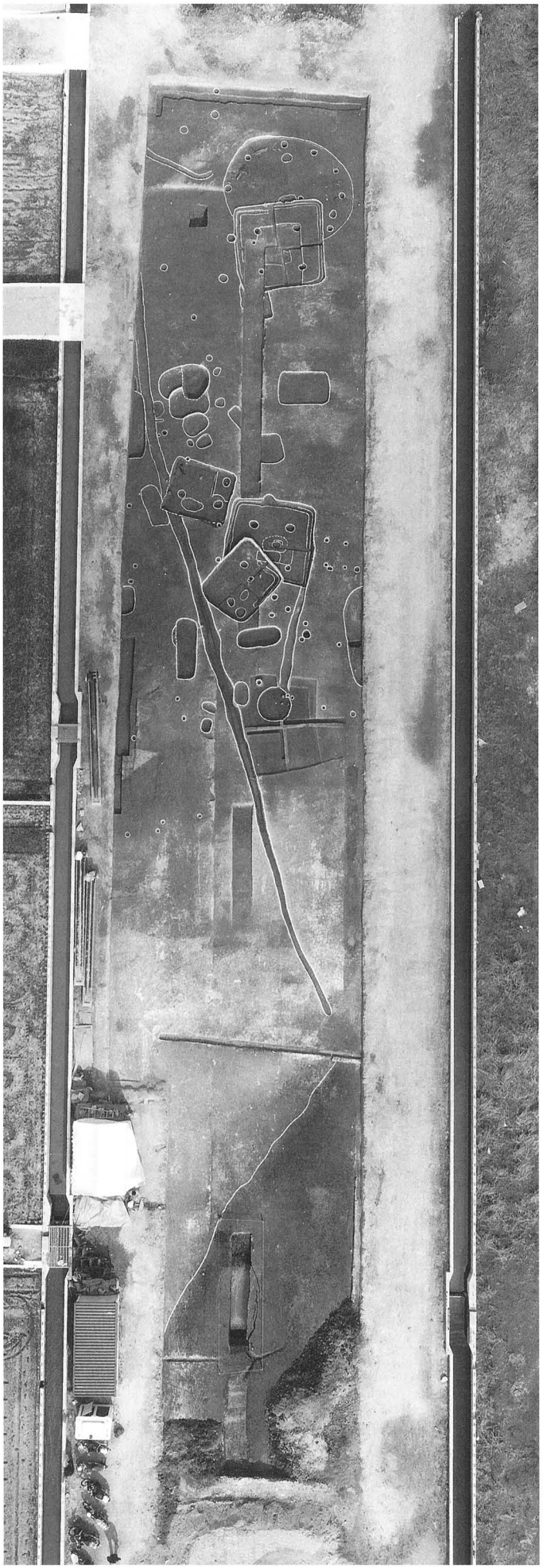




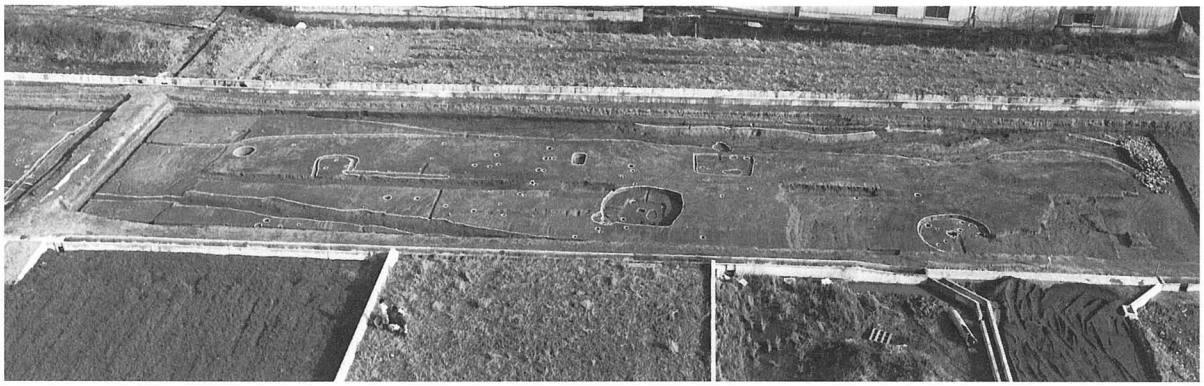
2　Ⅱ区（縮尺約1/300，上が略北）▶

▲1　Ⅲ区（縮尺約1/300，上が略北）

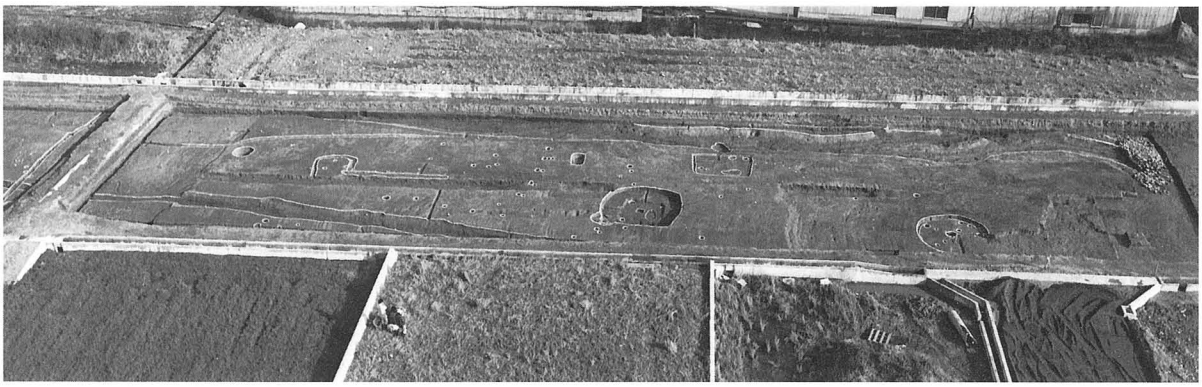




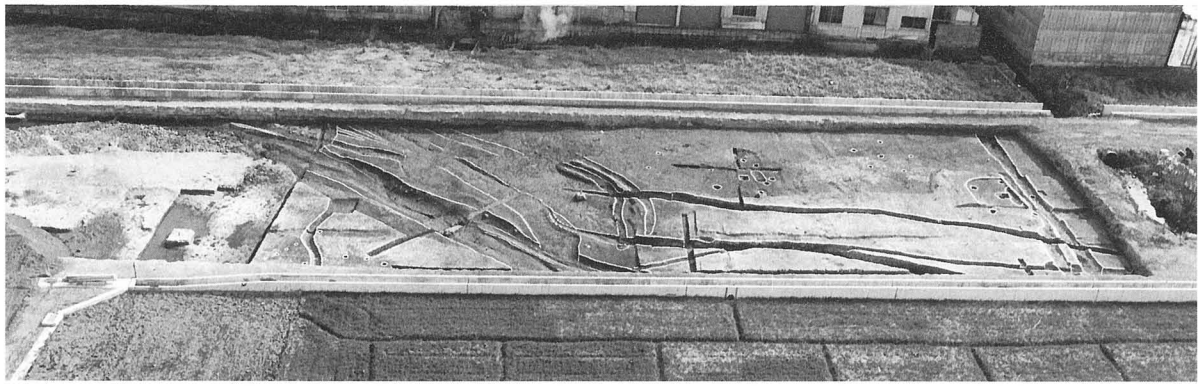
2　Ⅳ区（縮尺約1/300，上が略北）▶



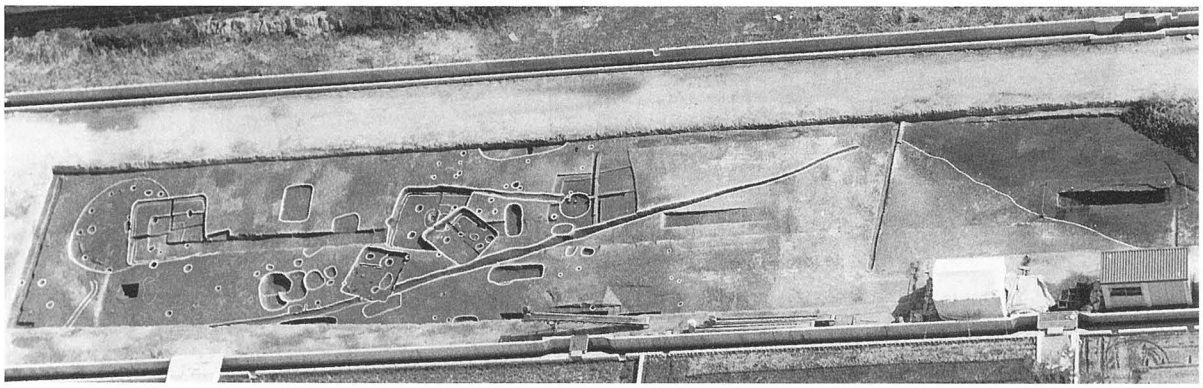
1　Ⅰ区全景（西から）



2　Ⅱ区全景（西から）



3　Ⅲ区全景（西から）

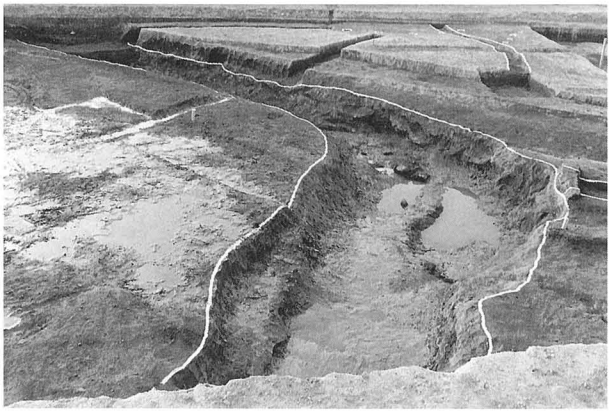


4　Ⅳ区全景（西から）

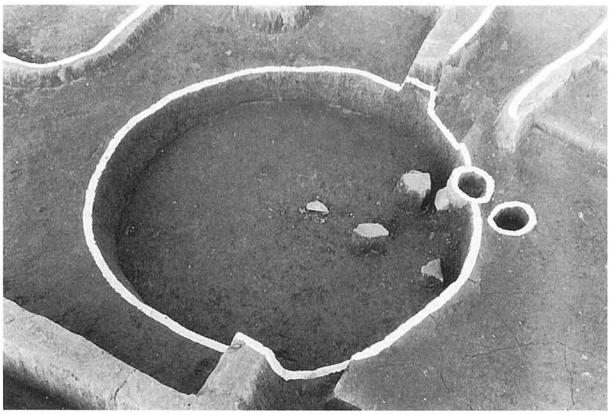
1　Ⅰ・Ⅱ区全景（南から）

2　Ⅲ区全景（南から）

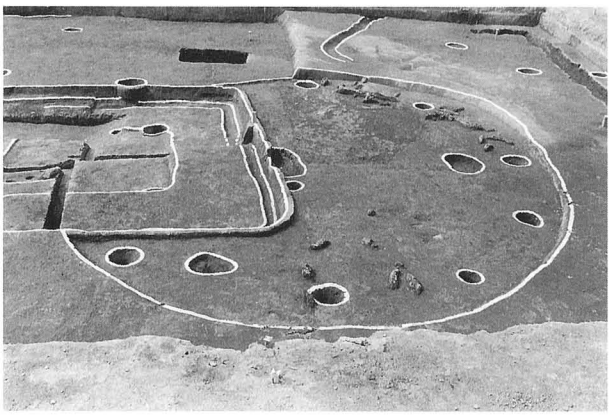
3　Ⅳ区全景（北から）



1　SD18完掘状況（東から）

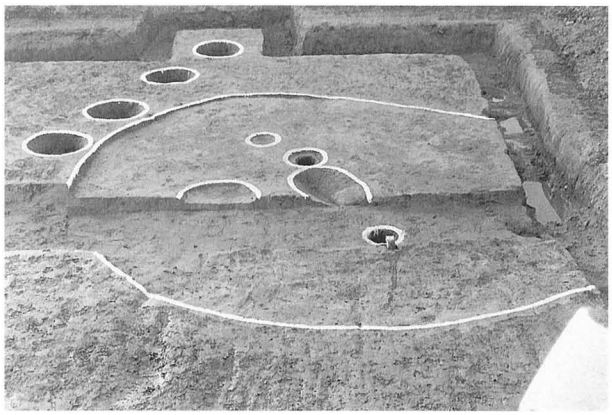


2　SK25完掘状況（南から）

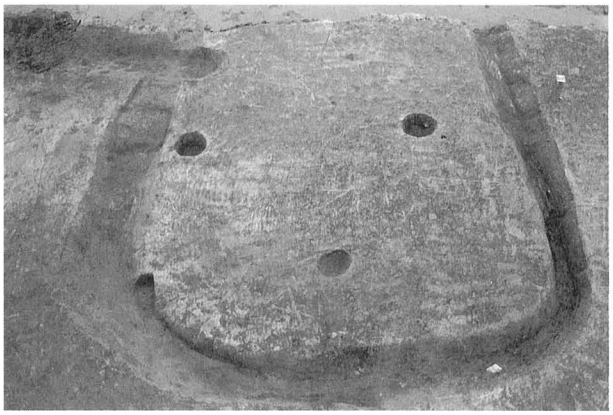


3　SH10完掘状況（東から）

4　SH10炭化材出土状況（北から）



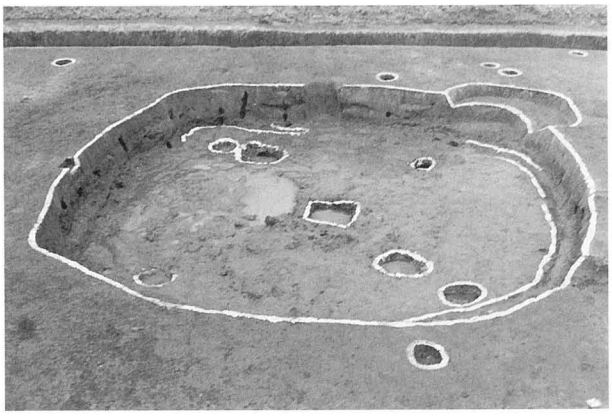
5　SH01完掘状況（東から，奥がSA01）



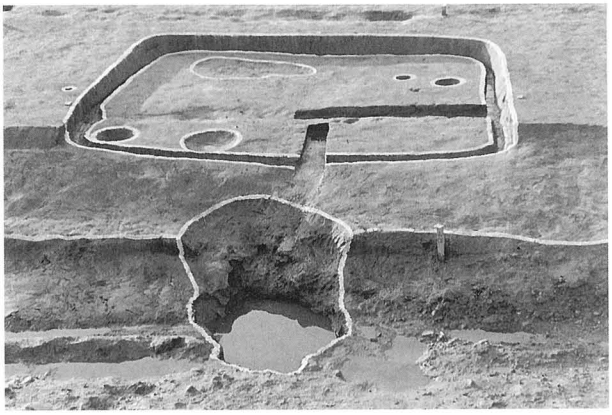
6　SH02完掘状況（東から）

7　SH03遺物出土状況（東から）

8　SH03完掘状況（西から，ベッド状遺構あり）

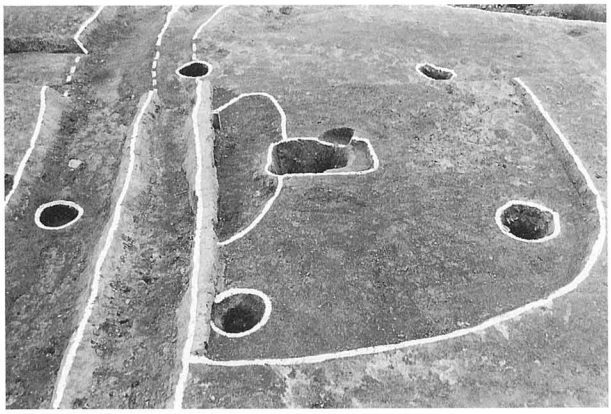


1　SH03完掘状況（東から，ベッド状遺構除去時）

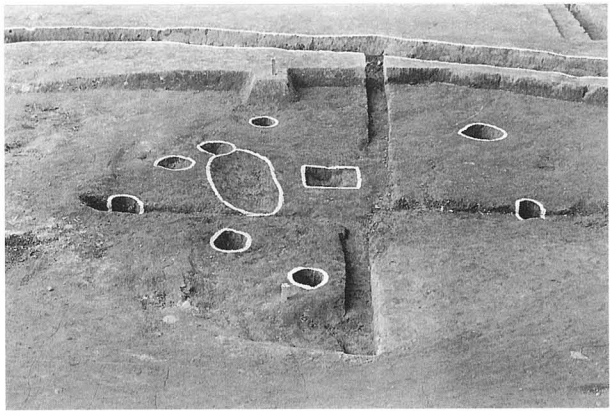


2　SH04完掘状況（東から，手前はSE01）

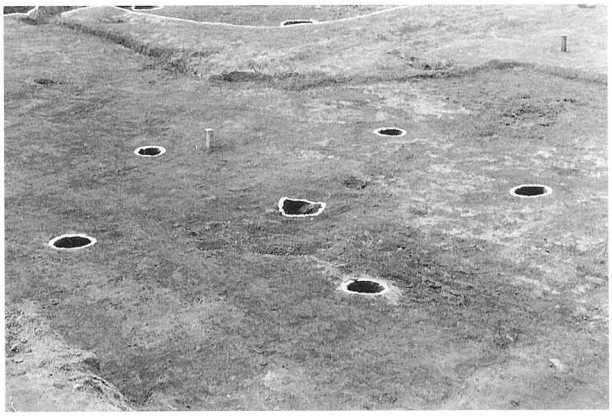
3　SH05完掘状況（東から）



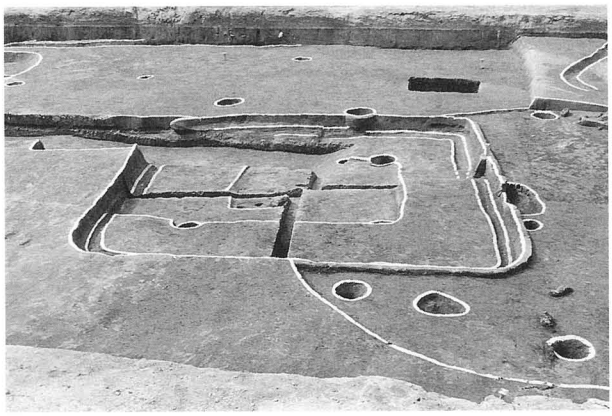
4　SH06完掘状況（東から，SD12・13）



5　SH07完掘状況（東から）

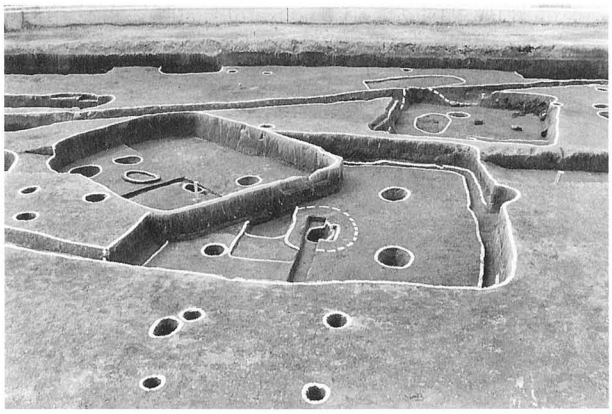


6　SH08完掘状況（北東から）

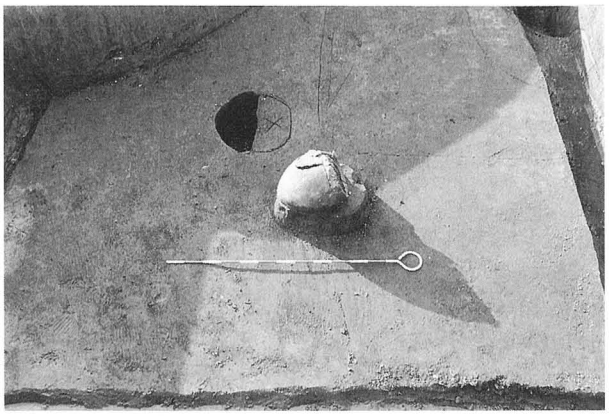


7　SH09完掘状況（東から）

8　SH09遺物出土状況（北から）

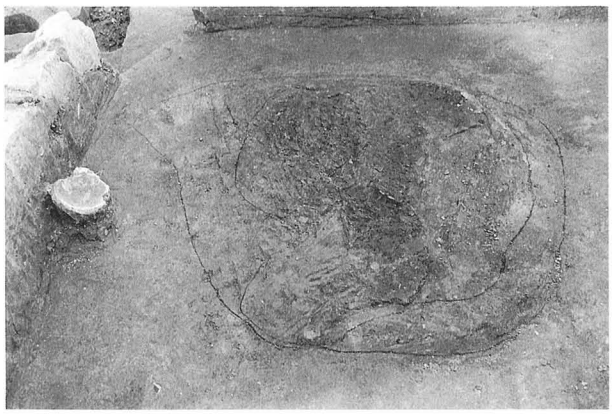


1　SH11・12完掘状況（東から）

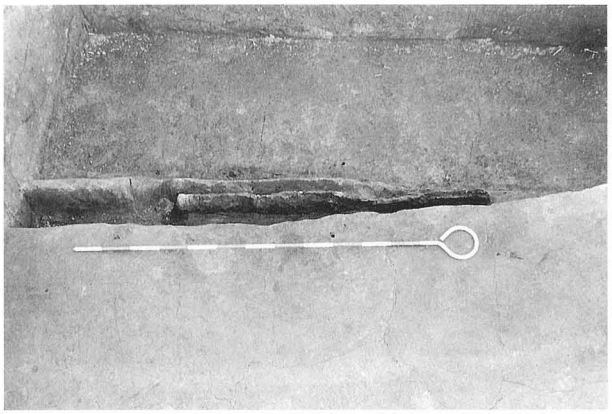


2　SH12遺物出土状況（東から）

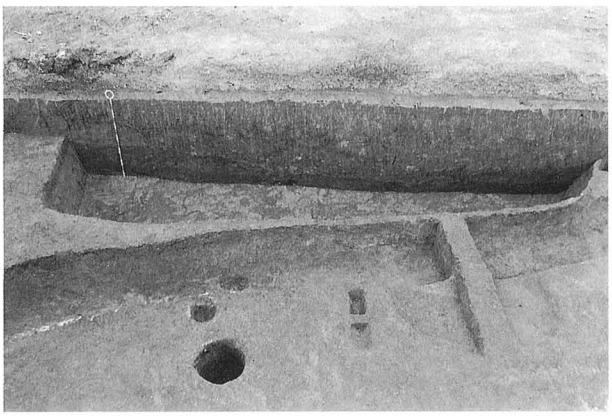
3　SH14完掘状況（西から）



4　SH14炭化材出土状況（西から）

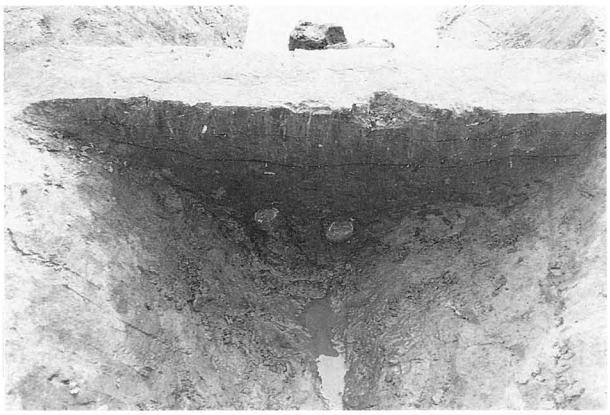


5　SH14間仕切板出土状況（東から）

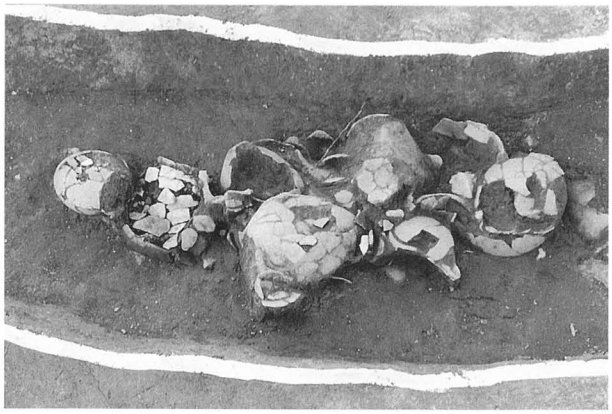


6　SH13完掘状況（東から）

7　SD01完掘状況（北から）



8　SD01断面（北から，Ⅱ区北側）

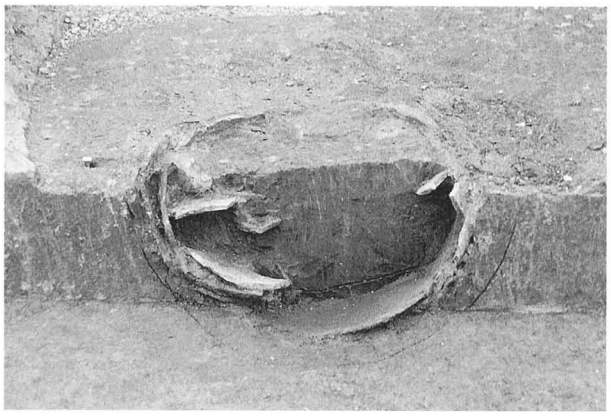


1　SD07上層遺物出土状況（東から）

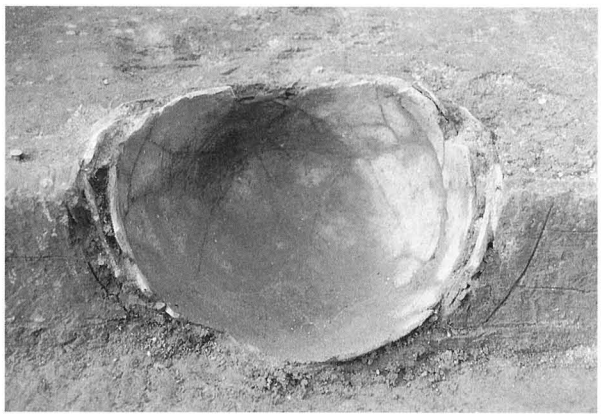
2　SD07断面（北から，北側）

3　SD03完掘状況（4・5区，北・西から）

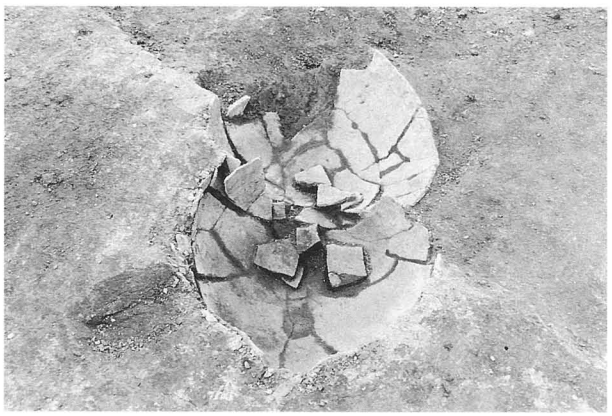
4　SD03断面（東から，8区西側）



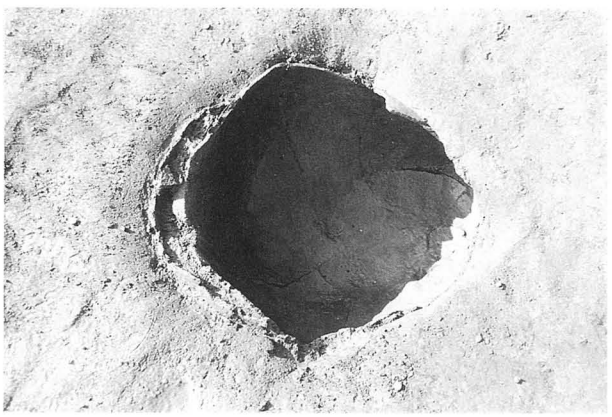
5　Ⅱ区土器棺墓検出状況及び断面（東から）



6　Ⅱ区土器棺完掘状況（東から）

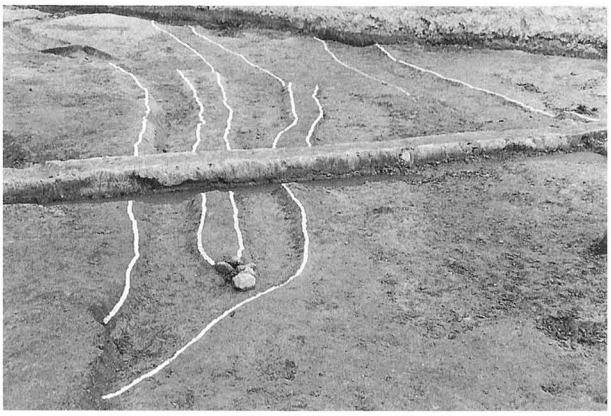


7　廃土置場土器棺1完掘状況（東から）

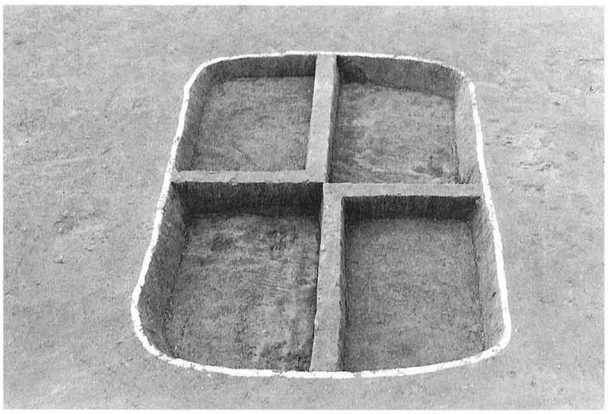


8　廃土置場土器棺2完掘状況（北から）

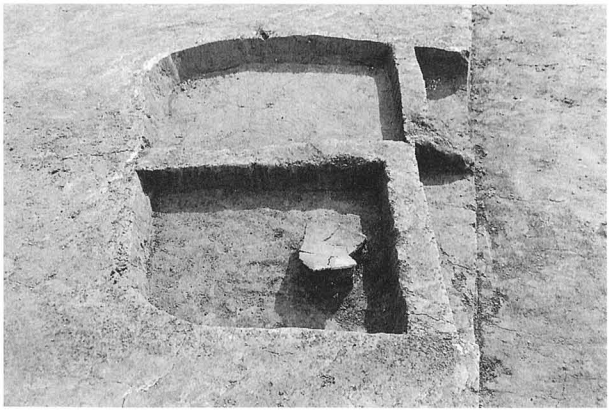
1　集石(橋状遺構)全景（東から）



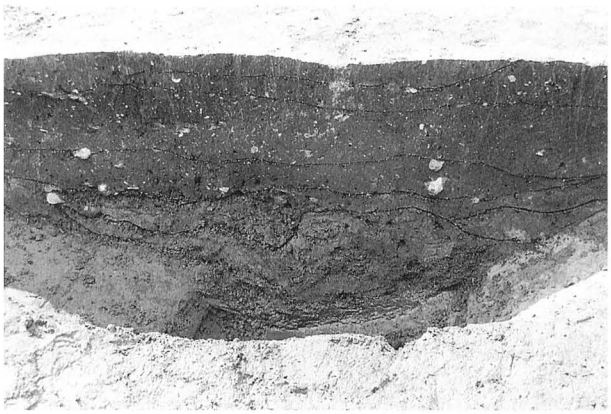
2　SD15～17完掘状況（西から）



3　SK07完掘状況（東から）



4　SK18完掘状況（北から）



5　Ⅲ区小谷断面（北から，SD03･18含む）

6　SD10・11完掘状況（南から）

7　噴砂検出状況（東から）

8　Ⅳ区旧河道断面（東から）

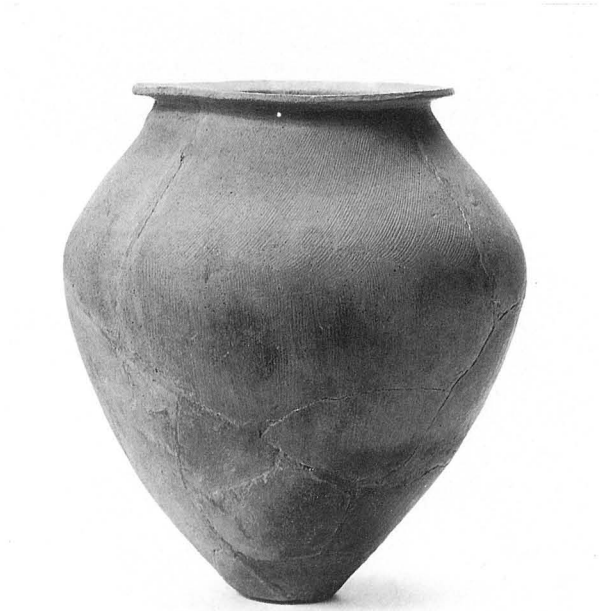
図版10

68

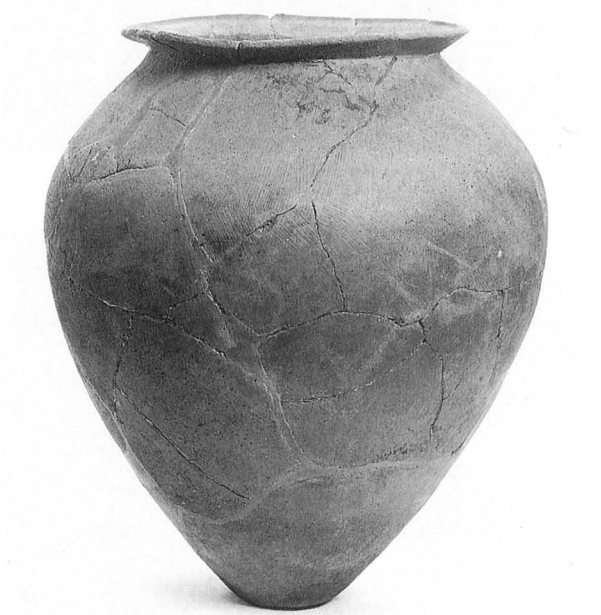
62

70

162

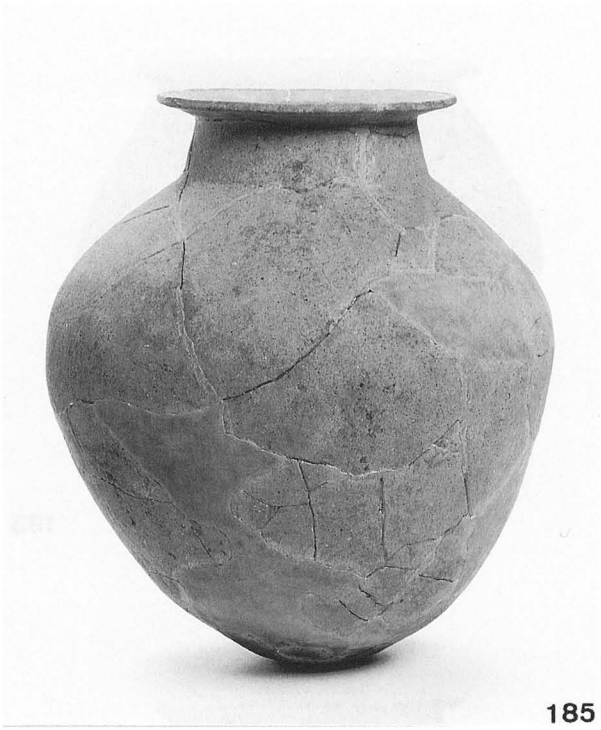


159

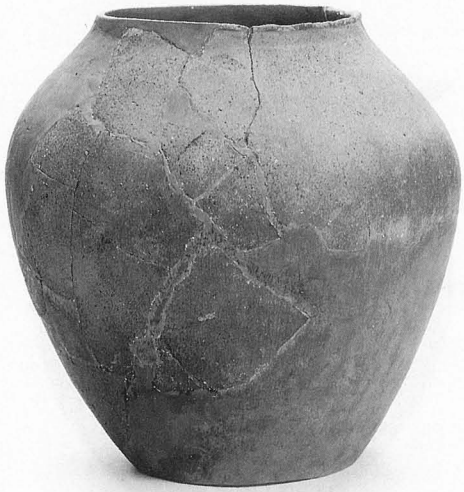


170

171



185



173

187

175

192

193

199

195

200

198

201

202

208

204

209

207

231

232

238

233

343

234

371

404

40

468

470

469

471

報告書抄録

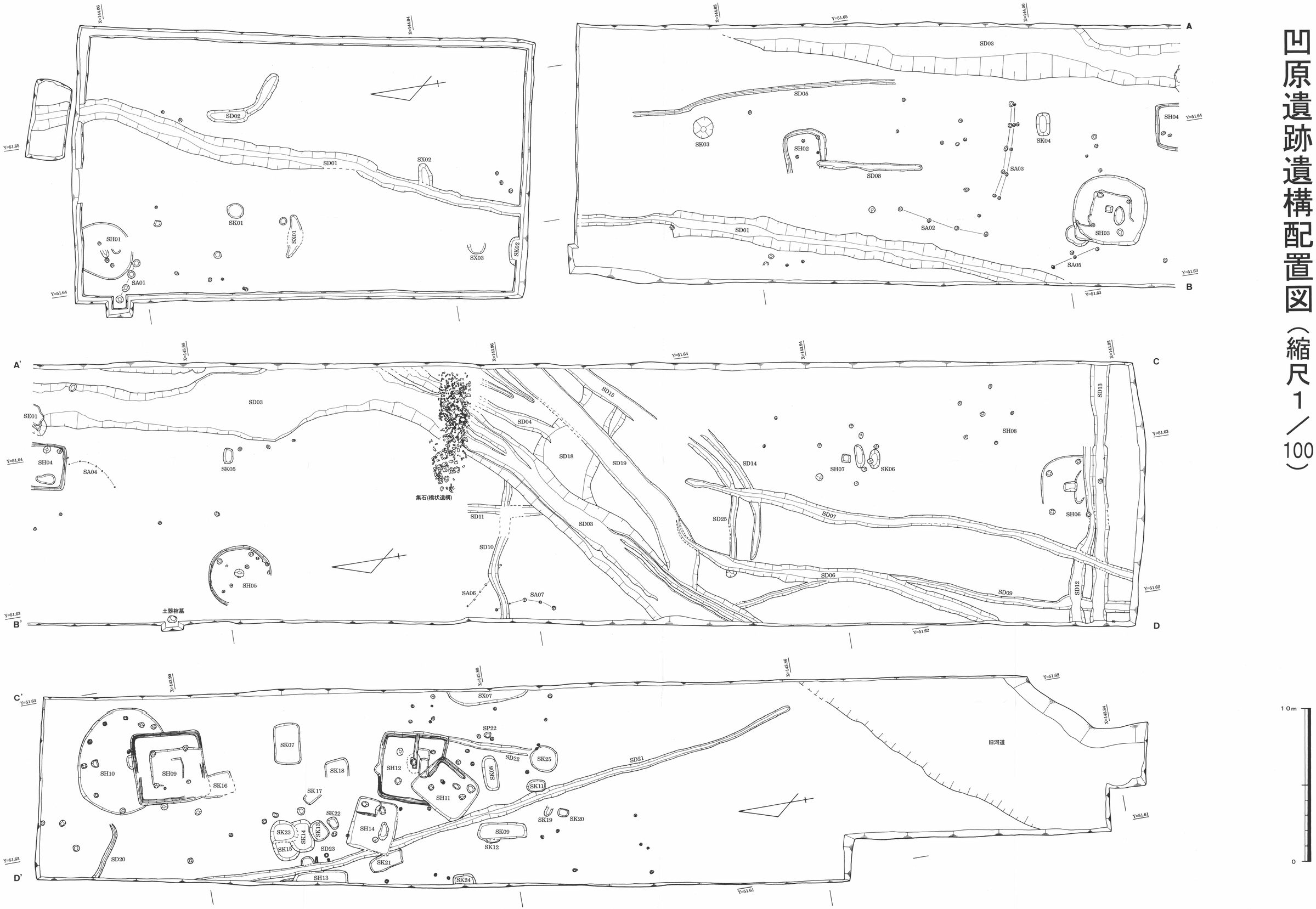
ふりがな	ひっこんばらいせき
書名	凹原遺跡
副書名	太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第56集
編集者名	川畑　聰
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目８番15号　TEL 087(839)2636
発行年月日	平成13年12月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ひっこんばらいせき 凹原遺跡	たかまつし　た　ひ 高松市多肥 しもまち 下町673番地 ほか	37201		34° 17′ 47″	134° 3′ 39″	H２.11.５ ～ H３.２.28	3,274 m²	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
凹原遺跡	集落	弥生時代前期末～弥生時代中期前葉	竪穴住居，溝，土坑	弥生土器，石器	環濠？
		弥生時代後期末～古墳時代前期初頭	竪穴住居，井戸，溝	弥生土器	竪穴住居群
		古墳時代後期後半	集石，溝	須恵器	
		江戸時代	溝，土坑	瓦	

凹原遺跡

太田第２土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告　第五冊

編集・発行　高松市教育委員会
高松市番町一丁目８番15号
発行日　平成13年12月28日
印刷　高東印刷株式会社

凹原遺跡遺構配置図（縮尺1／100）